

浜町遺跡 浜町古墳群 宮内遺跡

一級河川八瀬川河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2012

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡

一級河川八瀬川河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一二

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

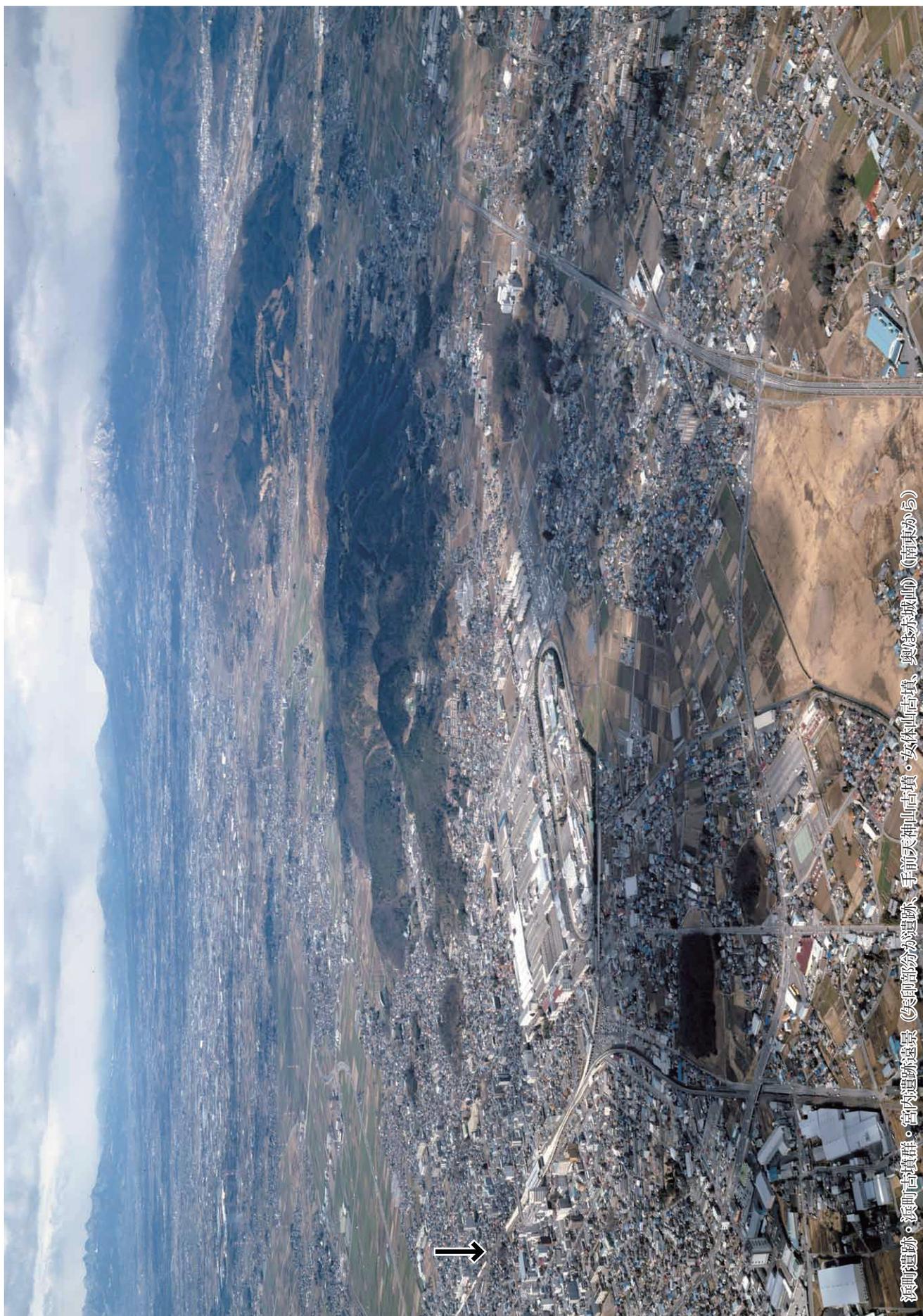


浜 町 遺 跡
浜 町 古 墳 群
宮 内 遺 跡

一級河川八瀬川河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2012

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡遺景（矢印部分が遺跡、手前天神山古墳・女性山古墳、奥は茨城山）（南東から）

序

浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡は、群馬県太田市の街なかを流れる八瀬川の河川改修工事に伴って発掘調査が行われました。

発掘調査は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が群馬県太田土木事務所からの委託を受けて、平成21年度に浜町古墳群・宮内遺跡、平成22年度には浜町遺跡・宮内遺跡を対象として行われました。

浜町遺跡では平安時代の集落跡、浜町古墳群では古墳時代後期の集落跡、宮内遺跡では古墳時代前期の遺構群の存在が判明しました。

太田市は、太田天神山古墳を代表とする数多くの古墳が築かれたことで知られています。また律令時代には、東山道の要所として新田郡衙が置かれていたことが、天良七堂遺跡や笠松遺跡の発掘で分かりました。製鉄遺跡や須恵窯も築かれ、重要な物資の生産拠点であったとも考えられています。更に、中世では新田氏の本拠地としても広く知られているところです。

今回の発掘で判明した事実は、この地域史をひもとく上で貴重な歴史資料を新たに提供できたものと考えております。今後、本報告書が郷土の歴史の解明や教育の場の一助として活用されることを切に願っております。

最後に、発掘調査から報告書の作成に至るまで、群馬県太田土木事務所をはじめ、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には多大なご指導、ご協力を賜りました。本報告書の上梓に際し、関係者の皆様に心から感謝を申し上げて序といたします

平成24年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田 栄一

例 言

1. 本書は、平成21年度一級河川八瀬川広域河川改修事業及び平成22年度 社会資本整備総合交付金事業(河川)一級河川八瀬川に伴う埋蔵文化財の発掘調査による、浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡は群馬県太田市浜町6-10、6-18、6-24、7-1、7-2、7-3、7-4、7-5、7-7、7-8、7-9、7-10、7-11、7-12、22-1、58-8、58-9番地に所在する。
3. 事業主体 群馬県太田土木事務所
4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 平成21年度調査
 - 履行期間 平成21年 8 月 1 日～平成21年11月30日
 - 調査期間 平成21年 8 月 1 日～平成21年 9 月30日
 - 調査面積 1,097.5㎡平成22年度調査
 - 履行期間 平成22年 9 月 1 日～平成22年11月30日
 - 調査期間 平成22年 9 月 1 日～平成22年 9 月30日
 - 調査面積774 ㎡
6. 調査体制は次のとおりである。
 - 平成21年度
 - 調査担当：巾隆之(専門員(主任))
長谷川博幸(調査研究員)
 - 遺跡掘削請負工事：株式会社シン技術コンサル
 - 地上測量及び空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル
 - 平成22年度
 - 調査担当：長谷川博幸
 - 遺跡掘削請負工事：有限会社高沢考古学研究所
 - 地上測量及び空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル
7. 整理事業の体制・期間は次のとおりである。
 - 平成23年度
 - 履行期間：平成23年 9 月 1 日～平成24年 3 月31日
 - 整理期間：平成23年 9 月 1 日～平成24年 3 月31日
 - 整理担当：須田正久(主任調査研究員)
8. 本書作成関係者
 - 編集：須田正久
 - 本文執筆：長谷川博幸
 - 尚、第4章は宮崎重雄氏に執筆を依頼した。
 - デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)
 - 遺構写真 巾 隆之、長谷川博幸
 - 遺物写真 佐藤元彦(補佐(総括))

遺物観察・観察表執筆

縄文時代の土器 橋本淳（主任調査研究員）

縄文時代の石器、その他石製品 岩崎泰一（上席専門員）

古墳時代以降の土器 神谷佳明（上席専門員）

保存処理 関邦一（補佐）

9. 出土獣骨類の同定は宮崎重雄氏(足利工業大学非常勤講師・古生物学会会員)に依頼した。
10. 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県教育委員会事務局文化財保護課、太田市教育委員会文化財課のご指導とご助言を得た。
11. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 本文中に使用した方位は、総て国家座標(国家座標第IX系)の北を用いた。調査区はX=32710～32790、Y=-41983～-41522の範囲に収まり、真北との偏差は、遺跡南東隅部で0° 16' 36.05"である。
2. 遺構平面図や遺構断面図に示した数値は標高であり、単位はメートルである。
3. 遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物写真の縮率は原則1/3とし、それ以外のものは明記した。
4. 遺物番号は出土遺構ごとの通し番号とし、器種・分類順に記載した。番号は遺構図、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真図版とも一致している。
5. 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。

遺構平面図

カクラン  焼土 

遺物図

煤  漆  粘土 

6. 遺構の主軸方位・走向は、長軸方向で北から東西90°以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合N-○°-Eとした。遺構の面積は、上端を計測した。計測はプランメーターで3回行いその平均値を採用した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し()で表した。推定で全体がわかるものについては()で表した。
7. 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。
 - ・計測値の()は現存値を示す。
 - ・土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1988年版』に基づいている。
 - ・胎土表記中の細砂・粗砂・礫は、径2mm以上を礫、径2～0.2mmを粗砂、径0.2mm以下を細砂とした。
 - ・成・整形の特徴の項目にあるハケ目(本数)は1cm当たりである。
 - ・金属器類観察表の計測値に()がついているものは残存部分での値である。
8. 本書で使用した石器・石製品の図版上での表現は以下の通りである。
 - ・石斧刃部側の摩耗痕については縦位定規線で、着柄部と想定される部分の摩耗痕については横位定規線で図示した。
 - ・磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は摩耗範囲を示す。

・その他の斜位定規線は線条痕の走行を示す。

9. 本書で使用した浅間山噴火による降下火砕物等の呼称については、以下のように表記する。

浅間A軽石：As-A 浅間B軽石：As-B 浅間C軽石：As-C

10. 本書では、事業を異とする本遺跡の発掘報告について触れているが、以下のように表記する。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第358集「浜町遺跡」：平成17年報告

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第360集「塚畑遺跡」「宮内遺跡」「稲荷前遺跡」「三島木遺跡」「城ノ内遺跡」：平成18年報告

11. 遺構の土層断面図の太線は、生活面(使用面)を表している。

12. 出土遺物の大片は大型器種の破片、小片は小型器種の破片である。

13. 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院 地形図1:200,000「宇都宮」(平成18年4月1日発行)

国土地理院 地形図1:25,000「上野境」(平成22年12月1日発行)「足利南部」(平成22年12月1日発行)

群馬県 地形分類図1:50,000「深谷」(平成3年)

太田市 1:2,500地形図(平成23年3月測図)

目次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

写真図版目次

表目次

第1章 調査の経緯・経過と方法	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
1. 調査区の設定	1
2. 調査経過	2
3. 調査日誌抄録	2
4. 整理作業の経過及び遺跡名称改訂	2
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	5
第1節 遺跡の立地	5
第2節 遺跡周辺の歴史環境	7
第3節 基本土層	12
第3章 検出された遺構と遺物	15
第1節 調査の概要	15
第2節 浜町遺跡	16
1. 竪穴住居	16
2. 竪穴状遺構	24
3. 土坑・ピット	29
4. 溝	38
5. 遺構外出土遺物	43
第3節 浜町古墳群	44
1. 竪穴住居	44
2. 土坑・ピット	52
3. 溝	62
4. 遺構外出土遺物	67
第4節 宮内遺跡	68
1. 土坑・ピット	68
2. 溝	79
3. 遺構外出土遺物	81

第4章 浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡出土骨類の同定	83
1. 浜町古墳群5区2号溝	83
2. 宮内遺跡3区1号土坑	83
3. 浜町遺跡8区1号溝	83
第5章 調査成果のまとめ	84
1. 本遺跡調査成果	84
2. これまでの古式土師器研究	84
3. 土坑出土土器の検討	84
4. 土坑の考察	85
5. まとめ	85

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図	遺跡位置図(国土地理院地形図1:200,000「宇都宮」(平成18年4月1日発行)使用)	1	第46図	1区2号住居出土遺物	47
第2図	遺跡位置及び周辺図(この地図の作成にあたっては、太田市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1地形図を使用し、複製したものである。)	4	第47図	1区3号住居	48
第3図	遺跡周辺地形分類図(群馬県『土地分類基本調査』深谷(1991)による)	6	第48図	1区3号住居出土遺物	48
第4図	周辺遺跡位置図(国土地理院発行地形図「上野境」「足利南部」使用1/25,000)	9	第49図	1区4号住居	49
第5図	浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡柱状土層図	12	第50図	1区5号住居	49
第6図	浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡遺構全体図	13・14	第51図	1区5号住居出土遺物	50
第7図	7区1号住居	16	第52図	1区6号住居	50
第8図	7区1号住居出土遺物	16	第53図	1区6号住居出土遺物	51
第9図	7区2号住居	17	第54図	5区1号土坑、2号溝	53
第10図	7区3号住居	18	第55図	5区1号土坑出土遺物	54
第11図	7区3号住居出土遺物	18	第56図	2区9号土坑	54
第12図	8区1号住居	19	第57図	2区9号土坑出土遺物(1)	54
第13図	8区2号住居	20	第58図	2区9号土坑出土遺物(2)	55
第14図	8区2号住居出土遺物	20	第59図	5区10号土坑	56
第15図	8区3・4号住居	21	第60図	5区10号土坑出土遺物(1)	56
第16図	8区3・4号住居掘方	22	第61図	5区10号土坑出土遺物(2)	57
第17図	8区3号住居出土遺物	23	第62図	1区11号土坑	57
第18図	8区4号住居出土遺物	23	第63図	1区11号土坑出土遺物	58
第19図	7区1・2号竪穴状遺構	25	第64図	4区4号土坑	58
第20図	7区3・4号竪穴状遺構、23・24号土坑、1号溝	25	第65図	2区8号土坑、8・16号ピット	59
第21図	7区5・6号竪穴状遺構、21・24～29号土坑、1号溝	26	第66図	2区8号土坑出土遺物	59
第22図	7区5号竪穴状遺構	26	第67図	1～5・9～12号ピット	60
第23図	7区6号竪穴状遺構	27	第68図	13～15・17～20号ピット	61
第24図	8区1号竪穴状遺構	27	第69図	1・2号ピット出土遺物	61
第25図	8区2号竪穴状遺構	27	第70図	4区1号溝	62
第26図	7区1・3・5号竪穴状遺構出土遺物	28	第71図	2・6号溝	63
第27図	7区1～6号土坑	31	第72図	3～5・7・8号溝	65
第28図	7区7～11号土坑、8・9号ピット	32	第73図	9～11号溝	66
第29図	7区12～16号土坑、13・14号ピット	33	第74図	2・4・6・11号溝出土遺物	67
第30図	7区17～22号土坑	34	第75図	浜町古墳群遺構外出土遺物	67
第31図	7区23～29号土坑	35	第76図	3区1・19号土坑	69
第32図	8区1～3号土坑	36	第77図	3区1号土坑出土遺物(1)	70
第33図	7区12・20・23・24・26号土坑出土遺物	36	第78図	3区1号土坑出土遺物(2)	71
第34図	7区27・28号土坑出土遺物	37	第79図	3区1号土坑出土遺物(3)	72
第35図	7区1～7・10～12・15号ピット	37	第80図	3区1号土坑出土遺物(4)	73
第36図	7区1号溝	38	第81図	3区2～7号土坑	74
第37図	8区1号溝	39	第82図	3区8～13号土坑	75
第38図	8区1号溝出土遺物(1)	39	第83図	3区14～18号土坑	76
第39図	8区1号溝出土遺物(2)	40	第84図	3区20～22号土坑	77
第40図	8区1号溝出土遺物(3)	41	第85図	3区23号土坑	77
第41図	8区1号溝出土遺物(4)	42	第86図	3区12号土坑出土遺物	77
第42図	浜町遺跡遺構外出土遺物	43	第87図	3区14・16号土坑出土遺物	77
第43図	3区1号住居	45	第88図	3区1～5号ピット	78
第44図	3区1号住居出土遺物	45	第89図	3区6～12号ピット	79
第45図	1区2・7号住居	46	第90図	3区1号溝	80
			第91図	3区1号溝出土遺物(1)	80
			第92図	3区1号溝出土遺物(2)	81
			第93図	宮内遺跡遺構外出土遺物	82
			第94図	浜町古墳群5区2号溝埋土出土土層	83
			第95図	浜町遺跡8区1号溝埋土出土土層	83

表目次

第1表	浜町遺跡他調査区・遺構名称相対表	3	第7表	浜町古墳群ピット一覧	60
第2表	主な周辺遺跡	10	第8表	宮内遺跡土坑一覧	68
第3表	浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡検出遺構一覧	15	第9表	宮内遺跡ピット一覧	78
第4表	浜町遺跡7・8区土坑一覧	30	第10表	浜町古墳群5区2号溝出土 下顎第3後臼歯計測値表	83
第5表	浜町遺跡7区ピット一覧	30	第11表	遺物観察表	86
第6表	浜町古墳群土坑一覧	53			

写真目次

口 絵	遺跡遠景 (南東から)	PL. 12	1	1区6号住居全景(西から)	
PL. 1	浜町遺跡7区西側全景(東から)		2	1区6号住居掘方全景(西から)	
	浜町遺跡7区東側全景(東から)		3	1区6号住居カマド全景(西から)	
PL. 2	浜町遺跡7区東端全景(南から)		4	1区6号住居カマド掘方全景(西から)	
	浜町遺跡8区全景(南から)		5	1区7号住居全景(北から)	
PL. 3	1	7区1号住居全景(西から)	6	5区1号土坑全景(東から)	
	2	7区1号住居掘方全景(西から)	7	5区2号土坑全景(東から)	
	3	7区2号住居掘方全景(西から)	8	4区4号土坑全景(東から)	
	4	7区2号住居カマド掘方全景(西から)	PL. 13	1	4区5号土坑全景(東から)
	5	7区3号住居全景(西から)		2	3区6号土坑全景(南から)
	6	7区1・2号竪穴状遺構全景(南から)		3	3区7号土坑全景(南から)
	7	7区3号竪穴状遺構全景(南から)		4	2区8号土坑全景(北から)
	8	7区4号竪穴状遺構全景(南から)		5	2区9号土坑全景(南から)
PL. 4	1	7区5・16号竪穴状遺構、3～6号・25～29号土坑全景(南から)		6	5区10号土坑全景(東から)
	2	7区1号土坑全景(北から)		7	1区11号土坑全景(南から)
	3	7区2～6号土坑全景(東から)		8	1区11号土坑調査状況
	4	7区7～9号土坑全景(南から)	PL. 14	1	4区1号溝全景(西から)
	5	7区10・11号土坑全景(南から)		2	5区2・6号溝全景(西から)
	6	7区12・13号土坑全景(南から)		3	3区5号溝全景(南から)
	7	7区14号土坑全景(南から)		4	3区3号溝全景(西から)
	8	7区15号土坑全景(南から)		5	3区4号溝全景(東から)
PL. 5	1	7区16号土坑全景(南から)		6	3区4号溝全景(西から)
	2	7区17号土坑全景(南から)	PL. 15	1	1区11号溝全景(東から)
	3	7区18号土坑全景(南から)		2	3区8号溝全景(西から)
	4	7区19号土坑全景(南から)		3	2区9・10号溝全景(東から)
	5	7区20号土坑全景(南から)		4	宮内遺跡北半部全景(南から)
	6	7区21号土坑全景(南西から)	PL. 16	1	宮内遺跡南半部全景(南から)
	7	7区22号土坑全景(西から)		2	3区1・18・19号土坑全景(南から)
	8	7区23号土坑全景(南から)		3	3区2号土坑全景(東から)
PL. 6	1	7区24号土坑全景(南から)		4	3区3号土坑全景(南から)
	2	7区1号溝全景(南から)		5	3区4号土坑(東から)
	3	7区調査状況(東から)	PL. 17	1	3区5号土坑全景(東から)
	4	8区1号住居掘方全景(北から)		2	3区6号土坑全景(南から)
	5	8区2号住居全景(南から)		3	3区7号土坑全景(東から)
	6	8区2号住居掘方全景(南西から)		4	3区8号土坑全景(南から)
	7	8区3・4号住居全景(東から)		5	3区9号土坑全景(東から)
	8	8区3号住居遺物出土状況(南から)		6	3区10・11号土坑全景(南から)
PL. 7	1	8区4号住居掘方(西から)		7	3区12号土坑全景(南から)
	2	8区1号竪穴状遺構全景(西から)		8	3区13号土坑全景(東から)
	3	8区2号竪穴状遺構全景(南から)	PL. 18	1	3区14号土坑全景(南から)
	4	8区1号土坑全景(南から)		2	3区15・16号土坑全景(南から)
	5	8区1号溝全景(東から)		3	3区17号土坑全景(東から)
	6	8区2・3号土坑全景(東から)		4	3区20号土坑全景(東から)
	7	8区調査状況(西から)		5	3区21・22号土坑全景(東から)
PL. 8		浜町古墳群1区全景(西から)		6	3区23号土坑全景(北から)
		浜町古墳群2区全景(東から)		7	3区1号溝全景(南から)
PL. 9		浜町古墳群3区全景(東から)	PL. 19		浜町遺跡7区1・3号住居・8区2～4号住居出土遺物・7区竪穴状遺構・7区土坑・8区1号溝出土遺物
		浜町古墳群4区全景(東から)	PL. 20		浜町遺跡8区1号溝・遺構外出土遺物
PL. 10	1	浜町古墳群5区全景(西から)	PL. 21		浜町古墳群1～3・5・6号住居・1号土坑・9号土坑出土遺物
	2	3区1号住居全景(西から)	PL. 22		浜町古墳群9・10号土坑出土遺物
	3	3区1号住居掘方全景(西から)	PL. 23		浜町古墳群8・10号土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物
	4	3区1号住居カマド全景(西から)	PL. 24		浜町古墳群1区11号土坑出土遺物
	5	3区1号住居カマド掘方全景(西から)	PL. 25		宮内遺跡3区1号土坑出土遺物
PL. 11	1	1区2号住居全景(東から)	PL. 26		宮内遺跡3区1号土坑出土遺物
	2	1区2号住居遺物出土状況(東から)	PL. 27		宮内遺跡3区1号土坑出土遺物
	3	1区2号住居掘方全景(東から)	PL. 28		宮内遺跡土坑・3区1号溝・遺構外出土遺物
	4	1区3号住居全景(西から)			
	5	1区3号住居掘方全景(西から)			
	6	1区4号住居全景(南から)			
	7	1区4号住居掘方全景(南から)			
	8	1区5号住居全景(北東から)			

第1章 調査の経緯・経過と方法

第1節 調査に至る経緯

八瀬川は新田堀の太田樋から始まり、金山丘陵西側から市内中央部を横断し、利根川に至る河川である。市街中心地を流れ、河川の断面幅が小さく、蛇行を繰り返している。そのため、以前より浸水被害が発生する状況にあった。河川改修を行い、市街地の冠水や浸水を軽減するための治水対策が古くより求められていた。このような状況から、平成7年度より河川改修の事業が開始した。埋蔵文化財の調査は「平成21年度一級河川八瀬川広域河川改修事業」及び「平成22年度 社会資本整備総合交付金事業」に伴い、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって行われた。

本遺跡は、平成12年度から平成15年度にかけて東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に伴い調査が行われ、遺構が埋蔵されていることは周知の遺跡で

あった。河川改修事業に伴い、事前の発掘調査が必要との判断から調整にあたった群馬県教育委員会より、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に対し「浜町遺跡」「浜町古墳群」「宮内遺跡」の発掘調査が依頼された。これにより群馬県太田土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で平成21年度の発掘調査の契約が締結され、平成21年8月1日調査開始にむけた届出等の事務処理が進められることとなった。

第2節 調査の方法と経過

1. 調査区の設定

平成21年度調査は、遺跡を縦断する現道・排水路等を境界として、5カ所の調査区に区分した。調査区名は西から1区・2区・3区・4区・5区とした。道路を挟んだ東側の調査区は宮内遺跡であるが、調査時は6区とし



第1図 遺跡位置図(国土地理院地形図1:200,000「宇都宮」(平成18年4月1日発行)使用)

第1章 調査の経緯・経過と方法

て調査した。平成22年度調査は、調査対象地の西端である浜町遺跡、東端の宮内遺跡を調査した。浜町遺跡は北側を1区、調査除外地である東武伊勢崎線高架下を挟み南側を2区とした。宮内遺跡は暫定的に1区として調査をした。調査区の座標値は、国家座標第IX系(世界測地系)を用いた。

2. 調査経過

平成21年の調査は、8月3日より開始した。まず浜町古墳群1区の表土掘削を行い、順次西の5区まで連続して表土掘削を行った。1区から5区までの表土掘削は8月12日まで続いた。5区は調査区南側の道路部分が調査着手時、舗装状態であった。アスファルトカッター等を使い、舗装撤去後表土掘削を行った。宮内遺跡(調査時呼称6区)は9月2日より表土掘削を行い、2日間を要した。

浜町古墳群の調査は8月12日より着手。1区より順次調査を行い、9月29日に終了した。宮内遺跡の調査は9月4日より行い、浜町古墳群の調査と並行しながら9月30日に終了した。

平成22年度の調査は、9月1日より開始した。まず浜町遺跡7区(調査時呼称1区)西半分の表土掘削から行った。表土掘削は、浜町遺跡8区(調査時呼称2区)、宮内遺跡、浜町7区(調査時呼称1区)東側と順次行なった。調査も表土掘削の流れを受け、浜町遺跡7区西半分から着手。西半分終了後、8区と宮内遺跡を同時進行して行い、最後に浜町遺跡7区東半分に取り掛かった。9月30日にすべての調査が終了した。

3. 調査日誌抄録

平成21年

8月

3日 調査着手。浜町古墳群1区表土掘削開始。

12日 表土掘削終了、1区調査着手。

18日 5区調査着手、土坑・溝遺構検出。

19日 4区調査着手。

21日 3区調査着手、溝遺構検出。

27日 5区北半分・4区全景撮影。4区調査終了。

31日 台風の為作業休止。

9月

1日 2区調査着手、ピット及び溝遺構検出。

2日 宮内遺跡表土掘削開始。

3日 宮内遺跡表土掘削終了、調査着手。

9日 1区住居調査着手、2区調査終了。

18日 5区全景撮影、5区調査終了。

29日 1・2区全景撮影、調査終了。

30日 宮内遺跡調査終了、埋戻し。

平成22年

9月

1日 調査着手。浜町遺跡7区西半分表土掘削開始。

3日 浜町遺跡7区西半分調査着手。

6日 浜町遺跡8区表土掘削開始。

7日 宮内遺跡表土掘削開始、浜町遺跡8区調査着手。

8日 台風の為作業休止。

10日 7区西半分全景撮影、調査終了。

11日 7区西半分埋戻し及び東半分表土掘削開始。

18日 宮内遺跡全景撮影、調査終了。埋戻し。

24日 浜町遺跡8区全景撮影、調査終了。

30日 浜町遺跡7区東半分調査終了、埋戻し。

4. 整理作業の経過及び遺跡名称改訂

浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡の整理作業及び報告書編集作業は平成23年9月1日から平成24年3月31日まで実施した。収納されている出土遺物や記録類の確認作業から開始した。次に、デジタル遺構写真のリネーム作業、遺構図の修正作業、土器・石器の分類・復元作業及び写真撮影などを行った。その後、報告書に掲載する遺構写真の選び出し作業、土器・石器の実測・トレース作業、観察表の作成作業、遺構図のデジタルトレース作業を行い、原稿を執筆し、報告書作成のための組版作業をデジタルで行った。整理作業の最後には、遺物管理台帳及び写真管理台帳を作成し、今後の活用に備え遺物やその他資料の収納作業を行った。

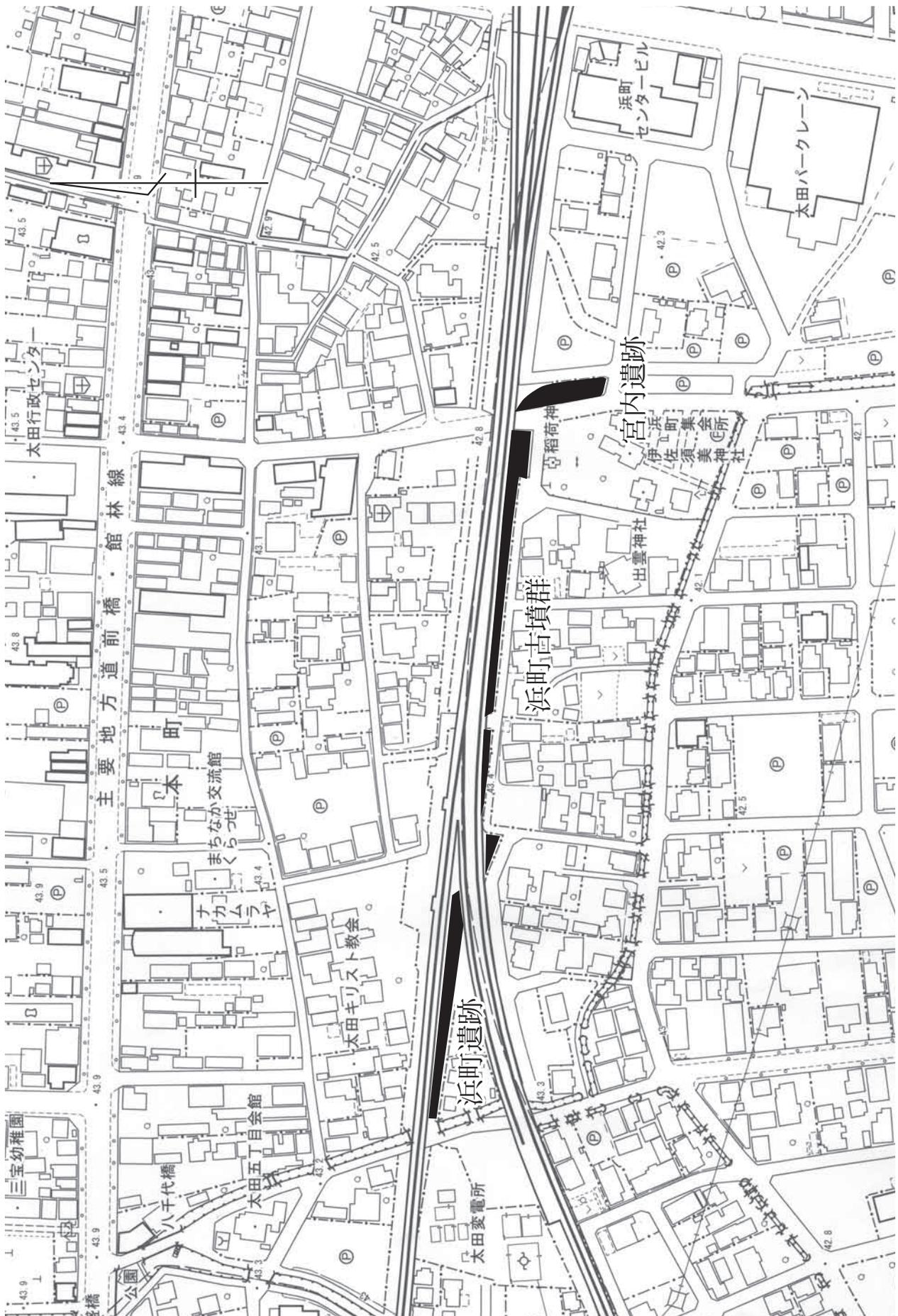
なお、整理の過程で、調査時の調査区及び遺構名称について改訂が生じている(第1表)。浜町遺跡(平成22年度調査)・宮内遺跡(平成21・22年度調査)は、別事業(東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業)に

より当事業団が調査を行っている。それを踏まえ、平成21年度調査1～5区は浜町古墳群1～5区、平成21年度調査6区及び平成22年度宮内遺跡1区は宮内遺跡3区、

平成22年度浜町遺跡1区は浜町遺跡7区、平成22年度浜町遺跡2区は浜町遺跡8区として整理作業を行った。

第1表 浜町遺跡他調査区・遺構名称相対表

調査時の名称	整理での名称	備考
浜町遺跡1区	浜町遺跡7区	調査区名称変更
浜町遺跡2区	浜町遺跡8区	調査区名称変更
浜町古墳群1区	浜町古墳群1区	
浜町古墳群2区	浜町古墳群2区	
浜町古墳群3区	浜町古墳群3区	
浜町古墳群4区	浜町古墳群4区	
浜町古墳群5区	浜町古墳群5区	
浜町古墳群6区	宮内遺跡3区	調査区名称変更
宮内遺跡1区	宮内遺跡3区	調査区名称変更
浜町古墳群1区30号土坑	浜町古墳群1区11号土坑	
浜町古墳群3区24号ピット	浜町古墳群3区20号ピット	
浜町古墳群5区3号土坑	欠番	
浜町古墳群6区11号土坑	宮内遺跡3区1号土坑	
浜町古墳群6区12号土坑	宮内遺跡3区2号土坑	
浜町古墳群6区13号土坑	宮内遺跡3区3号土坑	
浜町古墳群6区14号土坑	宮内遺跡3区4号土坑	
浜町古墳群6区15号土坑	宮内遺跡3区5号土坑	
浜町古墳群6区16号土坑	宮内遺跡3区6号土坑	
浜町古墳群6区17号土坑	宮内遺跡3区7号土坑	
浜町古墳群6区18号土坑	宮内遺跡3区8号土坑	
浜町古墳群6区19号土坑	宮内遺跡3区9号土坑	
浜町古墳群6区20号土坑	宮内遺跡3区10号土坑	
浜町古墳群6区21号土坑	宮内遺跡3区11号土坑	
浜町古墳群6区22号土坑	宮内遺跡3区12号土坑	
浜町古墳群6区23号土坑	宮内遺跡3区13号土坑	
浜町古墳群6区24号土坑	宮内遺跡3区14号土坑	
浜町古墳群6区25号土坑	宮内遺跡3区15号土坑	
浜町古墳群6区26号土坑	宮内遺跡3区16号土坑	
浜町古墳群6区27号土坑	宮内遺跡3区17号土坑	
浜町古墳群6区28号土坑	宮内遺跡3区18号土坑	
浜町古墳群6区29号土坑	宮内遺跡3区19号土坑	
浜町古墳群6区20号ピット	宮内遺跡3区1号ピット	
浜町古墳群6区21号ピット	宮内遺跡3区2号ピット	
浜町古墳群6区22号ピット	宮内遺跡3区3号ピット	
浜町古墳群6区23号ピット	宮内遺跡3区4号ピット	
浜町古墳群6号ピット	欠番	
浜町古墳群7号ピット	欠番	
宮内遺跡1区1号土坑	宮内遺跡3区20号土坑	
宮内遺跡1区2号土坑	宮内遺跡3区21号土坑	
宮内遺跡1区3号土坑	宮内遺跡3区22号土坑	
宮内遺跡1区4号土坑	宮内遺跡3区23号土坑	
宮内遺跡1区5号土坑	宮内遺跡3区3号土坑	この遺構は21年度調査13号土坑の続きである。
宮内遺跡1区1号ピット	宮内遺跡3区5号ピット	
宮内遺跡1区2号ピット	宮内遺跡3区6号ピット	
宮内遺跡1区3号ピット	宮内遺跡3区7号ピット	
宮内遺跡1区4号ピット	宮内遺跡3区8号ピット	
宮内遺跡1区5号ピット	宮内遺跡3区9号ピット	
宮内遺跡1区6号ピット	宮内遺跡3区10号ピット	
宮内遺跡1区7号ピット	宮内遺跡3区11号ピット	
宮内遺跡1区8号ピット	宮内遺跡3区12号ピット	



第2図 遺跡位置及び周辺図(この地図の作成にあたっては、太田市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1地形図を使用し、複製したものである。)

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 遺跡の立地

浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡は群馬県太田市浜町6-10番地他に所在する。浜町は太田市の中心に位置し、明治42年(1909)に開通した東武鉄道太田駅の西側で、東武鉄道桐生線・伊勢崎線沿いの住宅密集地域である。標高は現地表面で43mから46mを図る。

太田市は群馬県の南東部に位置する。大間々扇状地の末端部にあたる微高地から沖積低地にかかる部分に立地しており、全体的に平坦な地形景観をみせている。市域の南には利根川が、北東部では渡良瀬川が流れている。沖積低地は、これら河川が氾濫を繰り返しながら砂礫を堆積させて基盤形成されたものである。市域の大半は平坦地であるが、北東部には八王子丘陵と金山丘陵が位置している。

大間々扇状地は、渡良瀬川の谷口、みどり市大間々町を扇頂として、太田市北西部から伊勢崎市に至る標高50mから55mの線を扇端とする、南北約18km、扇端の幅約13kmの大規模な扇状地である。この扇状地は形成時期を異にする5つの形成面から構成されている。その中でも主体となるのが、大きく西半分の桐原面と東半分の藪塚面である。桐原面は扇頂のみどり市大間々町桐原から伊勢崎市東部にかけて発達する古期扇状地である。藪塚面との境界部を早川が南下している。この面には厚さ約2m以上のローム層が堆積している。藪塚面は、みどり市大間々町市街地からみどり市笠懸町、太田市藪塚本町、太田市新田町へと発達する新期扇状地である。扇頂部から扇端まで連続する扇状地を形成する部分と、扇端の南方に広がる沖積低地の中に縞状に散在するものとに分かれる。後者を藪塚面Bと呼んでおり、この面は藪塚砂礫層と呼ばれる砂礫層の上に形成されている。また、この面は上部ローム層の一部または河川の影響を受けた二次堆積のローム層が見られ、沖積台地とは区別ができる。本遺跡はこの扇状地に立地している。

本遺跡の南側から利根川にかけての地域には新井・飯塚・矢島・高林の4つの洪積台地がほぼ東西方向に位置

し、台地間は沖積低地となっている。台地は厚さ2から3mの関東ローム層に覆われている。

沖積低地には、大間々扇状地藪塚面を形成した藪塚砂礫層が伸びており、沖積低地も扇状地として形成されることが考えられる。扇状地では、火山灰が降下し、上部ローム層として堆積したが、沖積低地では、火山灰がローム層として堆積しなかった。降下した火山灰は水流で低地部に流れこみ、上流の藪塚面を浸食し低地で再堆積した。これら火山灰の再堆積物は低地部での湿潤な環境により粘土化し、沖積層になったと考えられる。

八王子丘陵は北西から南東方向にのびる分離丘陵で、長楕円形を呈している。長さ約7km・幅約2.8km・最高点293.9mである。分水界は北北東-南南西の方向に延びている。主稜線からは山脚が南および南南西に延びており、その間に西長岡・菅塩・北金井などの集落がある谷が開析する。金山丘陵は八王子丘陵の南東に位置する分離丘陵であり、最高点は235.8mである。八王子丘陵とはごく低い鞍部を境にして離れているが、かつては一続きだったと考えられている。どちらも以前は足尾山地と一続きになっていたものと考えられる。足尾山地の末端部であったものに断層が生じ谷となり、大間々扇状地を形成した渡良瀬川が流路を東に変えたことにより、現在の独立した丘陵になったとされている。

金山丘陵の西辺に沿うように八瀬川が、利根川方面へと流れている。八瀬川は新田堀の太田樋から始まる水路である。金山丘陵西側を南下し、下馬堰に至る。本遺跡の約50m南側を西から東に流れ、市役所付近から再び南下する。高林寿町で憩川を合わせ、ここから高林台地を南に向かい横断しており、幅20m前後、深さ4から5m程度の谷を切って石田川へ合流し、その全長は12.06kmである。なお、狭い谷の中には河岸段丘が二段形成されている。現在の八瀬川は人口開削による水路であるが、以前は自然河川であった可能性が考えられる。自然河川としての八瀬川は、微高地緑辺部西側を流れ、蛇川と合流していたと推定される。



第3図 遺跡周辺地形分類図(群馬県『土地分類基本調査』深谷(1991)による)

第2節 遺跡周辺の歴史環境

本遺跡の周辺地域には、旧石器時代以降、各時代の遺跡が存在していた。以下時代ごとに概観するが、各時代の遺跡分布密度はかなり偏っている。旧石器時代から弥生時代までの分布が少なく、古墳時代から急増している。このことから、この地域への急激な開拓が古墳時代以降に始まったと理解されている。

1. 旧石器時代

八王子丘陵や金山丘陵周辺に遺跡が分布する。丘陵性のローム台地の発達した地域に存在していたことが考えられる。本遺跡周辺では、金山東麓の焼山遺跡(92)から槍先形尖頭器が、南端の八幡山遺跡(55)ではナイフ型石器がそれぞれ出土している。

2. 縄文時代

草創期・早期の遺跡は八王子丘陵や金山丘陵周辺、沖積地内の低台地部に分布するものが多い。草創期は金山東麓の下宿遺跡(69)にて爪形文土器が出土している。早期では焼山遺跡(92)で撚糸文の土器片が採集されている。前期の遺跡は、由良台地上にある堂原遺跡が諸磯期の土器を出土しており、大間々扇状地扇端部付近の台地では、三枚橋駅西方に位置する前沖遺跡(34)などがある。中期前半の遺跡は市域では希薄な状況である。これは、前期に見られた東京湾海進が次第に後退し、平野部が沖積化するなかで、人々が山寄りの地に生活の場を求めていったからであると考えられる。中期後半加曾利E式期になると、市域でも三枚橋南遺跡(35)など遺跡が見られるようになる。後期は堂原遺跡が顕著であり、称名寺式・堀ノ内式・加曾利B式土器が多く認められる。晩期の遺跡は、太田市域では分布が薄い。

3. 弥生時代

太田市域における弥生時代の遺跡は極めて少ない。本遺跡周辺では、金山丘陵北東部の小丸山遺跡で遺物の散布が認められるほか、金山丘陵東部の磯之宮遺跡から中期の住居が検出されている程度である。しかし、近年の調査で金山丘陵や八王子丘陵周辺や沖積地内の低台地上

において、小規模集落の存在が散見されるようになった。

4. 古墳時代

太田市域は、弥生時代までは極めて希薄な遺跡分布であったが、古墳時代前期になると遺跡の分布が急増する。それまで未開の地であった沖積低地を開拓した人々の存在が考えられている。古墳時代前期を代表する土器は、東海系の影響を受けた「石田川式土器」と呼ばれる様式の土器群である。その石田川遺跡は太田地域に存在する。石田川遺跡と同様な外来系土器を器種構成の主体におく遺跡は沖積低地内の低台地やその周辺に形成されている。屋敷内B遺跡(12)、成塚住宅団地遺跡、脇屋深町遺跡、唐桶田遺跡、新田東部遺跡群などである。新田東部遺跡群内の中溝・深町遺跡では、井泉祭祀遺構を伴う方形区画遺構が検出されており、首長を中心とする成熟した社会が築かれていたと言える。その一方で、太田市域では樽式土器や吉ヶ谷式土器など弥生時代後期の系譜を引く土器が出土する遺跡も検出されている。成塚向山古墳群、西長岡東古墳群などである。これら遺跡は八王子丘陵上やその周辺に形成されている。

前期の墳墓としては、周溝墓と古墳の二者が存在する。周溝墓は屋敷内B遺跡の前方後方形周溝墓、細田遺跡(93)の方形周溝墓がある。ほかにも西長岡東山古墳群、成塚住宅団地遺跡、唐桶田遺跡、新田東部遺跡群などにも存在する。前期の古墳は太田八幡山古墳(56)、寺山古墳、成塚向山1号墳などである。それぞれ八王子丘陵や金山丘陵の丘陵端部に立地している。

中期の遺跡は、沖積低地内の低台地やその周辺地域など、前期集落の立地と同じ場合が多い。前沖遺跡(34)、成塚住宅団地遺跡、新田東部遺跡群、堂原遺跡などが挙げられる。

中期の古墳は、前期古墳と占地在異なる。前期古墳が、丘陵部に築いていたのに対し、中期の古墳は、沖積地の低台地上に築かれる。中期前葉は、墳丘長168mの前方後円墳である別所茶白山古墳、中期中葉には墳丘長210mの前方後円墳である太田天神山古墳(19)、96mの帆立貝形古墳である女体山古墳(22)など大型古墳が築かれる。中期後葉では、墳丘長95mの前方後円墳である鶴山古墳、中期末葉には墳丘長約66mの前方後円墳である鳥崇神社古墳(31)などが築造されている。鶴山古墳から

は多量の武器・武具などの副葬品が出土しており、鳥崇神社古墳は周堀内に一対の中島を持つと見られており特筆される。

後期になると、八王子丘陵や金山丘陵において埴輪窯跡、須恵器窯跡が多く分布している。埴輪窯としては、八王子丘陵周辺の駒形神社埴輪窯跡、成塚住宅団地遺跡金山丘陵周辺の金井口埴輪窯跡(67)が知られている。須恵器窯は、金山丘陵に窯跡群が広がっていた。金山丘陵の古窯跡群は全体で20カ所以上と言われており、古墳時代後期のこの地域を象徴する存在と言える。

後期の集落は沖積地内の微高地を避け、大間々扇状地の末端の台地や八王子丘陵・金山丘陵、高林台地などの周辺部に分布する傾向がある。川窪遺跡(13)、堂原遺跡、成塚住宅団地遺跡などである。

後期の古墳は、後期後葉に墳丘長74mの前方後円墳である二ツ山古墳1号墳、墳丘長45mの前方後円墳である二ツ山古墳2号墳が築造される。後期から終末期にかけては八王子丘陵・金山丘陵上や、沖積地内の低台地上に多くの群集墳が形成されている。大鷲梅穴古墳群、貧乏塚古墳群(52)、西山古墳群(85)、東山古墳群(87)、焼山北古墳群(90)、焼山南古墳群(91)などである。

5. 飛鳥・奈良・平安時代

7世紀後半の創建と考えられる寺井廃寺、新田郡衙郡庁跡である天良七堂遺跡、郡衙関連施設の可能性の高い笠松遺跡、東山道駅路など新田郡衙に関連する遺跡が太田市域には数多く存在する。東山道駅路は、伊勢崎市東部から太田市北西部の天良七堂遺跡にかけての地域で、東西に延びる二本の道状遺構が見つまっている。北側のものは「下新田ルート」、南側のものは「牛堀・矢ノ原」ルートと呼ばれている。東山道駅路は、新田郡衙よりさらに東へと延びていることが近年発掘により分かった。八ヶ入遺跡、大道西遺跡、大道東遺跡、鹿島浦遺跡から約1kmに及ぶ東山道駅路とみられる遺構が検出されたのである。

古墳時代後期に始まった須恵器生産はこの時代にも続いており、金山丘陵窯跡群では西麓の高太郎Ⅱ遺跡(45)などで操業が開始された。須恵器生産以外にも、鉄生産が開始されている。八王子丘陵では西野原遺跡、峰山遺跡など、金山丘陵では菅ノ沢遺跡、高太郎Ⅲ遺跡(42)な

どで鉄生産遺構が検出されている。

6. 中世以降

中世城館跡が多く存在する。城郭としては金山城(76)がある。これは金山丘陵上にある山城であり、文明元(1469)年岩松家純によって築城された。岩松氏は明応4(1495)年家臣の横瀬成繁に実権を奪われる。横瀬氏は由良氏を名乗り金山城を中心として地域を治めたが、後北条氏の上野国進出に際し、その支配下に属した。天正18(1590)年後北条氏が滅びると、金山城は廃城となった。その城域は広大で、山頂部に実城を置き、山頂部から延びる西尾根に西城を配置し、北に延びる観音山に北城を構えている。また、南の中八王子山には八王子山の砦を築いている複合的城郭である。山頂部の実城域に日の池、月の池を持ち、石垣・石敷き通路・石組み排水路・石組み井戸など山城としては珍しい石組みの施設を有する。

中世の城館跡としては、大島城跡(38)、大島館跡(37)、鳥山館跡(32)、鳥山屋敷跡(33)などがある。

参考文献

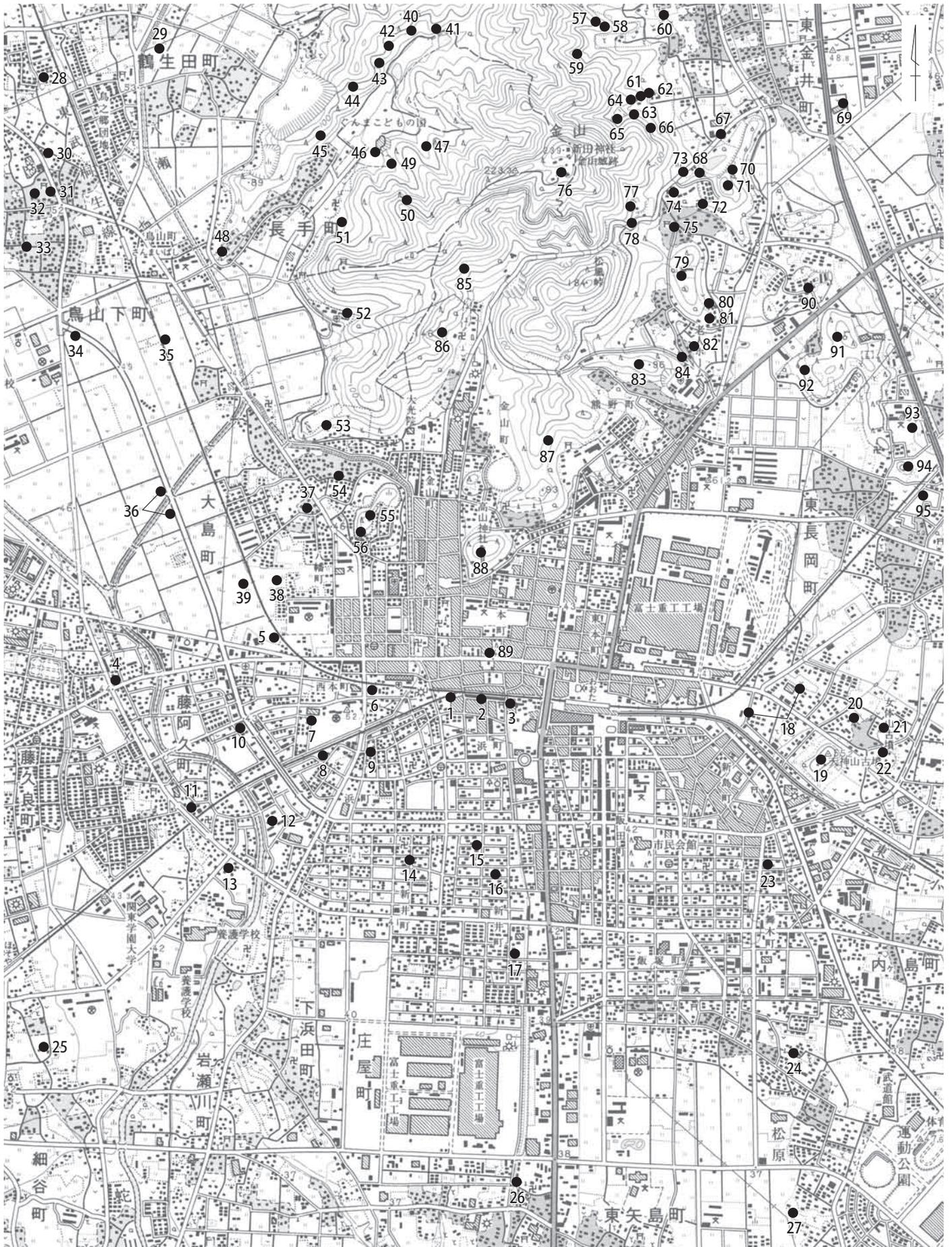
第1節

太田市1996『太田市史』通史編自然

第2節

太田市1996『太田市史』通史編原始古代

群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編1



第4図 周辺遺跡位置図(国土地理院発行地形図「上野境」「足利南部」使用1/25,000)

第2表 主な周辺遺跡

No.	遺跡名	該当期○						遺跡の概要	主な文献No.
		旧石器	縄文	弥生	古墳前期	古墳中・後期	奈良・平安		
1	浜町遺跡					○	○	古墳～平安の竪穴住居。近世の溝。	
2	浜町古墳群				○	○	○	古墳前期の土坑。古墳後期～平安の竪穴住居。	
3	宮内遺跡				○		○	古墳前期の土坑。近世の溝。	
4	藤阿久古墳群				○	○		径15m程の円墳が多く、横穴式石室か。6世紀代。	1
5	三島木遺跡		○				○	奈良・平安の土坑。中世の掘立柱建物。	2
6	稲荷前遺跡						○	平安時代の竪穴住居。	2
7	稲荷山古墳				○	○		径20mの円墳。	1
8	塚畑遺跡		○		○	○	○	縄文中期土坑。古墳～平安の竪穴住居。	2
9	稲荷塚古墳				○	○		前方後円墳。	1
10	舞台A・D遺跡					○	○	古墳後期の集落。多量の炭化米。	1
11	舞台C遺跡					○		古墳後期の集落。	1
12	屋敷内B遺跡				○		○	4世紀後半の前方後方形周溝墓。	1
13	川窪遺跡				○	○	○	古墳前～後期及び平安の集落跡。	1
14	新井古墳群	○	○		○	○	○	6世紀後半から7世紀にかけての古墳群。	1
15	五(御)庵稲荷古墳				○	○		円墳。	5
16	新井館跡						○	中世の館跡。	3
17	稲荷塚古墳				○	○		全長50m程の前方後円墳か。	1
18	北田環濠遺構群						○	堀。二つの環濠。	3
19	天神山古墳					○		全長210m、東日本最大の前方後円墳。	1
20	天神山古墳A陪塚					○		中期円墳、径22m。	4
21	女体山古墳東方遺跡		○					縄文後晩期遺物包蔵地。	1
22	女体山古墳					○		中期帆立貝式古墳または円墳、全長96m。	1
23	新島・小舞木古墳群	○	○		○	○	○	6世紀後半～7世紀の横穴式石室円墳。	1
24	飯塚古墳群	○	○		○	○	○	方形周溝墓4基、円形周溝墓1基。	1
25	細谷東遺跡				○	○	○	古墳・奈良時代の集落。	5
26	矢島館跡						○	中世の館跡。	3
27	東別所遺跡	○						槍先形尖頭器。	1
28	中道遺跡					○		古墳時代遺物散布地。	5
29	中妻遺跡				○	○		集落、古墳。	5
30	鎧着遺跡				○	○		古墳時代遺物散布地。	5
31	鳥崇神社古墳							前方後円墳。全長推定66m。5世紀末～6世紀前半。	1
32	鳥山館跡						○	堀。	3
33	鳥山屋敷跡						○	堀。	3
34	前沖遺跡	○	○			○	○	古墳時代中期集落跡。	6
35	三枚橋南遺跡		○		○	○	○	縄文(前期～後期)、古墳～平安の遺物出土。	
36	年保遺跡	○	○			○	○	古墳時代後期集落跡。	7
37	大島館跡						○	14世紀。大島氏(里見氏)。土居、戸口。	3
38	大島城跡		○					16世紀館跡。堀。土壇。	3
39	城ノ内遺跡				○	○	○	古墳の竪穴住居。中世の大島城の堀。	2
40	カニガ沢遺跡					○	○	須恵窯。	5
41	堤入遺跡					○	○	須恵窯。	8
42	高太郎Ⅲ遺跡					○	○	平安時代製鉄炉跡。	8
43	鍛冶ヶ谷戸遺跡		○		○	○	○	縄文、古墳、平安時代、中世の集落・生産遺跡。	8
44	高太郎Ⅰ遺跡					○	○	古墳時代後期の須恵器窯跡5基。平安時代製鉄炉。	8
45	高太郎Ⅱ遺跡						○	製鉄炉跡3基、炭窯跡3基。10世紀前半。	9
46	山去・十八曲遺跡						○	井戸跡1基、金山城跡関連の大堀切り。	10
47	鶏足寺跡						○	中世の寺跡。	3
48	長手口古墳群					○		3基の前方後円墳を中核、6世紀後半に形成。	1
49	長手口砦跡					○		中世城館。	8
50	長楽寺跡						○	中世の寺跡。	3
51	式反田古墳群					○		数基の円墳からなる。	1
52	貧乏塚古墳群					○		約30基の円墳よりなる群集墳。6世紀後半。	1
53	大島口遺跡		○		○	○		縄文草創・早・前期及び古墳時代遺物散布地。	1
54	大島古墳群	○	○		○	○		径10m前後の円墳群。	1
55	八幡山遺跡	○						旧石器時代遺物包蔵地。ナイフ形石器。	1
56	八幡山古墳				○			前方後円墳。全長84m。竪穴式石室か。	1
57	狸ヶ入Ⅱ遺跡					○		灰原。須恵器出土。	5
58	辻小屋遺跡					○		須恵窯。	1
59	辻小屋窯跡群					○		須恵窯。	11
60	狸ヶ入館遺跡						○	中世の館跡。	5
61	狸ヶ入Ⅰ遺跡					○		窯。	5
62	胎蔵寺跡						○	中世の寺跡。	3
63	大目沢古墳群					○		7世紀末の小規模墳丘墓群。	1
64	入宿Ⅱ遺跡					○		灰原。	11
65	入宿Ⅰ遺跡					○		灰原。	11
66	入宿Ⅲ遺跡					○		灰原。須恵器出土。	11

No.	遺跡名	該当期○						遺跡の概要	主な文献No.
		旧石器	縄文	弥生	古墳前期	古墳中・後期	奈良・平安		
67	金井口埴輪窯跡					○		埴輪窯。	1
68	金井口遺跡	○	○		○	○	○	槍先形尖頭器。埴輪窯。製鉄窯。	1
69	下宿遺跡		○					爪形文土器を包含する遺構。	1
70	亀山窯跡				○			須恵窯。灰原。	1
71	亀山京塚古墳				○			後期円墳。陶棺。	1
72	亀山古墳群				○			後期群集墳。	1
73	母衣埴輪窯跡				○			埴輪窯。	1
74	東金井城跡						○	堀。土居。戸口。腰郭。	3
75	寺ヶ入馬塚古墳群				○			横穴式石室の円墳群。	1
76	金山城跡						○	文明元年(1469)岩松家純築城。	18
77	聖天沢遺跡				○		○	円墳。横穴式石室。中世墓。	12
78	丸屋敷の砦						○		1
79	内並木古墳群				○			円墳。	1
80	内並木遺跡				○	○		旧石器包蔵地。灰原。須恵器出土。	1
81	馬塚古墳群				○			後期群集墳。	1
82	寺ヶ入遺跡				○			円墳。	1・13
83	富士山古墳群			○	○				5
84	寺ヶ入古墳群				○			横穴式石室の円墳群。	1
85	西山古墳群				○			終末期群集墳。	1・13
86	由良氏五輪塔						○	中世。	5
87	東山古墳群	○	○	○	○	○		最終末期の古墳群で、小形横穴式石室が主力。	1
88	高山古墳	○	○	○	○	○		6世紀後半構築の横穴式石室の前方後円墳か。	1
89	本陣跡						○	礎石建物。土坑。	14
90	焼山北古墳群				○			6世紀初頭から7世紀にかけての古墳群。	1
91	焼山南古墳群				○			6世紀中頃から7世紀にかけての古墳群。	1
92	焼山遺跡	○	○	○	○	○		古墳時代前期の土師器が多く出土。	1
93	細田遺跡	○	○	○	○	○		旧石器包蔵地。古墳前期方形周溝墓。縄文前期・平安集落。	15・16
94	伊豆ノ山遺跡	○						旧石器包蔵地。	1
95	東長岡戸井口遺跡	○	○		○	○	○	集落。中世館跡。	17

主な文献No.

- 『太田市史 通史編 原始古代』太田市1996 1 太田市史
- 『塚畑遺跡・宮内遺跡・稻荷前遺跡・三島木遺跡・城ノ内遺跡』2006 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1989
- 『天神山古墳外堀・A陪塚範囲確認調査』太田市教育委員会1990
- 群馬県文化財情報システムWEB版
- 『前沖遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2004
- 『年保遺跡・鳥山下遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003
- 『長手谷遺跡群発掘調査報告書』太田市教育委員会2002
- 『市内遺跡X』太田市教育委員会1994
- 『市内遺跡IX』太田市教育委員会1993
- 『群馬・金山丘陵遺跡群I』駒澤大学考古学研究室2007
- 『聖天沢遺跡調査報告書』太田市教育委員会1972
- 『寺ヶ入遺跡発掘調査報告書I・II』太田市教育委員会1992
- 『市内遺跡XIX』太田市教育委員会2003
- 『細田遺跡発掘調査概報』太田市教育委員会1978
- 『細田遺跡発掘調査略報II』太田市教育委員会1979
- 『東長岡戸井口遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999
- 『史跡金山城跡報告書一発掘調査編一』太田市教育委員会2001

第3節 基本土層

浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡は標高約43mから46mの地点に位置している。この場所は大間々扇状地の、扇端南方に広がる沖積低地の中に縞状に散在する大間々扇状地藪塚B面上である(第3図)。地形上の特色は上記の通りであるが、本遺跡は、太田駅近接という市街地に立地している為、近年の鉄道と市街地開発による土地変革の影響を強く受けている。

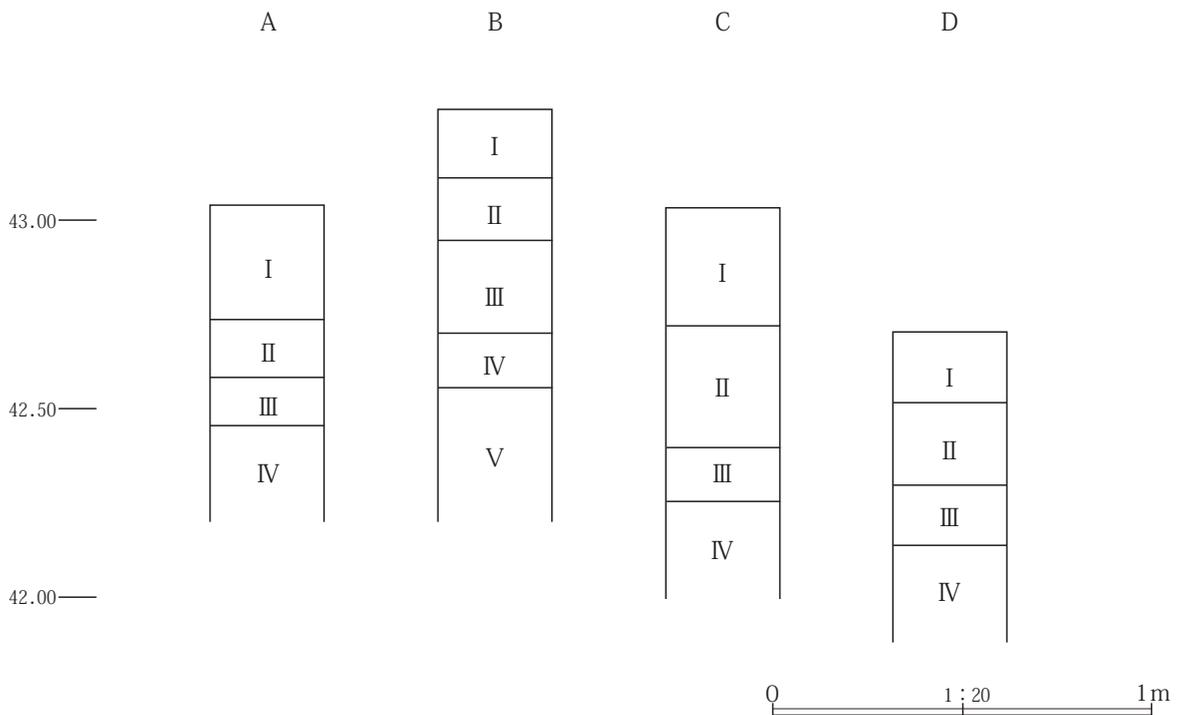
基本土層は4箇所において確認をした(第5・6図)。Aは浜町遺跡7区、Bは浜町遺跡8区、Cは浜町古墳群3区、Dは宮内遺跡3区である。基本土層は以下の通りである。

- I層 表土、バラス・碎石等を含む。
- II層 暗褐色土、碎石は見られないがガラス片・ビニール片・プラスチックゴミ等を含む為、現代客土である。
- III層 暗褐色土、白色軽石粒を少量含む。
- IV層 黄褐色土、ローム漸移層。
- V層 黄褐色土、ローム層。

本遺跡は、鉄道隣接地及び住宅地として利用されていたため碎石等の表土が厚く盛られており、現地表下約35cmから約65cmまでのI・II層は現代に改変された層で

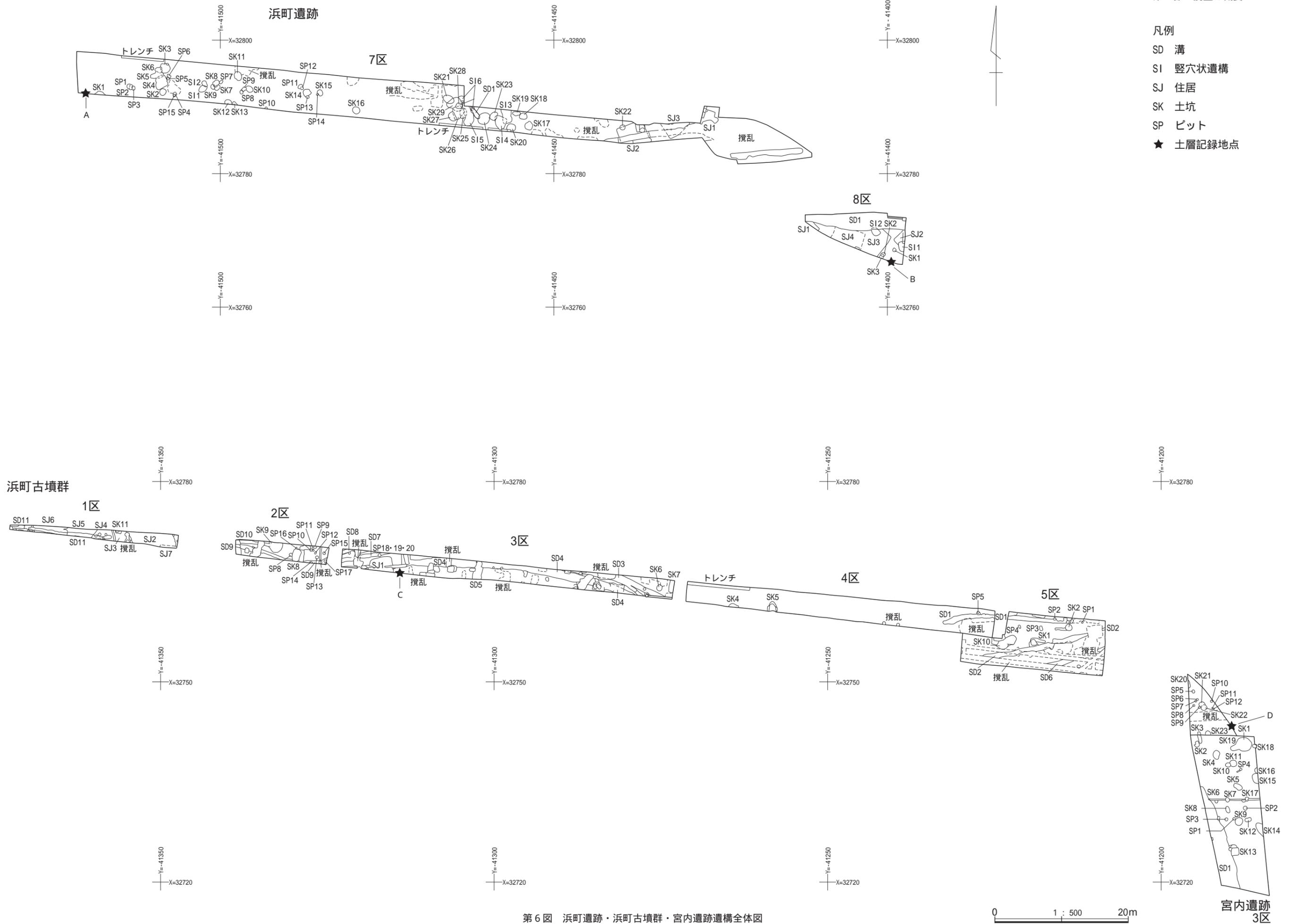
ある。現代土層下のIII層は、As-C軽石及び榛名二ツ岳軽石であると考えられる白色軽石粒を含むことから、古代に堆積した土層と考えられる。IV層はローム漸移層である。黄褐色土で統一しているが、調査区により色調の明暗に差がある。V層土は浜町遺跡8区のB地点でのみ確認できたが、ローム層である。調査はIV層を地山として行った。

4箇所の土層を概観すると、総じてローム層及びローム漸移層が堆積している。ローム漸移層の標高はB地点が最高位である。A地点及びC地点はあまり高さに変わらない。もっとも低いのはD地点である。B地点の浜町8区・浜町古墳群1区あたりが高く、東西に向かい傾斜がかかっていると言える。これは第3図にも示している、本遺跡がある台地の状況とも一致する。この台地は西では浜町遺跡の先、現在の八瀬川流路のあたりで低地と接している。東では宮内遺跡の先、現在の太田駅付近で低地と接している。本遺跡が、沖積低地の中に浮かび上がる、大間々扇状地の台地上にあることが確認できたと言える。



第5図 浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡柱状土層図

- 凡例
- SD 溝
 - SI 竪穴状遺構
 - SJ 住居
 - SK 土坑
 - SP ピット
 - ★ 土層記録地点



第6図 浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡遺構全体図

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 調査の概要

調査は、3遺跡ともローム漸移層(基本土層Ⅳ層土)を確認面として調査した。

以下、各時代について概略を記す。

縄文時代

縄文時代の遺構は検出されなかった。浜町古墳群・宮内遺跡より黒浜式土器片・加曾利E式土器片が出土している。3遺跡が位置するのは大間々扇状地末端の低台地であり、縄文時代の遺構があることは十分に想定できる。

古墳時代

古墳時代の遺構として検出されたのは浜町遺跡では、住居2軒、土坑1基である。浜町古墳群では、住居3軒、溝2条、土坑4基である。宮内遺跡では、土坑1基である。住居は浜町遺跡8区において、2軒が重なり合って検出された。浜町古墳群1区においても、3軒が重なり合って検出された。土坑は、東西に広い3遺跡を一体として考えると、西端の浜町遺跡7区から1基、中央西寄りの浜町古墳群1区から1基、2区から2基、東寄りの

浜町古墳群5区から2基、宮内遺跡3区から1基検出されている。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構として検出されたのは浜町遺跡では住居2軒である。浜町古墳群では住居4軒、溝1条である。宮内遺跡では奈良・平安時代と推定できる遺構は検出されなかった。浜町遺跡では、7区と8区からそれぞれ1軒ずつ住居が検出された。浜町古墳群では西寄りの1区から3軒、3区から1軒住居が検出された。浜町古墳群の溝は西寄り1区から東西方向を軸として検出された。

近世

近世の遺構として検出されたのは、浜町遺跡では溝1条である。浜町古墳群では近世と推定できる遺構は検出されなかった。宮内遺跡では溝1条が検出された。浜町遺跡の溝は2区で、東西方向を走向軸とし、宮内遺跡の溝は3区で南北方向を走向軸としている。

第3表 浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡 検出遺構一覧

遺跡／遺構	住居	竪穴状遺構	土坑	ピット	溝
浜町遺跡7区	3	6	29	15	1
浜町遺跡8区	4	2	3	0	1
浜町古墳群1区	6	0	1	0	1
浜町古墳群2区	0	0	2	10	2
浜町古墳群3区	1	0	2	3	5
浜町古墳群4区	0	0	2	1	1
浜町古墳群5区	0	0	3	4	2
宮内遺跡3区	0	0	23	12	1

第2節 浜町遺跡

1. 竪穴住居

竪穴住居は7軒調査した。調査区別では7区で3軒、8区で4軒である。時代ごとでは古墳時代2軒、奈良・平安時代2軒、詳細不明だが古代と考えられる住居3軒である。調査区が狭小であり、住居全体が検出された遺構は無かった。また遺跡は市街地に位置しており、現代の開発により攪乱されている遺構が多かった。

7区1号住居(第7・8図、PL. 3・19)

位置 X=32787、Y=-41425

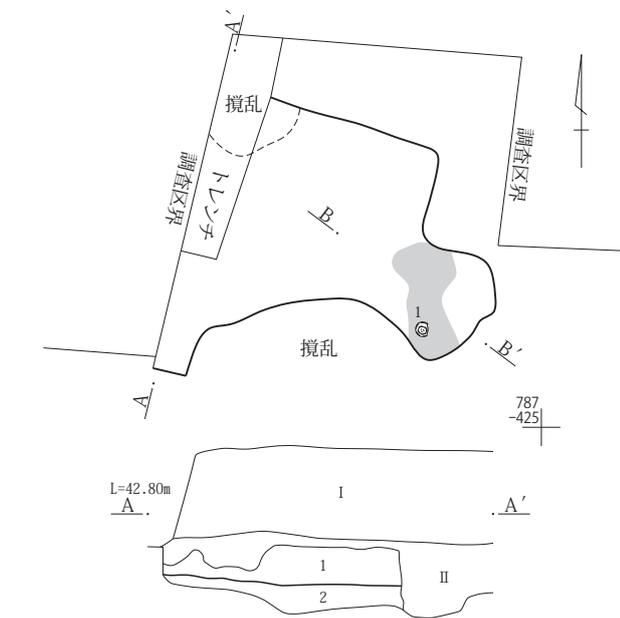
形状・規模 形状不明。長軸(2.30)m、短軸(1.82)mを測る。

面積 (3.76) m²

主軸方位 N-52°-W

重複 なし

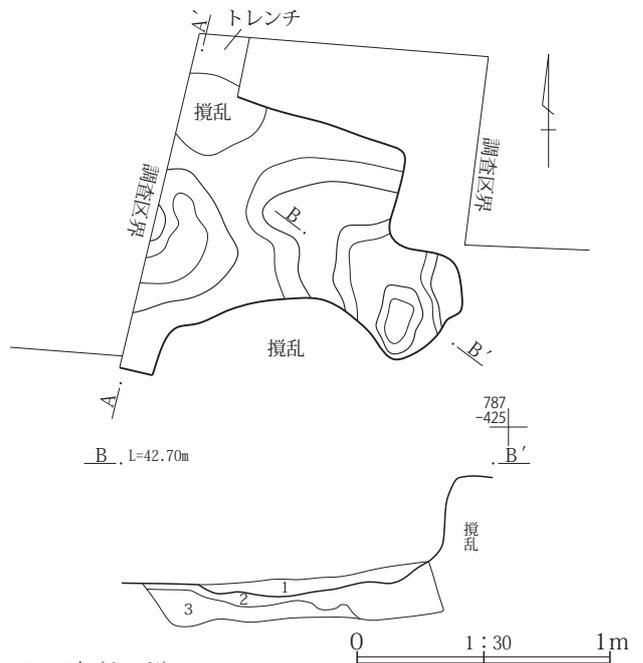
埋没土 上層部は攪乱土が堆積している。1層は住居埋没土と考えられるが自然埋没土か人為的な埋土かは不明である。



A-A'

- I. 現表土 碎石盛土。
- II. 暗褐色土 一部碎石が残る。現代土。
- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。赤褐色土微量、細微な土器片微量含む。1号住居埋土。
- 2. 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性あり。しまりやや強し。床面構築土。

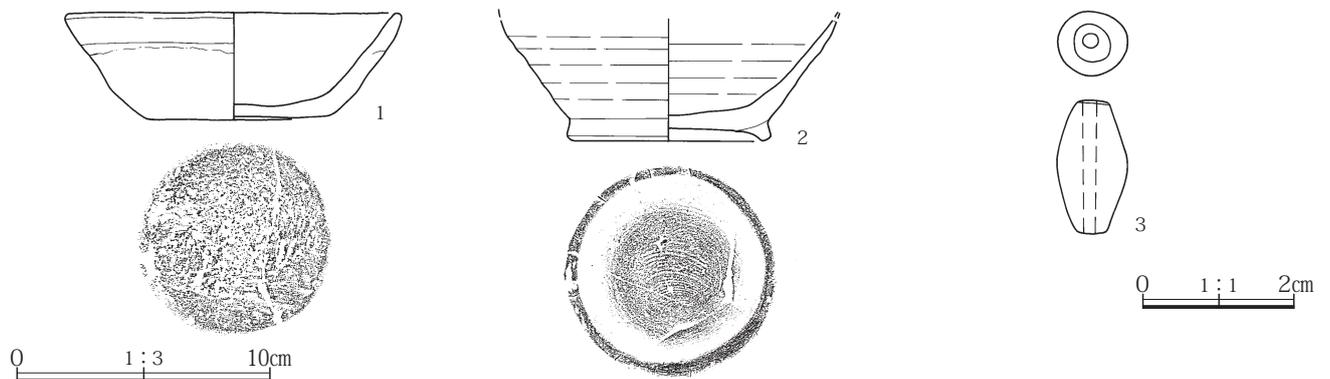
0 1:60 2m



B-B' (カマド)

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。焼土ブロック少量、炭化物微量含む。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。焼土含むが、炭化物みられず。
- 3. 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。黄褐色土中に暗褐色土が混ざる。

第7図 7区1号住居



第8図 7区1号住居出土遺物

床面 床下の状況より、住居使用部分を掘り込み暗褐色土と黄褐色土の混土を構築土としている。床面の残存深さは0.21mを測るが、これは確認面からの深さである。

柱穴 確認されなかった。

カマド 住居の一部分の調査であったため詳細は不明であるが、カマドの形状より住居の東壁に設置されていたことが想定される。全長(1.08)m、幅(0.92)mを測るが、攪乱土により全形は調査できず、調査時現状の数値である。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大片220g・土師器小片60g・須恵器大片25g・須恵器小片55gが出土された。図示したのは土師器杯1点・須恵器椀1点・土錘1点である。須恵器は口クロ整形し、高台を張り付けており9世紀のものと考えられる。

所見 調査箇所が調査区の突出した部分に当たり、狭小な範囲の上、ほとんどが攪乱土により破壊されていた。そのため住居形状等不明瞭であった。遺物より9世紀の住居と考えられる。調査位置より、平成17年報告3区3号住居と同一遺構と考えられる。

7区2号住居(第9図、PL. 3)

位置 X=32786、Y=-41435

形状・規模 住居全体は検出されていないが、検出部分

より隅丸長方形を呈するものと考えられる。長軸(4.14)m、短軸(3.20)mを測る。

面積 (11.72) m²

主軸方位 N-84°-E

重複 住居北辺西寄りにて22号土坑と重複しているが、22号土坑の方が新しい。

埋没土 住居埋没土は確認されなかった。

床面 床面は確認されず、住居掘方が検出された。掘方では、住居コーナー部分ではピット状の掘り込みが見られたが中央部分では凹凸があまり見られなかった。中央部分では地山に薄く貼り床をしていたことが考えられる。

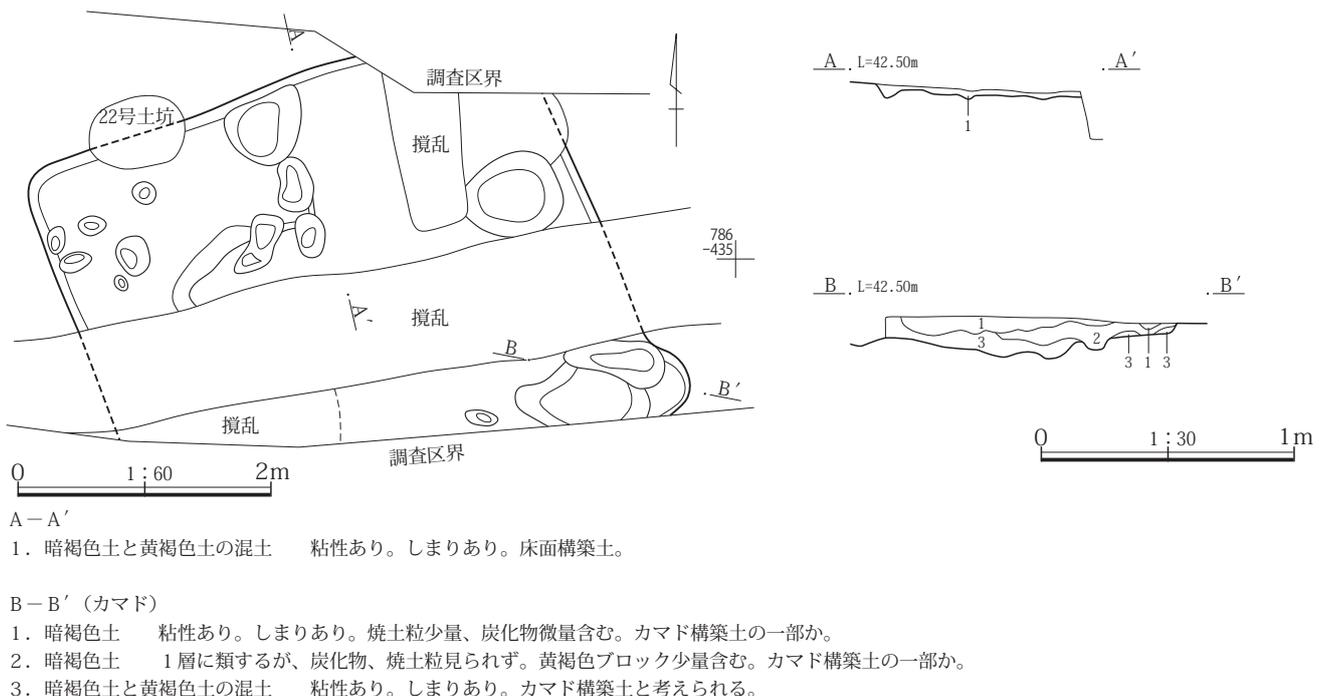
柱穴 確認されなかった。

カマド 使用面は確認されず、掘方が検出された。掘方で全長1.40m、幅(0.65)mを測る。住居東壁南寄りに設置されていたことが想定される。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器片30gが出土し、いずれも小片のため図化できなかった。

所見 住居の使用面は後世の攪乱等により破壊されている為、確認されなかった。掘方のみを検出した住居である。遺物から使用時期を特定することが困難であったが、カマドを有しており、古代の住居と推測される。



第9図 7区2号住居

7区3号住居(第10・11図、PL. 3・19)

位置 X=32785、Y=-41430

形状・規模 住居全体は検出されていないが、検出部分より隅丸長方形を呈するものと考えられる。長軸(3.74)m、短軸(2.56)mを測る。

面積 (5.98) m²

主軸方位 N-60°-E

重複 なし

埋没土 住居埋没土は確認されなかった。

床面 床面は確認されず、住居掘方が検出された。掘方では、住居南西コーナー部分では掘り込みが確認されたが、住居を東西に貫通する攪乱により詳細は不明である。

柱穴 確認されなかった。

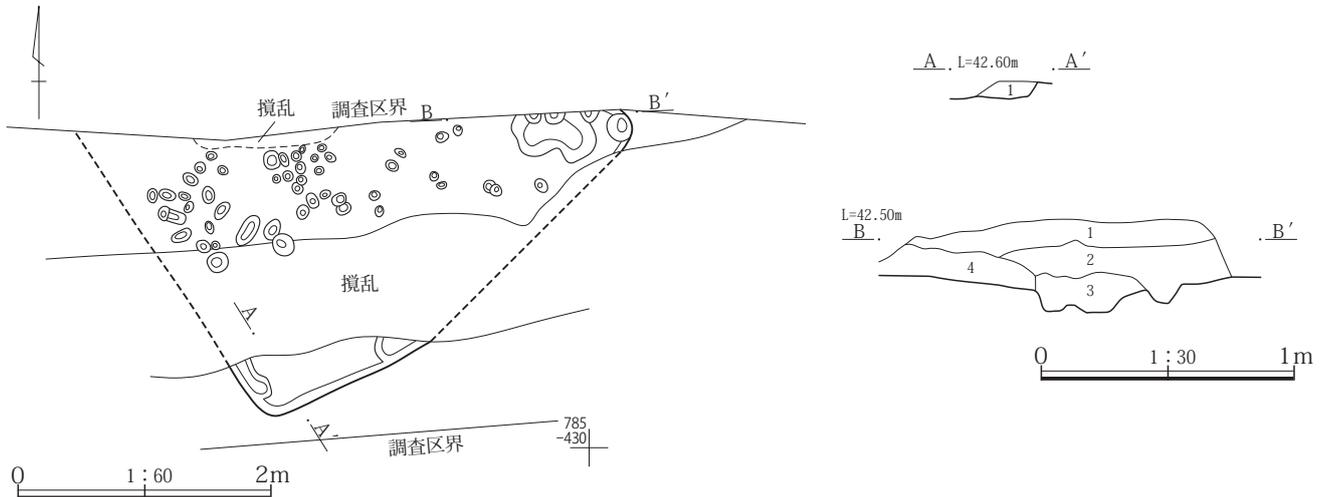
カマド 使用面は確認されず、調査区界の際より掘方の

一部が検出された。掘方で全長(0.70)m、幅(0.40)mを測る。住居東壁南寄りに設置されていたことが想定される。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器片大片1440g・土師器片小片60g・須恵器片大片400gが出土した。土師器台付甕脚部と須恵器甕胴部片を図化した。どちらも住居埋土中より出土した。

所見 住居の使用面は後世の攪乱等により破壊されている為、確認されなかった。掘方のみを検出した住居であるが検出部分の半分は攪乱により破壊されていた。図化した出土遺物は埋土より出土したもので、遺構の年代は特定できなかった。調査位置より、平成17年度報告3区4号住居と同一遺構と考えられる。尚この遺構も各時代の遺物が混在しており、時期が特定されていない。



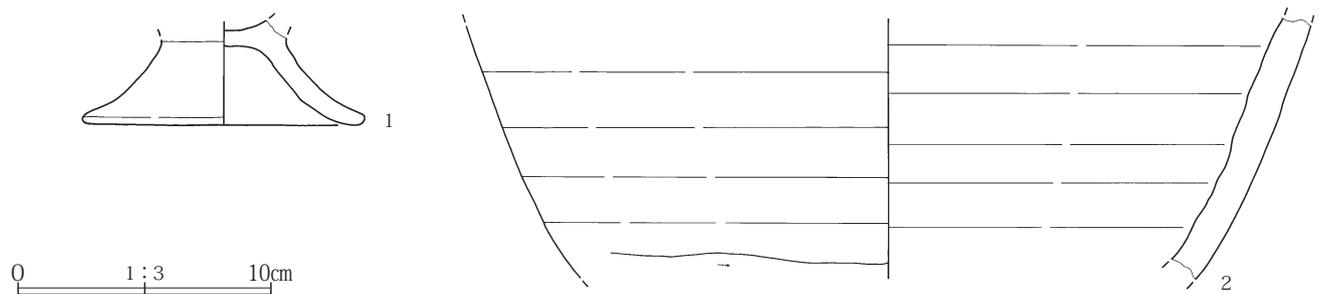
A-A'

1. 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。3号住居床構築土。

B-B' (カマド)

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。焼土まばらに含む。カマド上面に水平堆積しており、床面方向にそのまま(そのレベル)で延びており、3号住居埋土ではない。住居削平後の埋土と考えられる。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。焼土ブロック多量、炭化物少量含む。カマド構築土の一部。
3. 灰褐色土 粘性あり。しまりややあり。全体的にややザラつきあり。カマド構築土の一部。
4. 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性あり。しまりやや強し。床構築土。

第10図 7区3号住居



第11図 7区3号住居出土遺物

8区1号住居(第12図、PL. 6)

位置 X=32773、Y=-41410 調査区西端

形状・規模 住居全体は検出されていないが、検出部分より隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸(2.25)m、短軸(0.65)mを測る。

面積 (1.06) m²

主軸方位 N-51°-W

重複 住居北辺で1号溝と重複している。

埋没土 暗褐色土。ロームブロック等埋め土を想定する要素が含まれていないため、自然埋没土であることが想定される。

床面 調査面確認時に床面が確認されなかった。壁セクションにより床面及び住居壁が確認された。ピット1は長軸0.39m、短軸0.29m、深さ0.19mを測る。床下土坑である可能性が高いが、用途は不明である。

柱穴 確認されなかった。

カマド 検出されなかったが、調査は住居北東部の一部分であるため、調査区外に設置されていた可能性が考えられる。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見 調査区の際から検出された遺構である。遺構の一部分のみの検出の為、調査時には竪穴状遺構を想定した。

調査区壁土層より住居であることが確認された。遺物が出土しておらず時期を特定することができなかった。検出された他の住居の状況から古代の住居であると考えられる。

8区2号住居(第13・14図、PL. 6・19)

位置 X=32769、Y=-41399 調査区東壁際に位置する。

形状・規模 住居全体は検出されていないが、検出部分より隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸(2.24)m、短軸(1.18)mを測る。深さ0.29m、掘方0.36m

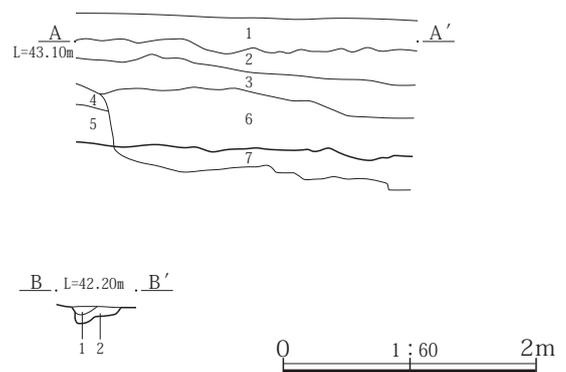
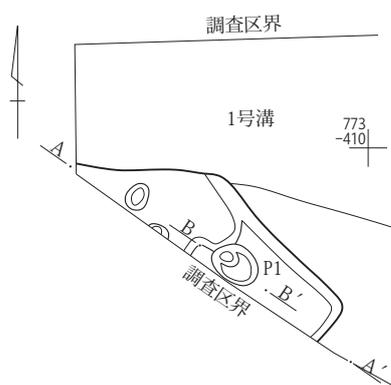
面積 (2.19) m²

主軸方位 N-45°-E

重複 住居北側で1号溝と、住居南側では1号竪穴状遺構に切られる。

埋没土 8区東壁土層では住居構築土の上層が暗褐色土であるが、遺構北側の1号溝まで水平堆積しており、近代に堆積した層である。住居を埋没した土層とは考えにくい。

床面 黄褐色土を掘方として形成されていた。北西コーナーの一部分のみの状況ではあるが、小さく土坑状に掘り込んで床面を形成している。床面の残存深度は、確認面から0.29mを測る。壁溝は北西コーナーにて確認され、



- A-A'
1. 表土 現表土。碎石層。
 2. 表土 現表土。ガラス片、ビニール片等の混入みられる。
 3. 暗褐色土 粘性ややあり。しまり強し。白色軽石粒微量含む。
 4. 黄褐色土 粘性あり。しまりあり。暗褐色土の混入あり。ローム漸移層。
 5. 黄褐色土 粘性あり。しまりあり。ローム層。
 6. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。焼土粒、炭化物、細微な土器片微量含む。1号住居埋土。
 7. 暗褐色土と黄褐色土の混土 1号住居床面構築土。
- B-B' (カマド)
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。
 2. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体的にややザラつきあり。

第12図 8区1号住居

幅0.09～0.15m、深さ0.01～0.04mを測る。

柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器片大片510g・土師器片小片170g・須恵器片大片225g・須恵器片小片10gが出土した。須恵器杯2点・土師器鉢1点・鉄製品1点を図示した。須恵器杯1は床面直上より出土した。整形の特徴から9世紀のものと考えられる。鉄器第14図4は筥状工具とみられるが

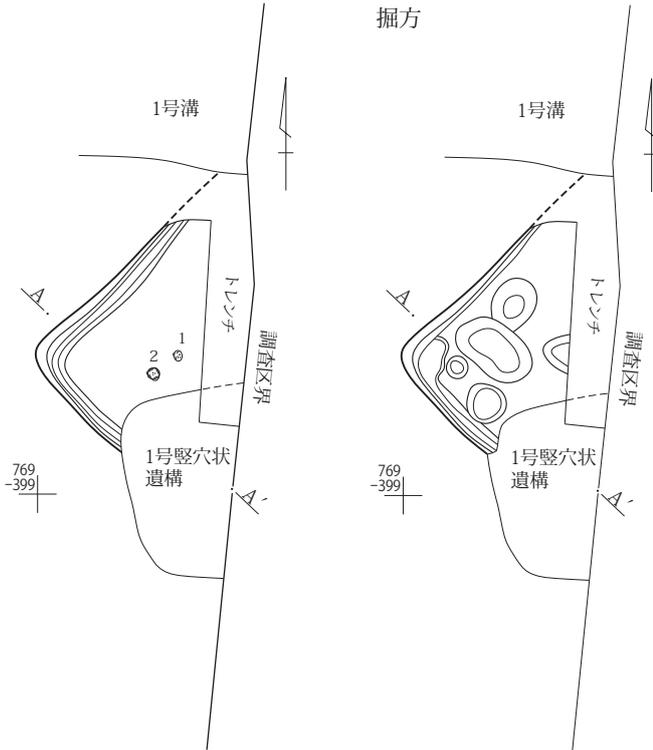
錆化が進んでおり仔細は不明である。

所見 調査区東壁際より検出され、住居の一部分のみの検出であった。伴出する遺物の特徴から8世紀代の住居と考えられる。

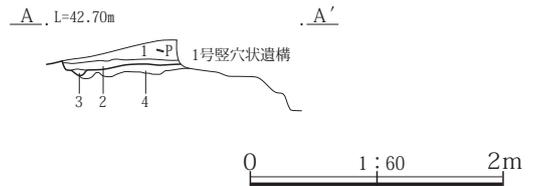
8区3号住居(第15～17図、PL. 6・19)

位置 X=32772、Y=41400 8区中央部分東寄りに位置する。

形状・規模 住居全体は検出されていないが、検出部

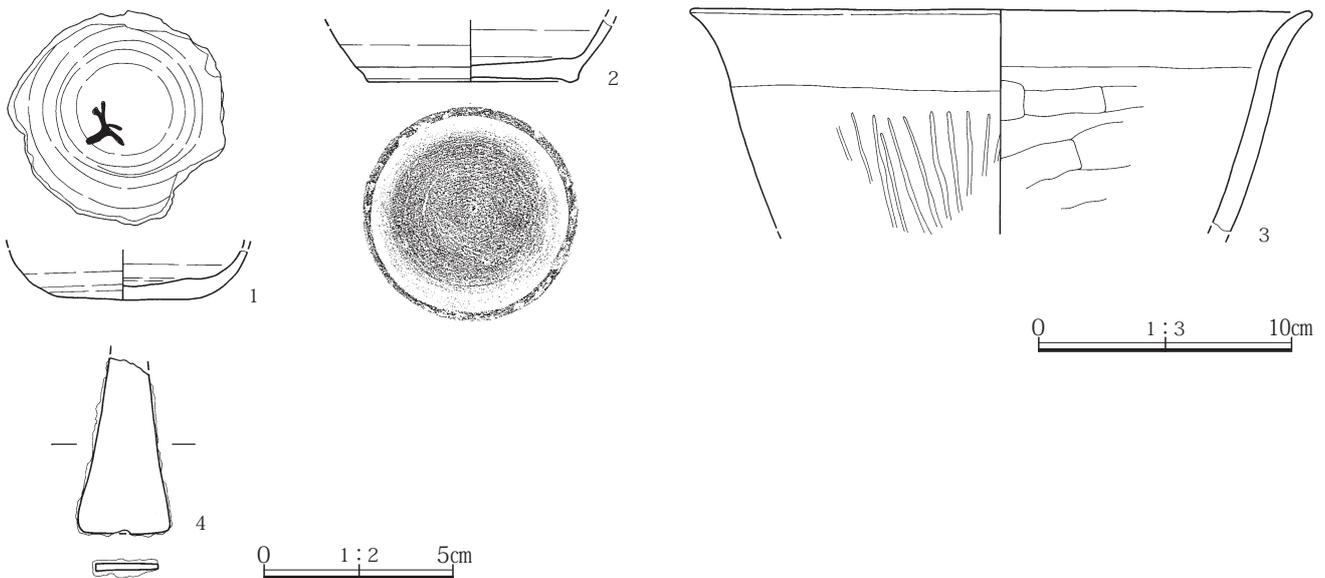


第13図 8区2号住居

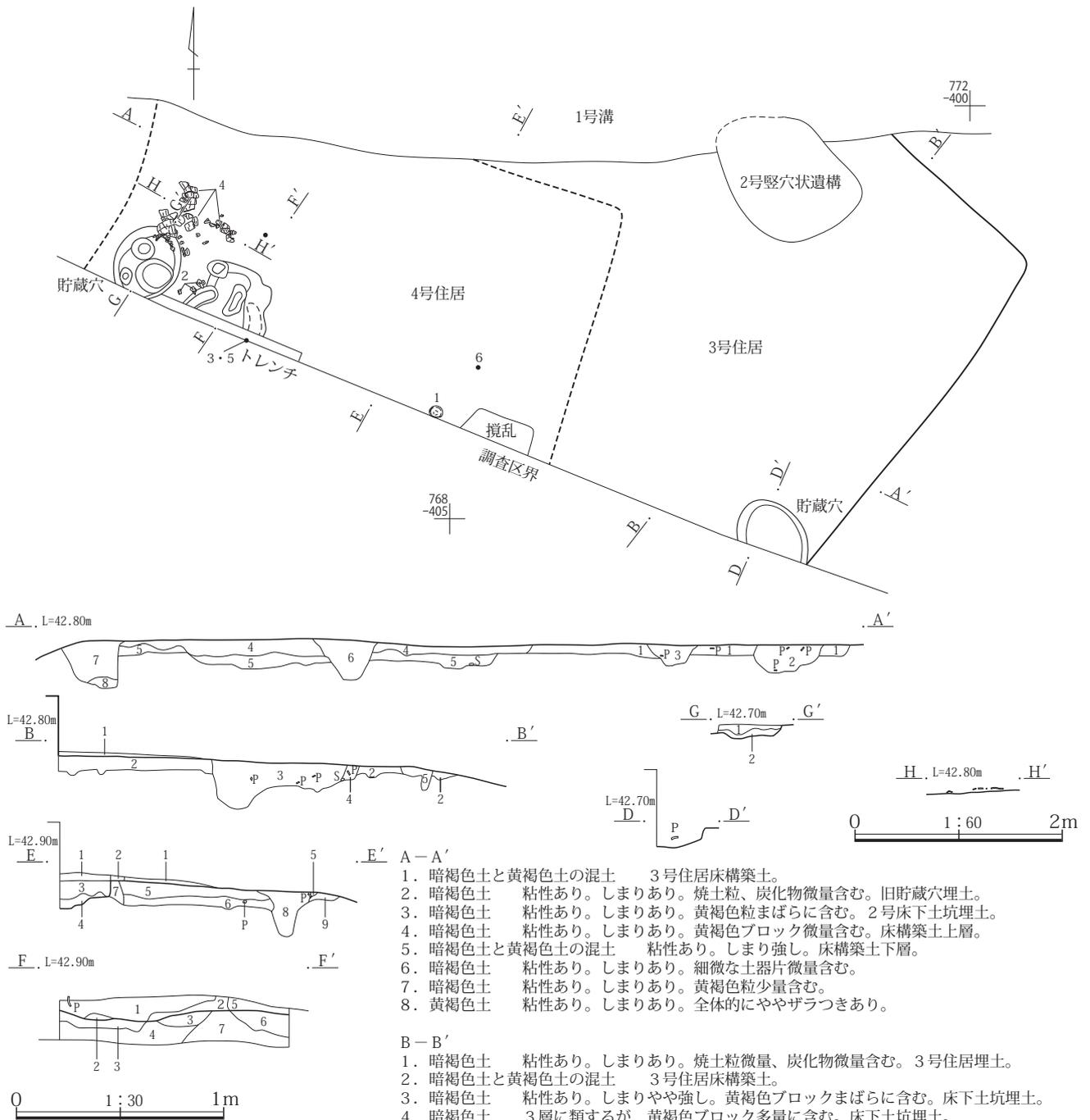


A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。黄褐色粒微量、焼土粒微量含む。2号住居埋土。
2. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。2号住居埋土。
3. 灰褐色土 粘性弱し。しまり弱し。全体的にザラつきあり。暗褐色土少量混入する。2号住居周溝埋土。
4. 黄褐色土 粘性ややあり。しまりあり。2号住居掘方。全体的にややザラついているが、地山が砂質土であるためである。

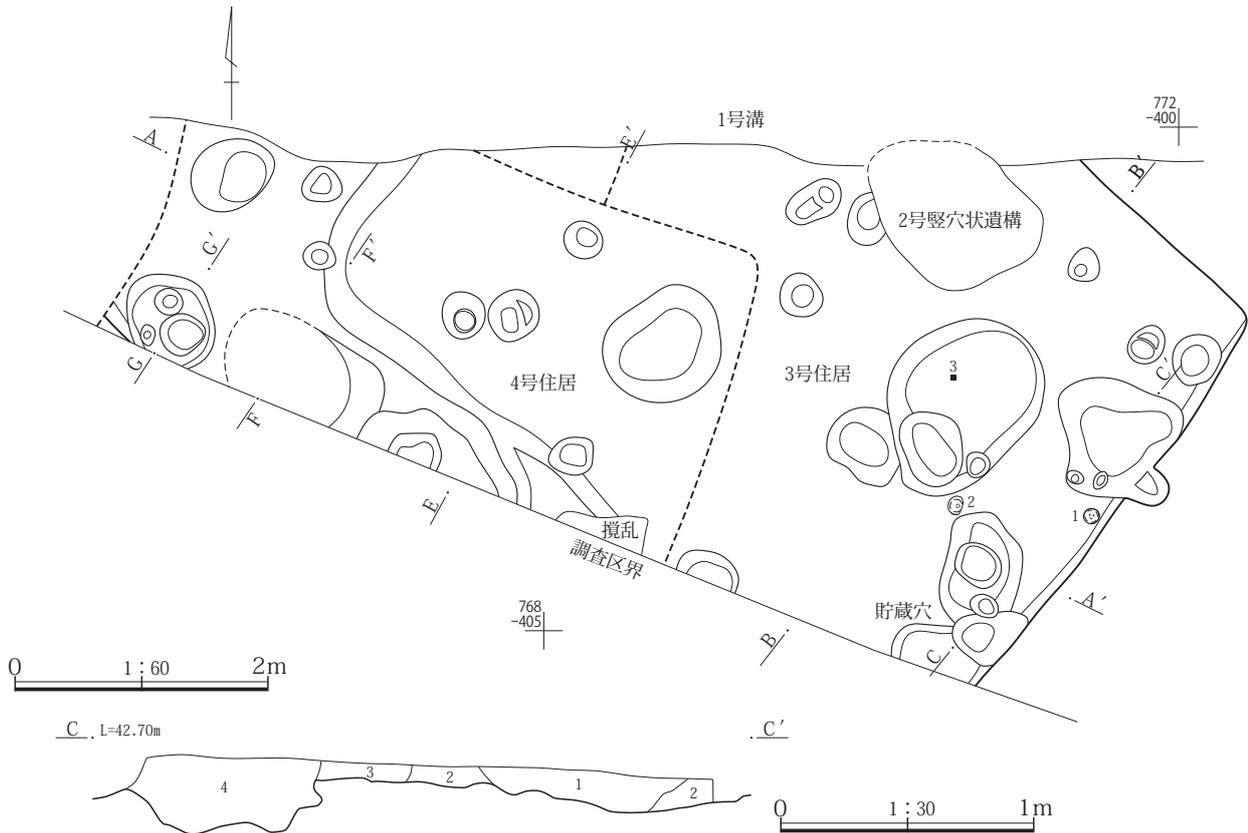


第14図 8区2号住居出土遺物



- E-E'**
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色粒微量、細微な土器片微量含む。4号住居埋土。
 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック多量に含む。貼り床部の埋土のため、黄褐色ブロック多し。
 3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。床下土坑埋土。
 4. 暗褐色土と黄褐色土の混土 地山(黄褐色土)と埋土(暗褐色土)の混土。床下土坑埋土。
 5. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック微量含む。床構築土上層。
 6. 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性あり。しまり強し。床構築土下層。
 7. 黄褐色土 粘性あり。しまり強し。暗褐色土少量含む。貼り床状に固めている。
 8. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。黄褐色ブロック少量、炭化物微量含む。ピット埋土。
 9. 暗褐色土と黄褐色土の混土 3号住居埋土。
- F-F' (カマド)**
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。焼土ブロック、焼土粒少量含む。カマド埋土。
 2. 暗黄褐色土 粘性あり。しまりあり。暗褐色土少量混ざる。カマド埋土。
 3. 暗黄褐色土 粘性強し。しまり強し。カマド構築土。
 4. 黄褐色土 粘性強し。しまり強し。カマド構築土。4層より色調明るい。
 5. 暗褐色土 住居埋土。
 6. 暗褐色土 住居床構築土上層。
 7. 暗褐色土と黄褐色土の混土 住居床構築土下層。
- G-G'**
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。黄褐色ブロック微量、焼土粒微量含む。
 2. 暗褐色土と黄褐色土の混土 埋土(暗褐色土)と地山(黄褐色土)の混土。

第15図 8区3・4号住居



C-C' (カマド)

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック多量、焼土粒微量含む。カマド掘方構築土。
2. 暗黄褐色土 粘性あり。しまりやや強し。住居構築土。
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。掘方埋土だが、焼土ブロック、炭化物少量含む。
4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。焼土粒、炭化物微量含む。床下土坑埋土。

第16図 8区3・4号住居掘方

分より隅丸長方形を呈するものと考えられる。長軸(5.72)m、短軸(4.40)mを測る。

面積 (14.00) m²

主軸方位 N-42°-W

重複 遺構西側にて4号住居、北側にて2号竪穴状遺構・1号溝と重複している。第15図A-A'土層から3号住居より4号住居の方が新しい。

埋没土 確認されなかった。

床面 暗褐色土と黄褐色土の混土を構築土としている。住居東側を中心に土坑状に掘り込んで床面を形成している。壁・壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 使用面では確認されなかったが、掘方にて確認された。掘方では全長1.18m、幅1.04mを測る。焼土粒を含む黄褐色土でカマドを構築していた。

貯蔵穴 カマド南側に設置されていた。貯蔵穴南側は調査区外であり、全体を検出することはできなかったが、長軸(0.60)m、短軸(0.52)m、深さ0.19mを測る。

出土遺物 土師器片大片3215g・土師器片小片510g・須恵器片大片225g・須恵器片小片25gが出土した。土師器杯1点・土師器台付甕片1点・鉄鏝1点を図示した。土師器杯は特徴から6世紀前半のものと考えられる。

所見 遺構確認時に床面を検出した住居である。遺物の特徴から6世紀前半の住居と考えられる。

8区4号住居(第15・16・18図、PL. 6・7・19)

位置 X=32768、Y=-41405 8区中央部分西寄りに位置する。

形状・規模 隅丸長方形 長軸(4.90)m、短軸(2.55)m、深さ床面より0.28m

面積 (10.84) m²

主軸方位 N-22°-E

重複 遺構東側にて3号住居、北側にて1号溝と重複している。3号住居より新しい。

埋没土 確認されなかった。

床面 調査区南壁付近の一部で貼り床が施されていた

(第15図E-E'7層)。

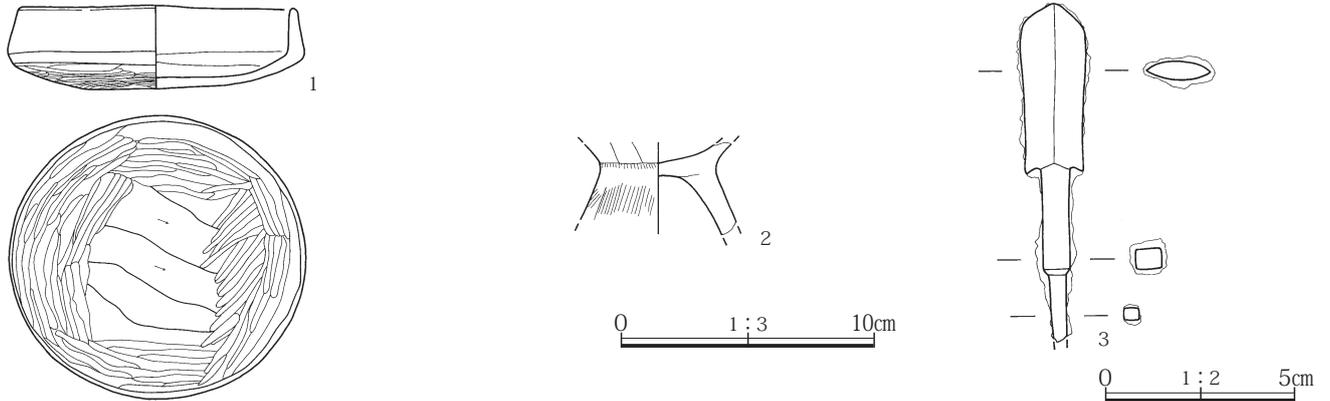
カマド 南壁に南を向いて設置されていたが、燃烧部及び煙道は調査区外である。全長(0.55)m、幅0.80mを測る。

貯蔵穴 カマド西側に設置されていた。一部が調査区外であり調査できなかった。長軸(0.70)m、短軸0.64m、深さ0.22mを測る。

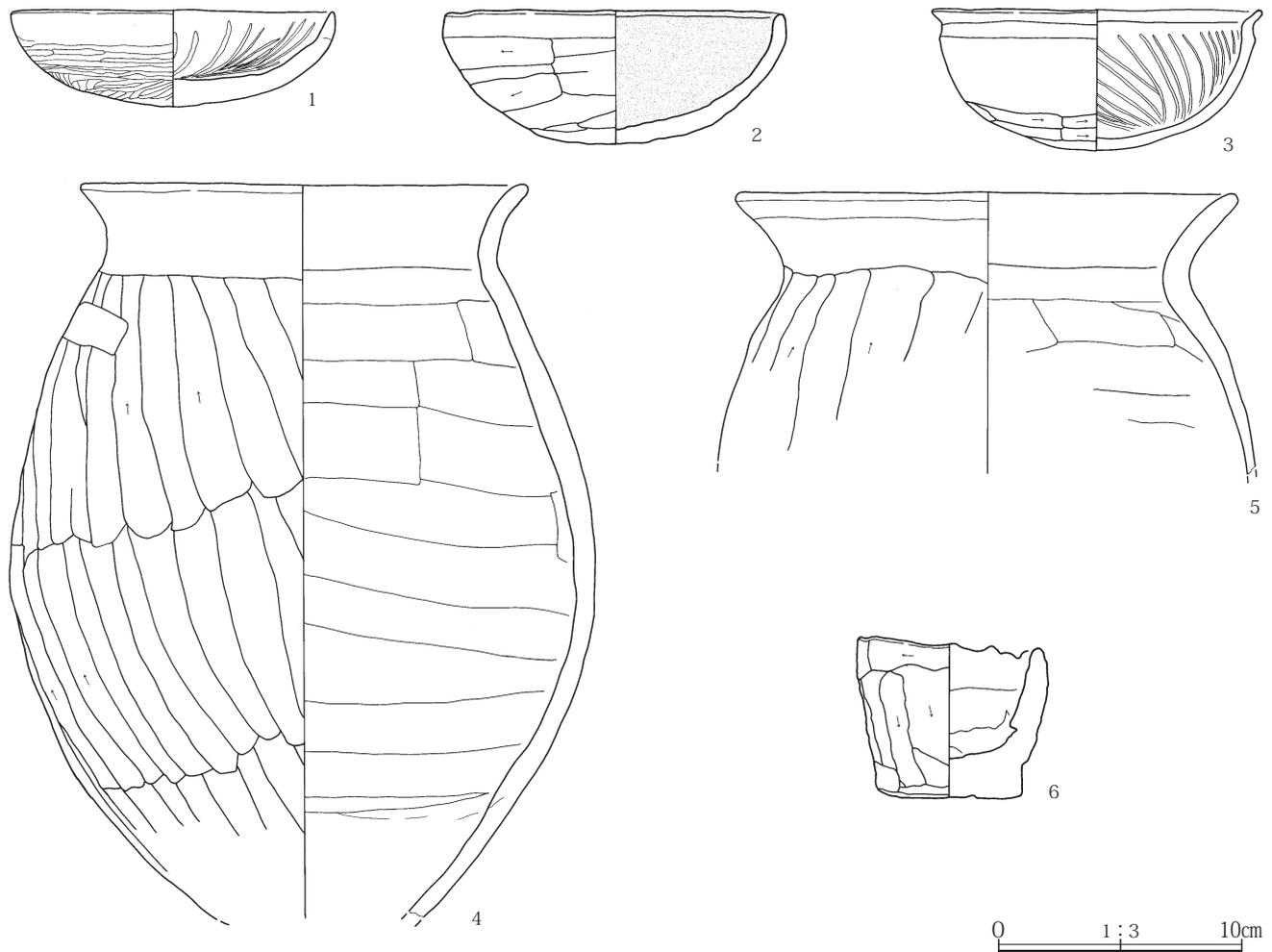
出土遺物 土師器片大片2240g・土師器片小片405g・須

恵器片大片280g・須恵器片小片80gが出土した。土師器杯3点・土師器甕2点・手捏ね土器鉢形1点を図示した。土師器杯1及び土師器甕4は床面直上より出土した。土師器は6世紀後半から7世紀の特徴を有している。

所見 3号住居同様遺構確認時に床面を検出した住居である。遺物の特徴から6世紀後半から7世紀の住居と考えられる。



第17図 8区3号住居出土遺物



第18図 8区4号住居出土遺物

2. 竪穴状遺構

竪穴状遺構は7区で6基・8区で2基調査した。形状が不定形であり用途不明の遺構を竪穴状遺構とした。7区1・3・4・5号竪穴状遺構からは遺物が出土しているが、他の遺構からは遺物が出土していない。遺物より7区1・3・4・5号竪穴状遺構は古代の遺構と考えられる。遺構の重複状況より8区2号土坑は近世以降の遺構と考えられる。他の竪穴状遺構は時期不明である。

7区1号竪穴状遺構(第19・26図、PL. 3・19)

位置 X=32792、Y=-41502 調査区西寄りに位置する。

形状・規模 形状は不整楕円形を呈する。長軸1.08m、短軸1.00m、深さ0.26mを測る。

面積 0.95㎡

主軸方位 N-60°-E

重複 2号竪穴状遺構と重複しているが土層(第19図A-A')より2号竪穴状遺構の方が新しい。

埋没土 単層であり、埋没状況は不明である。

出土遺物 土師器大片170g・土師器小片10gが出土している。土師器杯1点・須恵器甕1点を第26図に示した。

所見 出土遺物より古代の遺構と考えられる。

7区2号竪穴状遺構(第19図、PL. 3)

位置 X=32794、Y=-41502 調査区西寄りに位置する。

形状・規模 形状は不整楕円形を呈する。長軸(0.96)m、短軸0.70m、深さ0.14mを測る。

面積 (0.56) ㎡

主軸方位 N-35°-W

重複 1号竪穴状遺構と重複しているが土層(第19図A-A')より2号竪穴状遺構の方が新しい。

埋没土 単層であり、埋没状況は不明。

出土遺物 なし

所見 遺物は出土しなかった。時期不明である。

7区3号竪穴状遺構(第20・26、PL. 3)

位置 X=32789、Y=-41458 調査区中央寄りに位置する。

形状・規模 形状は不整長方形を呈する。長軸(2.04)m、短軸1.50m、深さ0.36mを測る。

面積 (2.80) ㎡

主軸方位 N-10°-W

重複 4号竪穴状遺構と重複しており、土層(第20図A-A')より4号竪穴状遺構の方が新しい。

埋没土 レンズ状に堆積していると思われるが、4号竪穴状遺構に切られている。自然埋没土と考えられる。

出土遺物 土師器大片100g・土師器小片35gが出土している。土師器甕1点を第26図に示したが、内外面とも器面の磨滅が激しい。

所見 古代の遺構であり、位置より、平成17年度報告3区4号竪穴状遺構と同一遺構と考えられる。

7区4号竪穴状遺構(第20図、PL. 3)

位置 X=32786、Y=-41458 調査区中央寄りに位置する。

形状・規模 形状は不整三角形を呈する。長軸2.17m、短軸(1.82)m、深さ0.35mを測る。

面積 (2.75) ㎡

主軸方位 不明。

重複 3号竪穴状遺構及び23号土坑と重複している。土層(第20図A-A')から両遺構より新しいと考えられる。

埋没土 レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

出土遺物 奈良・平安時代の土師器大片40gが出土している。図化はできなかった。

所見 出土遺物より古代の遺構と考えられる。

7区5号竪穴状遺構(第21・22・26図、PL. 4・19)

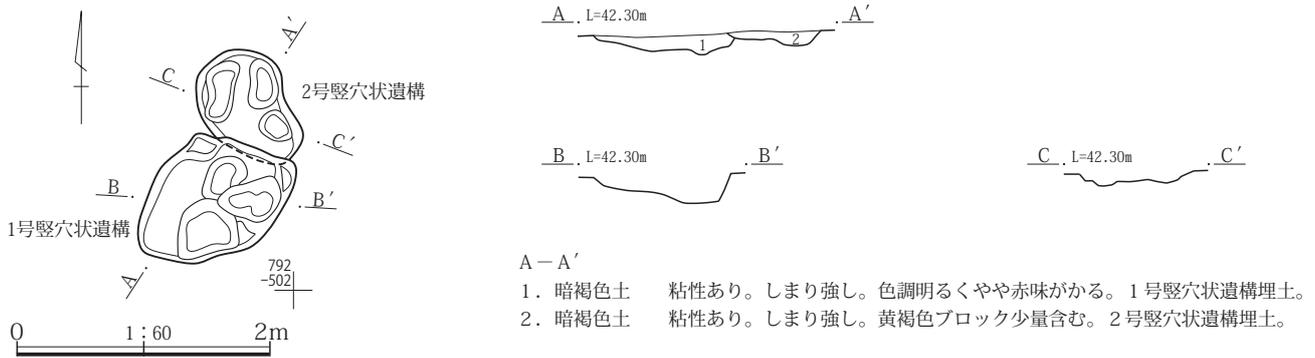
位置 X=32787、Y=-41462 調査区中央寄りに位置する。

形状・規模 形状は不整楕円形を呈する。長軸3.70m、短軸1.57m、深さ0.72mを測る。

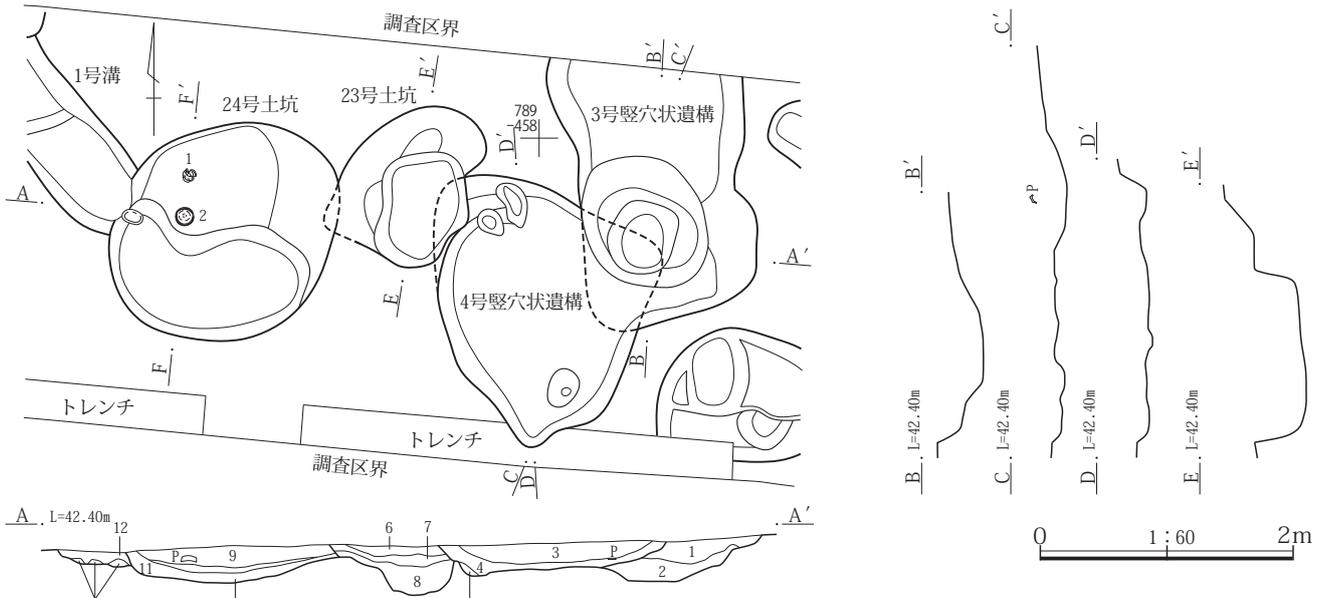
面積 (3.76) ㎡

主軸方位 N-12°-W

重複 遺構北側にて6号竪穴状遺構と、北東側にて1号溝と、西側にて25号土坑とそれぞれ重複している。土層(第22図A-A')から、25号土坑よりも新しい。土層(第23図D-D')より、5号竪穴状遺構は6号竪穴状遺構・



第19図 7区1・2号竪穴状遺構



第20図 7区3・4号竪穴状遺構、23・24号土坑、1号溝

- A-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色粒微量含む。3号竪穴状遺構埋土。
 2. 褐色土粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。3号竪穴状遺構埋土。
 3. 暗褐色土 粘性強し。しまりやや強し。黄褐色粒少量、炭化物微量含む。4号竪穴状遺構埋土。
 4. 暗灰褐色土 粘性強し。しまり強し。(4号竪穴状遺構埋土)
 5. 暗灰褐色土と黄褐色土の混土地山(黄褐色土)と埋土(暗灰褐色土)の混土。
 6. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。23号土坑埋土。
 7. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。6層に比べ色調暗い。23号土坑埋土。
 8. 褐色土粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。23号土坑埋土。
 9. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりあり。24号土坑埋土。
 10. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりあり。9層に比べ色調暗い。24号土坑埋土。
 11. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりあり。10層より色調明るい。黄褐色ブロック少量含む。24号土坑埋土。
 12. 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱し。全体的にややザラつきあり。赤褐色粒少量含む。1号溝埋土。
 13. 褐色土粘性あり。しまりやや弱し。全体的にザラつきあり。1号溝埋土。

1号溝に切られていることが明らかである。

埋没土 レンズ状に堆積しており、自然堆積埋没と考えられる。

出土遺物 土師器大片440g・土師器小片50g・須恵器大片590g・須恵器小片5gが出土している。須恵器長頸壺1点を第26図に示した。

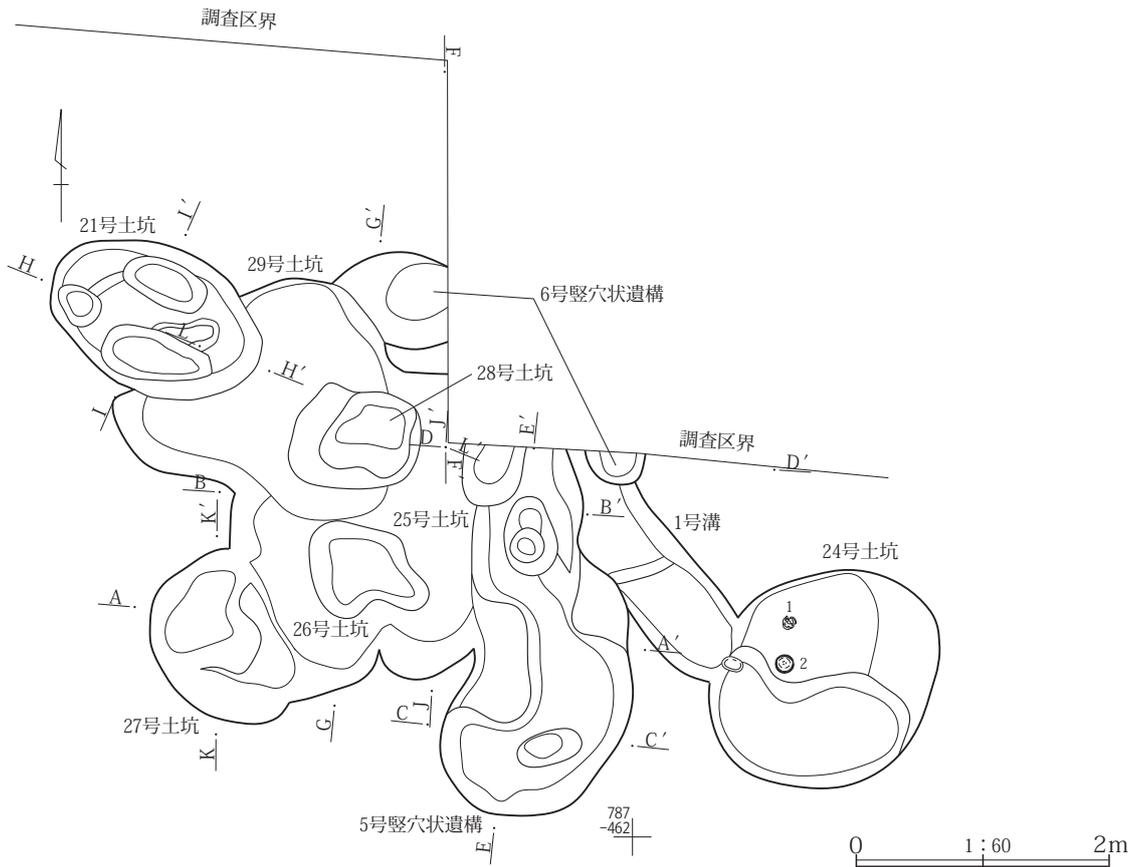
所見 出土遺物より古代の遺構と考えられる。

7区6号竪穴状遺構(第21・23図)

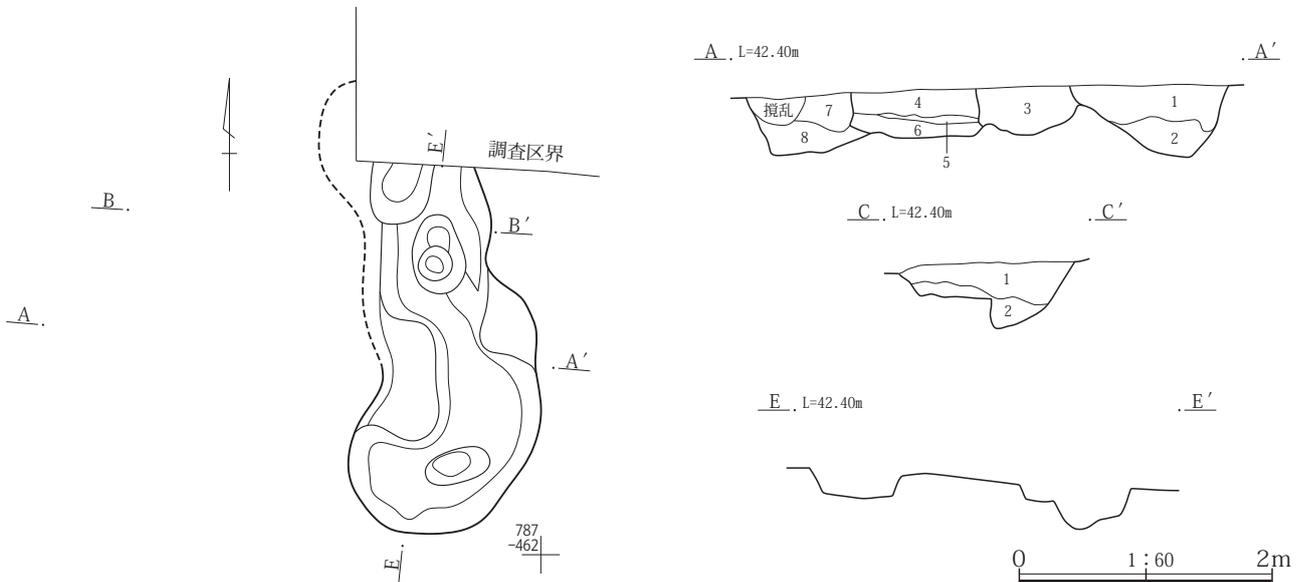
位置 X = 32790、Y = -41462 調査区中央寄りに位置する。

形状・規模 形状は不定形溝状を呈する。調査区外の部分を挟み西と南に遺構が別れている。西側部分は長軸0.78m、短軸(0.70)m、深さ0.20mを測る。南側部分は長軸0.45m、短軸(0.25)m、深さ0.20mを測る。

面積 (0.60) m²



第21図 7区5・6号竖穴状遺構、21・24～29号土坑、1号溝



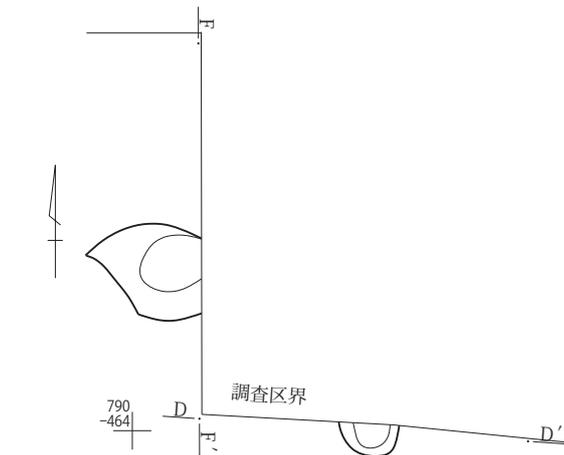
A-A'

1. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりあり。色調やや灰色味がかかる。黄褐色粒微量含む。5号竖穴状遺構埋土。
2. 褐色土粘性強し。しまりあり。黄褐色ブロック多量に含む。5号竖穴状遺構埋土。
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。25号土坑埋土。
4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。26号土坑埋土。
5. 黄褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色土が帯状に堆積している。26号土坑埋土。
6. 褐色土粘性あり。しまりあり。黄褐色粒少量含む。26号土坑埋土。
7. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色粒微量含む。26号土坑埋土。
8. 暗黄褐色土 粘性やや強し。しまりあり。黄褐色粒少量含む。26号土坑埋土。

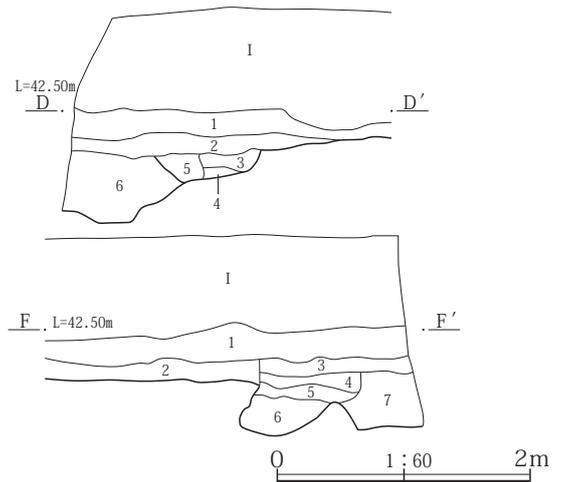
C-C'

1. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりあり。色調やや灰色味がかかる。黄褐色粒微量含む。
2. 褐色土と黄褐色土の混土 粘性強し。しまりあり。黄褐色土中に褐色土が混ざる。

第22図 7区5号竖穴状遺構

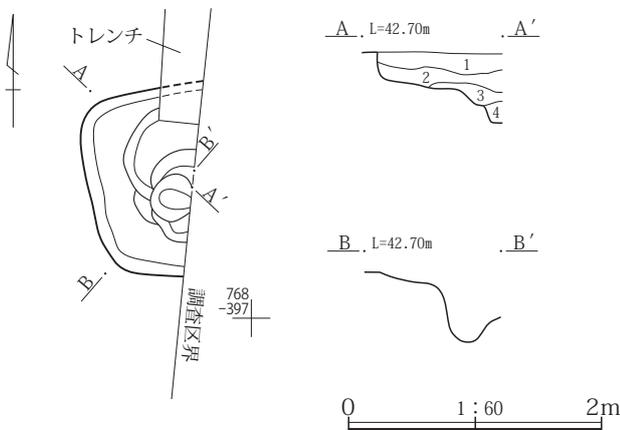


- D-D'
- I. 現表土 碎石盛土
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体的にややザラつきあり。
 2. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
 3. 暗褐色土 B-B'層に類するが黄褐色ブロック微量含む。6号竪穴状遺構埋土。
 4. 暗褐色土と黄褐色土の混土 埋土(暗褐色土)と地山(黄褐色土)の混土。6号竪穴状遺構埋土。
 5. 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。全体的にややザラつきあり。1号溝埋土。
 6. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロックまばらに含む。5号竪穴状遺構埋土。



- F-F'
- I. 現表土 碎石盛土
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体的にややザラつきあり。
 2. 褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体的にザラつきあり。赤褐色粒斑点状に含まれる。
 3. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
 4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。色調やや明るい。炭化物微量含む。6号竪穴状遺構埋土。
 5. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック多量含む。6号竪穴状遺構埋土。
 6. 暗褐色土 6層に類するが黄褐色ブロック微量含む。6号竪穴状遺構埋土。
 7. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロックまばらに含む。5号竪穴状遺構埋土。

第23図 7区6号竪穴状遺構



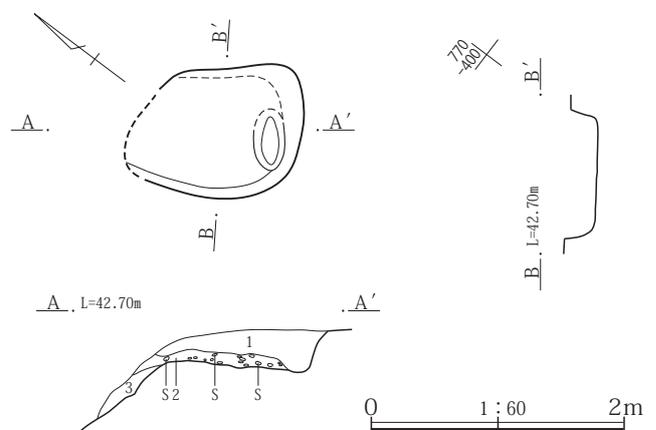
- A-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。焼土粒・炭化物微量含む。
 2. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。黄褐色ブロック多量に含む。焼土粒・炭化物は見られず。
 3. 黄褐色土 粘性弱し。しまり弱し。全体にザラつきあり。砂層堆積。
 4. 黒褐色土 粘性ややあり。しまり弱し。全体的にザラつきあり。

第24図 8区1号竪穴状遺構

主軸方位 不明。

重複 遺構南側に1号溝・5号竪穴状遺構と、西側に29号土坑と重複している。土層(第図D-D')から、5号竪穴状遺構より新しく、1号溝より古い。

埋没土 黄褐色土ブロックと炭化物を含み、人為的に埋められたことが考えられる。



- A-A'
1. 暗黄褐色土 粘性ややあり。しまり弱し。全体的にややザラつきあり。2号竪穴埋土。
 2. 砂礫層 軽3~5cm程度の小礫が密に堆積している。1号溝2度目の水性堆積物。
 3. 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。黄褐色ブロック少量含む。1号溝埋土。

第25図 8区2号竪穴状遺構

出土遺物 なし

所見 遺物は出土しておらず時期不明の遺構である。位置より、平成17年報告3区2号竪穴状遺構と同一遺構と考えられる。

8区1号竪穴状遺構(第24図、PL. 7)

位置 X=32768、Y=-41397 8区調査区東壁際に位置しており、遺構の半分は遺構外である。

形状・規模 隅丸方形を呈すると考えられる。長軸1.50m、短軸(0.96)m、深さ0.59mを測る。

面積 (1.15) m²

主軸方位 N-9°-W

重複 2号住居と重複しているが、2号住居より新しい。

埋没土 レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

出土遺物 なし

所見 方形を呈しているが、遺構の半分は調査区外である。時期は不明である。

8区2号竪穴状遺構(第25図、PL. 7)

位置 X=32770、Y=-41400 調査区中央寄りに位置する。

形状・規模 形状は不整形方形を呈する。長軸(1.35)m、短軸1.04m、深さ0.36mを測る。

面積 (1.21) m²

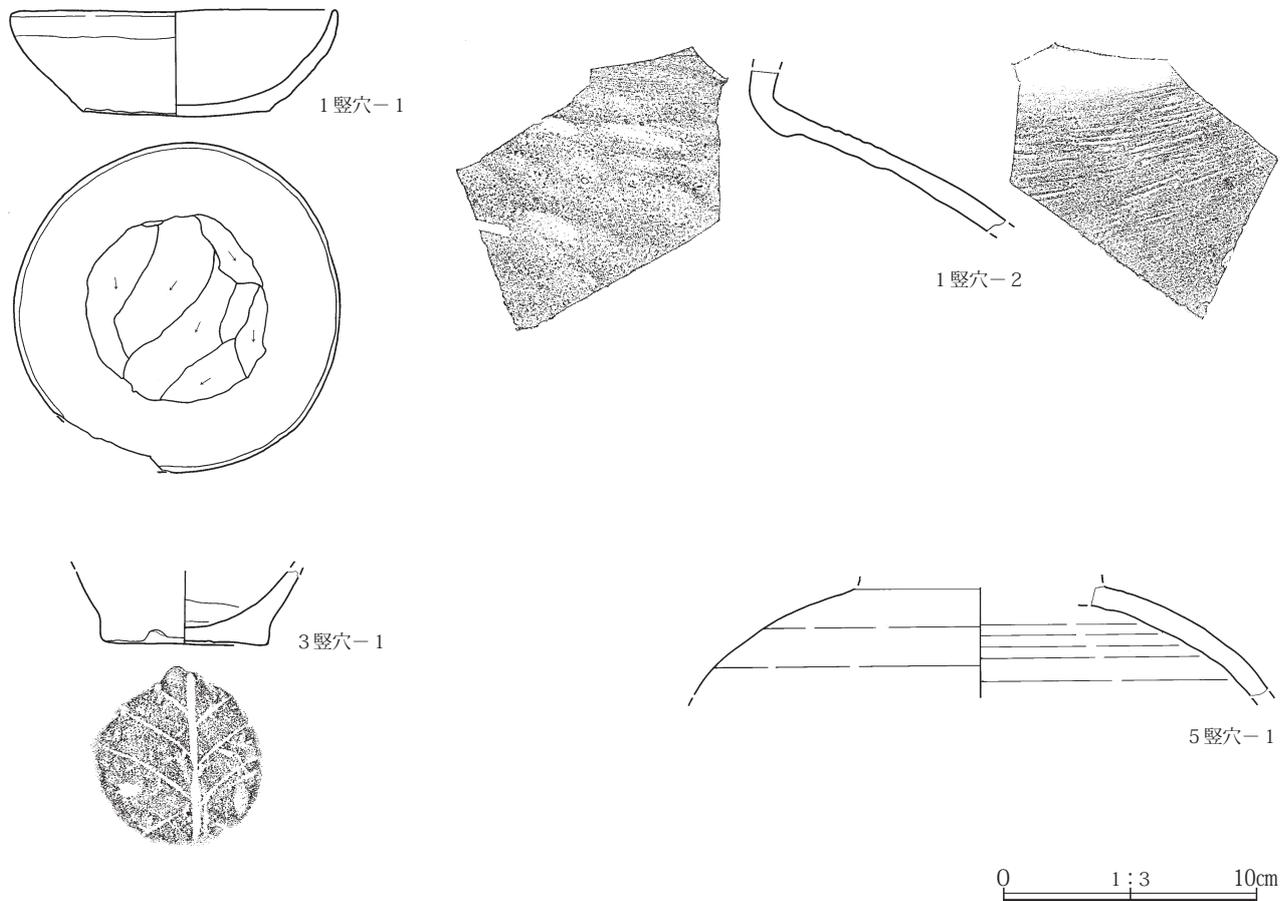
主軸方位 N-33°-W

重複 遺構南側にて3号住居と、遺構北側にて1号溝と重複している。土層(第25図A-A')より、1号溝埋土(第25図A-A' 2層)を掘り込んで形成されており、1号溝より新しい。3号住居との新旧関係は、1号溝より本遺構の方が新しいことから、3号住居より新しいと考えられる。

埋没土 単層であり、埋没状況は不明である。

出土遺物 なし

所見 遺物が出土しないため、遺物から遺構の時期を特定することができなかった。他遺構との重複より、1号溝より新しいと考えられる。1号溝は近世の遺構であり、本遺構は近世以降、1号溝より新しい時期の遺構である。



第26図 7区1・3・5号竪穴状遺構出土遺物

3. 土坑・ピット

土坑・ピットは、円形もしくは円形に準ずる形状を呈している遺構を土坑・ピットとした。規模の違いで名称を分けているが、形態・機能等に差がないと考えられるためここでは同じ分類とする。土坑は7区で29基・8区で3基を調査した。ピットは7区で15基を調査した。土坑は7区では調査区中央部分から西側に散在して分布していた。8区では調査区東寄りの位置に3基まとまって分布していた。ピットは7区で土坑と同じように調査区中央部分から西側にかけて散在して分布していた。土坑・ピットの規模・形状等は第4・5表にまとめた通りである。この中で特に伴出する遺物及び形状から時期・性格が推定できる土坑について詳述する。

7区12号土坑(第29・33図、PL. 4・19)

位置 X=32790、Y=-41498 7区西寄り南壁際に位置する。

形状・規模 平面形状は不整形円形を呈するが、断面形はフラスコ状の形状を呈する。長軸0.98m、短軸(0.68)mを測る。深さは1.34mであった。

主軸方位 不明。

重複 13号土坑と重複しており、土層(第29図A-A')より12号土坑が新しい。

土層 黄褐色ブロックを含み、人為的に埋め戻されたことが考えられる。

出土遺物 土師器片25gが出土している。形象埴輪片1点が埋土中より出土しており、第33図に示した。形象埴輪は器面磨滅が激しく、形象については不明である。

所見 断面形状から粘土採掘坑と考えられる。確認面よりの深さ1mでローム層に達し、漸移的に粘性の強い土層に変化するので、この土層位をオーバーハングして採土したと考えられる。埋没土中から形象埴輪片が出土しており、古墳時代以降の古代に帰属する遺構と考えられる。

7区16号土坑(第29図、PL. 5)

位置 X=32789、Y=-41479 7区中央部分西寄りに位置する。

形状・規模 平面形状は円形を呈し、断面形はフラスコ

状の形状を呈する。長軸1.13m、短軸1.04mを測る。深さは0.99mであった。

主軸方位 円形のため測定せず。

重複 なし

土層 レンズ状に堆積しており自然埋没土と考えられる。

出土遺物 土師器大片25g・小片40g・須恵器大片80gが出土したが図示はできなかった。

所見 粘土層位でオーバーハングする断面形状から、ローム土の採掘を目的とした粘土採掘坑と考えられる。遺物より古代の土坑であると考えられる。

7区24号土坑(第31・33図、PL. 6・19)

位置 X=32787、Y=-41459 7区中央に位置する。

形状・規模 形状は楕円形を呈する。長軸1.98m、短軸1.72mを測る。深さは0.39mであった。

主軸方位 N-58°-E

重複 遺構西側にて1号溝と、東側にて23号土坑と重複する。土層(第20図A-A')から1号溝より新しく、23号土坑より古い。

土層 黄褐色ブロックを含む土で全体が埋没していることから人為的に埋め戻された可能性が高い。

出土遺物 土師器片1720g・須恵器片105gが出土している。土師器杯1点・土師器鉢1点・土師器甕1点・手捏ね土器1点を第33図に示した。図示した土師器は古墳時代後期のものと考えられる。底よりやや浮いた位置から出土しているが、遺構に伴うと考えてよい。

所見 本遺構は、土坑・ピットの中で出土した遺物量が一番多い。埋土中より遺物が出土していることから、本遺構は廃棄土坑であったことが想定できる。手捏ね土器の出土を評価すれば、祭祀関連施設との想定も必要だろう。帰属時期は遺物より古墳時代後期と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

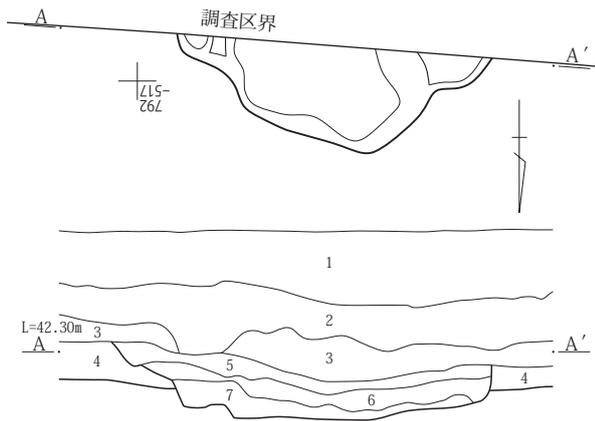
第4表 浜町遺跡7・8区土坑一覧

遺構名称	長軸方位	形状	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備 考
7区1号土坑	N-86°-W	不整形	791-517	165	(56)	17	
7区2号土坑	—	円形	791-508	103	94	33	
7区3号土坑	N-12°-W	不整形	795-507	144	(143)	29	
7区4号土坑	N-24°-E	不整形	792-507	234	194	34	
7区5号土坑	N-81°-E	不整形	794-508	200	73	45	
7区6号土坑	N-75°-E	不整形	795-508	(108)	(83)	35	
7区7号土坑	N-49°-E	長円形	792-500	95	(66)	29	
7区8号土坑	N-35°-E	不整形	793-500	(112)	78	24	
7区9号土坑	N-26°-W	長円形	792-500	76	(70)	24	
7区10号土坑	N-59°-W	長円形	792-495	117	87	27	
7区11号土坑	N-23°-W	不整形	793-496	140	108	30	
7区12号土坑	N-88°-W	長円形	790-498	98	(68)	134	土師器片25g出土
7区13号土坑	N-39°-W	不整形	790-497	(65)	46	19	
7区14号土坑	N-72°-W	不整形	791-486	122	117	26	
7区15号土坑	N-39°-W	長円形	791-484	90	70	20	
7区16号土坑	N-41°-W	長円形	789-479	113	104	99	土師器片65g・須恵器片80g出土
7区17号土坑	N-13°-E	不整形	786-453	125	118	25	
7区18号土坑	N-83°-W	長円形	788-454	115	95	33	
7区19号土坑	N-87°-W	不整形	788-455	118	64	15	土師器片15g・須恵器片5g出土
7区20号土坑	N-78°-W	長円形	786-455	130	107	36	土師器片110g出土
7区21号土坑	N-64°-W	長円形	790-465	174	118	37	土師器片45g出土
7区22号土坑	—	円形	786-439	78	75	26	
7区23号土坑	N-33°-E	不整形	787-458	132	105	44	土師器片570g・須恵器片15g出土
7区24号土坑	N-50°-E	長円形	787-459	198	172	39	土師器片1720g・須恵器片105g出土
7区25号土坑	N-3°-W	長円形	787-463	(154)	(102)	28	
7区26号土坑	N-6°-E	不整形	788-463	(203)	(108)	41	土師器片440g出土
7区27号土坑	N-35°-W	長円形	787-464	141	(105)	38	土師器片395g・須恵器片150g出土
7区28号土坑	N-60°-E	不整形	789-463	108	95	22	土師器片125g・須恵器片40g出土
7区29号土坑	N-40°-W	不整形	789-463	(221)	212	31	土師器片110g・須恵器片35g出土
8区1号土坑	N-15°-W	長円形	768-398	55	53	48	
8区2号土坑	N-78°-E	不整形	767-400	70	60	63	
8区3号土坑	N-32°-E	不整形	767-400	(47)	58	18	

第5表 浜町遺跡7区ピット一覧

遺構名称	長軸方位	形状	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備 考
7区1号ピット	N-0°	長円形	792-513	78	(63)	16	
7区2号ピット	N-11°-E	不整形	792-513	77	(52)	30	
7区3号ピット	N-2°-W	隅丸方形	792-512	59	(48)	14	
7区4号ピット	N-8°-E	長円形	791-506	(65)	50	29	
7区5号ピット	N-18°-W	不整形	794-507	55	47	20	
7区6号ピット	N-40°-W	不整形	794-507	62	(47)	15	
7区7号ピット	N-46°-E	長円形	793-499	62	43	37	
7区8号ピット	N-23°-W	長円形	791-496	58	45	23	
7区9号ピット	N-46°-E	不整形	792-496	67	55	16	
7区10号ピット	N-5°-E	長円形	790-492	(27)	38	16	
7区11号ピット	N-40°-E	長円形	792-487	77	(56)	13	
7区12号ピット	—	円形	792-487	(44)	42	18	
7区13号ピット	N-82°-W	長円形	791-486	51	36	15	
7区14号ピット	—	円形	791-484	30	30	9	
7区15号ピット	N-1°-E	長円形	791-506	46	28	35	

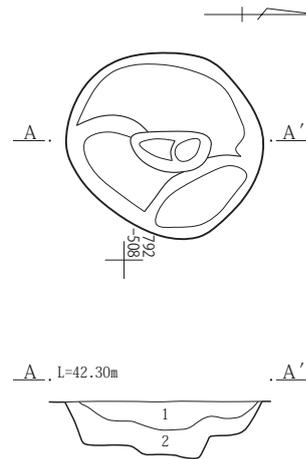
1号土坑



A-A'

- 1. 暗褐色土 現表土。
- 2. 暗褐色土 1層に比べしまり強い。ビニール片等混入。現代土層。
- 3. 暗褐色土 粘性ややあり。しまり強い。白色軽石粒まばらに含む。
- 4. 黄褐色土 粘性強し。しまり強し。
- 5. 黒褐色土 粘性あり。しまり強し。1号土坑埋土。
- 6. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒まばらに含む。1号土坑埋土。
- 7. 暗褐色土 6層に準じるが黄褐色ブロック多量に含む。

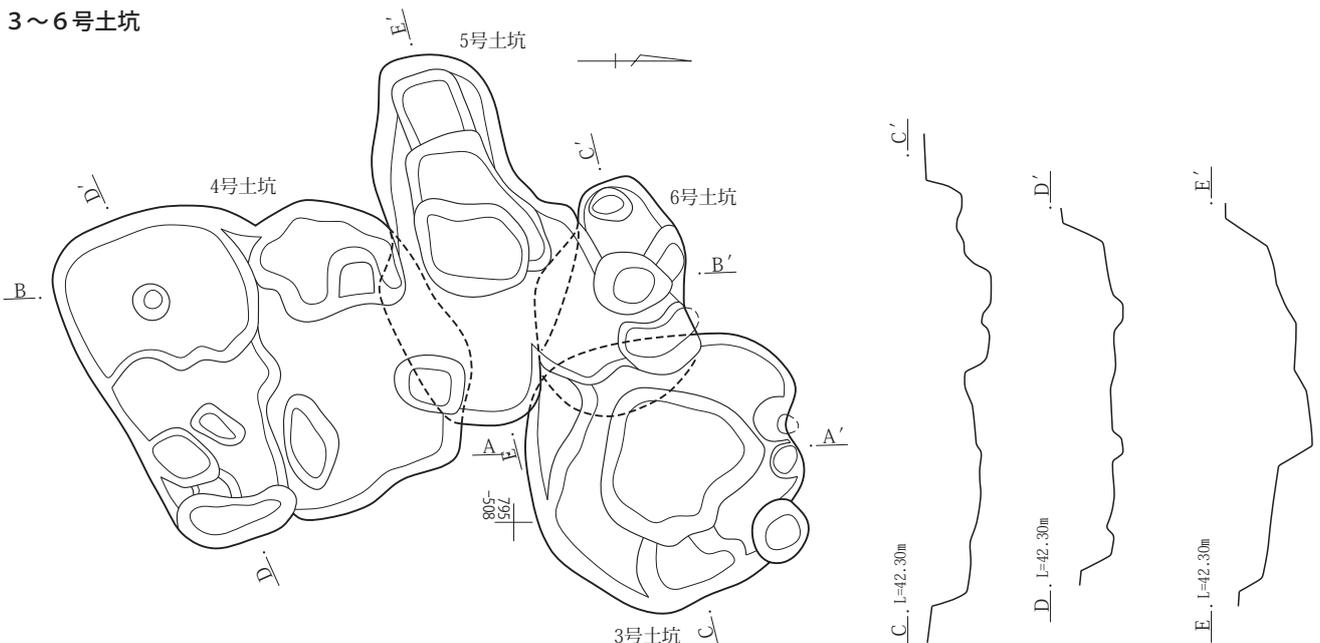
2号土坑



A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒少量含む。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色ブロック多量に含む。

3～6号土坑

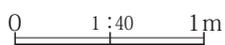


A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒微量含む。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色ブロック多量に含む。

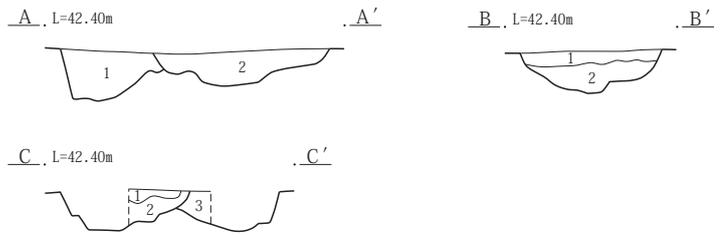
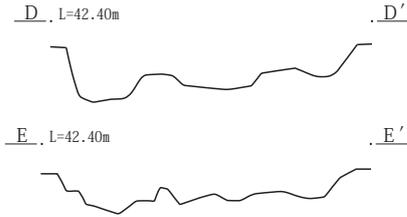
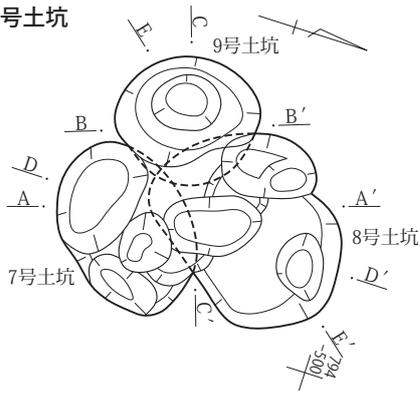
B-B'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。やや黒味がかかる。4号土坑埋土。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。1層に比べて色調明るく、やや赤味がかかる。4号土坑埋土。
- 3. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒微量含む。1層より色調明るい。5号土坑埋土。
- 4. 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性強し。しまり強し。暗褐色土中に黄褐色ブロックが多量に混ざる。6号土坑埋土。



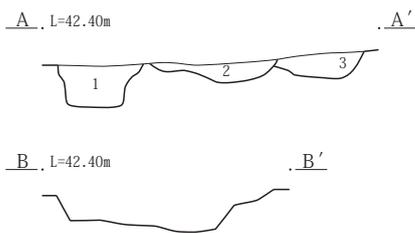
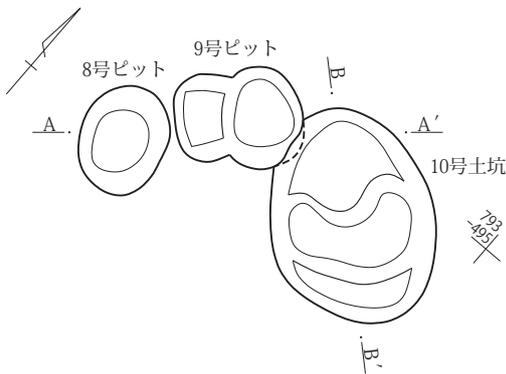
第27図 7区1～6号土坑

7～9号土坑



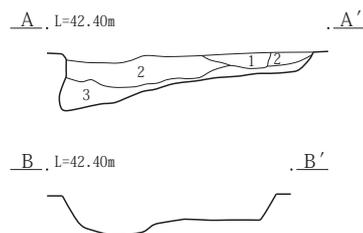
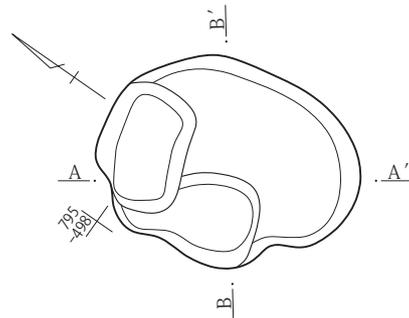
- A-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。白色軽石粒微量含む。7号土坑埋土。
 2. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色ブロックまばらに含む。8号土坑埋土。
- B-B'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。9号土坑埋土。
 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。1層に比べ色調暗い。黄褐色ブロックは含まれず。9号土坑埋土。
- C-C'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。9号土坑埋土。
 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。1層に比べ色調暗い。黄褐色ブロックは含まれず。9号土坑埋土。
 3. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色ブロックまばらに含む。8号土坑埋土。

10号土坑・8・9号ピット

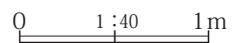


- A-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色ブロック微量含む。8号ピット埋土。
 2. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒少量含む。9号ピット埋土。
 3. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。10号土坑埋土。

11号土坑

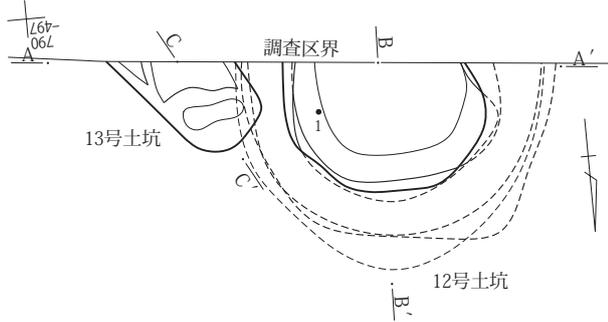


- A-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。色調やや明るい。礫多し。11号土坑の埋土ではない、攪乱土。
 2. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒微量含む。11号土坑埋土。
 3. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色ブロック多量に含む。

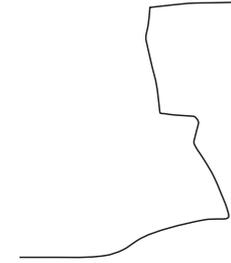


第28図 7区7～11号土坑、8・9号ピット

12・13号土坑



B, L=42.30m

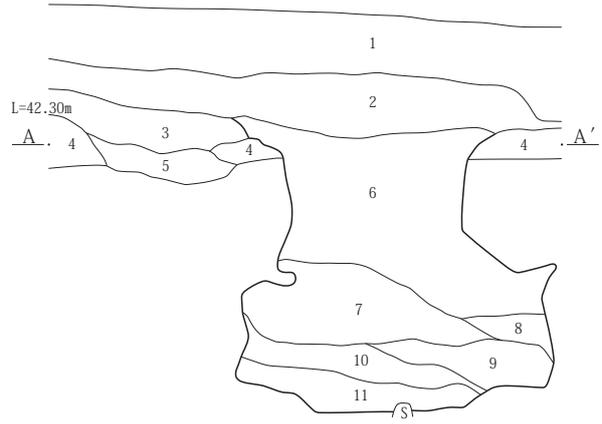


C, L=42.30m

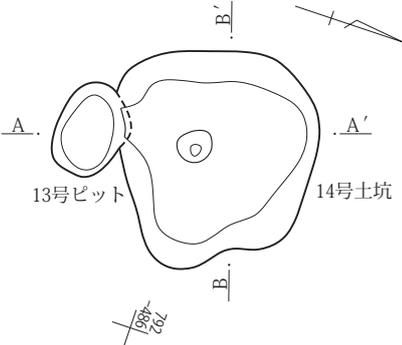


A-A'

- 1. 暗褐色土 現表土層。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。1層より色調暗い。
- 3. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。幅3cm程度の黄褐色ブロックがほぼ水平に堆積している。12号土坑埋没土。
- 4. 黄褐色土 粘性強し。しまり強し。地山。
- 5. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。褐色粒少量含む。13号土坑埋土。
- 6. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。
- 7. 暗褐色土 6層に類するが黄褐色ブロックの割合多くなる。
- 8. 黄褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色土がブロック状に堆積している。
- 9. 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。全体的にザラつきあり。色調やや暗い。暗灰褐色ブロック少量含む。
- 10. 灰褐色土 粘性あり。しまりややあり。全体的にザラつきあり。赤褐色粒斑に含む。
- 11. 暗灰褐色土 粘性強し。しまりあり。灰褐色ブロック斑に含む。



14号土坑・13号ピット



A, L=42.50m



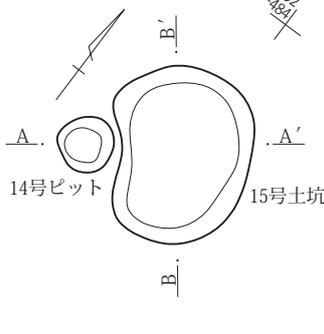
B, L=42.50m



A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒少量含む。13号ピット埋土。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体的にザラつきあり。13号ピット埋土。
- 3. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色ブロック少量含む。14号土坑埋土。

15号土坑・14号ピット



A, L=42.40m



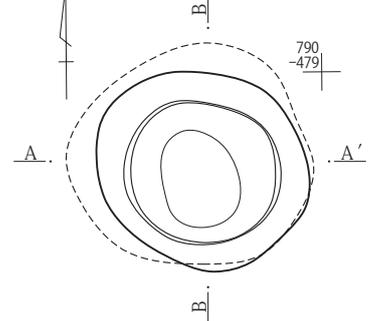
B, L=42.40m



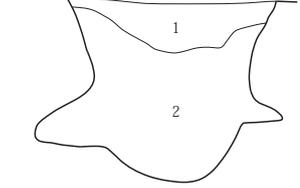
A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。14号ピット埋土。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。15号土坑埋土。
- 3. 暗褐色土 粘性強し。しまり強し。15号土坑埋土。

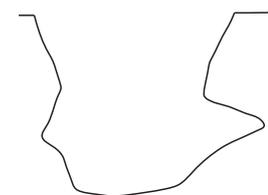
16号土坑



A, L=42.30m

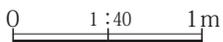


B, L=42.30m



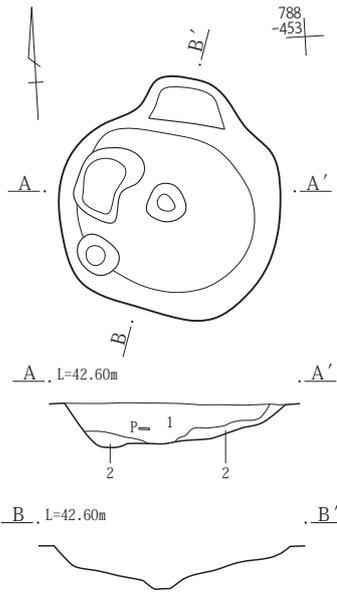
A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒、黄褐色ブロックまばらに含む。



第29図 7区12～16号土坑、13・14号ピット

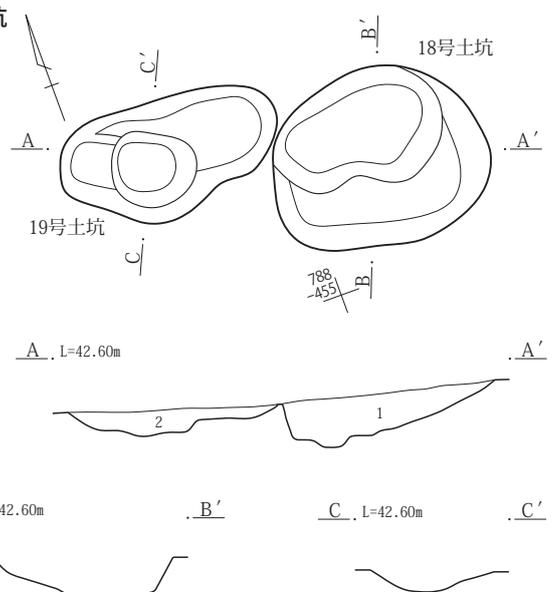
17号土坑



A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
- 2. 褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。

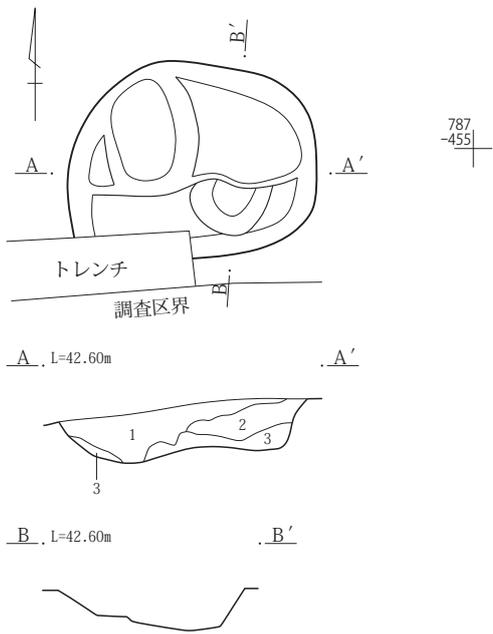
18・19号土坑



A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック微量含む。18号土坑埋土。
- 2. 褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック多量に含む。

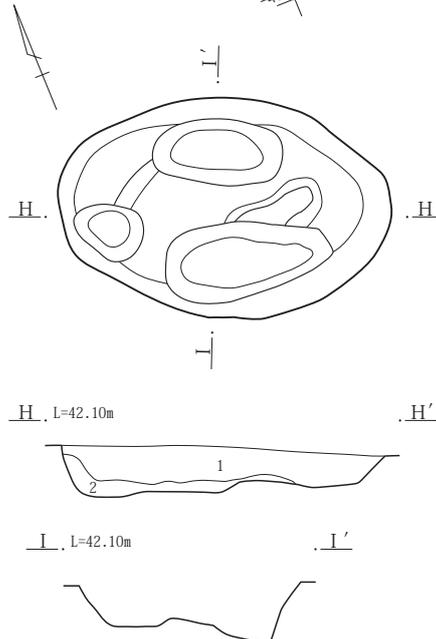
20号土坑



A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性強し。しまりあり。
- 2. 暗褐色土 1層に類似。黄褐色ブロック少量含む。
- 3. 黄褐色土 粘性強し。しまり強し。赤褐色粒が斑点状に含まれる。

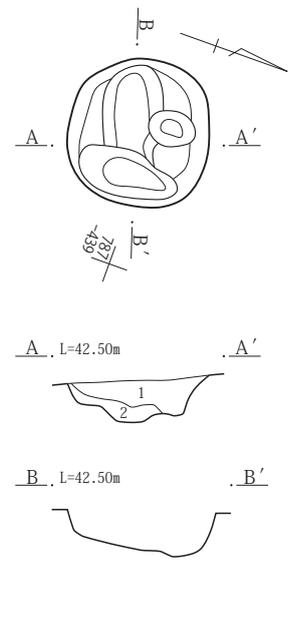
21号土坑



A-A'

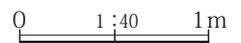
- 1. 暗褐色土 粘性強し。しまり強し。黄褐色ブロック少量含む。
- 2. 黄褐色土 粘性強し。しまり強し。暗褐色ブロック状に少量混ざる。

22号土坑

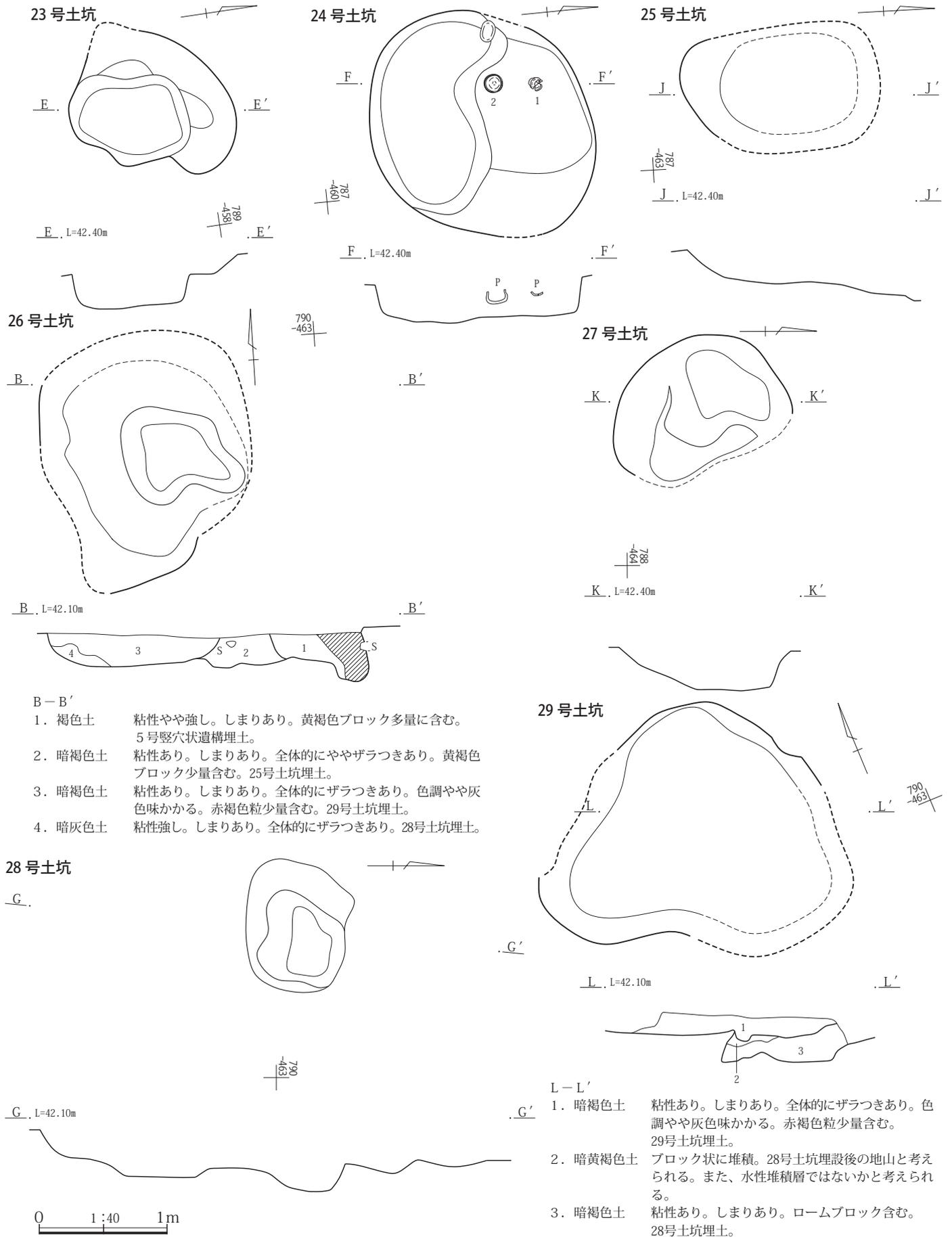


A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。色調やや青味がかかる。炭化物微量含む。
- 2. 暗黄褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。

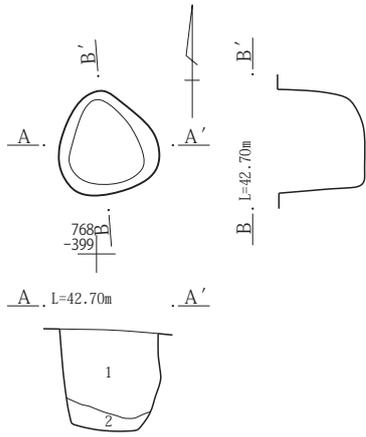


第30図 7区17～22号土坑

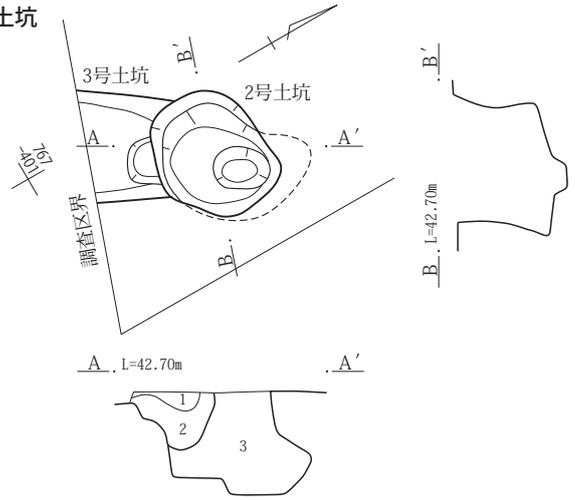


第31図 7区23～29号土坑

1号土坑



2・3号土坑

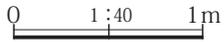


A-A'

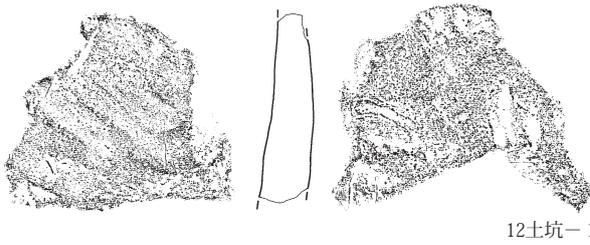
- 1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりやや弱し。黄褐色ブロック少量含む。
- 2. 暗灰色土 粘性弱し。しまり弱し。全体的にザラつきあり。砂層堆積。

A-A'

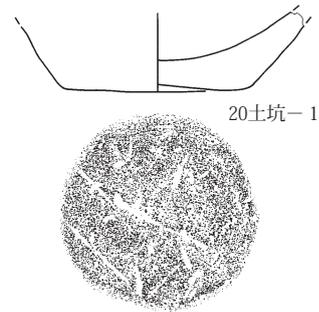
- 1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。赤褐色粒少量含む。3号土坑埋土。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色土ブロック多量、赤褐色粒微量含む。3号土坑埋土。
- 3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。2号土坑埋土。



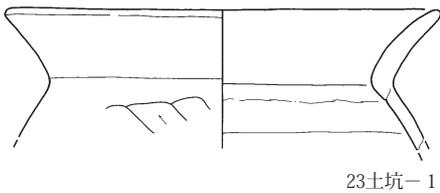
第32図 8区1～3号土坑



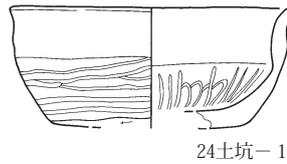
12土坑-1



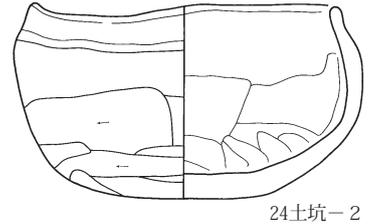
20土坑-1



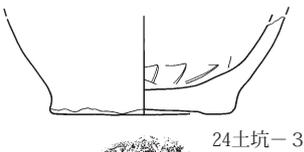
23土坑-1



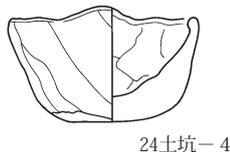
24土坑-1



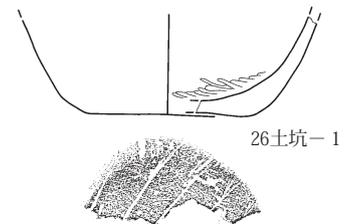
24土坑-2



24土坑-3



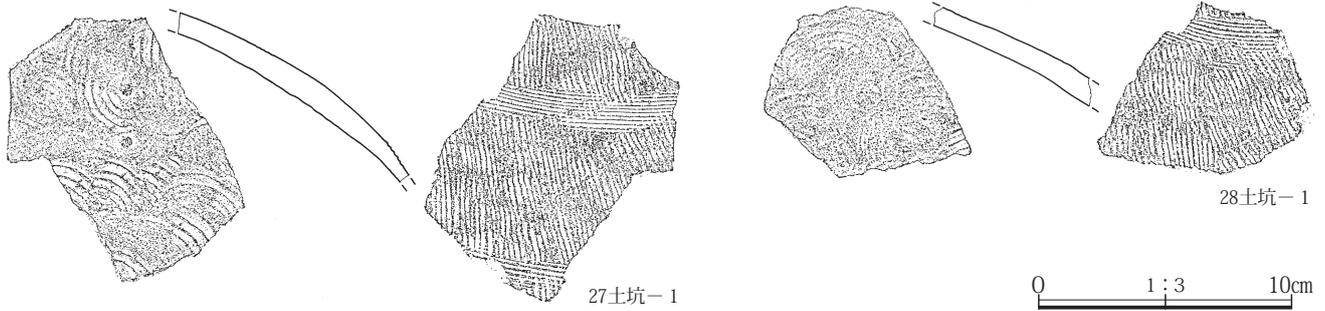
24土坑-4



26土坑-1

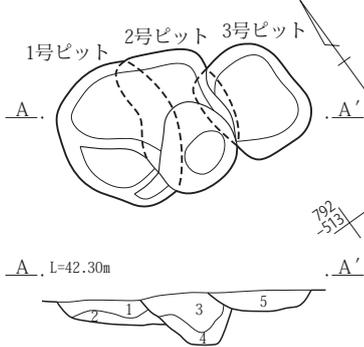


第33図 7区12・20・23・24・26号土坑出土遺物



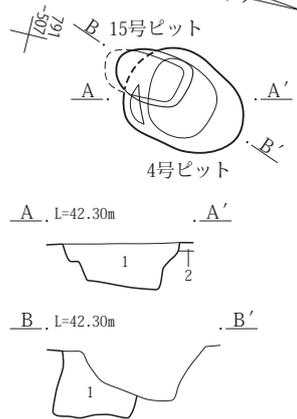
第34図 7区27・28号土坑出土遺物

1～3号ピット



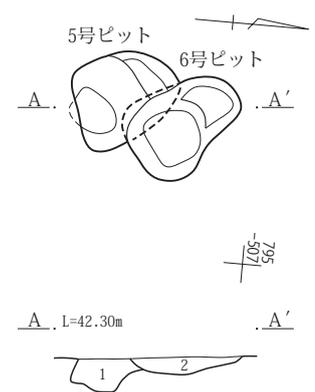
- A-A'
- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。褐色ブロック少量含む。1号ピット埋土。
 - 2. 黄褐色土 粘性あり。しまり強し。暗褐色土ブロック状に含む。1号ピット埋土。
 - 3. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒微量含む。2号ピット埋土。
 - 4. 黄褐色土 粘性あり。しまり強し。暗褐色土ブロック状に含むが2層より割合多し。2号ピット埋土。
 - 5. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。3号ピット埋土。

4・15号ピット



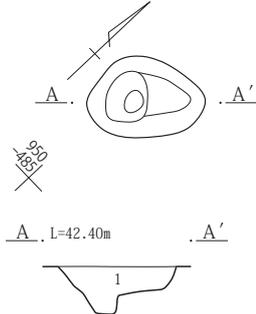
- A-A'
- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色ブロック少量含む。
- B-B'
- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。4号ピット埋土より色調暗い。黄褐色ブロック少量、小礫微量含む。

5・6号ピット



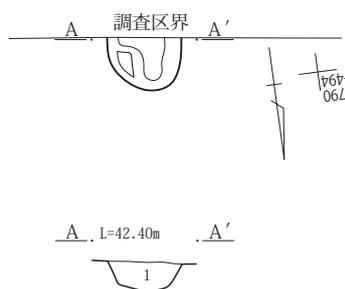
- A-A'
- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色粒微量含む。5号ピット埋土。
 - 2. 黄褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色土中に暗褐色土が混ざる。6号ピット埋土。

7号ピット



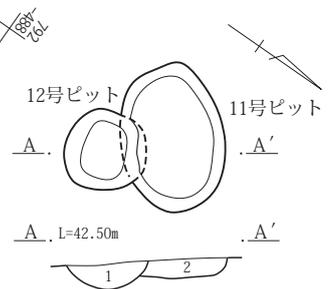
- A-A'
- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。白色軽石粒微量含む。

10号ピット

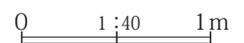


- A-A'
- 1. 暗黄褐色土 粘性あり。しまりあり。

11・12号ピット



- A-A'
- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。黄褐色ブロック少量含む。12号ピット埋土。
 - 2. 暗褐色土 粘性あり。しまり強し。11号ピット埋土。



第35図 7区1～7・10～12・15号ピット

4. 溝

溝は、7区で1条・8区で1条を調査した。7区で検出された溝は調査区中央部に位置しており、時期不明の遺構である。8区の溝は調査区北側を東西に貫通している。近世の陶磁器が出土しており、近世の溝と考えられる。

7区1号溝(第36図、PL. 6)

位置 X=32789、Y=-41461 7区中央部北壁際に位置する。南北に走向するが、北端は調査区外に延び、南端は調査区中ほどで消滅する。

形状・規模 全長は(2.20)mである。溝の幅は上端が0.68m・下端が0.46m、深さは0.20m～0.15mである。断面形状は逆三角を呈し、下底は凹凸がある。南から北に向かい勾配がついており比高差は0.31m、勾配率は14.1%である。

走行方位 N-35°-W

重複 遺構の東側にて5号竪穴状遺構と、西側にて6号竪穴状遺構と、南側にて24号土坑と重複している。第23図D-D'土層から5号竪穴状遺構・6号竪穴状遺構より1号溝の方が新しい。第20図A-A'土層から、24号土坑より1号溝の方が古い。

埋没土 埋没状況は不明。埋没土中にブロックの混入が少ないため、自然埋没が想定される。

出土遺物 なし

所見 遺構の重複状況より、古墳時代後期に帰属する24号土坑より古い溝である。このことから古墳時代後期より古い時期の遺構と考えられる。溝の機能については不明である。

8区1号溝(第37～41図、PL. 7・19・20)

位置 X=32770、Y=-41410 8区北側に位置し、調査区を東西に貫通している。溝の北半分は調査区外である。

形状・規模 全長は15.1mである。溝の幅は、上端が(2.75)m・下端が0.70m～0.18m、深さは1.25m～0.85mである。逆台形状を呈している。西から東に勾配がついており比高差は0.18m、勾配率は1.2%である。

走行方位 N-85°-W

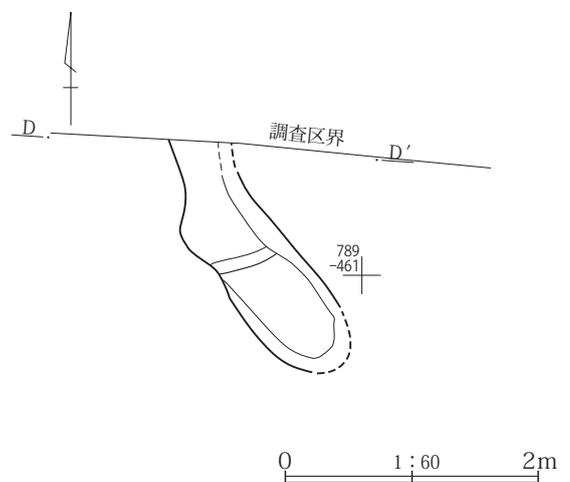
重複 調査区東端部分にて2号住居と、調査区中央部分

にて1号竪穴状遺構と重複している。土層(第37図A-A')から、2号住居より新しい。また、土層(第25図A-A')より2号竪穴状遺構は、1号溝埋土(第25図A-A'2層)を掘り込んで形成されており、2号竪穴状遺構より古い。

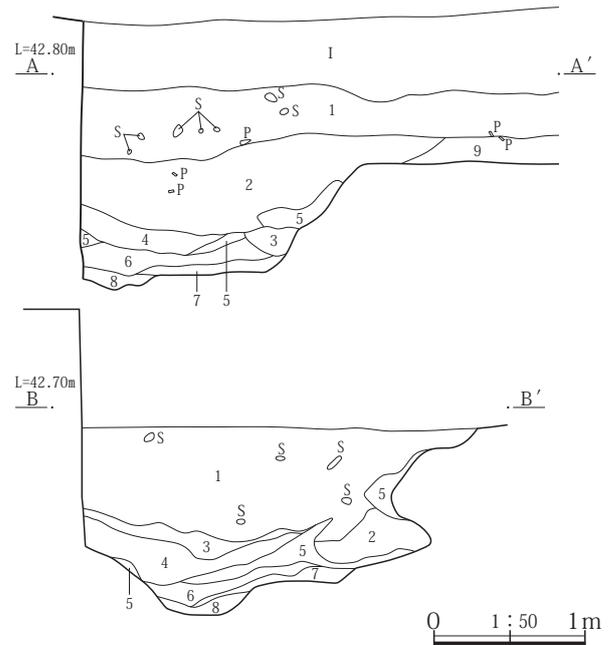
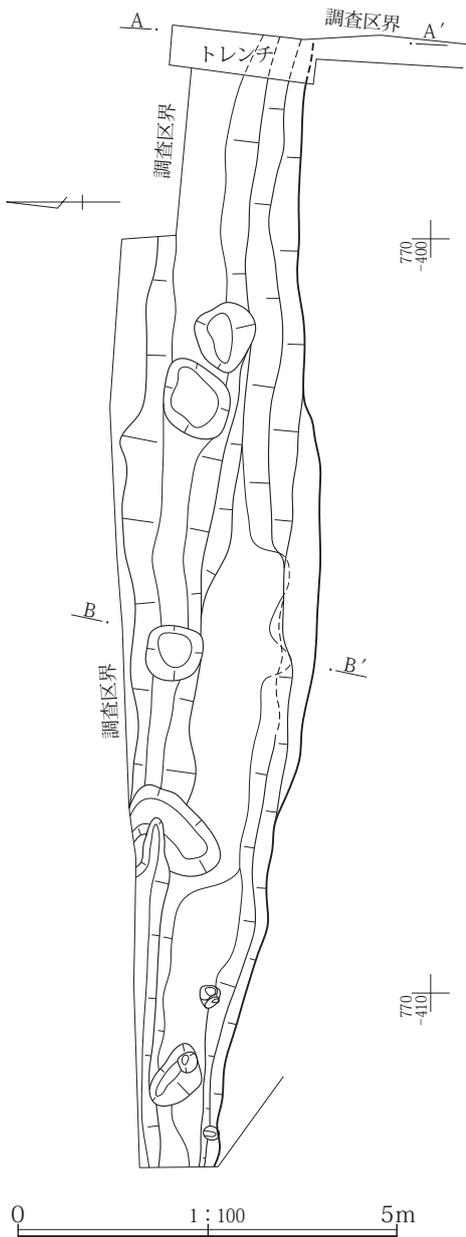
埋没土 レンズ状に堆積しており、自然埋没土である。底部直上の層(第37図A-A'8層・B-B'8層)は砂層が堆積しており、水流痕跡と考えられる。

出土遺物 土師器大片4,160g・土師器小片115g・須恵器大片2970g・須恵器小片20g・灰釉陶器片130g・埴輪片215g・肥前陶磁器12点・瀬戸・美濃陶磁器4点・益子・笠間陶器1点・近世の在地系土器11点・十能瓦片3点・鉄製品1点・砥石2点・板碑2点が出土している。土師器片・須恵器片・埴輪片は器面摩耗が進んでいるものが多く、流れ込んだものとみられる。陶磁器・瓦片・鉄製品・石製品はいずれも溝上層部より出土している。骨片3点が、溝上層部より出土したが同定の結果(第4章)、1片はヒトの大腿骨と思われる。他の2片も人骨の可能性が高く、肢骨片と思われる結果が出た。

所見 調査区北寄りから検出され、北側半分は調査区外に延びている。全体は調査できなかったが、大溝である。水成堆積層が認められ、水流があったと想定される。水路として使われていたことが考えらえる。遺物より江戸時代から明治ごろまで使われていた溝である。遺構の位置より、平成17年報告6区2号溝と同一遺構と考えられる。

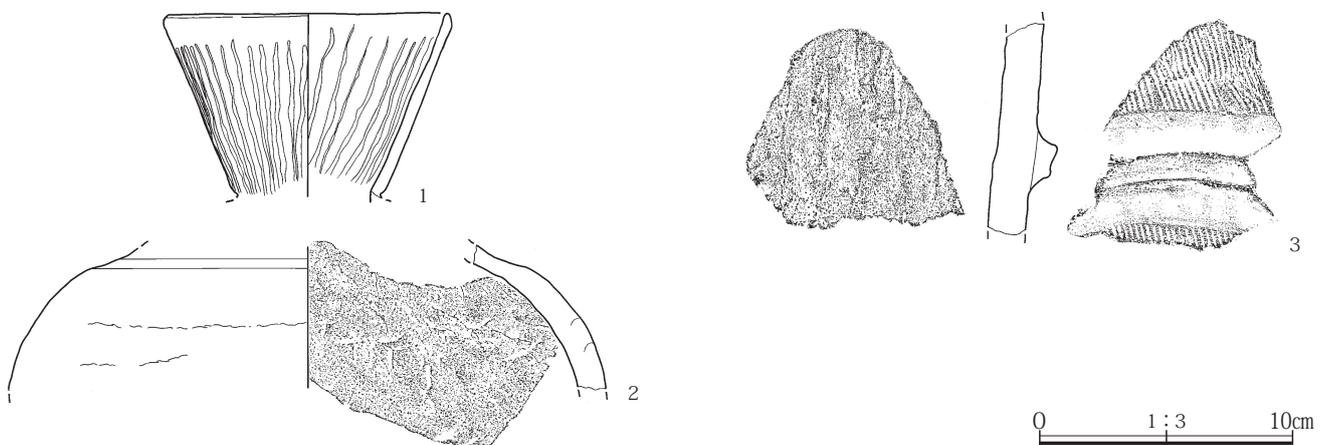


第36図 7区1号溝

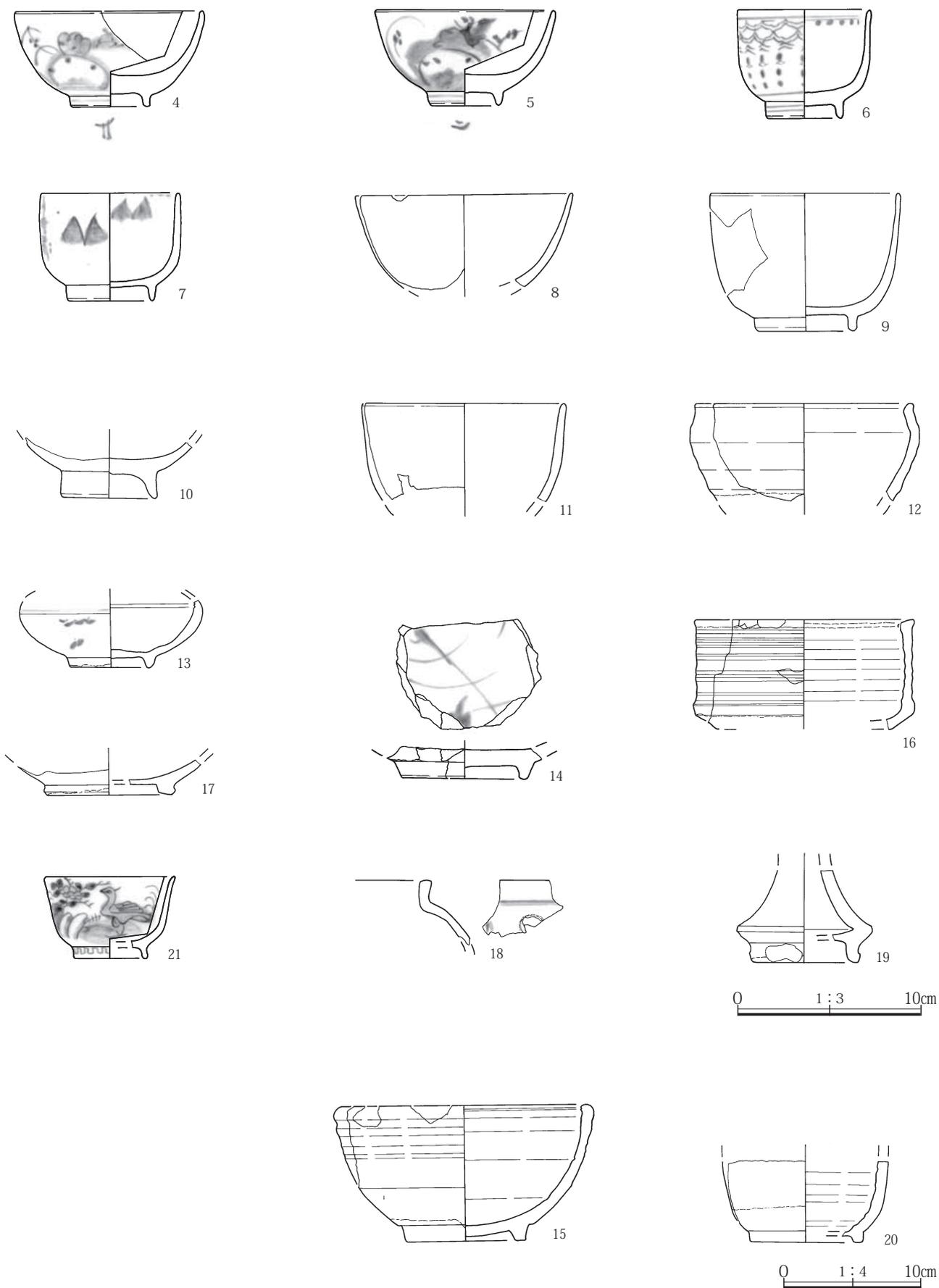


- A-A'
- 1. 現表土 碎石盛土。
 - 1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
 - 2. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体的にややザラつきあり。炮ろく等近世遺物出土層。1号溝埋土。
 - 3. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりややあり。砂層堆積層。
 - 4. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりややあり。全体的にザラつきあり。赤褐色粒が斑点状にまばらに混ざる。
 - 5. 暗褐色土と黄褐色土の混土 暗褐色土中に黄褐色土がブロック状に混ざる。
 - 6. 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。赤褐色粒斑点状に混ざるが3層より多い。全体的にややザラつきあり。
 - 7. 暗褐色土 6層に類するが6層よりザラつき強い。
 - 8. 灰色土 砂層堆積層。
 - 9. 暗褐色土と黄褐色土の混土 2号住居床構築土。
- B-B'
- 1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体的にややザラつきあり。炮ろく等近世遺物出土層。
 - 2. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりややあり。砂層堆積層。
 - 3. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりややあり。全体的にザラつきあり。赤褐色粒が斑点状にまばらに混ざる。
 - 4. 暗褐色土 3層に準じるが、細微な土器片が少量含まれる。
 - 5. 暗褐色土と黄褐色土の混土 暗褐色土中に黄褐色土がブロック状に混ざる。
 - 6. 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。赤褐色粒斑点状に混ざるが3層・4層より多い。全体的にややザラつきあり。
 - 7. 暗褐色土 6層に類するが、6層よりザラつき強い。
 - 8. 暗灰色土 砂層堆積層。

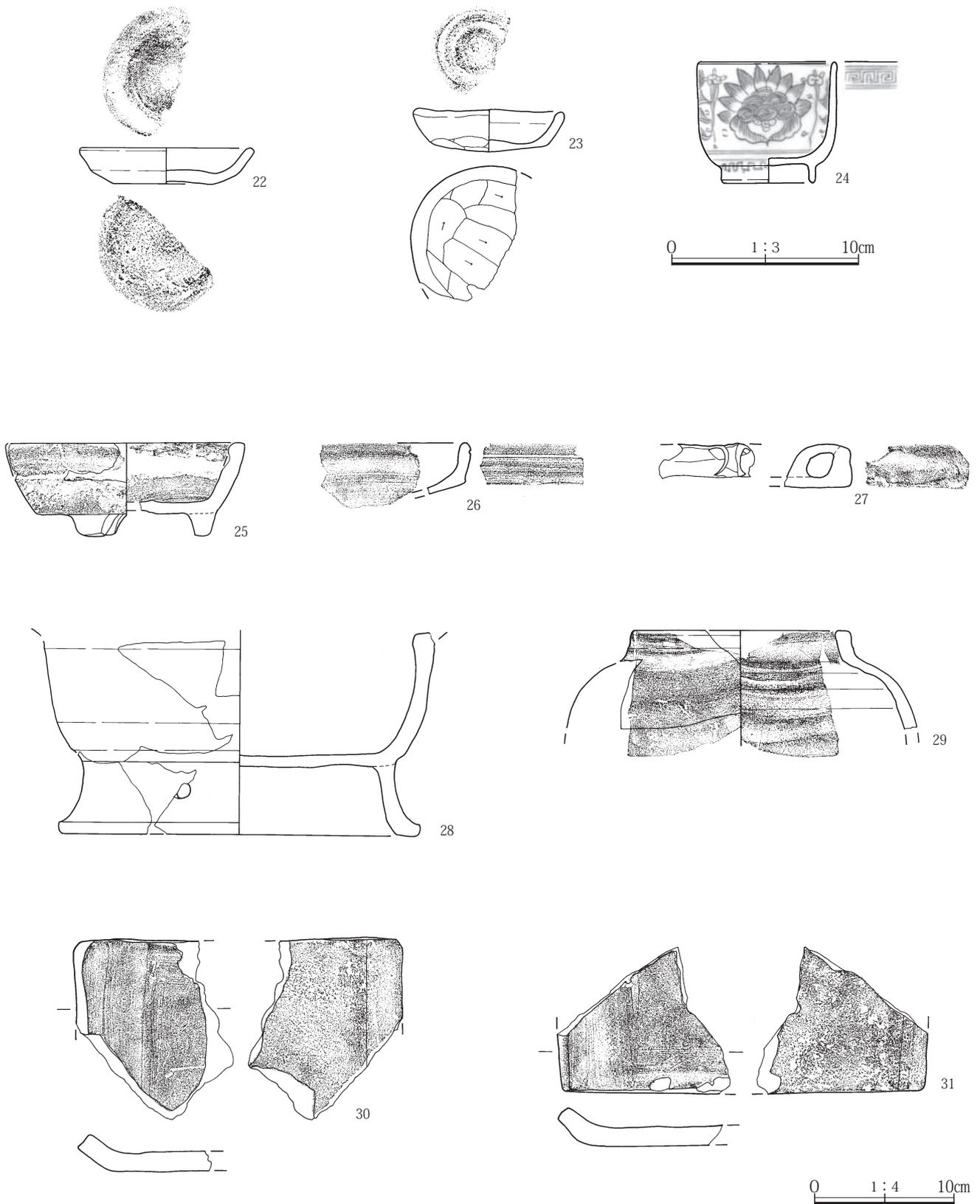
第37図 8区1号溝



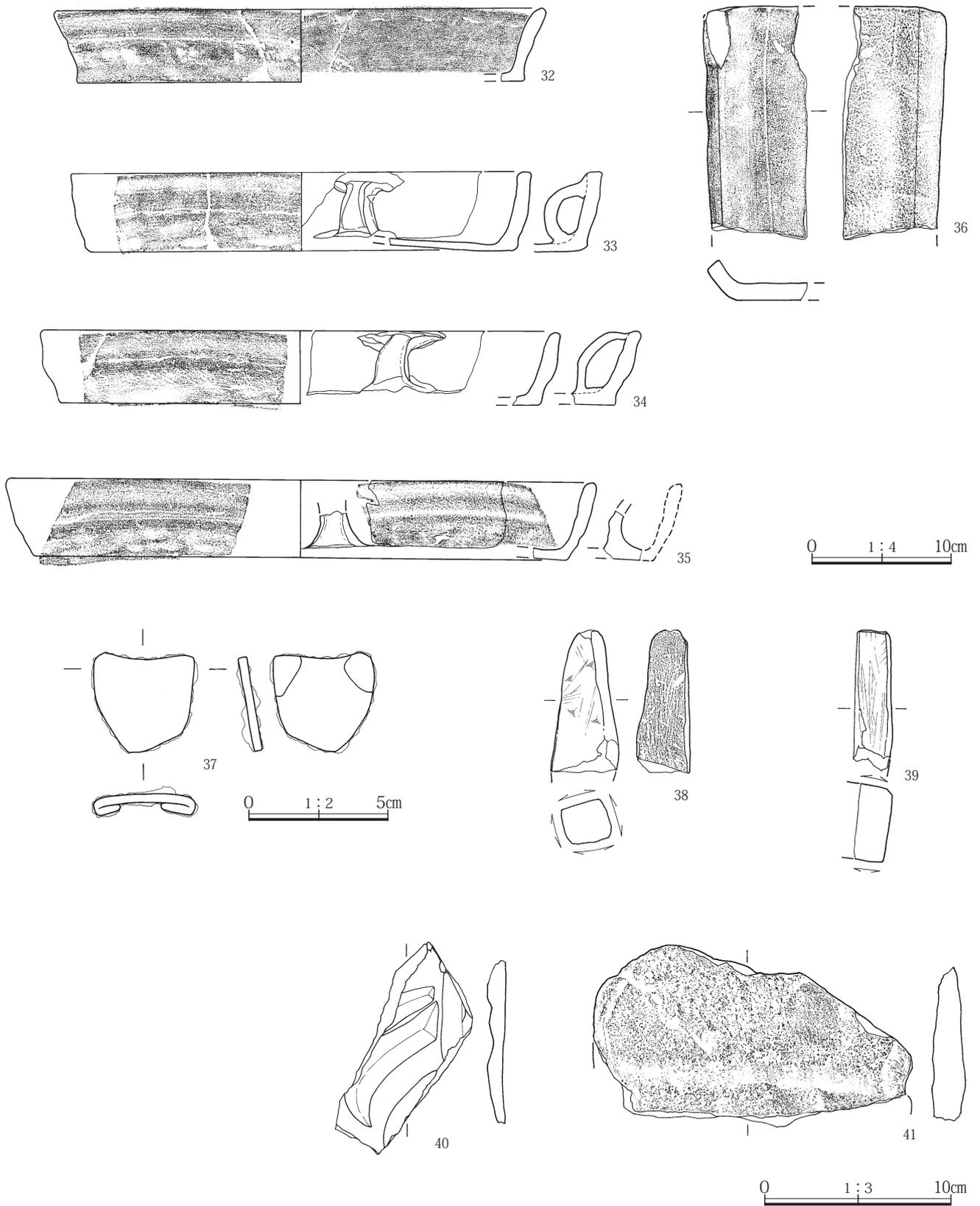
第38図 8区1号溝出土遺物(1)



第39図 8区1号溝出土遺物(2)



第40図 8区1号溝出土遺物(3)



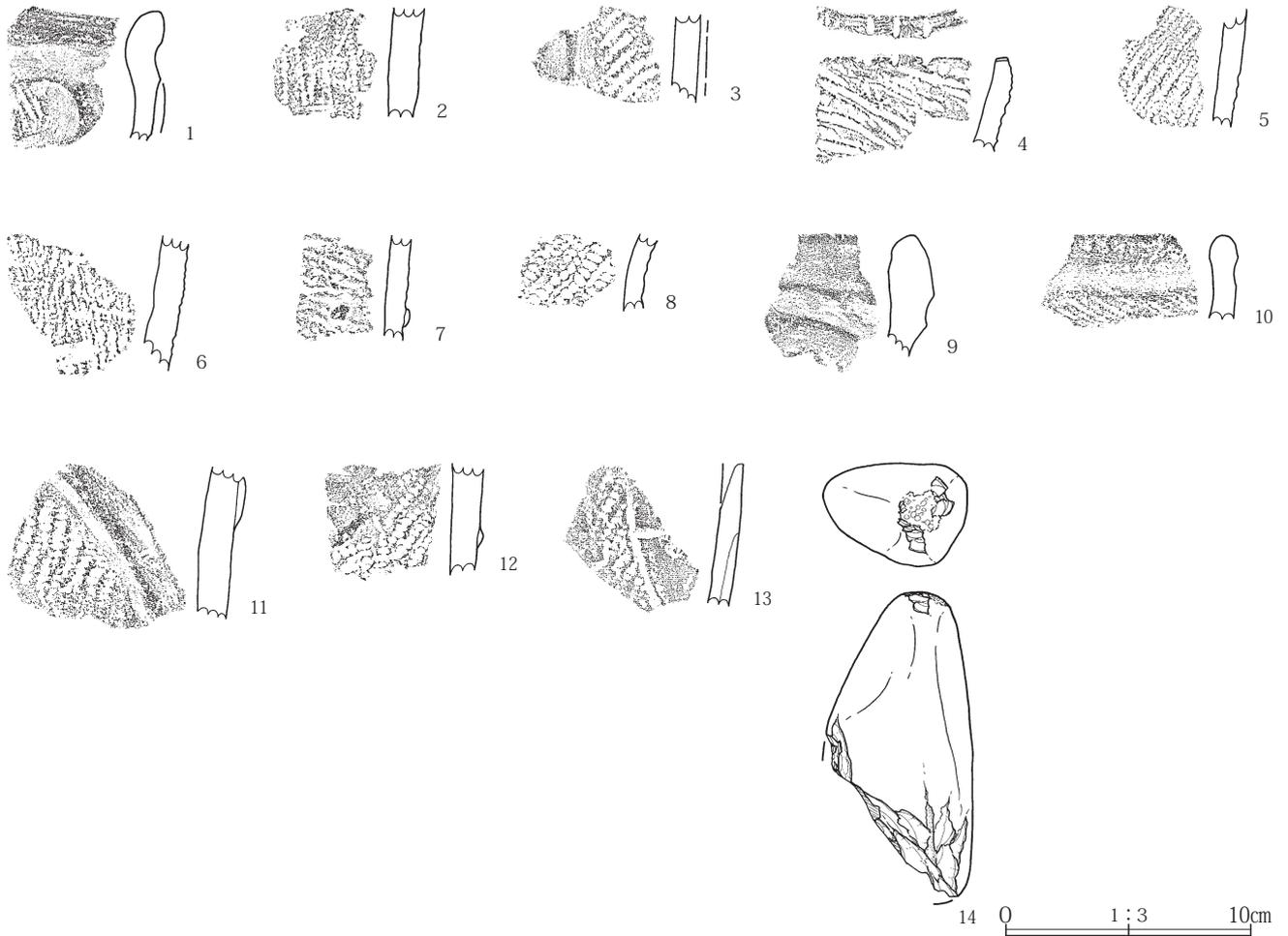
第41図 8区1号溝出土遺物(4)

5. 遺構外出土遺物

浜町遺跡は遺構外遺物として7区縄文土器13点・土師器大片2715g・土師器小片60g・須恵器大片1050g・須恵器小片60g・8区土師器大片630g土師器小片60g・須恵器大片300g・石製品1点が出土した。そのうち縄文土器及

び敲石を図示した。(第42図、PL.20)

縄文土器は深鉢片であり、黒浜式6点・加曾利E3式6点・加曾利E4式1点である。縄文時代前期から中期にかけての遺物であり、同時代の遺構があった可能性が考えられる。



第42図 浜町遺跡遺構外出土遺物

第3節 浜町古墳群

1. 竪穴住居

竪穴住居は7軒調査した。調査区別では1区で6軒、3区で1軒である。1区の6軒は、それぞれが重複している状況での検出であった。調査区が狭小であり、住居全体が検出された遺構は無かった。また市街地に位置している為、他遺跡同様に現代の開発により攪乱されている遺構が多かった。1区では平成17年度報告の遺構と同一と考えられる住居もあった。時代別では古墳時代3軒、奈良平安時代4軒である。

3区1号住居(第43・44図、PL.10・21)

位置 X=32766、Y=-41315 3区東寄りに位置し、住居の南側4分の1程度は調査区外である。

形状・規模 住居全体は検出されていないが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる・長軸3.32m、短軸(2.10)mを測る。

面積 (6.91) m²

主軸方位 N-80°-E

重複 住居北辺にて18~20号ピットと重複しており、中央部分を4号溝が貫通している。18~20号ピットより1号住居の方が新しく、4号溝よりも古い。

埋没土 上層部は攪乱土が堆積している。埋土に多量のロームブロック・焼土を含むことから人為的な埋没と考えられる。

床面 床下の状況より、住居使用部分を掘り込み暗褐色土と黄褐色土の混土を構築土としている。特に中央部分、調査区南壁に近い場所では床面より最大で0.45m掘り込んであり、カマドなどの構築土を土取りしたとみられる。確認面からの、床面残存深さは0.21mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 床面精査、掘方調査において確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長(0.68)m・幅(0.23)mを測るが、4号溝と重複しており全形は調査できなかった。数値は、調査時の現状である。焚口部は東壁近くに設置され、煙道に向かったの立ち上がりはゆるやかであった。ロームブロックを含む暗褐色土でカマ

ドを構築していた。

貯蔵穴 住居北東コーナーより長軸0.36m・短軸0.30mを測る1号ピットが検出された。遺物は出土していない。位置より貯蔵穴である可能性が高い。

出土遺物 土師器大片70g・土師器小片15g・須恵器が出土した。第44図に示したのは須恵器杯1点である。整形の特徴より9世紀代のものと見られる。この杯は埋土より出土した。住居床面より出土した遺物は無かった。

所見 住居使用時に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。埋土より出土した遺物より9世紀代の住居と推定される。

1区2号住居(第45・46図、PL.11・21)

位置 X=32770、Y=-41350

形状・規模 住居全体が検出されず、形状は不明である。長軸(6.74)m、短軸(1.84)mを測る。

面積 (12.84) m²

主軸方位 N-86°-W

重複 住居南東部にて7号住居と、住居西側にて3号住居と重複している。土層(第45図A-A')より、2号住居は、3号住居より古い。7号住居は、2号住居より新しい。

埋没土 レンズ状に堆積しており自然埋没土と考えられる。

床面 住居使用部分を掘り込み、暗褐色土を構築土としている。確認面からの、床面残存深さは0.48mを測る。壁溝は住居西側にて確認された。幅0.08m~0.18m、深さ0.04m~0.09mであった。

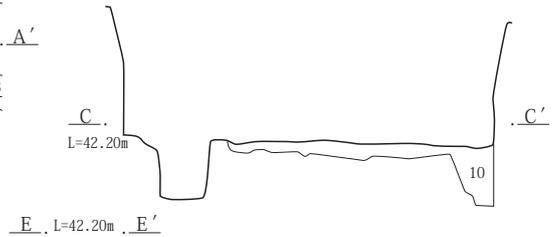
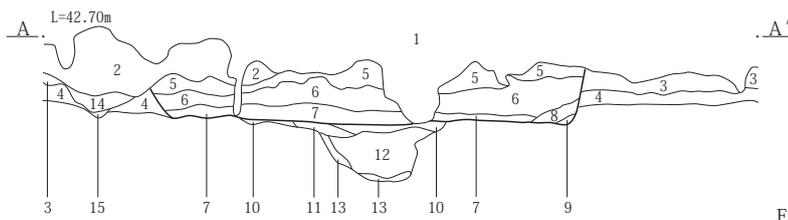
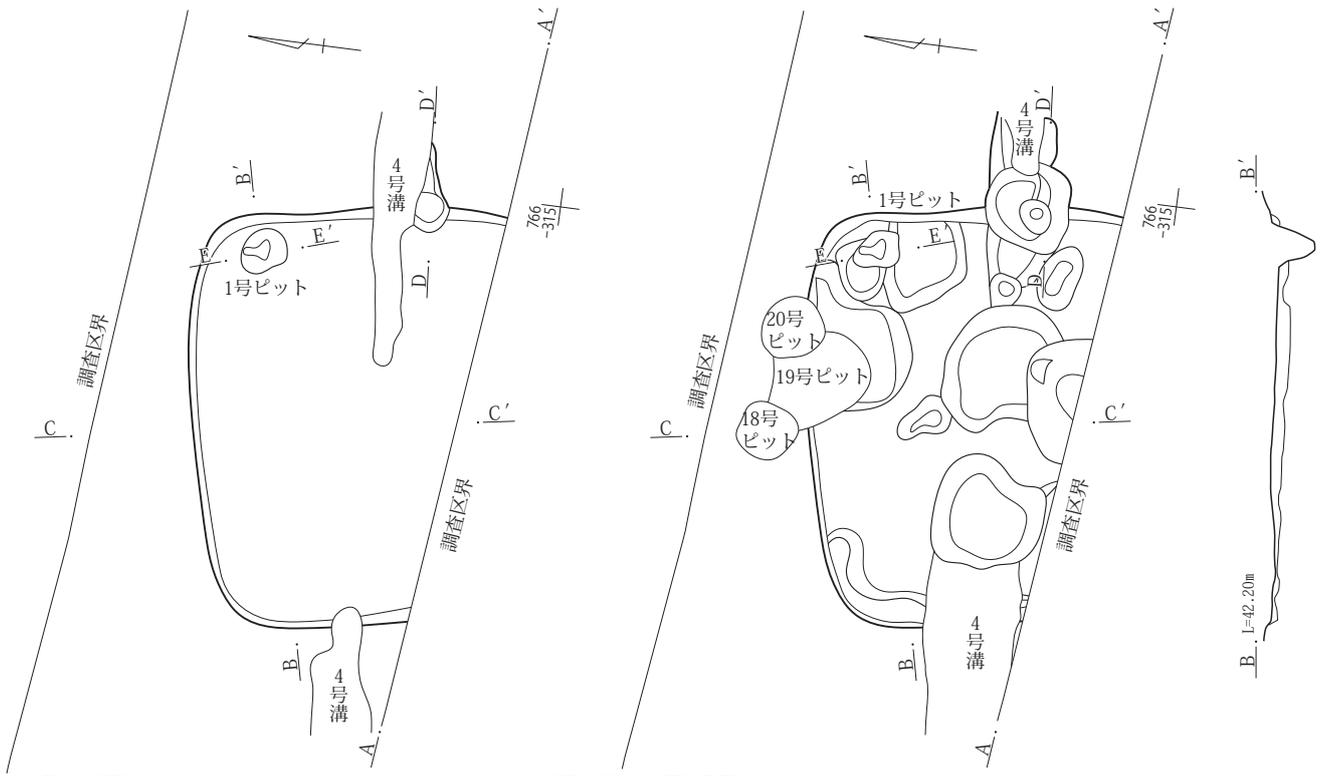
柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大片9310g・土師器小片1470g・須恵器大片350g・須恵器小片170gが出土した。土師器杯5点・須恵器蓋1点・須恵器杯2点・鉄製品1点を図示した。床面直上より出土したのは、土師器杯(第46図1)及び須恵器杯(第46図7・8)であるが、いずれも8世紀第二四半期から第三四半期の特徴を有している。

所見 出土遺物の特徴より、住居の使用時期は8世紀前半から中ごろと考えられる。調査位置より平成17年度報告5区38号住居と同一遺構と考えられる。



A-A', B-B', C-C'

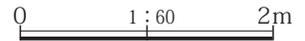
1. 表土攪乱層 現代土
2. 暗褐色土 しまり粘性なし。現代より古い近代の堆積と考えられる。
3. 暗褐色土 ロームブロック混入。2層よりしまり粘性あり。
4. 黄褐色土 ローム漸移層。
5. 暗褐色土 しまり粘性なし。小粒のロームブロック・焼土粒を少量含む。
6. 暗褐色土 しまり粘性ともあり。ロームブロックと多量の焼土粒を含む。色調黄色味を帯びる。
7. 暗褐色土 しまり粘性あり。色調やや灰色がかかる。ロームブロック少量含む。
8. 暗褐色土 しまり粘性あり。ローム粒を少量含む。色調やや暗い。
9. 黄褐色土 ロームブロック主体で、暗褐色ブロック含有する。
10. 黄色土層 大量のロームと褐色土の混成土。この層の上面が床面。
11. 暗褐色土 10層に類似するが、少量のロームブロックを含む。
12. 暗褐色土 しまり粘性あり。ロームブロックを含まない。
13. 暗褐色土 しまり粘性あり。ロームブロックを少量含む。
14. 暗褐色土 やや黒い色調。ロームブロックを含有する。
15. 暗褐色土 小粒のロームブロックを多量に含む。

E-E'

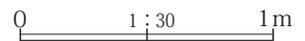
1. 暗褐色土 しまり粘性あり。小粒のロームブロックを含む。
2. 黒褐色土 しまりあり、やや粘性あり。ロームブロックを大量に含む。
3. 黒褐色土 ロームブロックが大粒となり、色調も黄色味が強くなる。焼土粒を若干含む。

D-D'

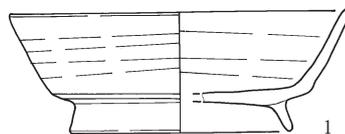
1. 黄色土 粘土主体で褐色土ブロック混入。2層との境界付近に焼土を含む。天井部の崩落土。
2. 赤褐色土 1~3cm大のロームブロックと焼土ブロックを含む。焼土は良好に焼け、ブロック状に散在する。
3. 暗褐色土 しまり粘性あり。小粒のロームブロックを混入。2層と異なり焼土等は含まれない。
4. 暗赤褐色土 小粒のロームブロック・焼土少量含む。
5. 褐色土 ロームブロック混入。
6. 暗褐色土 炭化物と小粒のロームブロックを少量含む。
7. 黄褐色土 少量の炭化物を含み、黒色土ブロックを若干含む。
8. 黒褐色土 大量のロームブロックが混ざる。



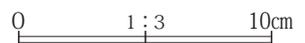
D, L=42.20m D'



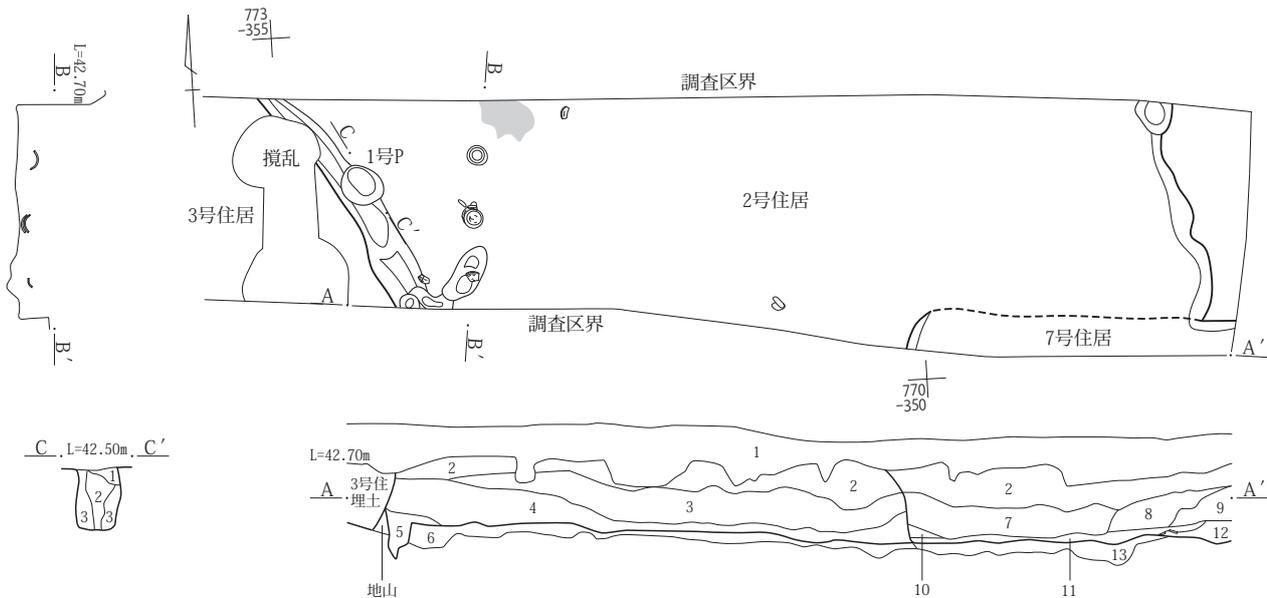
第43図 3区1号住居



第44図 3区1号住居出土遺物



第3章 検出された遺構と遺物

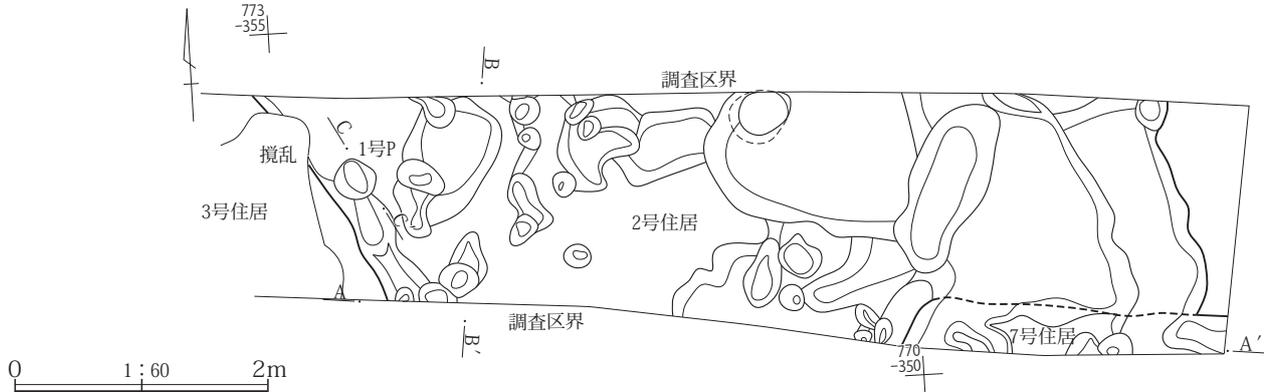


A-A'

- | | |
|----------|---|
| 1. 現表土 | ブロック片・碎石・ビニール片等含む |
| 2. 褐色土 | 粘性あり、しまりあり。 |
| 3. 暗褐色土 | しまり、粘性あり。小粒のロームブロックと焼土粒を若干含む。2号住居埋土。 |
| 4. 暗褐色土 | 3層と近似するが、ロームブロックと焼土粒が多量となる。2号住居埋土。 |
| 5. 暗褐色土 | しまり、粘性なし。ロームブロックを含む。2号住居埋土。住居跡周溝埋土と考えられる。 |
| 6. 黄褐色土 | 大量のロームブロックと褐色土ブロックから成る。2号住居掘り方埋土。 |
| 7. 暗褐色土 | ロームブロック多量に含む。焼土粒はあるが少量。7号住居埋土。 |
| 8. 暗褐色土 | ロームブロック少量含むが、焼土粒を含まない。7号住居埋土。 |
| 9. 暗褐色土 | 7層に近似するが、やや色調が暗い。ロームブロック・焼土粒多量に含む。7号住居埋土。 |
| 10. 暗褐色土 | ロームブロック・焼土等を含まない。7号住居埋土。 |
| 11. 暗褐色土 | ロームブロック・焼土少量となり、色調も黒っぽくなる。7号住居埋土。 |
| 12. 暗褐色土 | 大量のロームブロックと焼土を含む。色調も黒い。7号住居埋土。 |
| 13. 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。7号住居掘り方埋土。 |

C-C'

- | | |
|---------|------------------------------------|
| 1. 暗褐色土 | 砂質でしまり粘性なし。 |
| 2. 黄褐色土 | 極めて砂質に富みしまり、粘性なし。細かなロームブロックを多量に含む。 |
| 3. 黄褐色土 | 2層に類する。大粒のロームブロック含む。色調黄色味増す。 |



第45図 1区2・7号住居

1区3号住居(第47・48図、PL.11・21)

位置 X=32770、Y=-41355

形状・規模 住居全体が検出されず、形状は不明である。

長軸(2.68)m、短軸(1.61)mを測る。

面積 (4.18) m²

主軸方位 N-84° -W

重複 住居北側の調査区北壁際にて11号土坑と、住居東側にて2号住居と、住居西側にて4号住居と重複している。土層(第45・47図A-A')より、3号住居は2号住居・

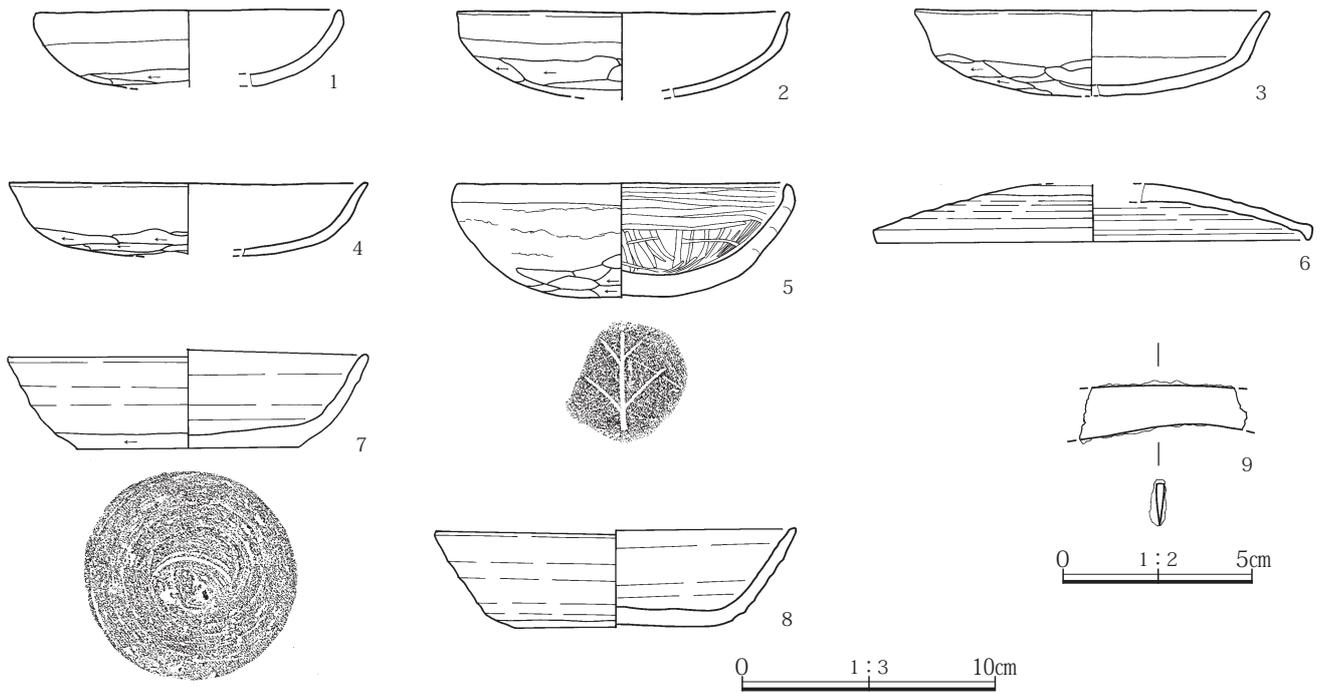
4号住居より新しい。11号土坑は出土遺物より古墳時代の遺構であり、3号住居より古い。

埋没土 埋没土中にロームブロック・焼土を含んでいることから人為的な埋没と考えられる。

床面 住居使用部分を掘り込み、暗褐色土を構築土としている。確認面からの、床面残存深さは0.32mを測る。壁溝は住居西側にて確認された。幅0.08m~0.18m、深さ0.01m~0.04mであった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。



第46図 1区2号住居出土遺物

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大片380g・土師器小片50g・須恵器大片15gが出土した。須恵器杯2点を図示した。須恵器杯はどちらも床面直上より出土している。それぞれ8世紀第三四半期の特徴を有している。

所見 出土遺物の特徴より、住居の使用時期は8世紀中ごろから後半にかけてと考えられる。

1区4号住居(第49図、PL.11)

位置 X=32771、Y=-41358

形状・規模 住居全体が検出されず、形状は不明である。

長軸(2.90)m、短軸(1.53)mを測る。

面積 (4.33) m²

主軸方位 N-84°-W

重複 住居西側にて5号住居と、住居東側にて3号住居と重複している。住居南側では11号溝が東西に貫通している。土層(第49図A-A')より、3号住居・5号住居はそれぞれ4号住居より新しい。11号溝の底部が4号住居の掘方まで達していないことから、11号溝は4号住居より新しい。

埋没土 埋没土中にロームブロック・焼土を含んでいることから人為的な埋没と考えられる。

床面 住居使用部分を掘り込み、暗褐色土を構築土としている。確認面からの、床面残存深さは0.22mを測る。

壁溝は確認されなかった。

柱穴 1～3号ピットを検出したが、検出位置より柱穴とは考えられない。

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器片375g・須恵器片10gが出土した。いずれも図化するまでには至らなかった。

所見 帰属時期を決められる遺物は出土しなかった。重複している住居の帰属時期より、6世紀代より古い住居であることが想定される。

1区5号住居(第50・51図、PL.11・21)

位置 X=32771、Y=-41360

形状・規模 住居全体が検出されず、形状は不明である。

長軸(4.70)m、短軸(1.22)mを測る。

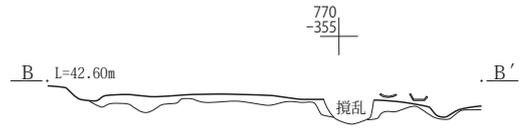
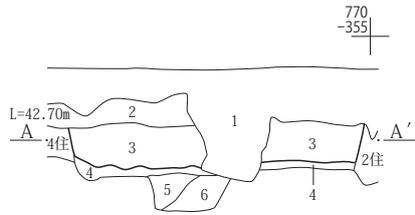
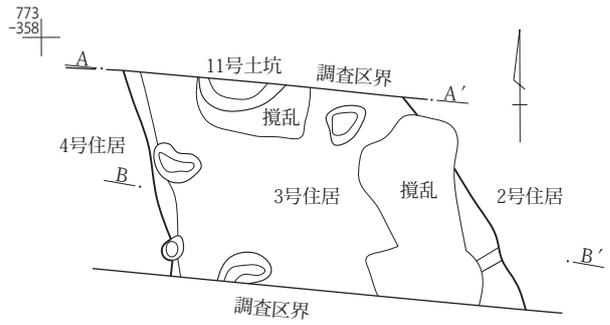
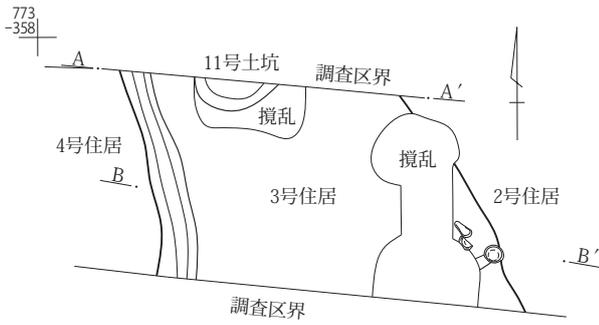
面積 (5.15) m²

主軸方位 N-85°-W

重複 住居西側にて6号住居と、住居東側にて4号住居と重複している。住居南側では11号溝が東西に貫通している。土層(第50図A-A')より、5号住居は4号住居より新しいが、6号住居より古い。11号溝は5号住居より新しい。

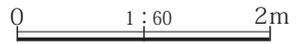
埋没土 埋没土中にロームブロック・焼土を含んでいることから人為的な埋没と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

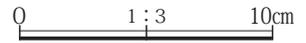
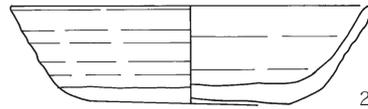
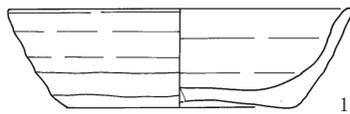


- A-A', B-B'
1. 現表土 ブロック片・碎石・ビニール片等含む
 2. 暗褐色土 小粒のロームブロックと焼土ブロックを少量含む。
 3. 暗褐色土 2~3cm大のロームブロックを少量、焼土粒をやや多め

4. 暗褐色土 に含有。3号住埋土
焼土粒微量、小粒のロームブロックを含む。3号住居掘方埋土。
5. 暗褐色土 ロームブロックを少量含有。11号土坑埋土。
6. 暗褐色土 ロームブロックを多量に含有。色調暗い。11号土坑埋土。



第47図 1区3号住居



第48図 1区3号住居出土遺物

床面 住居使用部分を掘り込み、暗褐色土を構築土としている。確認面からの、床面の残存深さは0.28mを測る。壁溝は住居東側で南北方向のみ検出された。

柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大片750g・土師器小片40g・須恵器大片220g・須恵器小片40gが出土した。土師器杯2点・土師器鉢1点を図示した。土師器杯2(第51図2)は床面直上より出土した。図示した遺物はいずれも6世紀後半の特徴を有する。

所見 出土遺物の特徴より、住居の使用時期は6世紀後半と考えられる。調査位置より平成17年報告5区9号住居と同一遺構と考えられる。

位置 X=32774、Y=-41365

形状・規模 住居全体が検出されておらず、形状は不明であるが、住居東西の壁は確認されたため方形を呈するものと考えられる。長軸(5.15)m、短軸(1.08)mを測る。

面積 (5.43) m²

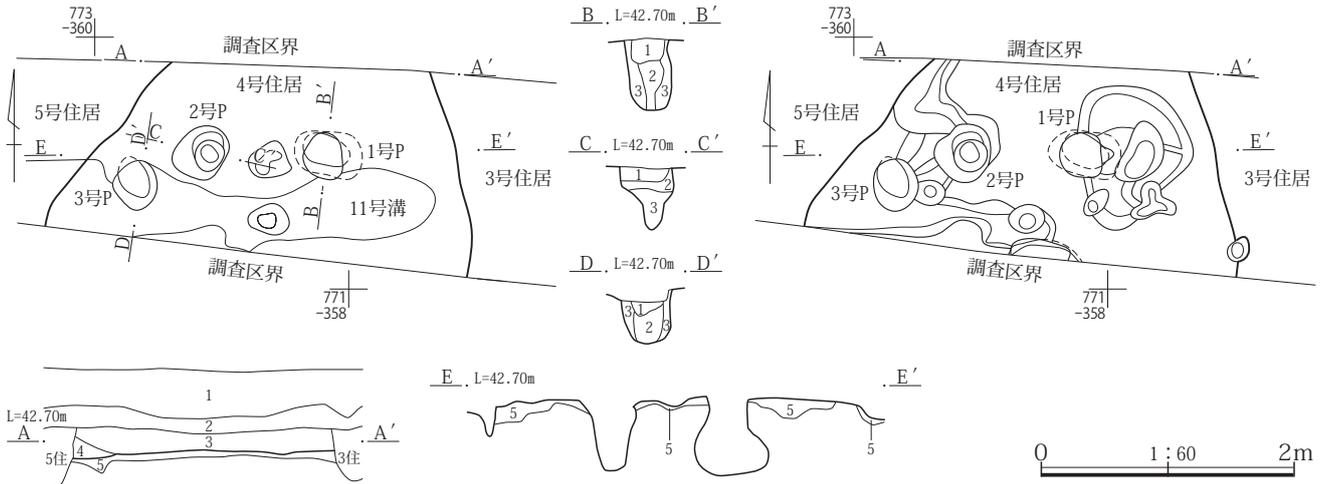
主軸方位 N-84°-W

重複 住居東側にて5号住居と重複している。住居南側では11号溝が東西に貫通している。土層(第52図A-A')より、6号住居は5号住居より新しい。11号溝は6号住居より新しい。

埋没土 埋没土中にロームブロック・焼土を含んでいることから人為的な埋没と考えられる。

床面 住居使用部分を掘り込み、暗褐色土を構築土としている。確認面からの、床面残存深さは0.58mを測る。壁溝は確認されなかった。掘方面にて床下土坑を検出した。カマド等の構築土を採取したと考えられる。

1区6号住居(第52・53図、PL.12・21)



A-A', E-E'

1. 現表土 ブロック片・碎石・ビニール片等含む
2. 暗褐色土 小粒のロームブロックと焼土ブロックを少量含む。
3. 暗褐色土 1~3cm大のロームブロック混入。少量の焼土粒を含む。4号住居埋土。
4. 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。4号住居埋土。
5. 暗褐色土 1~5cm大のロームブロック混入する。色調明るい。4号住居掘方埋土。

B-B'

1. 暗褐色土 しまり、粘性なし。小粒のロームブロックを少量含む。
2. 暗褐色土 1層に近似するが、ロームブロックを含まない。しまり、粘性とも1層よりある。
3. 暗褐色土 1層に近似する。小粒のロームブロック多量に含む。

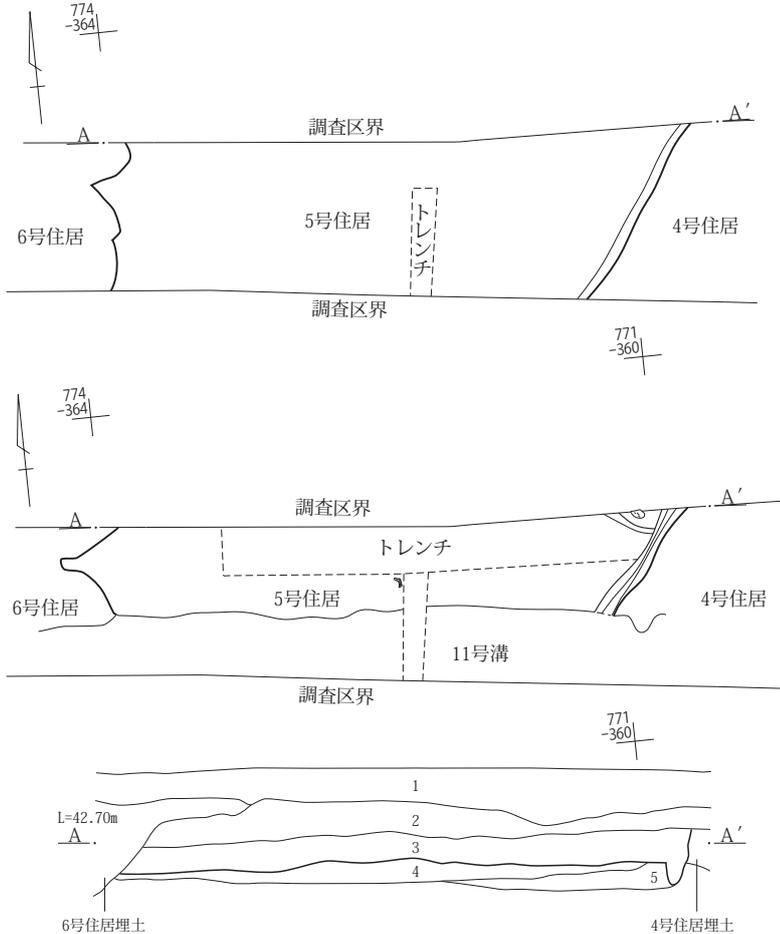
C-C'

1. 暗褐色土 小粒のロームブロックを混入。
2. 黄黒褐色土 ロームブロックを多量に含む、色調は明るくなる。砂質でしまり、粘性なし。
3. 暗褐色土 色調は1層と同じか、やや明るい。2層より黒い。ロームブロックを含む。砂質でしまり、粘性なし。

D-D'

1. 暗褐色土 しまりややあり、粘性なし。ロームブロック等を含まない。
2. 暗褐色土 砂質でしまり、粘性なし。ザラザラしている。色調は1層より明るくなる。ロームブロックを多量に含む。
3. 暗褐色土 ゼラつき強い。ロームブロック多量に含む。

第49図 1区4号住居

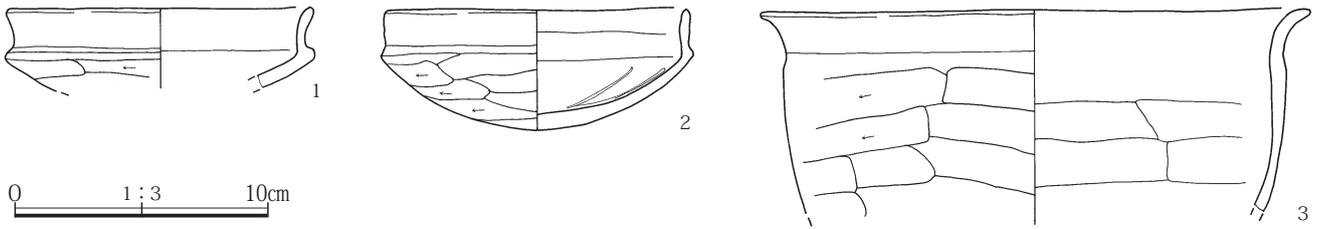


A-A'

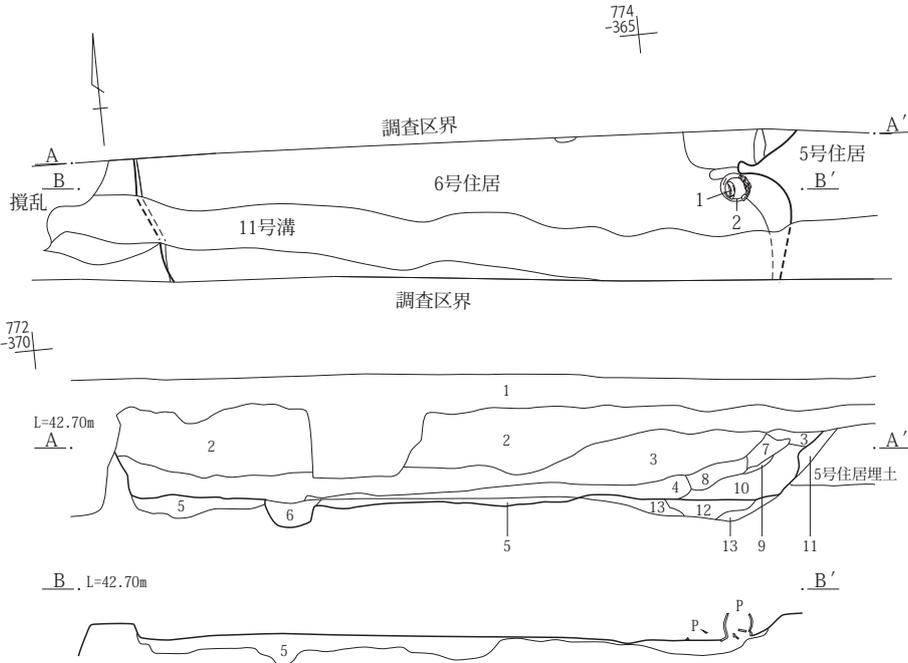
1. 現表土 ブロック片・碎石・ビニール片等含む
2. 暗褐色土 小粒のロームブロックと焼土ブロックを少量含む。
3. 暗褐色土 小粒のロームブロック及び小粒の礫を含有する。全体に砂質でザラザラしている。
4. 黄褐色土 ロームブロック及び砂礫を多量に含む。5号住居掘り方埋土。
5. 黄褐色土 ロームブロック及び砂礫を多量に含む。4層より色調暗い。5号住居掘り方埋土。

第50図 1区5号住居

第3章 検出された遺構と遺物

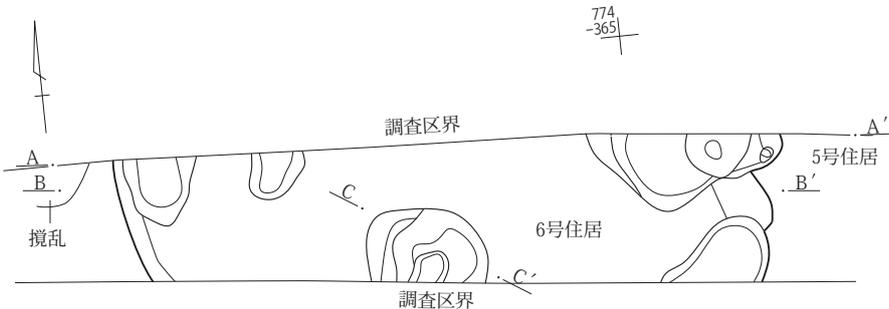


第51図 1区5号住居出土遺物



A-A', B-B'

- | | |
|-----------|--|
| 1. 現表土 | ブロック片・砕石・ビニール片等含む |
| 2. 暗褐色土 | 砂礫混じり。ロームブロックと焼土粒を少量含む。 |
| 3. 暗褐色土 | 3層より色調明るい。焼土粒を多量に含む。 |
| 4. 暗褐色土 | 砂質土。ロームブロックと少量の焼土粒を含む。 |
| 5. 暗褐色土 | 色調やや明るい。ローム粒を含む。住居掘方埋土。 |
| 6. 暗褐色土 | 5層より色調暗い。 |
| 7. 赤褐色土 | 焼土粒を多量含む。 |
| 8. 明褐色土 | 焼土粒を少量含む。 |
| 9. 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含み、わずかに赤色化する。カマド天井部構築土と考えられる。 |
| 10. 赤褐色土 | 大量の焼土を含む。中層では焼土がブロック状に堆積している。 |
| 11. 暗褐色土 | 微量の焼土粒を含む。カマド掘方埋土 |
| 12. 暗赤褐色土 | カマド掘り方埋土。焼土ブロックを多量に含む。 |
| 13. 暗赤褐色土 | 12層に類似するが、焼土粒を多量に含む。カマド掘り方埋土。 |



C-C'

- | | |
|---------|---|
| 1. 暗褐色土 | 砂質でしまり、粘性なし。1~2cm大のロームブロックを少量含有。 |
| 2. 暗褐色土 | 砂質でしまり、粘性なし。特に下部はローム下層の砂層を多く含む。色調は1層に近似する。 |
| 3. 暗褐色土 | ロームブロックを多く含む。特に縞状にロームが入り込んでいる。色調は1・2層より明るく、黄色がかる。 |

0 1:60 2m

第52図 1区6号住居

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁に設置されていた。全長(0.78)m・幅(0.36)mを測るが、カマド北側半分は調査区外であり全形は調査できなかった。甕(第53図2)が右袖部から天地を逆にした状態で出土しており、補強材としていたと考えられる。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器大片2070g・土師器小片120g・須恵器大片120g・石製品が出土した。土師器甕2点・石製品2点を図示した。甕1(第53図1)は床面直上より、甕2(第53図2)はカマド右袖部の床面直上より出土した。図示した遺物はいずれも6世紀後半の特徴を有する。

所見 出土遺物の特徴より、住居の使用時期は6世紀後半と考えられる。調査位置より平成17年報告5区8号住居と同一遺構と考えられる。

1区7号住居(第45図、PL.12)

位置 X=32770、Y=-41350

形状・規模 住居全体が検出されておらず、形状は不明である。長軸(2.56)m、短軸(0.32)mを測る。

面積 (0.83) m²

主軸方位 不明。

重複 2号住居と重複しているが、土層(第45図A-A')より、7号住居は2号住居より新しい。

埋没土 埋没土中にロームブロック・焼土を含んでいることから人為的な埋没と考えられる。

床面 住居使用部分を掘り込み、暗褐色土を構築土としている。確認面からの、床面残存深さは0.54mを測る。壁溝は確認されなかった。

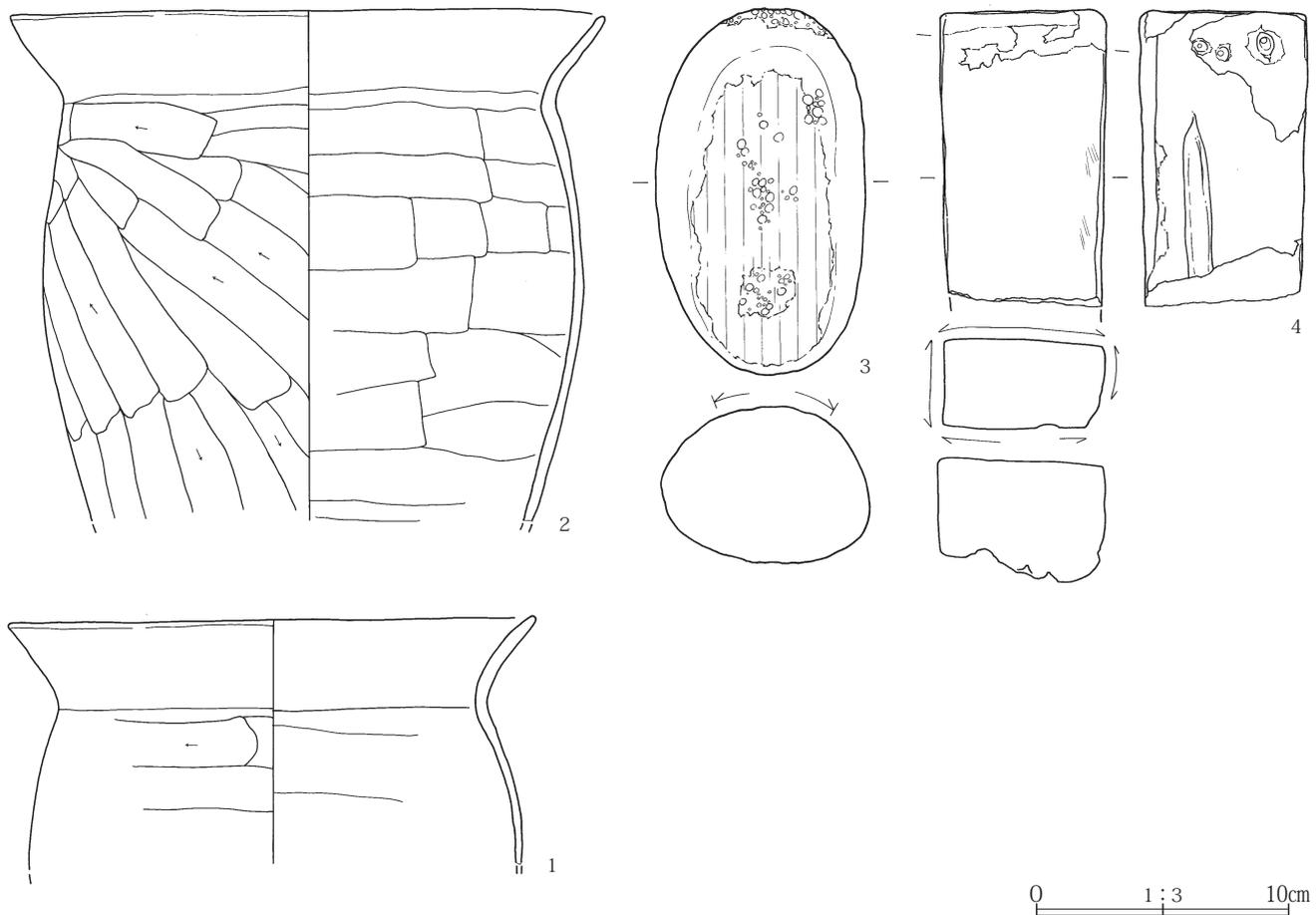
柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器片200gが出土したが、いずれも図化するまでには至らなかった。

所見 1区南東隅にて、住居の一部を検出した。重複関係から2号住居より新しい古代の住居と考えられる。



第53図 1区6号住居出土遺物

2. 土坑・ピット

土坑・ピットは、円形もしくは円形に準ずる形状を呈している遺構を土坑・ピットとした。規模の違いで名称を分けているが、形態・機能等に差がないと考えられるため、他遺跡同様同じ分類とする。土坑は10基・ピットは18基を調査した。分布は、1区土坑1基・2区土坑2基・ピット10基・3区土坑2基・ピット3基・4区土坑2基・ピット1基・5区土坑3基・ピット4基である。土坑・ピットの規模・形状等は第6・7表にまとめた通りである。伴出する遺物及び形状から時期・性格が推定できる土坑について詳述する。

5区1号土坑(第54・55図、PL.12・21)

位置 X=32755、Y=-41220 5区中央部に位置する。

形状・規模 平面形状は不整形を呈する。長軸0.92m、短軸0.78mを測る。深さは0.77mであった。

主軸方位 不明。

重複 2号溝と重複しており、土層(第54図A-A')から1号土坑が古い。

埋没土 レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

出土遺物 土師器片740gが出土している。土師器小型壺及び土師器甕を図示した。土師器小型壺は底面直上より出土した。土師器甕は底面から66cmの高さから出土した。どちらも古墳時代前期のものである。

所見 出土遺物から古墳時代前期の土坑と考えられる。用途は不明である。

2区9号土坑(第54・55図、PL.12・21)

位置 X=32770、Y=-41335 2区西寄りに位置する。

形状・規模 平面形状は不整形を呈する。北壁際で検出されており、遺構の3分の1程度は遺構外である。長軸2.00m、短軸(1.46)mを測る。深さは0.75mであった。

主軸方位 N-16°-W

重複 10号溝と重複しているが、土層(第56図A-A')より9号土坑の方が古い。

埋没土 土層は、ブロックの多寡により分層しており、堆積に時間差はない。埋土中より多量の土器片が出土していることから、人為的な埋没と考えられる。

出土遺物 土師器大片9990g・土師器小片860gが出土している。土師器杯2点・土師器高杯1点・土師器器台2点・土師器小型甕2点・土師器台付甕4点・土師器甕3点・土師器壺7点を図示した。土師器甕19と20は形状・整形の特徴から同一個体と考えられる。出土した土師器は古墳時代前期後葉のものである。

所見 出土遺物から古墳時代前期の土坑であり、廃棄土坑と考えられる。底面から遺物が出土せず、下層から中層にかけてまとまって遺物が出土していることから土器の廃棄と埋没が同時に行われていたことが想定される。

5区10号土坑(第59～61図、PL.13・22・23)

位置 X=32755、Y=-41225 5区西側中央部に位置する。

形状・規模 形状は遺構の一部が風倒木痕と重複しており、また攪乱により壊されていることから不整形であるが、長円形を呈するものと考えられる。長軸(1.83m)、短軸1.53mを測る。深さは1.19mであった。

主軸方位 N-29°-E

重複 重複している遺構は確認されなかった。遺構北東部分にて風倒木痕と重複していたが、風倒木痕より10号土坑の方が新しい。

埋没土 黄褐色ブロックを含み、人為的に埋没させたものと考えられる。

出土遺物 土師器大片7790g・土師器小片860gが出土した。土師器高杯1点・土師器小型壺1点・土師器甕6点・土師器壺2点を図示した。土師器小型壺2・土師器壺3は底面直上より、土師器甕4は底面から4cmの高さより出土した。また、甕4はほぼ完形の状態を保ち出土した。出土した土師器は古墳時代中期前葉のものである。

所見 出土遺物から古墳時代中期の土坑であり、その使用目的は貯蔵もしくは廃棄が考えられる。貯蔵を目的とする土器が、底面より完形及びそれに準ずる状態で出土している。このことから貯蔵目的として使用していたことが想定できる。また、中層から上層にかけてまとまって遺物が出土していることから土器が投棄された可能性も考えられる。

1区11号土坑(第62・63図、PL.13・24)

位置 X=32772、Y=-41356 1区中央に位置する。

形状・規模 形状は長円形を呈するが、調査区北壁際で検出されており、遺構の一部は遺構外である。長軸0.66m、短軸(0.48)mを測る。深さは0.21mであった。

主軸方位 N-65° -E

重複 3号住居と重複している。土坑上部を壊して3号住居が築かれている。

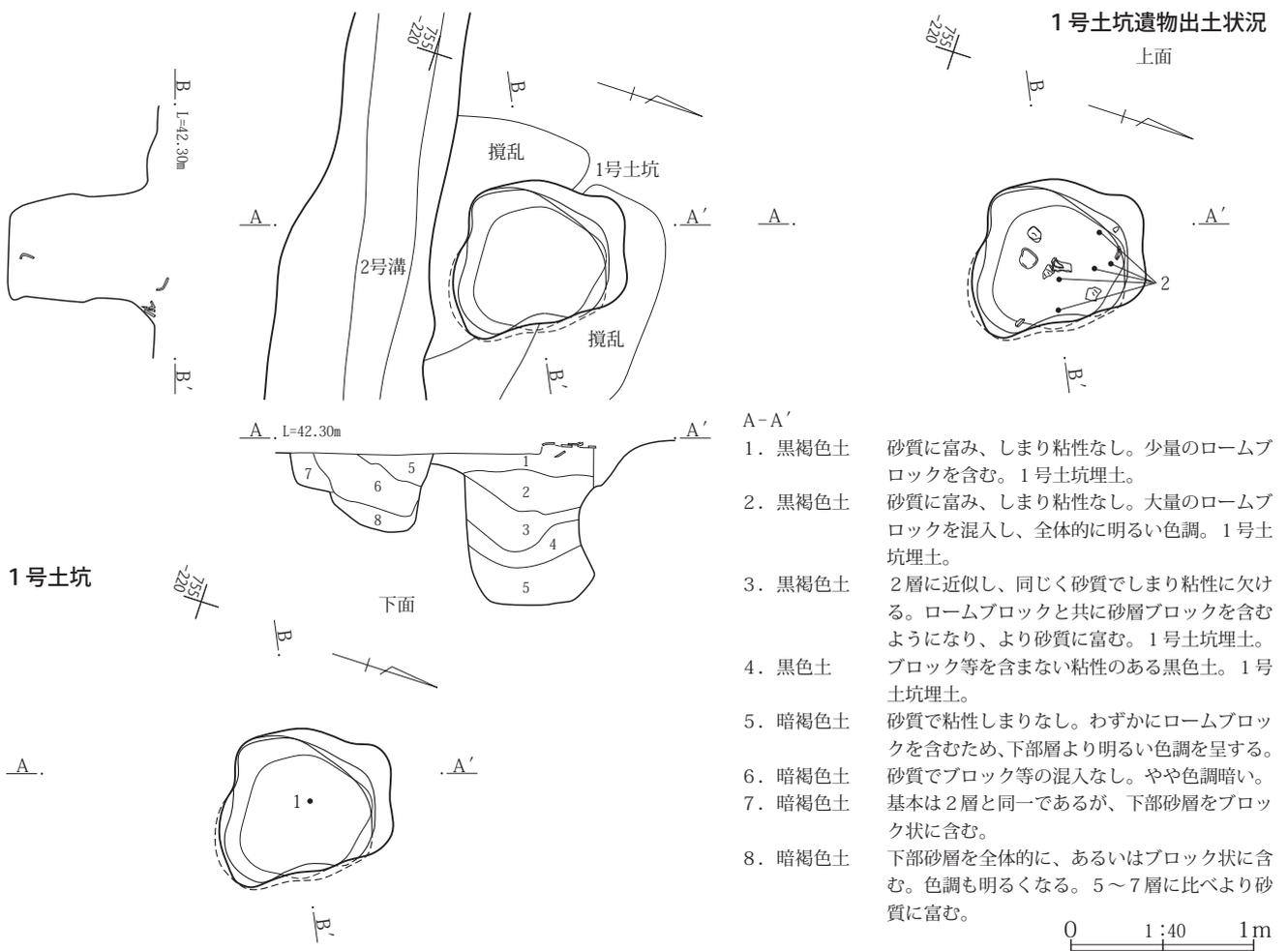
埋没土 土層は、ブロックの多寡により分層している。埋没土中にロームブロックを含むことから、人為的な埋没と考えられる。

出土遺物 土師器片1410gが出土した。土師器埴1点・土師器小型甕1点・土師器壺1点を図示した。埴は底面から10cmの高さ・甕は底面から7cmの高さ・壺は底面直上からそれぞれ出土している。遺物は古墳時代前期後葉の特徴を有している。

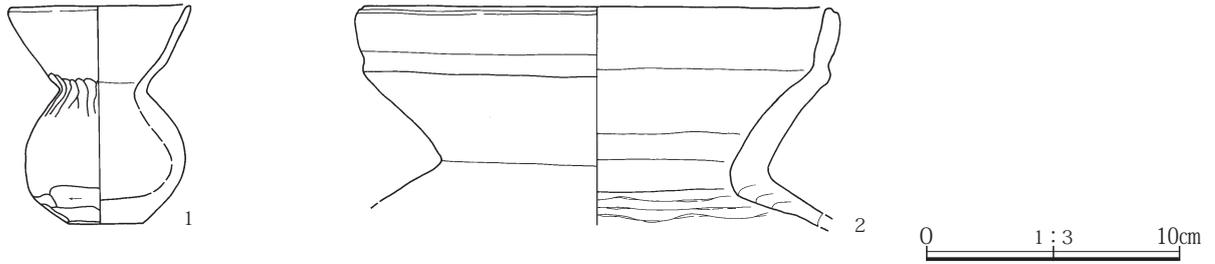
所見 出土遺物から古墳時代前期の土坑である。貯蔵を目的とする土器が、底面及び底面直上より出土していることから、貯蔵目的の土坑と想定できる。

第6表 浜町古墳群土坑一覧

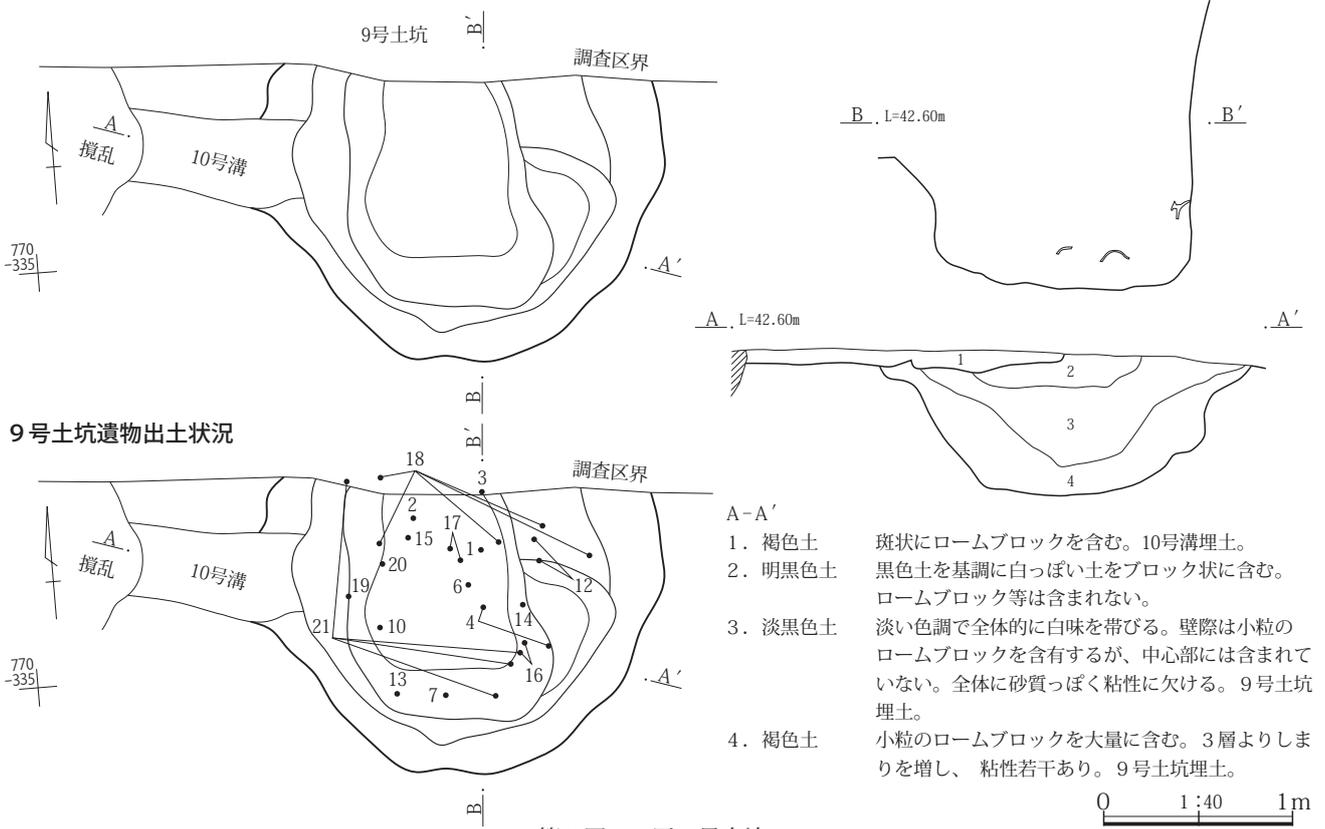
遺構名称	長軸方位	形状	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
1号土坑	N-22° -W	長円形	755-220	92	78	77	土師器片740g出土
2号土坑	N-86° -E	長円形	758-213	100	90	33	土師器片170g出土
4号土坑	N-62° -W	不整形	762-265	(90)	(46)	38	土師器片60g出土
5号土坑	N- 2° -W	不整形	762-260	(140)	148	103	土師器片10g出土
6号土坑	N-17° -E	長円形	766-275	94	81	11	
7号土坑	N- 9° -E	隅丸長方形	766-275	(182)	(74)	16	
8号土坑	N- 5° -E	不整形	770-330	(192)	(118)	130	土師器片2460g出土
9号土坑	N-16° -W	長円形	770-335	200	(146)	75	土師器片10850g出土
10号土坑	N-29° -E	長円形	755-225	(183)	153	119	土師器片8620g出土
11号土坑	N-65° -E	長円形	772-356	66	(48)	21	土師器片1410g出土



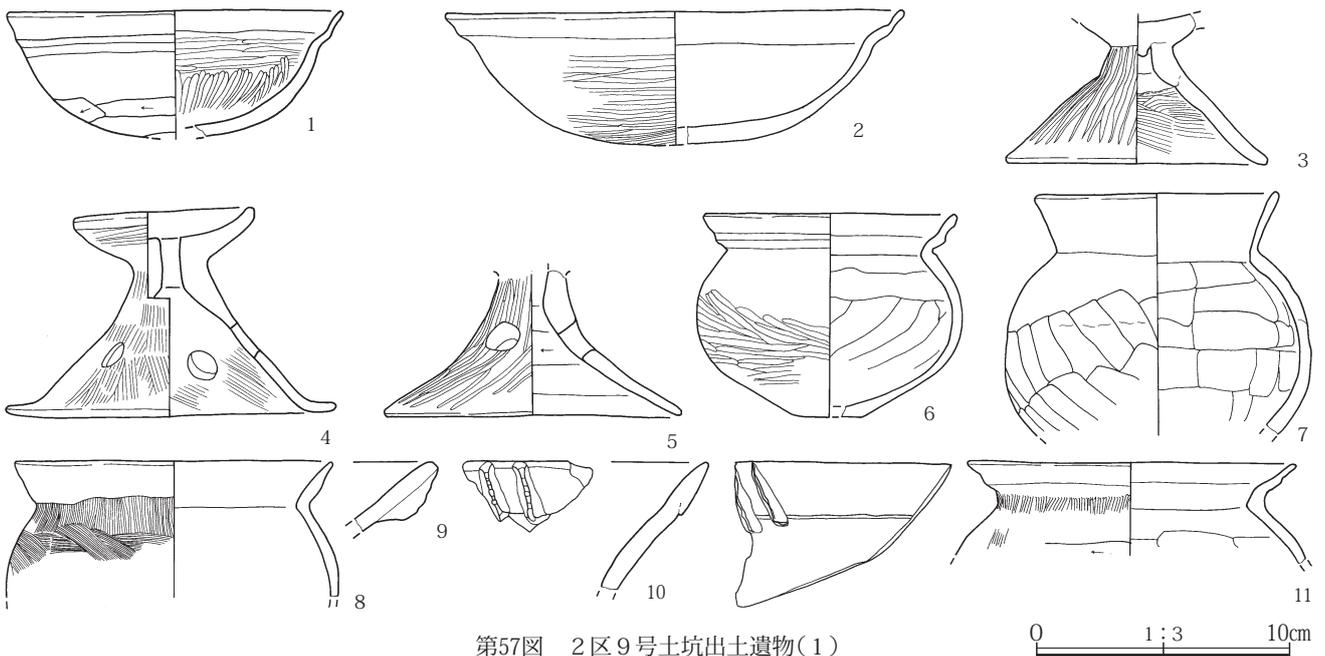
第54図 5区1号土坑、2号溝



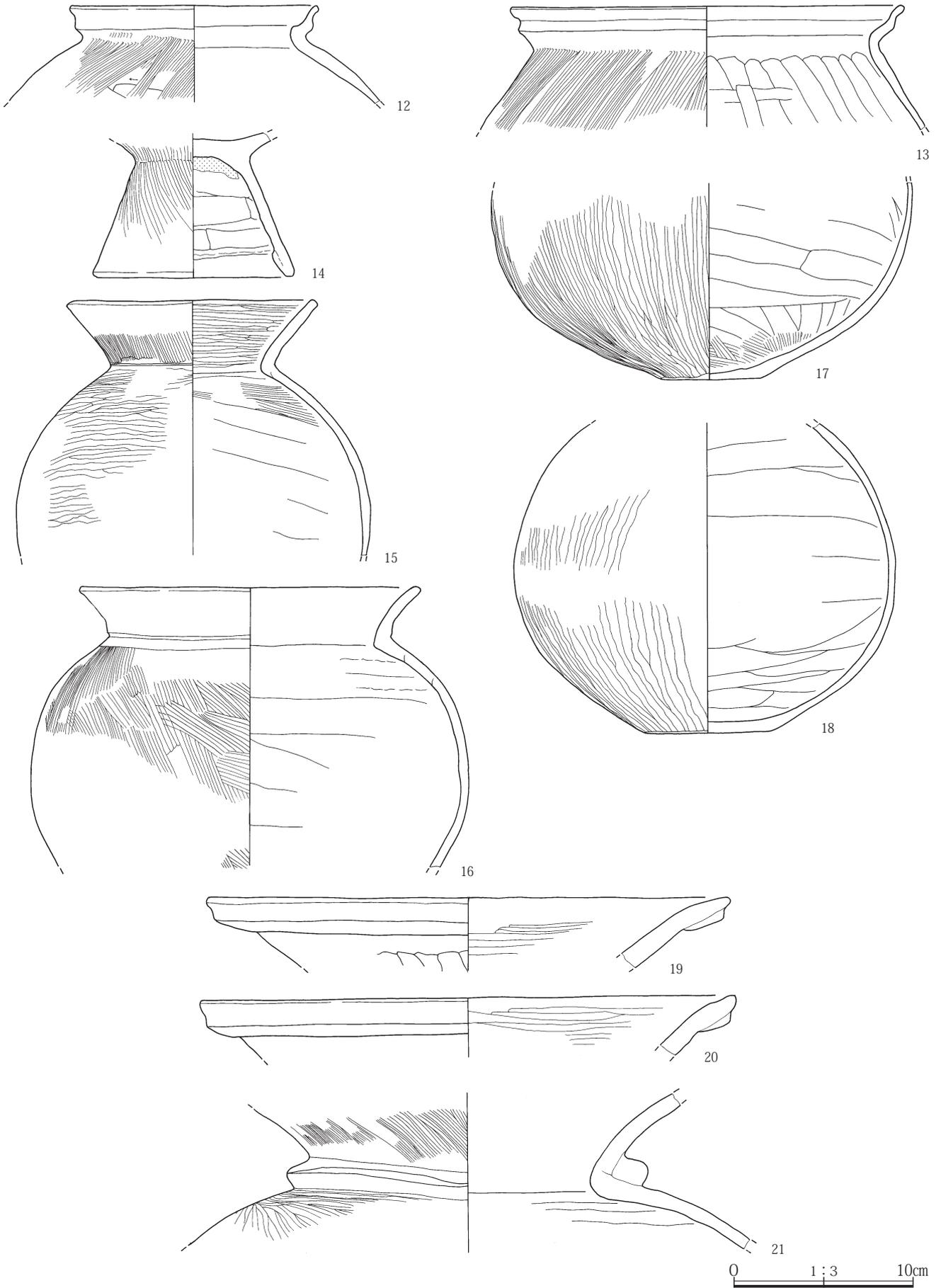
第55図 5区1号土坑出土遺物



第56図 2区9号土坑

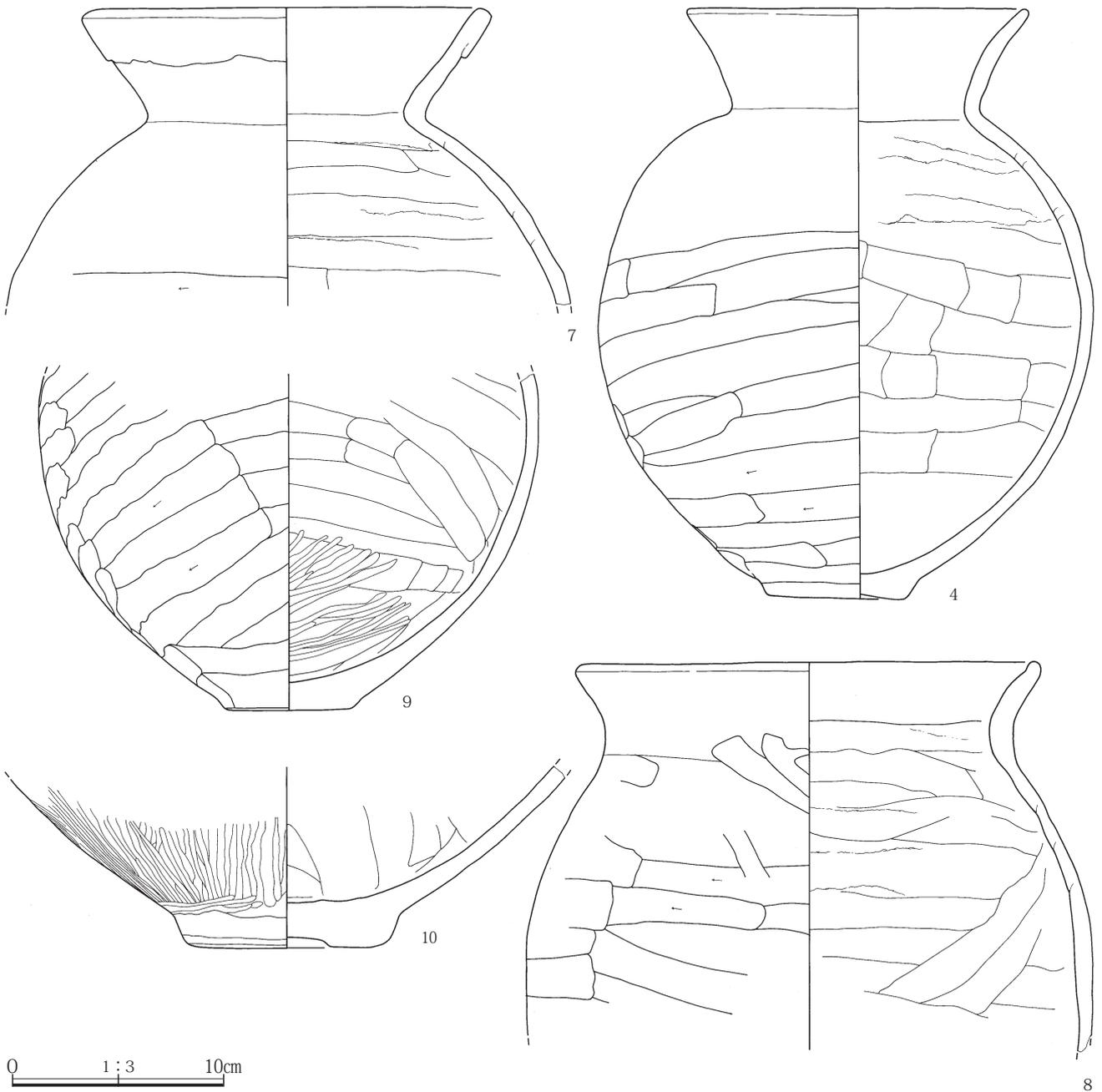


第57図 2区9号土坑出土遺物(1)

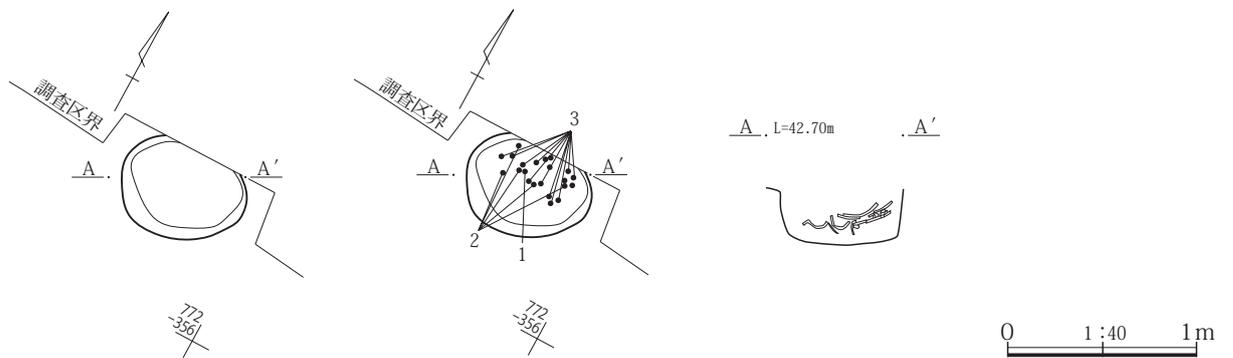


第58图 2区9号土坑出土遺物(2)

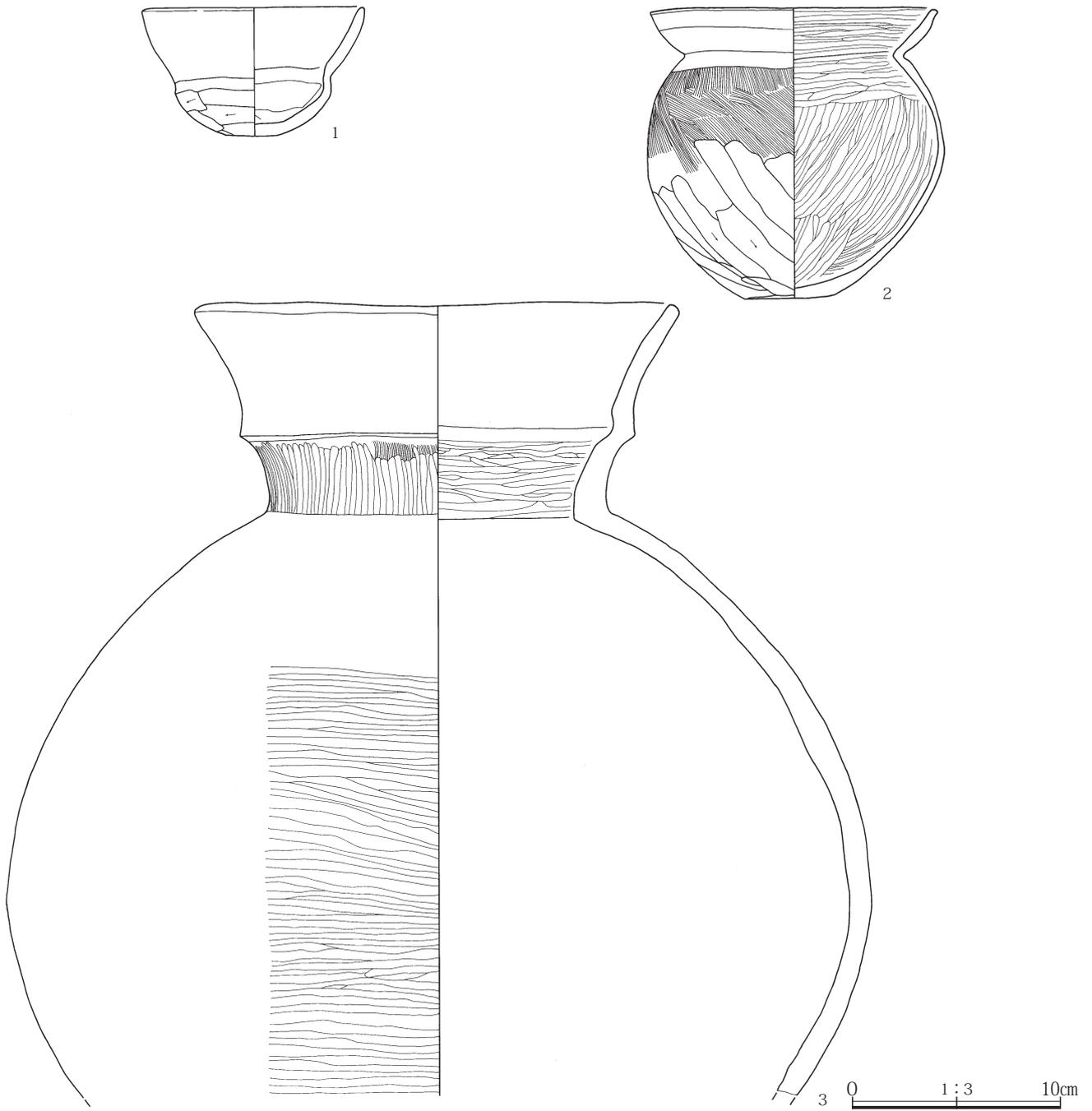
0 1:3 10cm



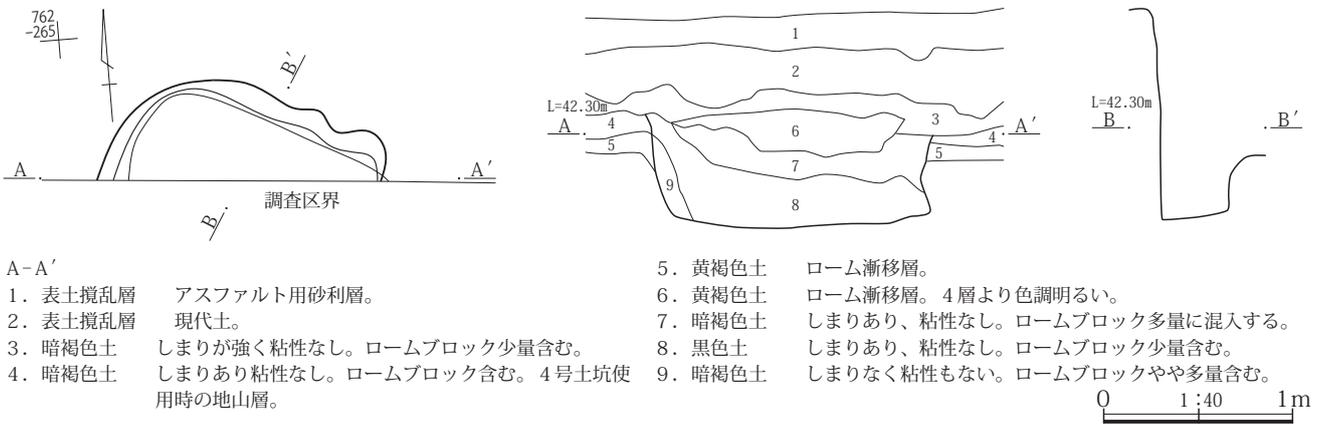
第61図 5区10号土坑出土遺物(2)



第62図 1区11号土坑



第63図 1区11号土坑出土遺物

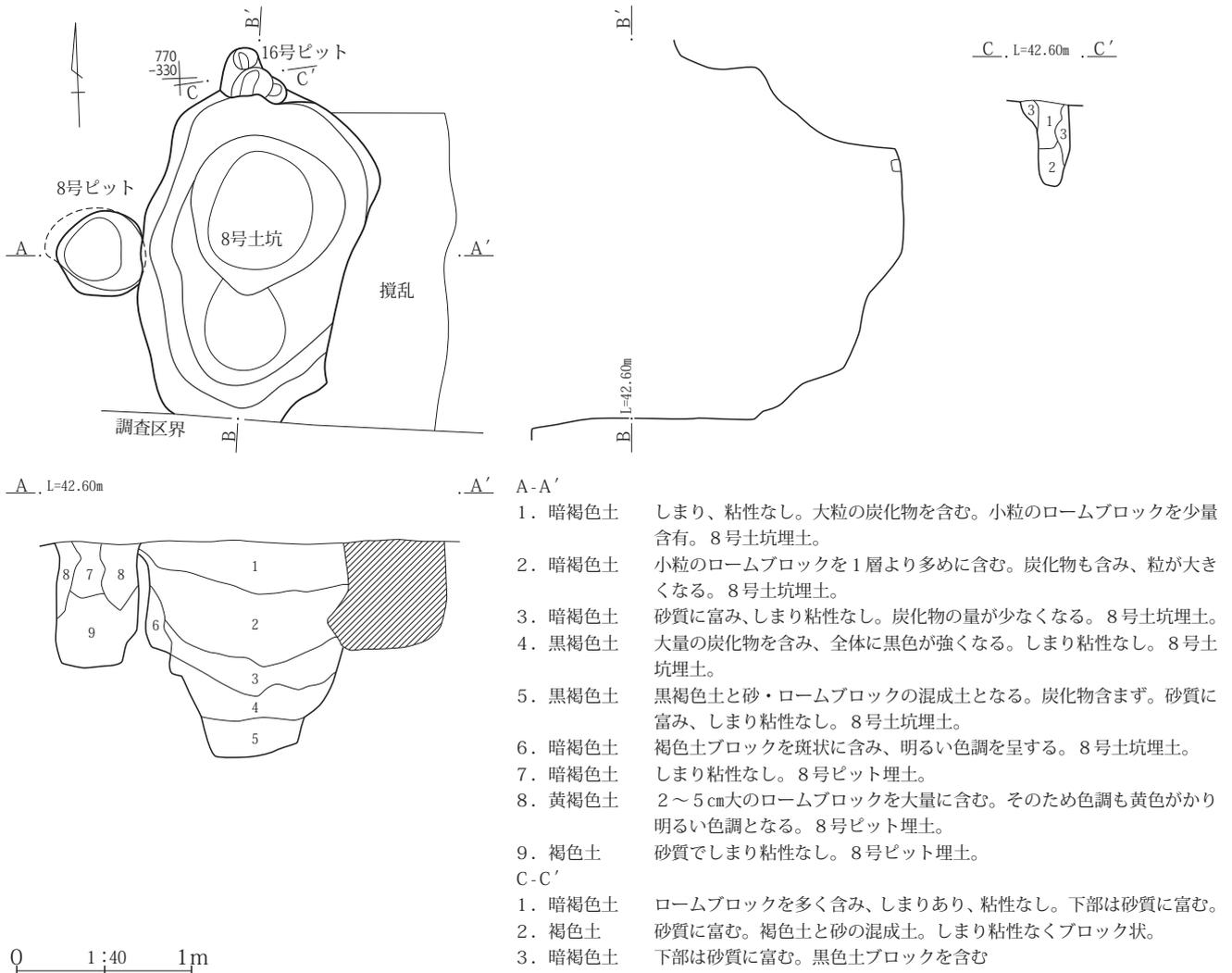


A-A'

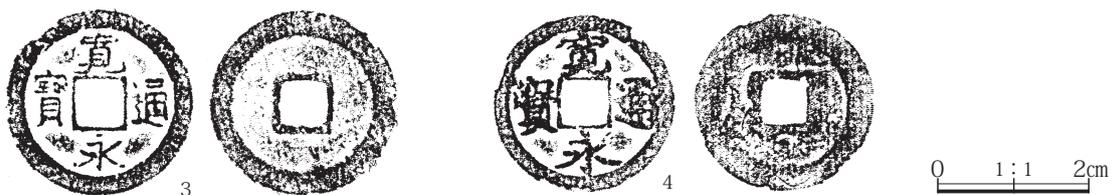
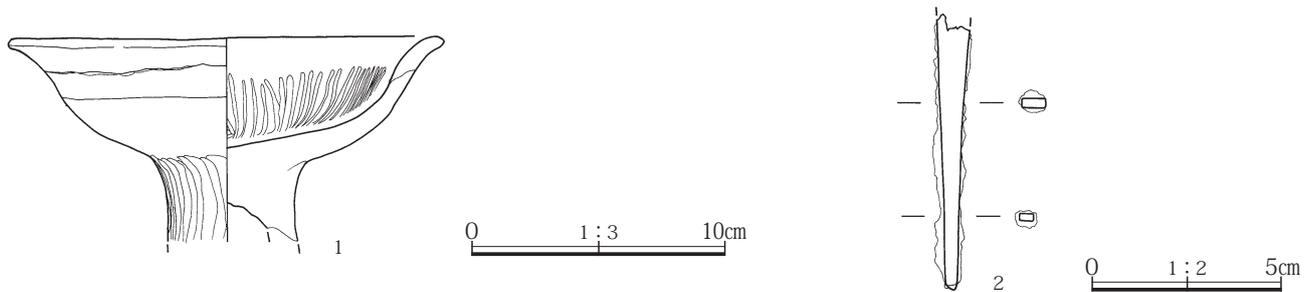
- 1. 表土攪乱層 アスファルト用砂利層。
- 2. 表土攪乱層 現代土。
- 3. 暗褐色土 しまりが強く粘性なし。ロームブロック少量含む。
- 4. 暗褐色土 しまりあり粘性なし。ロームブロック含む。4号土坑使用時の地山層。

- 5. 黄褐色土 ローム漸移層。
- 6. 黄褐色土 ローム漸移層。4層より色調明るい。
- 7. 暗褐色土 しまりあり、粘性なし。ロームブロック多量に混入する。
- 8. 黒色土 しまりあり、粘性なし。ロームブロック少量含む。
- 9. 暗褐色土 しまりなく粘性もない。ロームブロックやや多量含む。

第64図 4区4号土坑



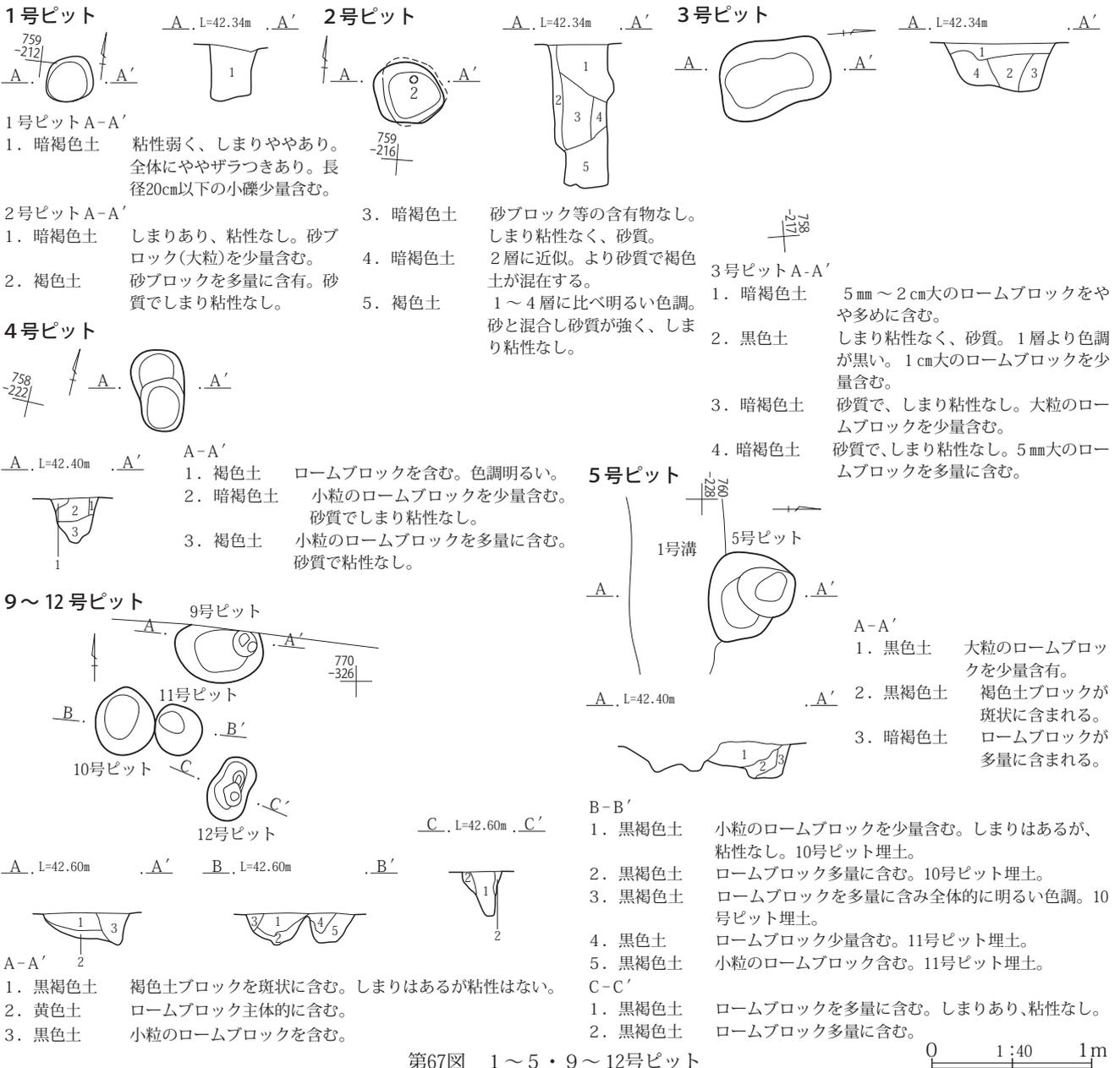
第65図 2区8号土坑、8・16号ピット



第66図 2区8号土坑出土遺物

第7表 浜町古墳群ピット一覧

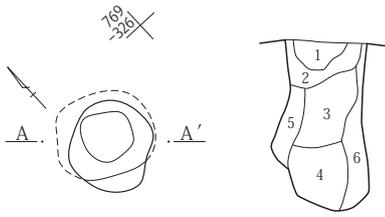
遺構名称	長軸方位	形状	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
1号ピット	N-8°-W	隅丸方形	759-212	30	29	35	土師器80g出土
2号ピット	N-19°-W	不整形	759-216	40	38	88	土師器480g出土
3号ピット	N-13°-W	不整形	758-217	68	43	30	土師器35g出土
4号ピット	N-17°-W	不整形	758-222	51	27	29	土師器30g出土
5号ピット	N-67°-W	不整形	760-228	59	51	22	土師器65g出土
8号ピット	N-39°-E	不整形	770-330	52	50	77	
9号ピット	N-74°-W	長円形	770-326	56	(35)	16	
10号ピット	N-3°-E	長円形	770-326	43	37	20	
11号ピット	N-15°-W	長円形	770-326	33	29	28	
12号ピット	N-31°-E	長円形	770-326	41	24	28	
13号ピット	N-60°-E	不整形	769-326	47	40	117	
14号ピット	N-84°-W	不整形	768-327	52	(23)	96	
15号ピット	N-72°-W	長円形	769-326	44	41	23	
16号ピット	N-2°-W	不整形	770-330	(28)	22	52	
17号ピット	N-13°-E	不整形	769-325	44	(42)	57	
18号ピット	N-74°-E	隅丸方形	769-318	44	43	45	土師器60g出土
19号ピット	N-16°-W	長円形	769-318	84	66	44	
20号ピット	N-40°-W	長円形	769-318	51	47	72	土師器210g出土



13号ピット

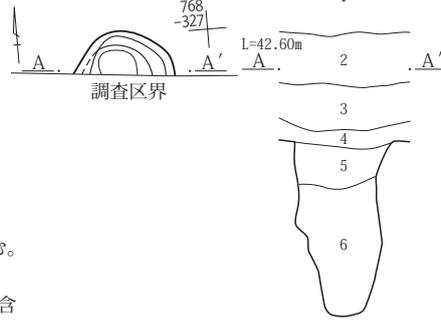
A, L=42.60m

A' 14号ピット



A-A'

1. 黒色土 小粒のロームブロックを少量含む。砂質で、しまり粘性なし。
2. 黒褐色土 1~5cm大のロームブロックを含む。砂質でしまり、粘性なし。
3. 黒色土 ロームブロックを若干含む。砂質でしまり、粘性なし。
4. 黒色土 砂質が強く、しまり粘性なし。
5. 黒色土 1~3cm大のロームブロックを若干量まんべんなく含む。
6. 黒褐色土 小粒のロームブロックを含み全体的に明るい色調を呈する。砂質でしまり、粘性なし。



A-A'

1. 表土攪乱層
2. 旧表土 暗褐色を呈し、小砂利を含む。
3. 暗褐色土 砂質でしまり、粘性なし。小粒のロームブロックを少量含む。10号溝埋土。
4. 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。同時に砂も含み、砂質に富む。しまり粘性なし。10号溝埋土。
5. 暗褐色土 砂質でしまり、粘性なし。0.5~2cm大のロームブロックをやや多めに含む。
6. 暗褐色土 砂質でしまり粘性なし。1~3cm大のロームブロックを含有する。

15号ピット

A, L=42.60m

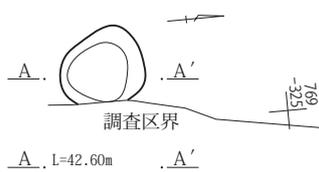


A-A'

1. 黒褐色土 砂質でしまり、粘性なし。ロームを斑状に含む。
2. 黒褐色土 1層より黒味が強い。
3. 褐色土 しまりが強い褐色土

18~20号ピット

17号ピット



17号ピット

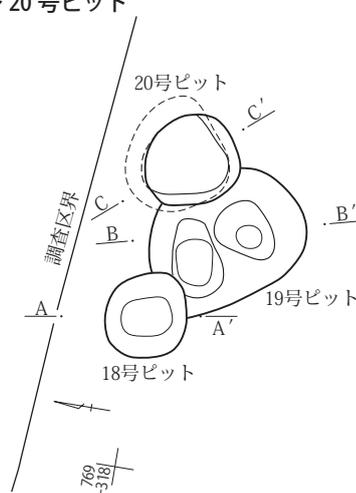
A-A'

1. 暗褐色土 2cm大のロームブロックを含有。しまりあり、やや粘性あり。
2. 黄褐色土 5~7cm大のロームブロックを多量に含み、色調も黄色味が強い。しまり粘性あり。
3. 暗褐色土 砂質で、小粒のロームブロックを少量含む。しまりあり、やや粘性あり。
4. 暗褐色土 3層と比べより砂質に富む。しまり粘性なし。

18~20号ピット

A-A'

1. 暗褐色土 しまりあり、粘性なし。ロームブロック多量に含む。
2. 黒褐色土 砂質が強く、しまり粘性なし。下部砂層。



A, L=42.20m

B, L=42.20m

C, L=42.20m

B-B'

C-C'

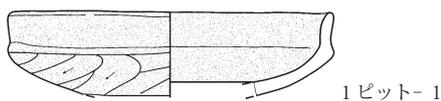
A-A'

B-B'

C-C'

第68図 13~15・17~20号ピット

0 1:40 1m



1ピット-1

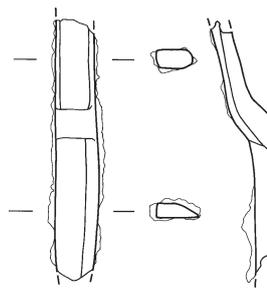


2ピット-1



2ピット-2

0 1:3 10cm



2ピット-3

0 1:2 5cm

第69図 1・2号ピット出土遺物

3. 溝

溝は、11条を調査した。調査区別では1区で1条・2区で2条・3区で5条・4区で1条・5区で2条である。時代別では古代と考えられるが詳細不明の溝4条・古墳時代2条・奈良平安時代1条・近世1条・不明3条である。

4区1号溝(第70図、PL.14)

位置 X=32757～32760、Y=-41230～-41215 4区東端から5区にかけて貫通している。

形状・規模 全長は(19.8)mである。溝の幅は、上端0.92m～0.30m・下端0.62m～0.10m・深さ0.25m～0.05mである。皿状を呈している。東から西に勾配がついており比高差は0.10m、勾配率は0.5%である。

走行方位 N-87°-W

重複 2号ピット及び5号ピット

埋没土 ロームブロックを含み、人為的な埋没と考えられる。

出土遺物 土師器片225g・須恵器片10gが出土した。小片かつ器面磨滅が激しいため、図化に至らなかった。古代のものであるが、帰属時代は特定できない。

5区2号溝(第71・74図、PL.14・23)

位置 X=32753～32758、Y=-41225～-41215 5区北側に位置し、調査区を北東から南西にかけて貫通している。溝両端はそれぞれ調査区外へと続いている。

形状・規模 全長は(17.6)mである。溝の幅は、上端0.88m～0.28m・下端0.42m～0.17m・深さ0.46m～0.07mである。逆三角形形状を呈している。北東から南西に勾配がついており比高差は0.30m、勾配率は1.7%である。

走行方位 N-76°-E

重複 なし

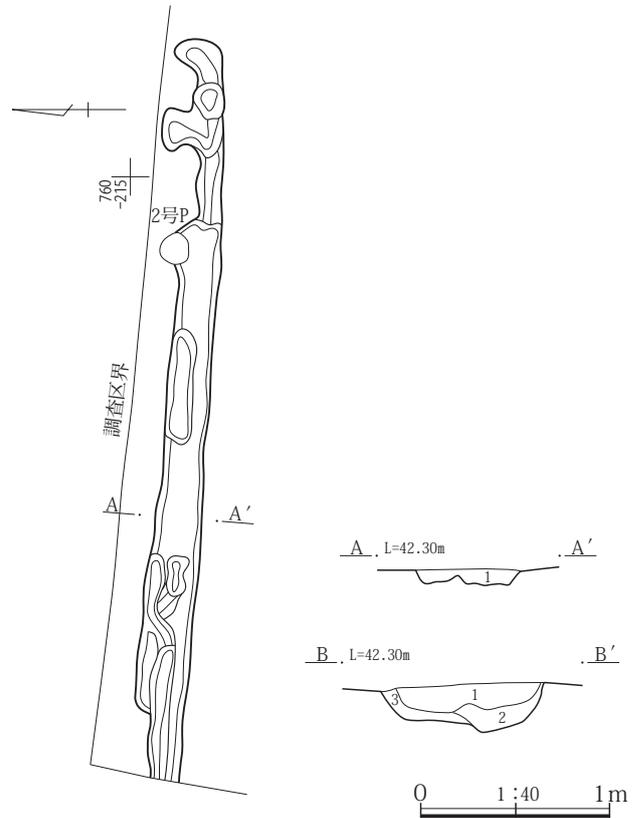
溝埋土 上層はロームブロックを含み、人為的な埋没と考えられる。下層は砂質土であり、水性堆積の可能性が考えられる。

出土遺物 土師器1280g・須恵器片65gを出土した。土師器高杯1点を図示した。高杯は古墳時代中期の特徴を有していた。獣骨1点が溝埋土より出土したが、同定の結果(第4章)、ウマの右下顎第3後臼歯であることがわかった。

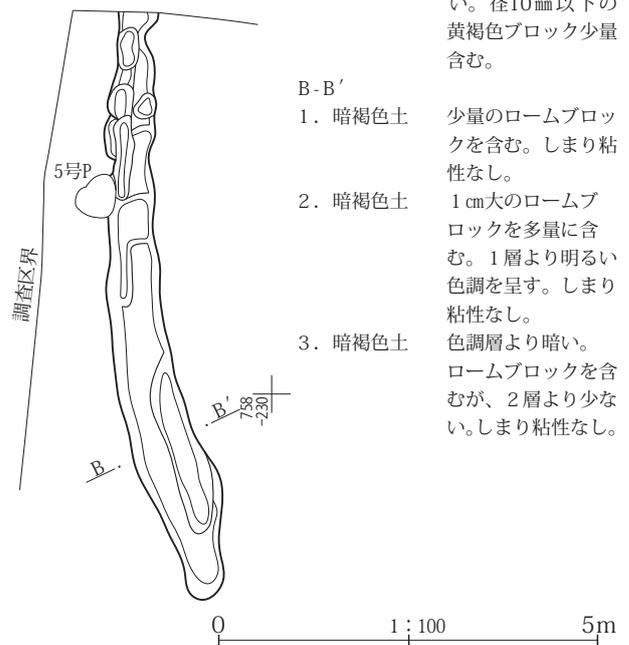
所見 出土遺物の特徴から、古墳時代中期の溝であると考えられる。埋没土から水流の痕跡が想定できるが、溝の用途は不明である。

3区3号溝(第72図、PL.14)

位置 X=32762、Y=-41280 3区東寄りに位置し、



- A-A'
1. 暗褐色土 粘性弱く、しまり強い。径10mm以下の黄褐色ブロック少量含む。
- B-B'
1. 暗褐色土 少量のロームブロックを含む。しまり粘性なし。
 2. 暗褐色土 1cm大のロームブロックを多量に含む。1層より明るい色調を呈す。しまり粘性なし。
 3. 暗褐色土 色調層より暗い。ロームブロックを含むが、2層より少ない。しまり粘性なし。



第70図 4区1号溝

調査区を北西から南東に貫通している。

形状・規模 全長は(13.8)mである。溝の幅は、上端1.25m～0.70m・下端0.50m～0.30m・深さ0.25m～0.04mである。逆台形状を呈している。北西から南東に勾配がついており比高差は0.50m、勾配率は3.6%である。

走行方位 N-69°-W

重複 掘り直した数条の溝で構成される。

埋没土 ロームブロックを含み、人為的に埋没させたと考えられる。

出土遺物 土師器130g・須恵器片10gを出土した。小片かつ器面磨滅が激しいため、図化に至らなかった。古代のものであるが、帰属時代は特定できない。

3区4号溝(第72・74図、PL.14・23)

位置 X=32762～32770、Y=-41280～-41320 3区を西から東に貫通している。

形状・規模 全長は(43.5)mである。溝の幅は、上端1.40m～0.42m・下端0.95m～0.30m・深さ0.50m～0.08mである。逆台形状を呈している。西から東に勾配がついており比高差は0.20m、勾配率は0.5%である。

走行方位 N-69°-W

重複 溝中央で5号溝と、溝西部で1号住居と重複している。土層(第72図C-C')から5号溝より4号溝の方が新しい。重複状況・出土遺物から1号住居より4号溝の方が新しい。

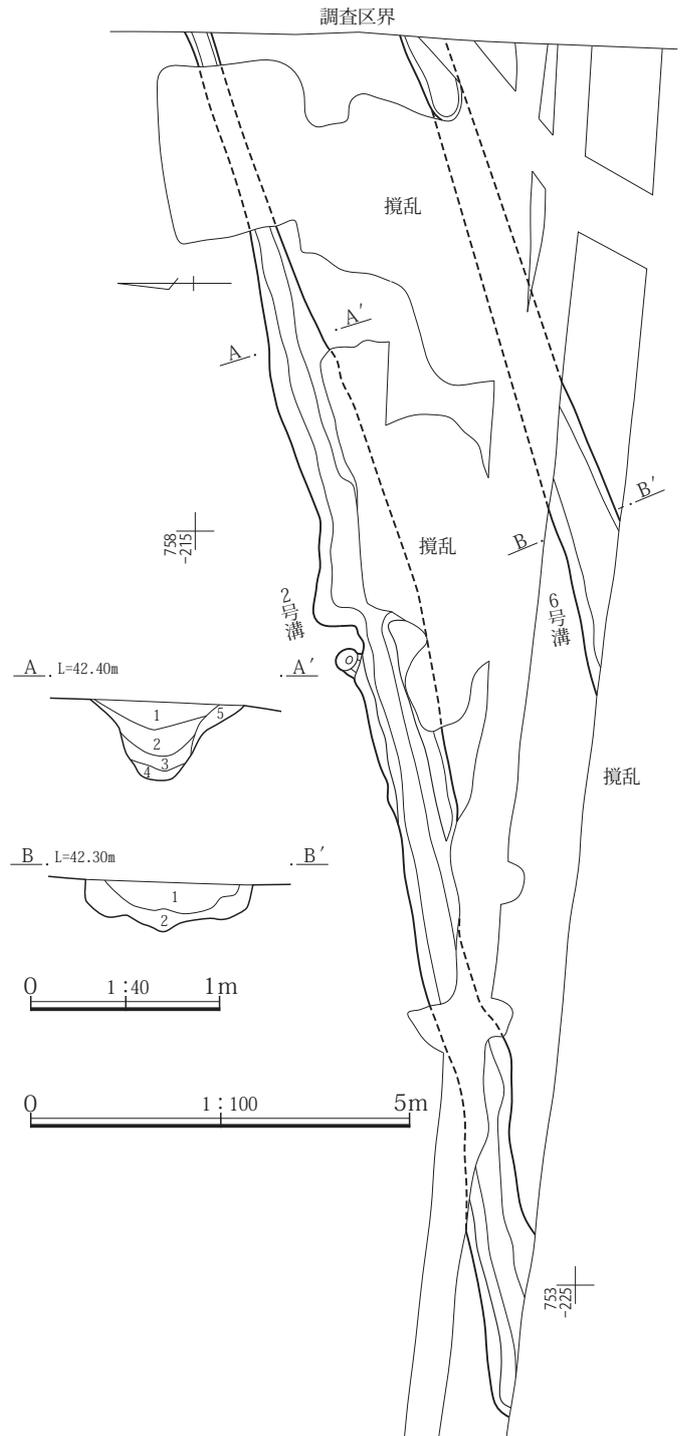
埋没土 ロームブロックを含み、人為的に埋没させたと考えられる。

出土遺物 土師器片420g・須恵器90g・肥前陶磁器・瀬戸美濃陶器・堺明石陶器・鉄器が出土した。土師器及び須恵器は小片かつ器面磨滅が激しいため、図化に至らなかった。肥前陶器1点・肥前磁器2点・瀬戸・美濃陶器1点・堺・明石陶器1点・鉄器刀子1点を図示した。陶磁器はいずれも近世のものである。

所見 出土した陶磁器から近代の溝と考えられる。古代の土師器・須恵器が出土したが、器面磨滅が激しく、流れ込んだものとみられる。

3区5号溝(第72図、PL.14)

位置 X=32770、Y=-41300 3区中央部を南北に貫通している。



- A-A'
1. 暗褐色土 しまりあり粘性なし。5mm～2cm大のロームブロックを少量含む。
 2. 暗褐色土 砂質で、しまり粘性なし。小粒のロームブロックを少量含む。
 3. 暗褐色土 ロームブロックを含まない。しまり粘性なし。壁面は砂となっており、その砂を混入するため砂質。
 4. 暗褐色土 壁面の砂を多量に含み、砂質で粘性なし。
 5. 黄褐色土 1・2層よりやや黄色がかり、5mm大のロームブロックを含む。
- B-B'
1. 暗褐色土 小粒のロームブロックを少量含む。砂質でしまり粘性なし。
 2. 暗褐色土 1層より明るい色調で同じく砂質でしまり、粘性に欠ける。ブロック等の混入なく均一な土層。

第71図 5区2・6号溝

形状・規模 全長は(2.7)mである。溝の幅は、上端1.35m～1.30m・下端0.70m～0.40m・深さ0.47m～0.37mである。逆台形状を呈している。北から南に勾配がついており比高差は0.05m、勾配率は1.9%である。

走行方位 N-10°-E

重複 溝北側で4号溝と重複している。土層(第72図C-C')から5号溝より4号溝の方が新しい。

埋没土 ロームブロックを含み、人為的に埋没させたと考えられる。

出土遺物 土師器片70gが出土した。小片かつ器面磨滅が激しいため、図化に至らなかった。古代のものであるが、帰属時代は特定できない。

5区6号溝(第71・74図、PL.14・23)

位置 X=32755、Y=-41215 5区南東部分にて、調査区を北東から南西にかけて貫通している。溝両端はそれぞれ調査区外へと続いている。

形状・規模 全長は(7.4)mである。溝の幅は、上端0.85m～(0.50)m・下端0.60m～0.34m・深さ0.27m～0.07mである。皿状を呈している。東から西に勾配がついており比高差は0.17m、勾配率は2.3%である。

走行方位 N-70°-E

重複 なし

埋没土 ロームブロックを含み、人為的に埋没させたと考えられる。

出土遺物 土師器片180gを出土した。小型甕1を図化したが、器面磨滅が激しい。小型甕は古墳時代のものと考えられる。その他の土師器片も古墳時代のものとみられる。

所見 古墳時代の溝と考えられる。用途・機能は不明である。

3区7号溝(第72図、PL.14)

位置 X=32770、Y=-41320 3区西端にて、調査区を南西から北東にかけて貫通している。溝両端はそれぞれ調査区外へと続いている。

形状・規模 全長は(6.6)mである。溝の幅は、上端0.58m～0.38m・下端0.40m～0.24m・深さ0.14m～0.04mである。皿状を呈しているが下底は凹凸がある。西から東に勾配がついており比高差は0.13m、勾配率は2.0%

である。

走行方位 N-81°-E

重複 8号溝と重複している。土層(第72図E-E')より7号溝の方が新しい。

埋没土 ロームブロックを含み、人為的に埋没させたと考えられる。

出土遺物 なし

所見 遺物が出土せず、帰属時期は不明である。

3区8号溝(第72図、PL.15)

位置 X=32770、Y=-41320 3区西端にて、調査区を南西から北東にかけて貫通している。溝北半分及び両端はそれぞれ調査区外へと続いている。

形状・規模 全長は(3.1)mである。溝の幅は、上端(1.26)m・下端(1.08)m・深さ0.14m～0.08mである。逆台形状を呈すると考えられる。東から西に勾配がついており比高差は0.08m、勾配率は2.6%である。

走行方位 N-73°-E

重複 7号溝と重複している。土層(第72図E-E')より7号溝の方が新しい。

埋没土 ロームブロックを含み、人為的に埋没させたと考えられる。

出土遺物 なし

所見 遺物が出土せず、帰属時期は不明である。

2区9号溝(第73図、PL.15)

位置 X=32767、Y=-41328 2区南側を東西に貫通している。溝両端はそれぞれ調査区外へと続いている。

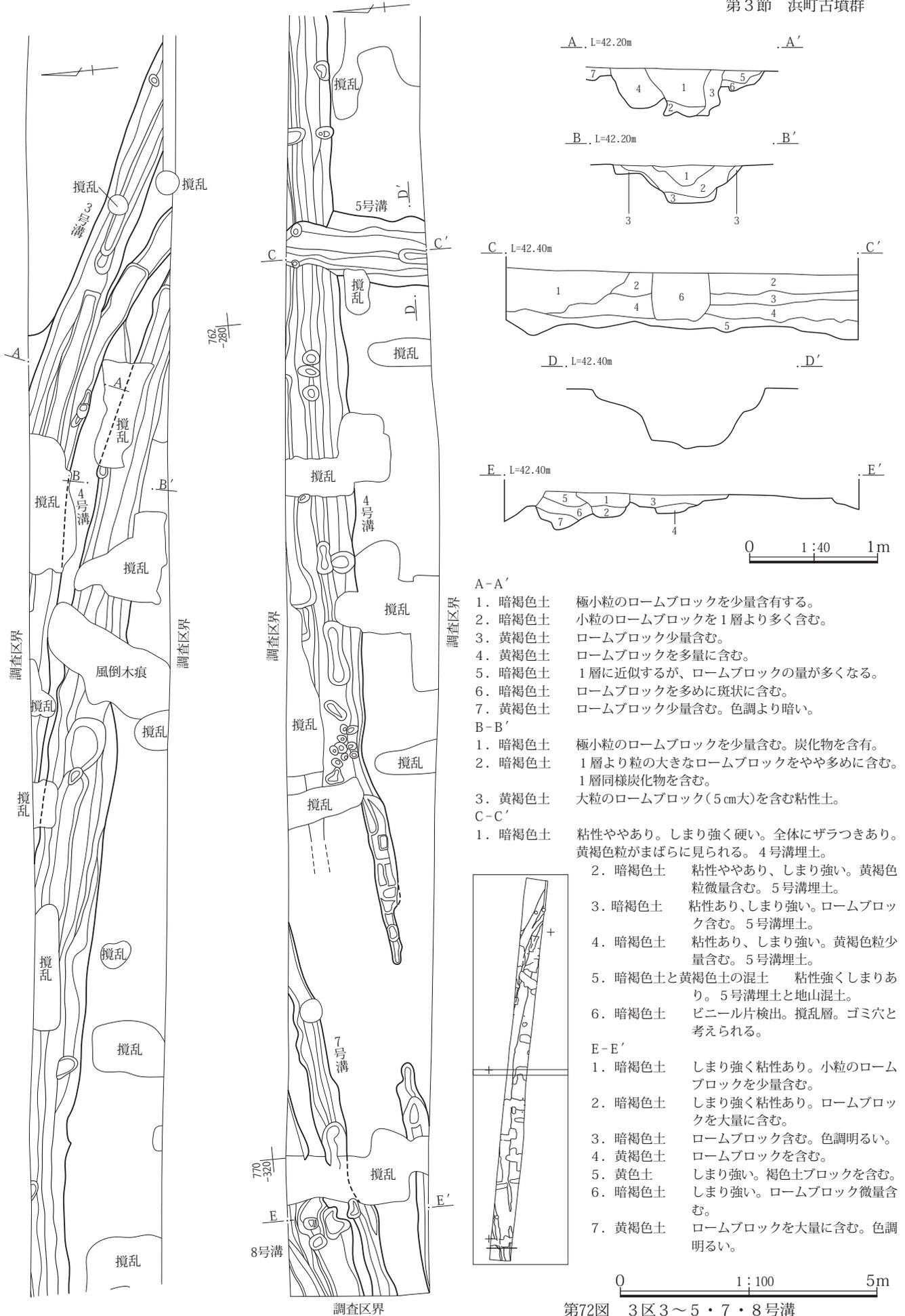
形状・規模 全長は(11.4)mである。溝の幅は、上端0.72m～0.36m・下端0.46m～0.21m・深さ0.23m～0.08mである。逆三角形形状を呈している。西から東に勾配がついており比高差は0.17m、勾配率は1.5%である。

走行方位 N-74°-W

重複 調査区中ほどで8号土坑と重複している。新旧関係は不明である。

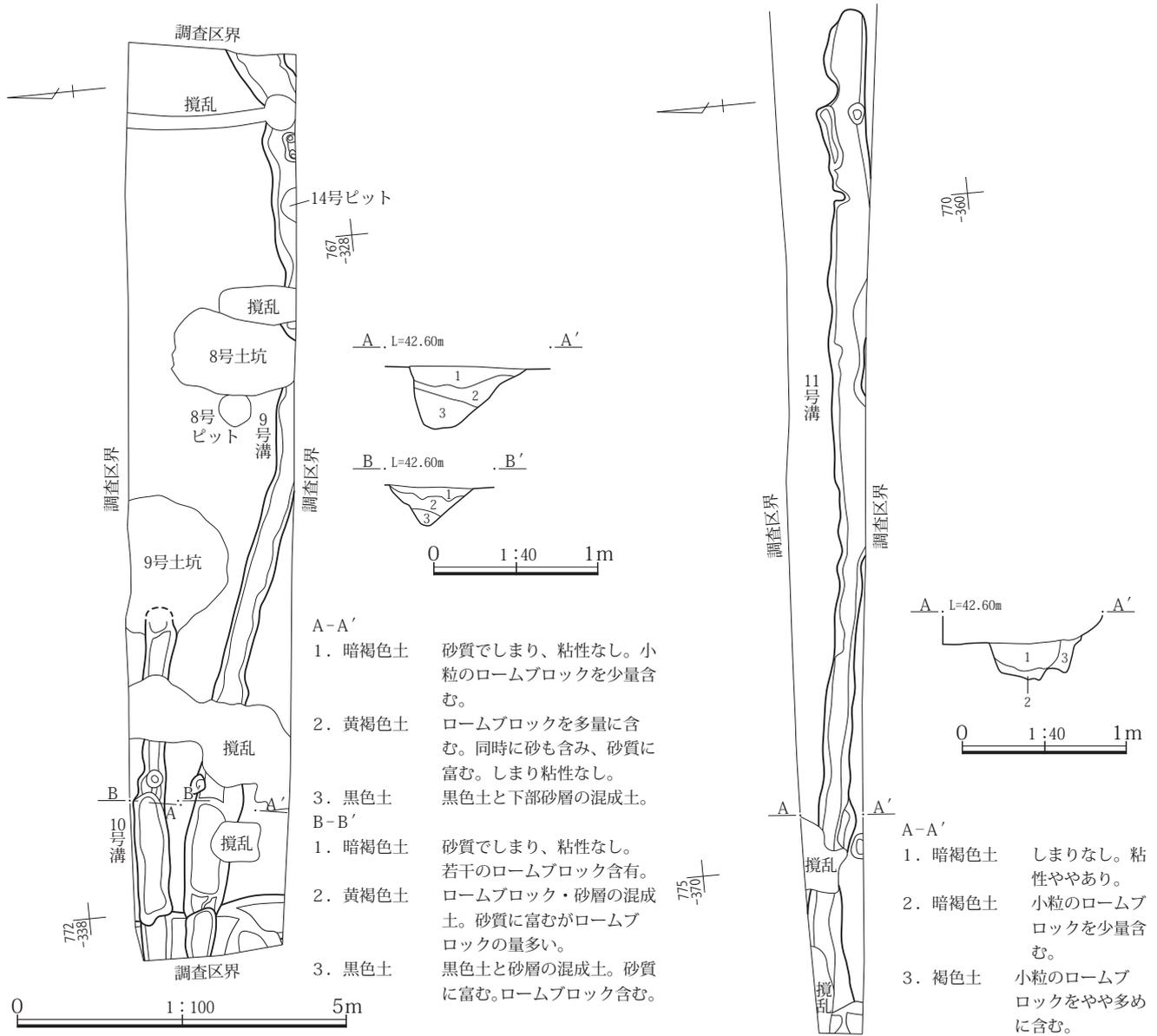
埋没土 ロームブロックを含み、人為的に埋没させたと考えられる。

出土遺物 土師器片135gが出土した。小片かつ器面磨滅が激しいため、図化に至らなかった。古代のものであるが、帰属時代は特定できない。



- A-A'
1. 暗褐色土 極小粒のロームブロックを少量含有する。
 2. 暗褐色土 小粒のロームブロックを1層より多く含む。
 3. 黄褐色土 ロームブロック少量含む。
 4. 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 5. 暗褐色土 1層に近似するが、ロームブロックの量が多くなる。
 6. 暗褐色土 ロームブロックを多めに斑状に含む。
 7. 黄褐色土 ロームブロック少量含む。色調より暗い。
- B-B'
1. 暗褐色土 極小粒のロームブロックを少量含む。炭化物を含有。
 2. 暗褐色土 1層より粒の大きなロームブロックをやや多めに含む。1層同様炭化物を含有。
 3. 黄褐色土 大粒のロームブロック(5cm大)を含む粘性土。
- C-C'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまり強く硬い。全体にザラつきあり。黄褐色粒がまばらに見られる。4号溝埋土。
 2. 暗褐色土 粘性ややあり、しまり強い。黄褐色粒微量含む。5号溝埋土。
 3. 暗褐色土 粘性あり、しまり強い。ロームブロック含む。5号溝埋土。
 4. 暗褐色土 粘性あり、しまり強い。黄褐色粒少量含む。5号溝埋土。
 5. 暗褐色土と黄褐色土の混土 粘性強くしまりあり。5号溝埋土と地山混土。
 6. 暗褐色土 ビニール片検出。攪乱層。ゴミ穴と考えられる。
- E-E'
1. 暗褐色土 しまり強く粘性あり。小粒のロームブロックを少量含む。
 2. 暗褐色土 しまり強く粘性あり。ロームブロックを大量に含む。
 3. 暗褐色土 ロームブロック含む。色調明るい。
 4. 黄褐色土 ロームブロックを含む。
 5. 黄色土 しまり強い。褐色土ブロックを含む。
 6. 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック微量含む。
 7. 黄褐色土 ロームブロックを大量に含む。色調明るい。

第72図 3区3・5・7・8号溝



第73図 9～11号溝

2区10号溝(第73図、PL.15)

位置 X=32772、Y=-41338 2区北側に位置し、溝西端は調査区西側の区外へと続いている。

形状・規模 全長は(5.4)mである。溝の幅は、上端0.52m～0.19m・下端0.36m～0.13m・深さ0.18m～0.06mである。逆三角形状を呈している。西から東に勾配がついており比高差は0.11m、勾配率は2.0%である。

走行方位 N-83°-W

重複 溝東端部で9号土坑と重複している。土層(第56図A-A')から10号溝の方が新しい。

埋没土 ロームブロックを含み、人為的に埋没させたと考えられる。

出土遺物 土師器片135gが出土した。小片かつ器面磨滅

が激しいため、図化に至らなかった。古代のものであるが、帰属時代は特定できない。

1区11号溝(第73・74図、PL.15・23)

位置 X=32770～32775、Y=-41360～-41370 1区南側に位置し調査区中央から西にかけて貫通している。溝西端は調査区西側の区外へと続いている。

形状・規模 全長は(15.7)mである。溝の幅は、上端0.64m～0.32m・下端0.46m～0.19m・深さ0.40m～0.05mである。皿状を呈しているが下底は凹凸がある。東から西に勾配がついており比高差は0.37m、勾配率は2.4%である。

走行方位 N-84°-W

重複 東から、4号住居・5号住居・6号住居と重複し

ている。出土遺物から、それぞれの住居より11号溝の方が新しい。

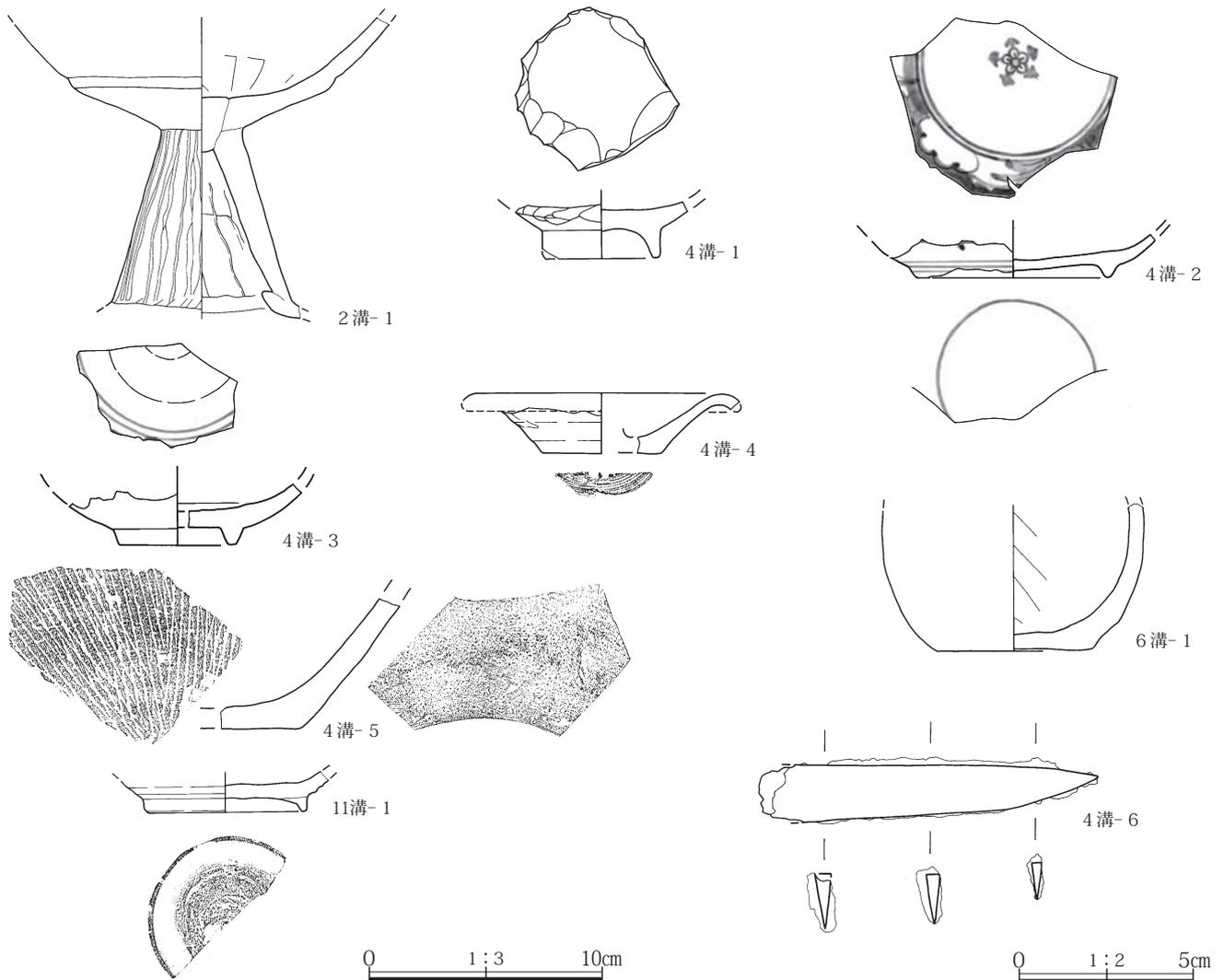
埋没土 ロームブロックを含み、人為的に埋没させたと考えられる。

出土遺物 土師器片620g・須恵器片50gが出土した。須恵器椀1点を図示した。須恵器椀は8世紀代の特徴を有している。

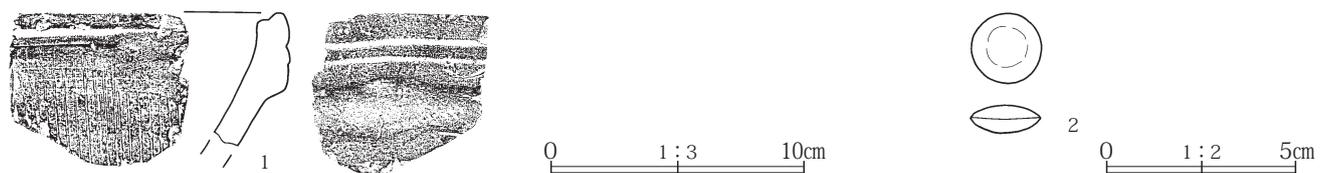
所見 遺物より奈良平安時代の溝と考えられる。

4. 遺構外出土遺物

浜町古墳群は遺構外出土遺物として、1区土師器大片1810g・土師器小片120g・須恵器大片25g・須恵器小片25g・陶磁器片280g・2区土師器大片390g・3区土師器大片200g・須恵器大片110g・4区土師器大片3240g・土師器小片70g・須恵器大片205g・須恵器小片10g・5区から土師器大片130g・土師器小片50gが出土した。そのうち堺・明石陶器すり鉢1点・在地系土器おはじき1点を図示した。(第75図、PL.23)すり鉢は近世のものであるがおはじきは時期不詳である。



第74図 2・4・6・11号溝出土遺物



第75図 浜町古墳群遺構外出土遺物

第4節 宮内遺跡

1. 土坑・ピット

土坑・ピットは、円形もしくは円形に準ずる形状を呈している遺構を土坑・ピットとした。規模の違いで名称を分けているが、形態・機能等に差がないと考えられるため、他遺跡同様同じ分類とする。土坑は23基・ピットは12基を調査した。土坑は中央部分を中心に分布していた。ピットも土坑と同様の分布状況であった。土坑・ピットの規模・形状等は第8・9表にまとめた通りである。伴出する遺物及び形状から時期・性格が推定できる土坑について詳述する。

3区1号土坑(第76～80図、PL.16・25～27)

位置 X=32740、Y=-41190 調査区中央部に位置する。

形状・規模 平面形状は長円形を呈する。長軸2.20m、短軸2.04mを測る。深さは1.33mであった。

主軸方位 N-76°-W

重複 19号土坑と重複しているが、土層(第76図A-A')より19号土坑の方が新しい。

土層 黄褐色ブロックを含み、人為的に埋め戻されたことが考えられる。

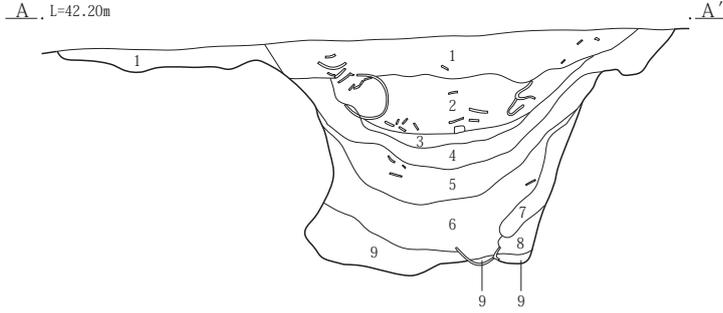
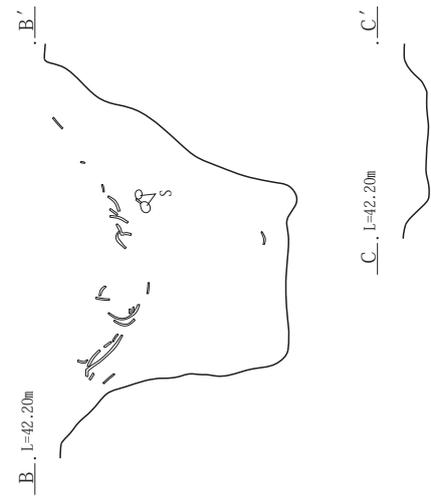
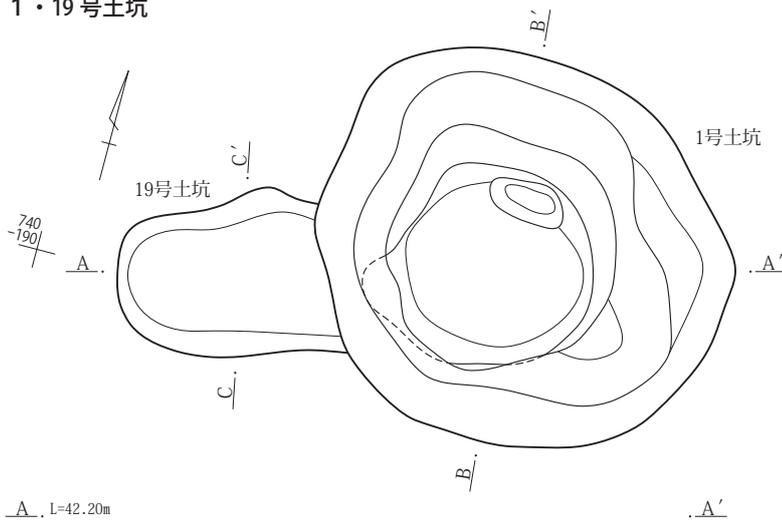
出土遺物 土師器大片8880g・土師器小片50gが出土している。高杯5点・鉢1点・埴4点・ミニチュア土器1点・小型壺4点・小型甕9点・壺3点・台付甕2点・甕16点を図示した。出土位置は底面直上及び底面から15cm未満、底面から30cm以上に分けられる。底面直上及び床上15cm未満の遺物は第77～80図11・19・20・43・44である。これらの遺物は古墳時代前期中葉の特徴を有している。それ以外の遺物は古墳時代前期後葉から中期初頭の特徴を有している。また、中層から獣骨が出土している。獣骨は、同定の結果(第4章)、中型動物の肢骨片である。

所見 出土遺物及び土層堆積状況から、この遺構は二期に分けられて使われたと考えられる。一時期目は古墳時代前期後葉である。一時期目として底部から出土した遺物は、甕が中心である。このことから埋納もしくは貯蔵する目的で遺構を使用していたことが考えられる。出土遺物が上層よりも少ないため、土器等の廃棄坑として使用されていた可能性は少ない。二時期目は古墳時代前期後葉から中期初頭の時期とみられる。土層断面図(第76図A-A')から6層上面を地山としていると考えられる。出土した遺物量より、土器を大量に廃棄した土坑であることが想定できる。

第8表 宮内遺跡土坑一覧

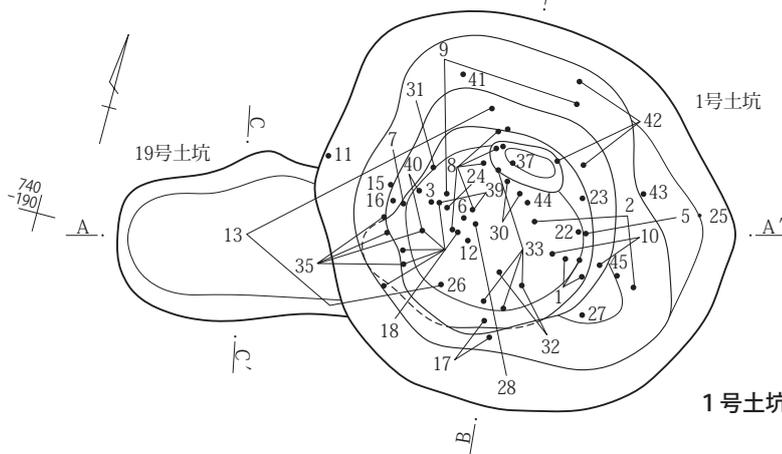
遺構名称	長軸方位	形状	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
1号土坑	N-76°-W	不整形	740-190	220	204	133	19号土坑と重複
2号土坑	N-10°-W	不整形	740-195	86	57	45	
3号土坑	N-10°-W	長円形	741-195	177	47	16	
4号土坑	N-4°-W	不整形	738-191	135	75	20	
5号土坑	N-59°-W	不整形	735-189	140	65	25	
6号土坑	N-5°-W	不整形	732-191	(44)	(39)	12	
7号土坑	N-14°-W	長円形	733-190	71	48	27	
8号土坑	N-17°-W	長円形	730-190	110	46	9	
9号土坑	N-36°-E	長円形	730-189	121	111	31	
10号土坑	N-75°-E	長円形	737-190	78	64	15	11号土坑と重複
11号土坑	N-66°-W	隅丸長方形	737-190	110	101	26	10号土坑と重複
12号土坑	N-77°-E	長円形	730-187	98	54	8	
13号土坑	N-88°-W	不整形	725-190	92	(49)	25	
14号土坑	N-45°-W	不整形	729-185	(144)	91	17	
15号土坑	N-9°-W	不整形	735-185	149	82	19	
16号土坑	N-2°-E	不整形	735-185	78	(45)	25	
17号土坑	N-90°	不整形	732-188	68	(31)	18	
18号土坑	N-89°-W	不整形	740-185	(59)	45	16	
19号土坑	N-65°-E	不整形	740-190	(110)	83	12	1号土坑と重複
20号土坑	N-9°-W	不整形	750-195	111	(24)	10	
21号土坑	N-58°-E	不整形	746-193	81	(54)	27	22号土坑と重複
22号土坑	—	円形	746-193	86	84	24	21号土坑と重複
23号土坑	N-79°-E	不整形	742-192	84	(57)	23	

1・19号土坑

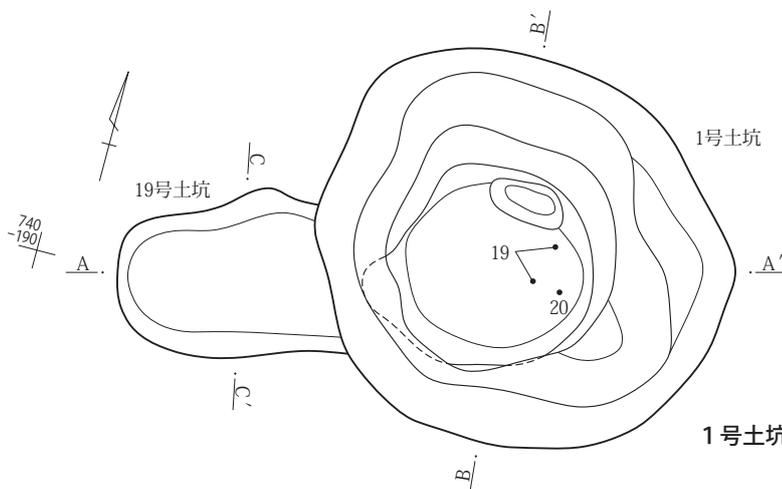


A-A'

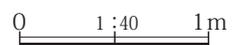
- 1. 黒色土 しまり粘性なし。炭化物を少量含む。
- 2. 黒褐色土 1層より褐色味の強くなる黒色土で、大量の炭化物を含む。しまりは強く粘性なし。色調は1層より暗い。
- 3. 黒色土 多量の炭化物を含む。炭化物は固形化しておらず、軟弱。
- 4. 暗褐色土 やや明るい色調の粘性土。
- 5. 暗褐色土 4層よりも黒い色調で、しまりはないが粘性あり。全体に砂質。
- 6. 暗褐色土 しまりなく、全体にボロボロしている。1~2cm大のロームブロックと、水の影響のためか鉄分凝集した赤くなった土を含む。
- 7. 暗褐色土 ロームブロックの量が多くなり、全体に明るい色調となる。
- 8. 黒褐色土 全体に黒色味の強い粘性土で、しまりもある。1~2cm大のロームブロックを含む。
- 9. 暗褐色土 6層と比べ黒色味を増す。ロームブロックの量が少なくなる。粘性しまりあり。



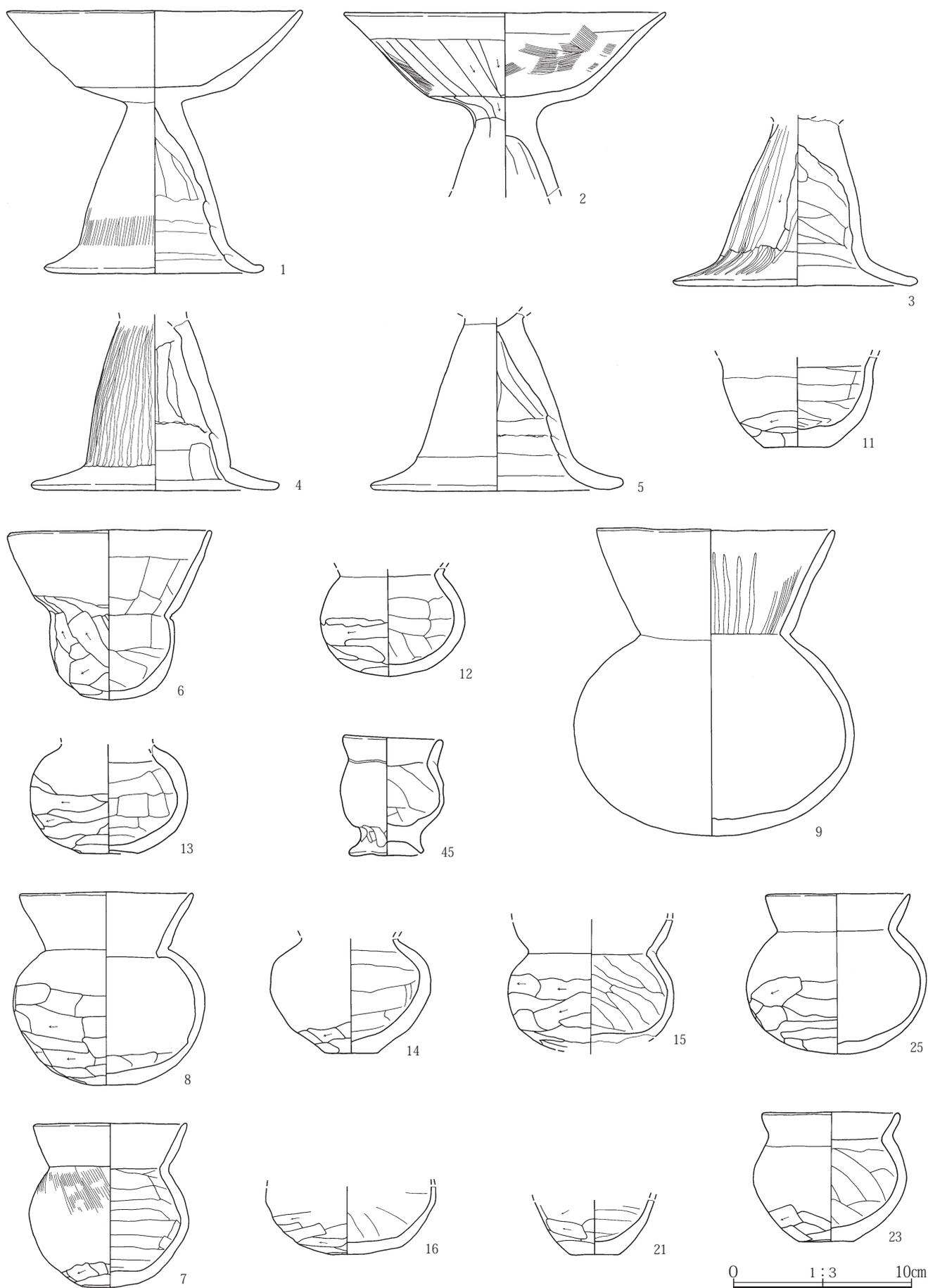
1号土坑上層出土遺物位置



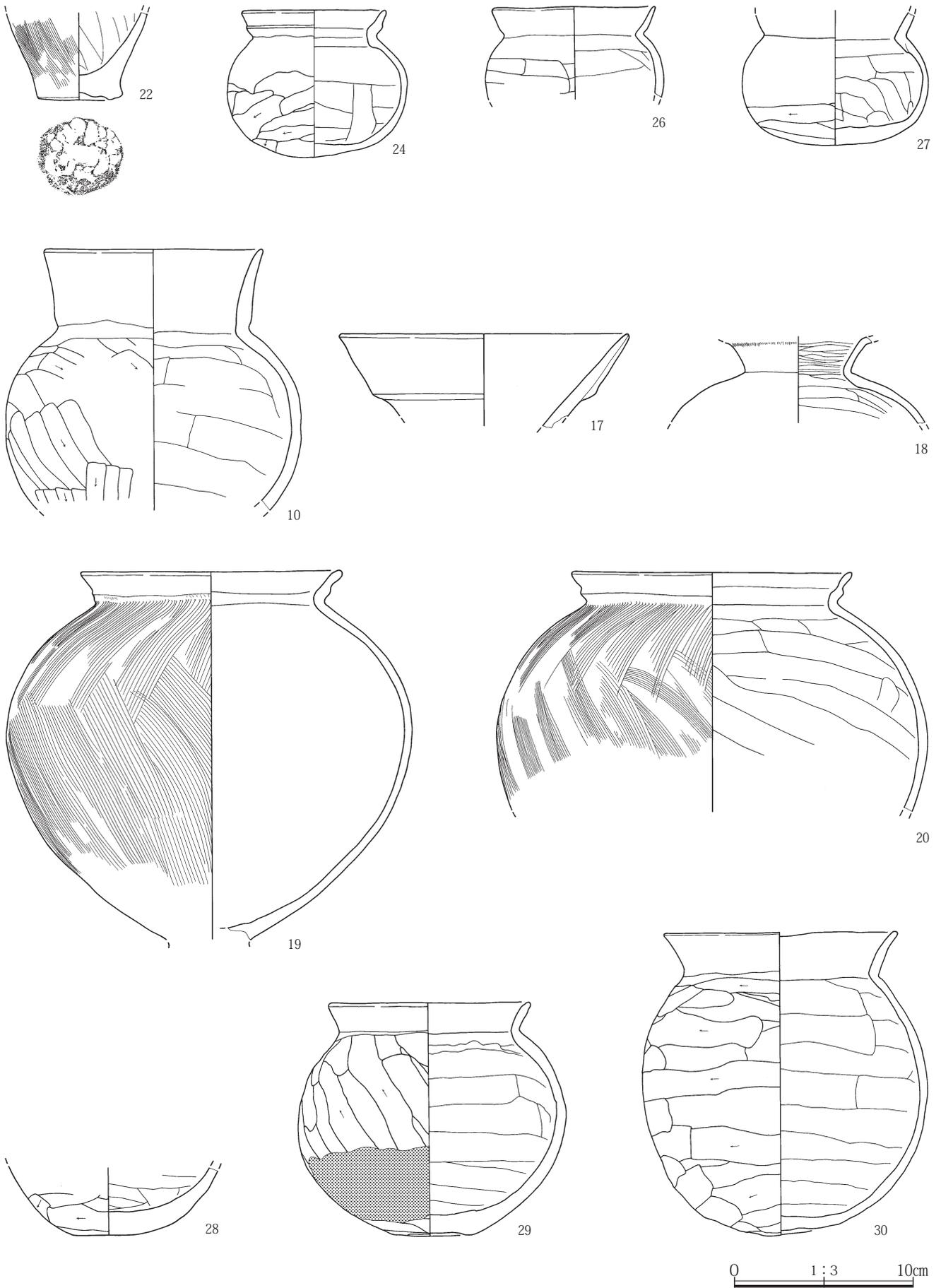
1号土坑下層出土遺物位置



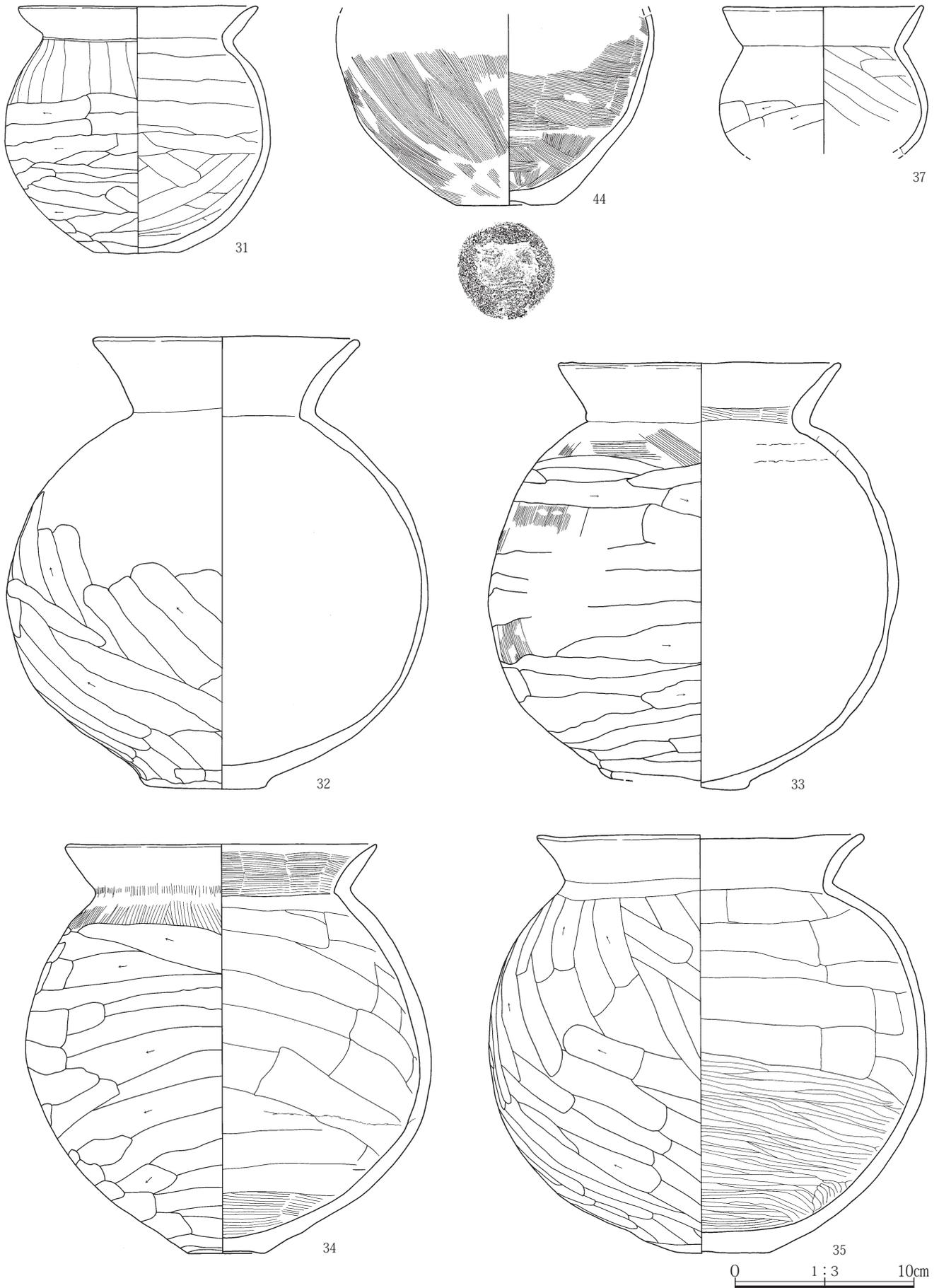
第76図 3区1・19号土坑



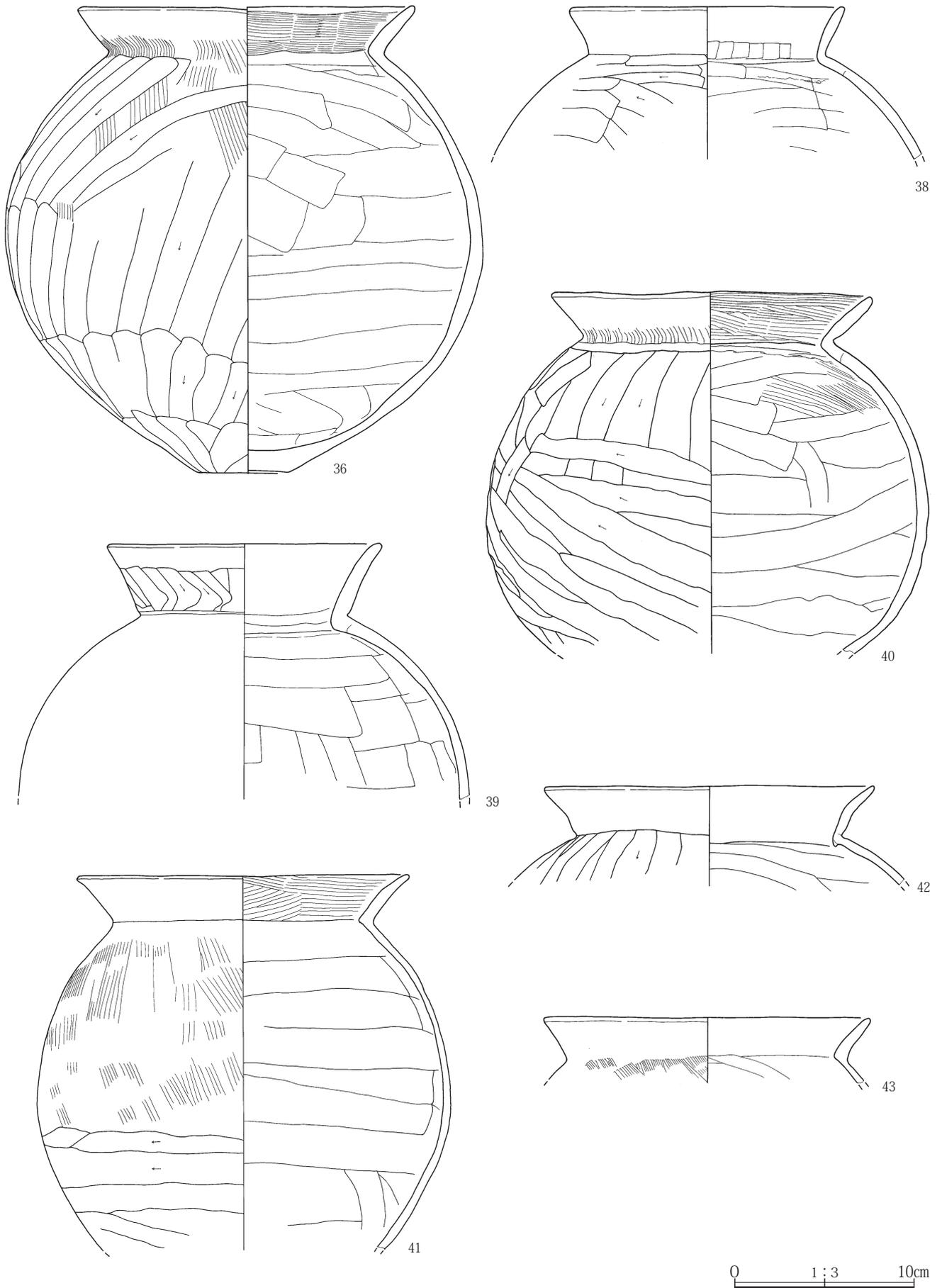
第77图 3区1号土坑出土遺物(1)



第78图 3区1号土坑出土遺物(2)

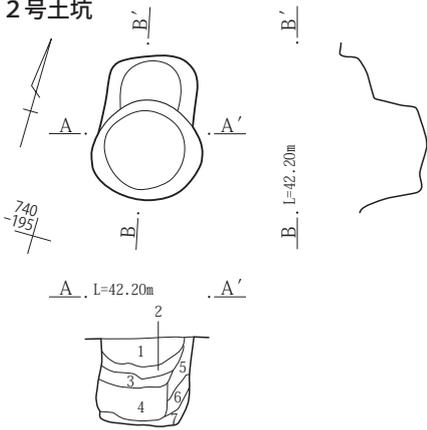


第79図 3区1号土坑出土遺物(3)



第80图 3区1号土坑出土遺物(4)

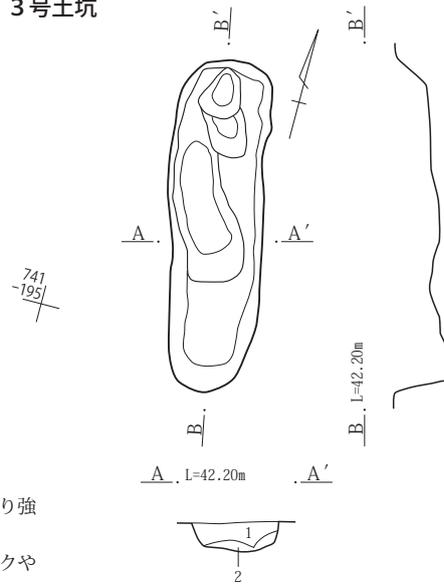
2号土坑



A-A'

1. 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強く粘性もある。
2. 黒褐色土 1層に近似するが、ロームブロックやや多くなる。
3. 黄褐色土 多量のロームブロックを含むため、全体に黄色が強くなる。
4. 黒色土 しまり粘性とも強い黒色土で、少量のロームブロックを含む。
5. 黄褐色土 大量の黒色土ブロック含む。
6. 黒褐色土 しまり粘性のない土で、根による攪乱と考えられる。
7. 黄褐色土 褐色土ブロック含む。

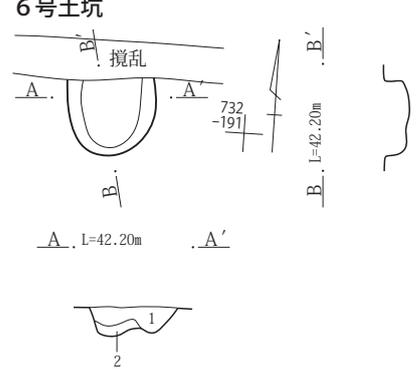
3号土坑



A-A'

1. 暗褐色土 大粒のロームブロックを含む。しまり粘性なし。
2. 黄褐色土 大量のロームブロックを含む。

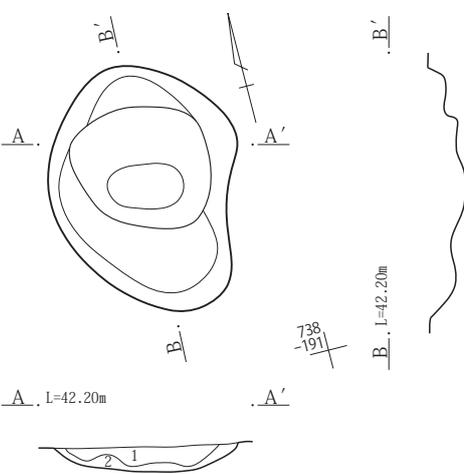
6号土坑



A-A'

1. 暗褐色土 大粒のロームブロックを混入。しまり粘性なし。
2. 黄褐色土 大量のロームブロックを混入する。

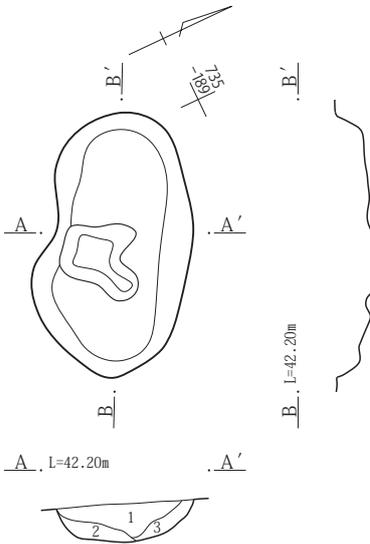
4号土坑



A-A'

1. 暗褐色土 1~2cm大のロームブロックを含む。しまり粘性なし。
2. 黄褐色土 ロームブロックを大量に含む。

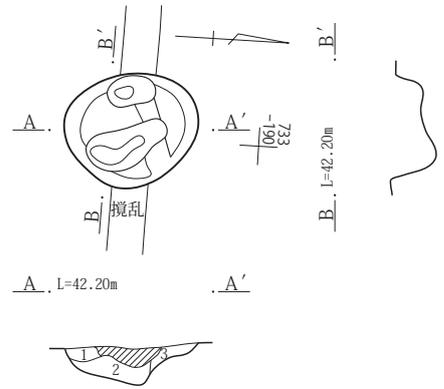
5号土坑



A-A'

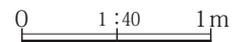
1. 暗褐色土 大粒のロームブロック混入。しまり粘性なし。
2. 暗褐色土 1層よりロームブロックの混入多い。しまり粘性なし。
3. 淡褐色土 小粒のロームブロックを少量含有し、全体的に明るい色調を呈する。しまり粘性なし。

7号土坑



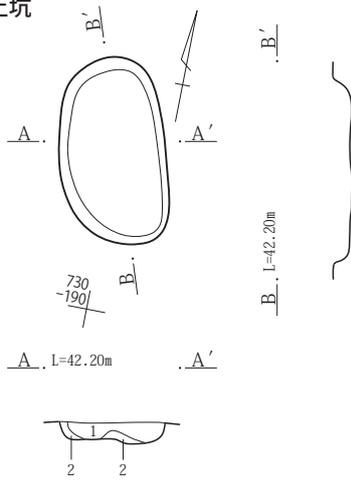
A-A'

1. 暗褐色土 1~3cm大のロームブロック混入。しまり粘性なし。
2. 暗褐色土 大量のロームブロックを混入。
3. 明褐色土 ローム主体で褐色土をブロック状に含む。



第81図 3区2~7号土坑

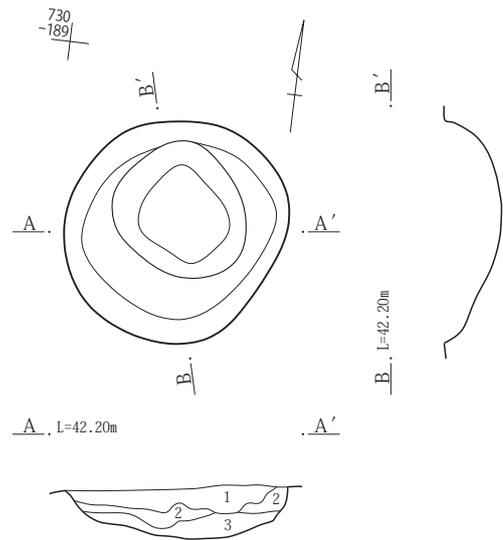
8号土坑



A-A'

1. 暗褐色土 1～3cm大のロームブロックを少量含む。しまり粘性なし。
2. 黒褐色土 ロームブロックが大粒となり、量も多い。

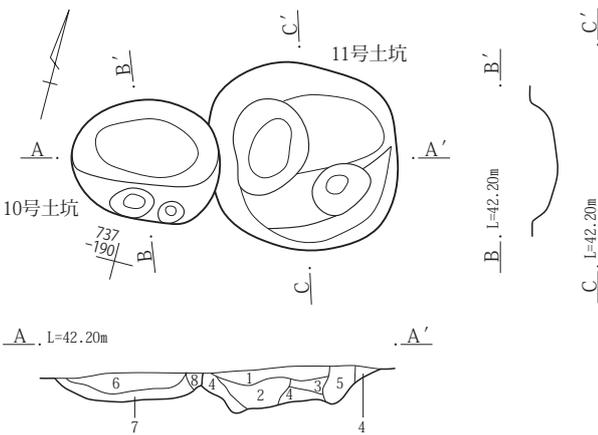
9号土坑



A-A'

1. 暗褐色土 しまり、粘性あり。明るい色調を呈す。
2. 暗褐色土 1層とは反対にしまり、粘性なし。ロームブロックを含む。
3. 黄褐色土 しまり粘性なし。大量のロームブロックを含む。

10・11号土坑



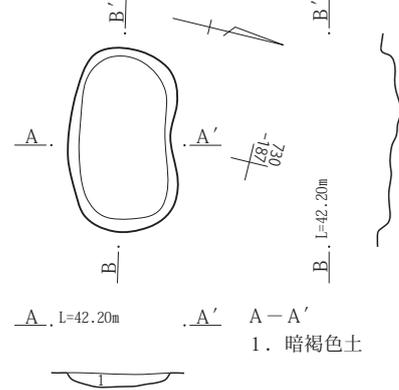
A-A'

1. 暗褐色土 ロームブロックを含まない。しまり粘性なし。10号土坑1層より色調が暗い。11号土坑埋土。
2. 暗褐色土 1層より明るい色調となる。2～5cm大のロームブロックを混入する。しまり粘性なし。11号土坑埋土。
3. 暗褐色土 しまり粘性とも強く、1層同様ロームブロックを含まない。色調は1層より明るくなる。11号土坑埋土。
4. 黄褐色土 ロームを主体に褐色土を混じる。しまり、粘性とも強い。11号土坑埋土。
5. 暗褐色土 ロームブロックを多量に含み、明るい色調。しまり、粘性なし。後の時代に上から掘られたピットの埋土と考えられる。
6. 暗褐色土 大粒のロームブロックを少量含む。10号土坑埋土。
7. 黄褐色土 ローム主体で褐色土混じり。10号土坑埋土。
8. 黄褐色土 3層に近似するが褐色土が多く、明るい色調を呈する。10号土坑埋土。

A-A'

1. 黄褐色土 ロームに近似するが、軟質。しまり、粘性あり。若干の褐色土ブロックを含む。
2. 黄褐色土 1層より更にローム層に近い色調となる。しまり粘性とも1層より強くなる。

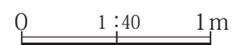
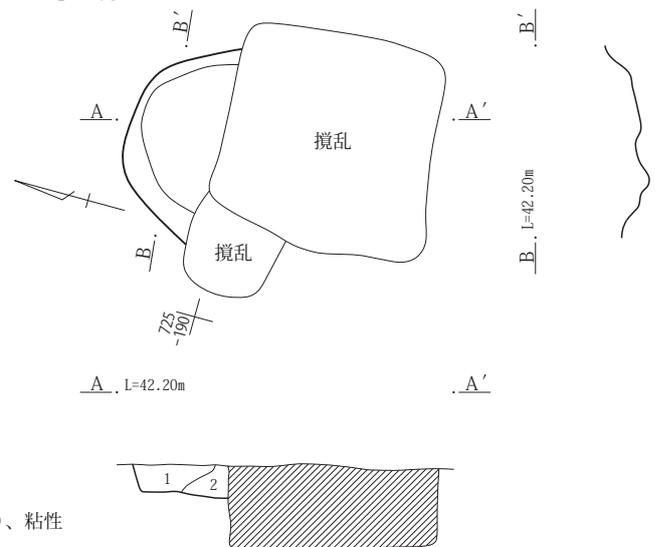
12号土坑



A-A'

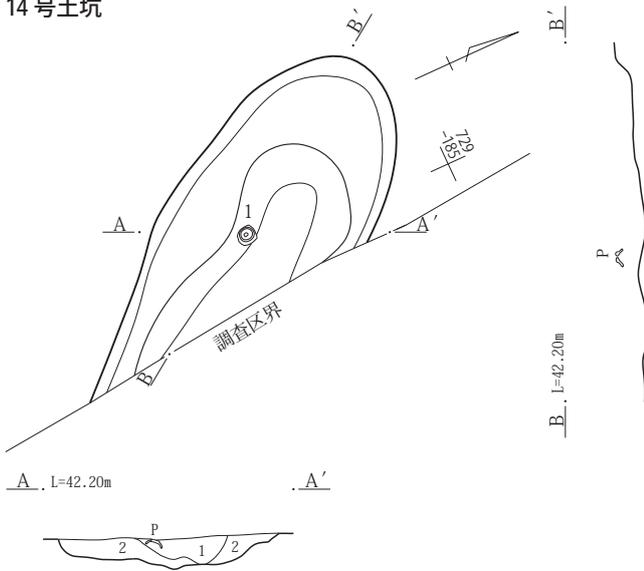
1. 暗褐色土 しまり、粘性なし。1～3cm大のロームブロックを含む。

13号土坑



第82図 3区8～13号土坑

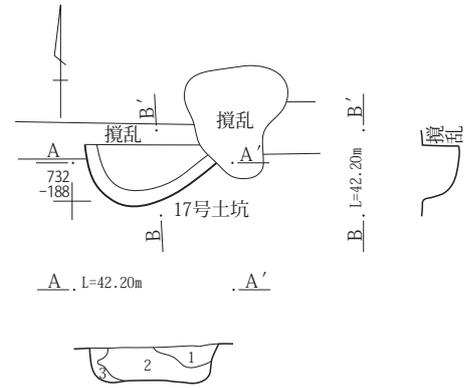
14号土坑



A-A'

1. 黒色土 しまりなし。粘性あり。2cm大のロームブロックを含む。
2. 黒褐色土 しまりなし、粘性あり。2～10cm大のロームブロックを大量に含む。

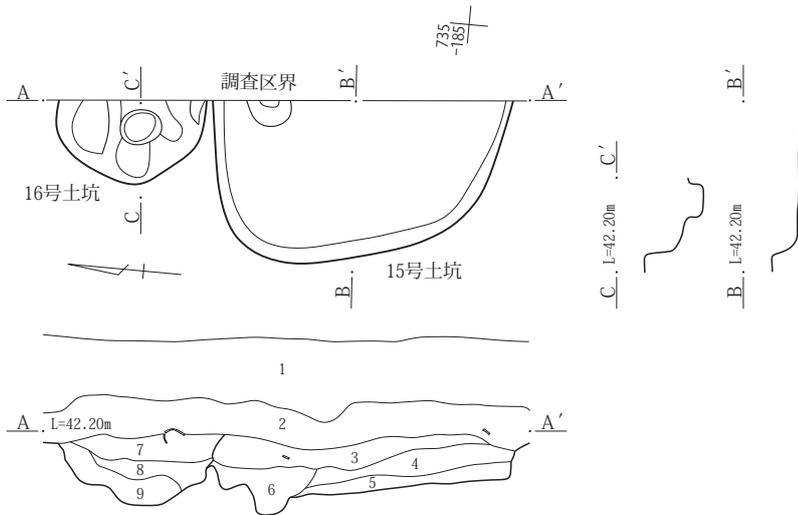
17号土坑



A-A'

1. 暗褐色土 しまり、粘性なし。5mm程のロームブロックを少量含む。
2. 暗褐色土 1～5cm程のロームブロックを多めに含む。色調も明るくなる。しまり、粘性なし。
3. 黄色土 しまりあり、粘性なし。ロームブロックが主体で、褐色土をブロック状に含む。

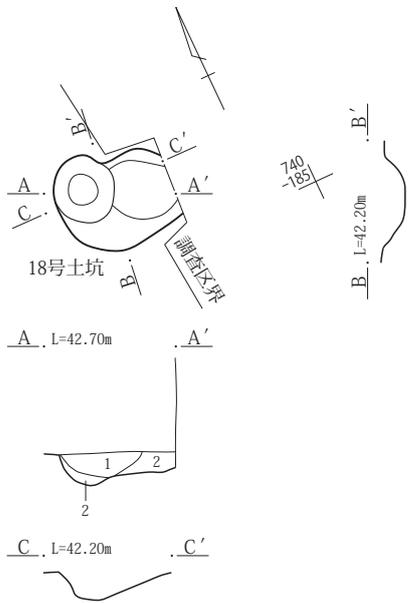
15・16号土坑



A-A'

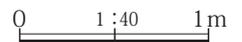
1. 表土攪乱層
2. 黒褐色土 しまり、粘性なし。小粒のロームブロック混入する。
3. 暗褐色土 しまり、粘性なし。2層より明るい色調を呈する。0.5～1cm大のロームブロックを少量含有。15号土坑埋土。
4. 暗褐色土 1層より明るい色調を呈する。全体的に褐色味が強くなる。5cm大のロームブロックを少量含む。15号土坑埋土。
5. 黄褐色土 2層より更に明るい色調でしまり、粘性ともある。15号土坑埋土。
6. 暗褐色土 しまり、粘性なし。2・3層より色調黒味増す。1～2cm大のロームブロックを多量に含有する。15号土坑埋土。
7. 暗褐色土 しまり、粘性なし。15号土坑1層に近似するが、小粒のロームブロックをやや多く含むため、色調が明るい。16号土坑埋土。
8. 暗褐色土 しまり、粘性なし。15号土坑4層に類似するが、ロームブロックの量が多くなり、色調も明るい。16号土坑埋土。
9. 黄褐色土 15号土坑3層に類似。黄色土と褐色土の混成土。ロームブロックの量が多い。16号土坑埋土。

18号土坑

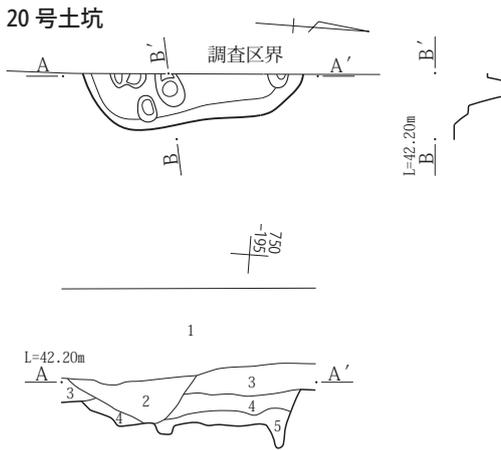


A-A'

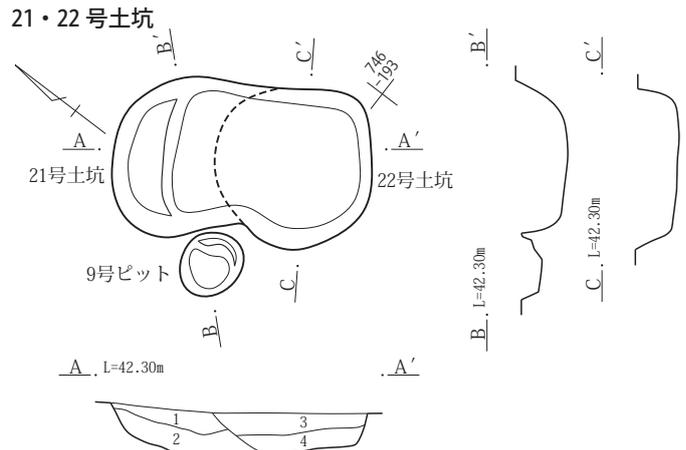
1. 暗褐色土 しまり・粘性強し。0.5mm程のロームブロックを少量含む。
2. 褐色土 しまり・粘性強し。明るい色調を呈する。黒色土ブロックを混入。



第83図 3区14～18号土坑

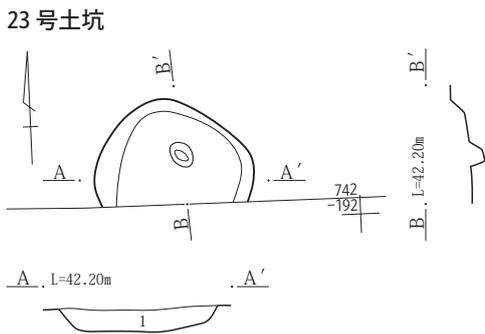


- A-A'
1. 表土攪乱土 コンクリートブロック等の混入。
 2. 暗褐色土 近代攪乱土。ガラス片等混入。
 3. 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。赤褐色粒微量含む。
 4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。3層に比べ色調明るい。細微な土器片の混入みられる。20号土坑埋土。
 5. 暗黄褐色土 粘性あり。しまりあり。暗褐色土の混入がみられる。20号土坑埋土。



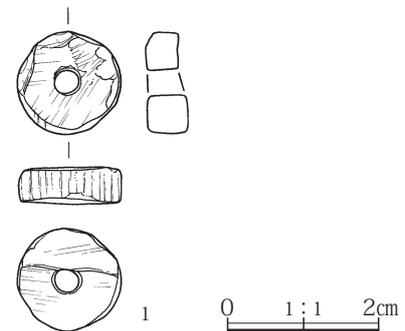
- A-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。21号土坑埋土。
 2. 褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少量含む。21号土坑埋土。
 3. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。色調1層より暗い。焼土粒・炭化物少量含む。22号土坑埋土。
 4. 褐色土 粘性あり。しまりあり。22号土坑埋土。
- ※切りあいから22号土坑のほうが新しい。埋土遺物から古墳時代後半と推定される。

第84図 3区20～22号土坑

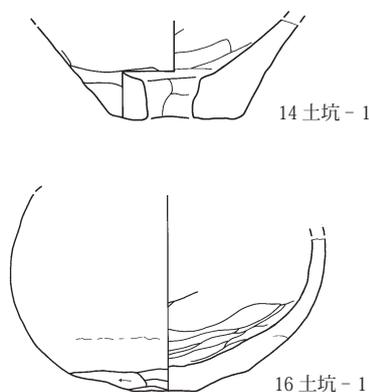


- A-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色粒微量含む。

第85図 3区23号土坑



第86図 3区12号土坑出土遺物



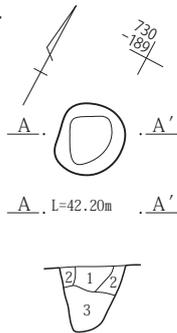
第87図 3区14・16号土坑出土遺物



第9表 宮内遺跡ピット一覧

遺構名称	長軸方位	形状	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
1号ピット	N-7°-W	長円形	730-189	39	34	33	
2号ピット	N-16°-W	長円形	731-188	63	59	124	
3号ピット	N-47°-W	円形	730-190	46	45	43	
4号ピット	N-60°-E	長円形	737-189	41	34	30	
5号ピット	N-36°-W	長円形	749-195	50	41	19	
6号ピット	N-89°-E	長円形	748-195	36	31	8	
7号ピット	N-81°-W	円形	748-195	31	29	6	
8号ピット	N-29°-W	長円形	746-195	32	29	35	
9号ピット	N-60°-W	長円形	746-195	34	32	10	
10号ピット	N-0°	円形	747-192	37	36	8	
11号ピット	N-81°-W	円形	746-193	20	18	15	
12号ピット	N-84°-W	円形	746-193	24	23	12	

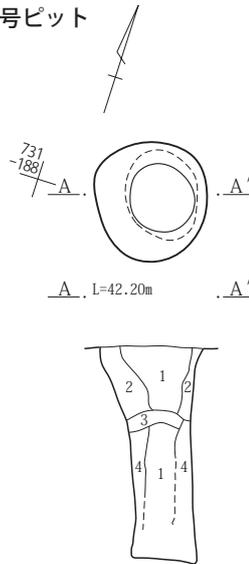
1号ピット



A-A'

- 1. 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2. 暗褐色土 小粒のロームブロックを少量含む。
- 3. 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

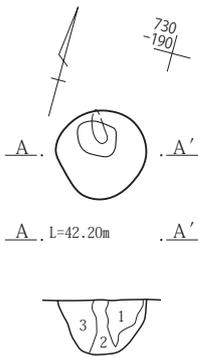
2号ピット



A-A'

- 1. 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり、粘性あり。
 - 2. 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。しまりあり、粘性ややあり。
 - 3. 黄褐色土 しまりなし。粘性なし。多量のロームブロック含有。しまりがなくフカフカしており、根等の攪乱の可能性ある。
 - 4. 暗褐色土 ロームブロック少量含む。しまり、粘性あり。
- ※下部点線以下は、深度があるため観察不可能。

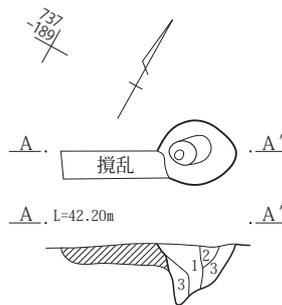
3号ピット



A-A'

- 1. 暗褐色土 しまり、粘性あり。
- 2. 黄褐色土 しまりなし。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 3. 黄褐色土 ロームブロック多量に含む。色調、黄色味強い。

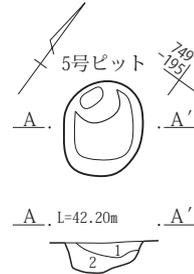
4号ピット



A-A'

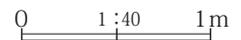
- 1. 暗褐色土 ロームブロックを斑状に含む。しまり、粘性強い。
- 2. 暗褐色土 1層に近似するが、色調明るい。
- 3. 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

5号ピット



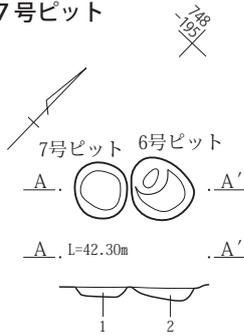
A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色粒微量含む。
- 2. 黄褐色土 粘性あり。しまりあり。暗褐色土少量混入する。



第88図 3区1～5号ピット

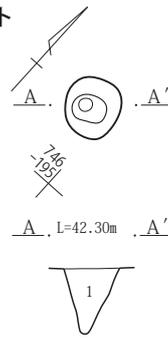
6・7号ピット



A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。炭化物微量含む。7号ピット埋土。
- 2. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。黄褐色ブロック微量、黄褐色粒微量含む。6号ピット埋土。

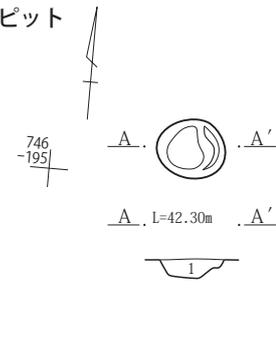
8号ピット



A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。黄褐色ブロック・黄褐色粒微量含む。

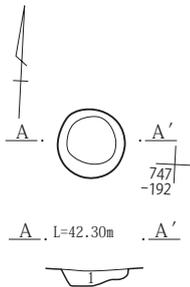
9号ピット



A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。

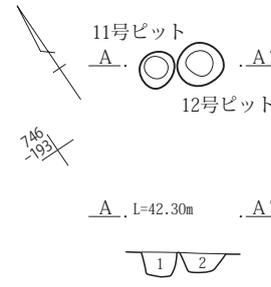
10号ピット



A-A'

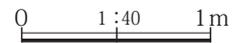
- 1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。黄褐色粒微量含む。

11・12号ピット



A-A'

- 1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。11号ピット埋土。
- 2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。黄褐色粒微量含む。12号ピット埋土。



第89図 3区6～12号ピット

2. 溝

溝は、3区で1条検出した。この溝は、調査区の南西部分に位置し、南北方向を軸としていた。遺構の半分は調査区外であった。形状・規模・遺物より近世の堀が想定される。

3区1号溝(第90～92図、PL.18・28)

位置 X=32730、Y=-41190 3区南西隅から調査区中央部分に位置する。調査区内では南北を軸として検出されたが、遺構の形状より北西から東南に走向するようである。

形状・規模 全長は(15.84) mである。溝の幅は上端が(2.71) m～(0.66) m・下端が(1.92) m～(0.60) m、深さは1.08 m～0.04 mである。溝の形状は皿状を呈するものとみられる。北から南に向かい勾配がついており

比高差は0.48m、勾配率は3.0%である。

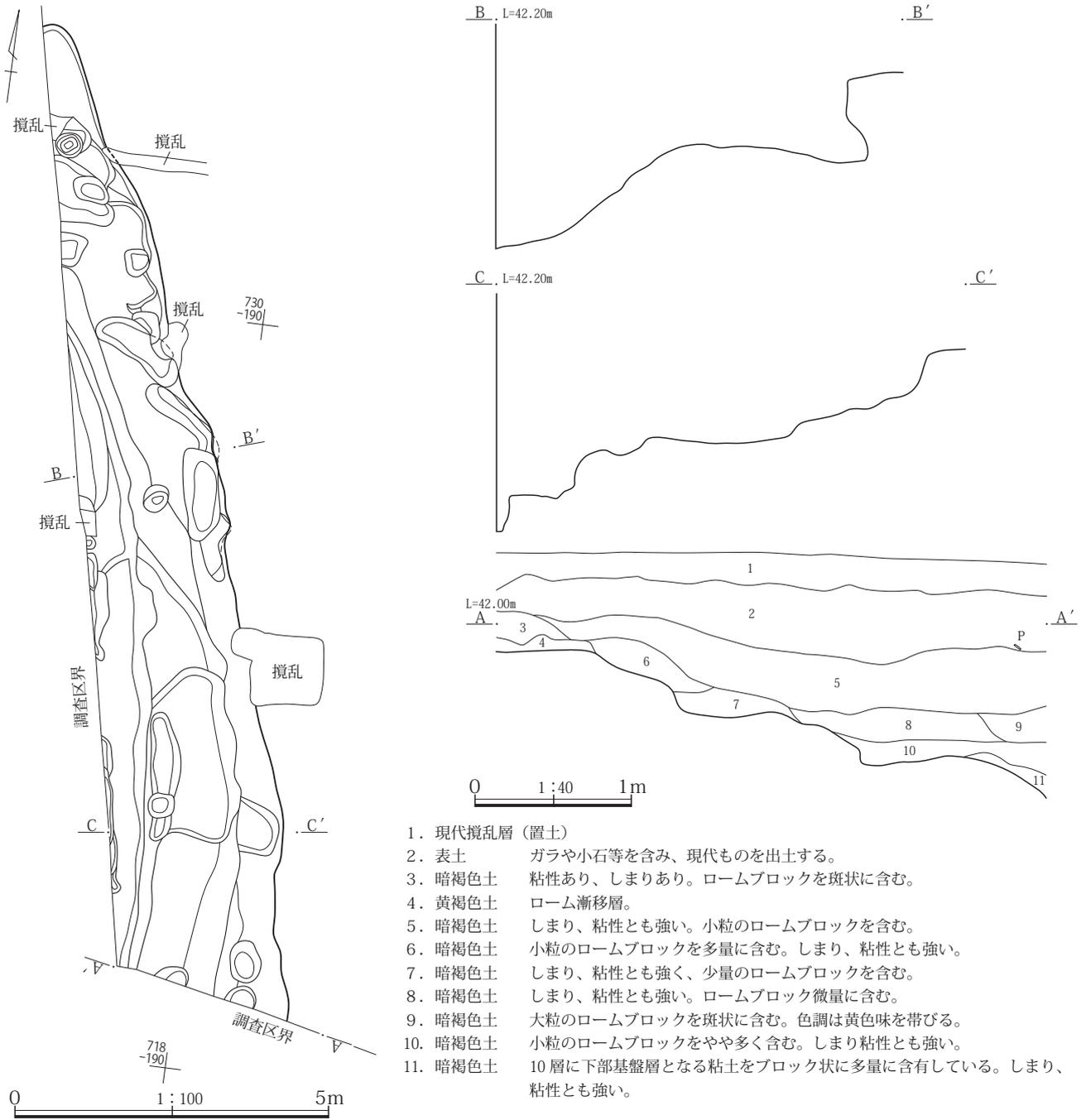
走行方位 N-17°-E

重複 なし

埋没土 全体的にロームブロックを含んでおり、人為的に埋没したことが考えられる。

出土遺物 土師器大片3815g・土師器小片60g・須恵器大片470g・埴輪片560gを出土した。埴輪片3点・瀬戸・美濃陶器2点・常滑陶器2点・十能瓦1点・鉄製品2点・板碑片1点を図示した。

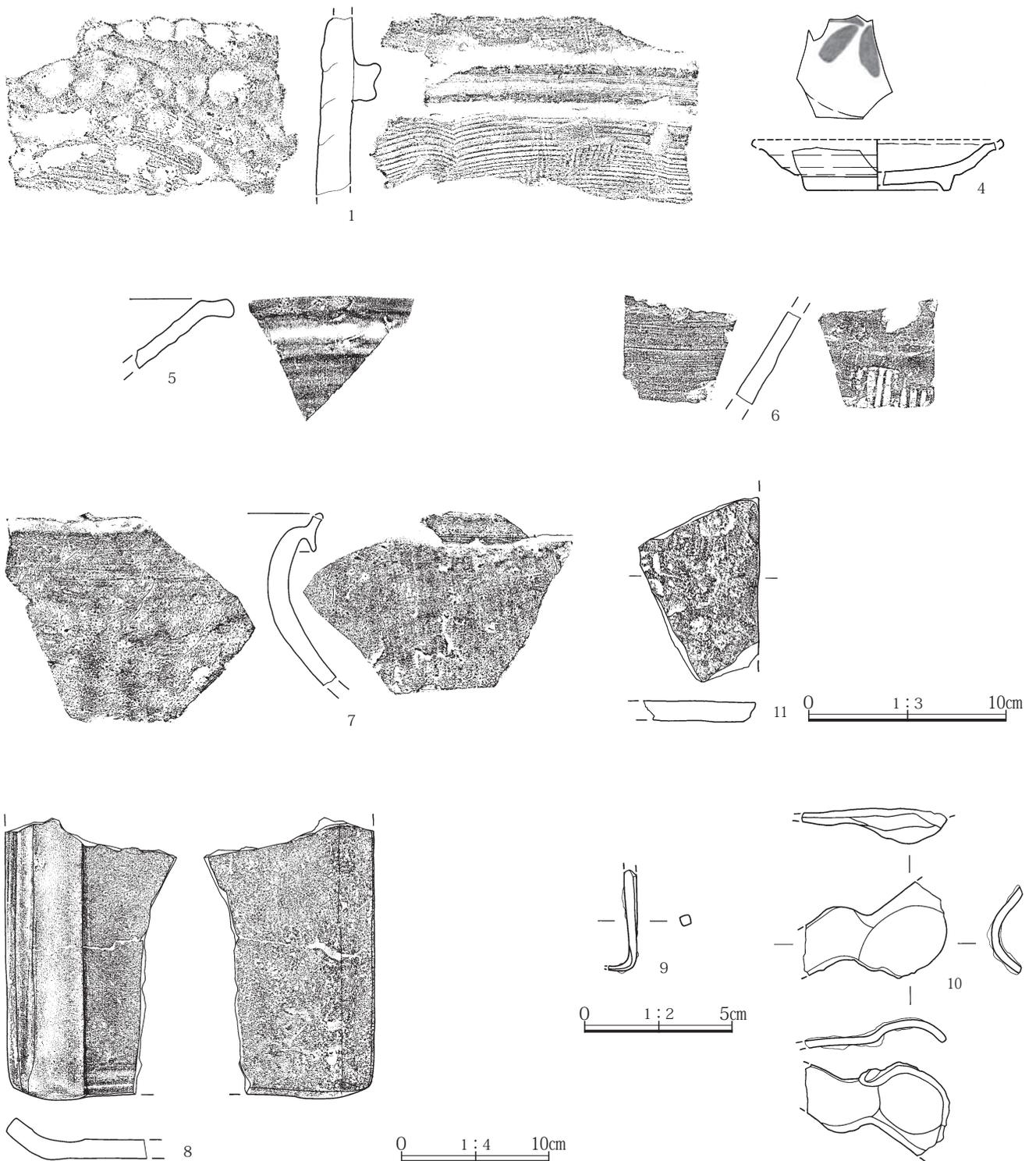
所見 遺物は近現代の瓦片・近世の陶磁器片から古墳時代の埴輪片まで出土している。埴輪片は流れ込んだものと考えられる。溝の幅は調査区南壁で最大2.71mを測るが、この地点で溝の半分程度と考えられる。最大幅5m以上を想定することができる。規模及び出土遺物より近世の堀の可能性が考えられる。



第90図 3区1号溝



第91図 3区1号溝出土遺物(1)



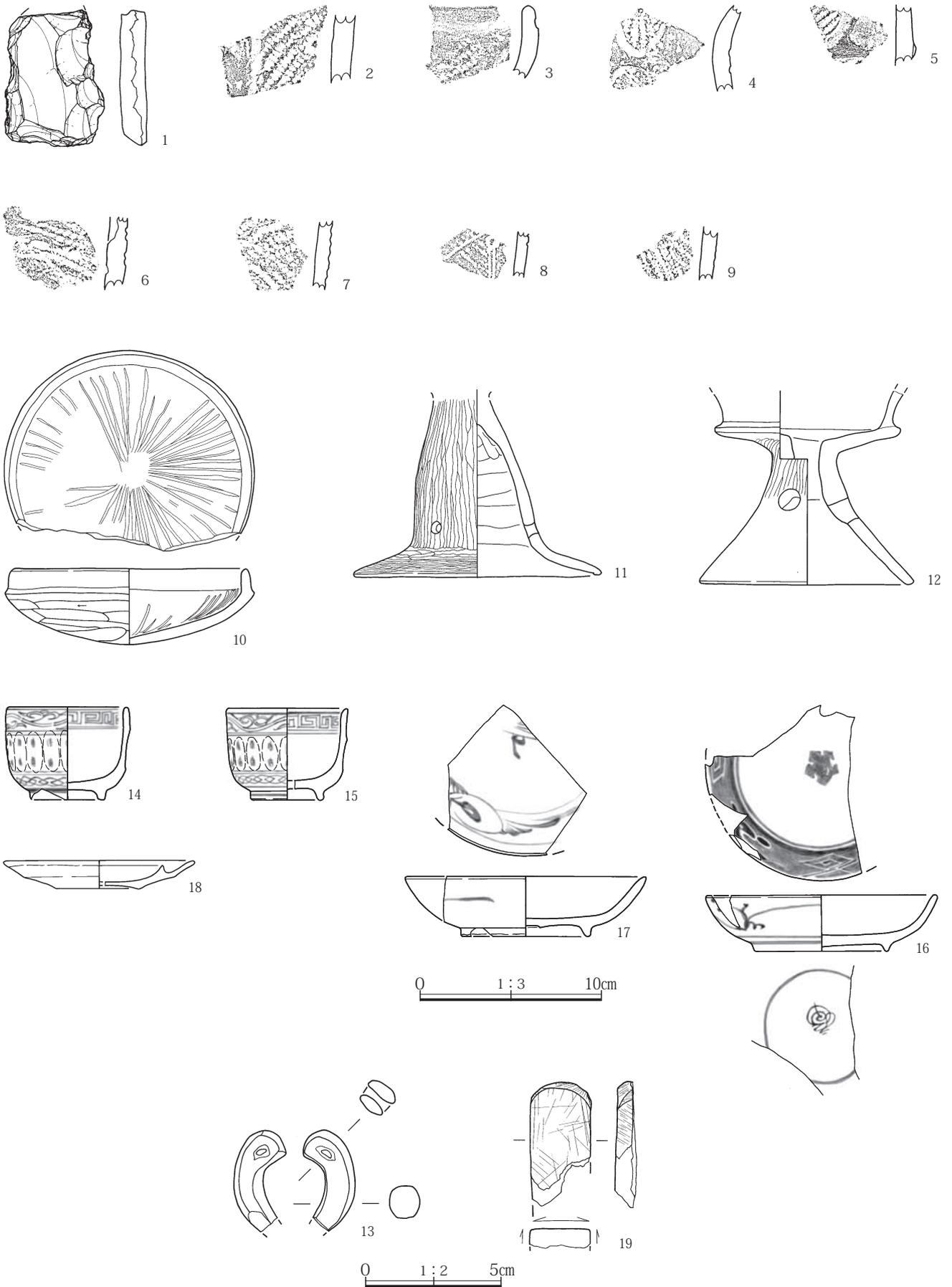
第92図 3区1号溝出土遺物(2)

3. 遺構外出土遺物

宮内遺跡は遺構外から縄文土器片・須恵器片・陶器片などが出土した。(第93図、PL.28)片刃石斧1点・縄文土器片8点・土師器片4445g・須恵器片40g・埴輪片30g・磁器片3点・陶器片2点・石製品1点である。縄文土器は深鉢片であり、黒浜式3点・諸磯a式1点・加

曾利E3式3点・加曾利E4式1点である。縄文時代前期から中期にかけての遺物であり、同時代の遺構があった可能性が考えられる。土師器片はほとんどが甕片であり、古墳時代から奈良平安時代にかけてのものが出土した。埴輪片が出土していることもあり、近隣に古墳が存在していたことも想定される。

第3章 検出された遺構と遺物



第93図 宮内遺跡遺構外出土遺物

第4章 浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡出土骨類の同定

浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡は、群馬県太田市浜町に所在する。財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が2009（平成21）年8月～2010年（平成22）年9月まで断続的に実施された。

本遺跡では、主に古墳時代の土坑、古代の住居、近世の溝等が検出されている。浜町古墳群5区2号溝、宮内遺跡3区1号土坑、浜町遺跡8区1号溝から出土した骨類の同定について、以下に報告する。

1. 浜町古墳群5区2号溝

種名：ウマ

部位：右下顎第3後臼歯

全体の形状、歯冠長、咬合面の傾斜などから右下顎第3後臼歯と判断される。遠心部が破損欠失している。

年令：12才

歯冠高すなわち咬耗度から西中川他(1991)に従って、12才の牡馬と推定した。

性別：不明

臼歯のみでは性別判定は不可能である。

馬格：中型在来馬相当

歯の計測値から日本の中型在来馬相当の馬格と思われる。

2. 宮内遺跡3区1号土坑

種名：中型動物

部位：肢骨片

最大保存長37.7mmの肢骨片10数片である。

3. 浜町遺跡8区1号溝

種名：ヒト？ 保存最大長44.7mmの骨片3片である。

部位：大腿骨骨幹部？

三片の骨片のうち、少なくとも1片は管状で、最大厚さが9.8mmもあることなどから、ヒトの大腿骨と思われる。

他の2片も人骨の可能性が高く、肢骨片と思われる。

参考文献

西中川駿(1991)『古代遺跡出土骨から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書

第10表 浜町古墳群5区2号溝出土 下顎第3後臼歯計測値表

歯冠長	歯冠幅	歯冠高	下後錘谷長	下内錘谷長	doublenot 長	咬合面の傾斜
28.8+	13.2	31	8	11.1	12.4	70°

単位mm



第94図 浜町古墳群5区2号溝埋土出土歯



第95図 浜町遺跡8区1号溝埋土出土骨

第5章 調査成果のまとめ

1. 本遺跡調査成果

浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡の調査については3章で述べた通りである。古墳時代から近世までの遺構・遺物が判明しており、継続して人々が生活していたことがうかがわれる。特に本遺跡¹⁾では、古墳時代前期と考えられる古式土師器を多量に伴う土坑が複数検出された。この土坑群から出土した遺物の様相を検討し、古墳時代における本遺跡の位置付けについて考察したい。

2. これまでの古式土師器研究

太田市域の古墳時代前期土師器研究は1968年に刊行された「石田川遺跡」発掘報告書に際し、松島栄治氏が提唱した「石田川式土器」の研究から始まったと言える。以後連綿と研究が続けられているが、近年では1994年に橋本博文氏が太田地域の土器を関東北部の古墳時代前期を包括する土器編年の中に位置づけた(橋本1994)。深澤敦仁氏は1998年に群馬県各地の古墳時代前期土器編年を示し、その中で太田地域についても編年を提示した(深澤1998)。さらに深澤氏は2005年に若狭徹氏と共に群馬県各地の編年を1993年に示された新潟シンボ編年と対比して示し(深澤・若狭2005)、2008年には仔細な土器編年を発表した。本稿は古墳時代前期の本地域出土土器の各器種について検討し、総合的な編年を示している深澤編年(深澤2008)を基にして土坑出土の土器群を考察する。

3. 土坑出土土器の検討

古式土師器を多量に伴う土坑は、浜町古墳群9号土坑(第56～58図、以下古墳群9号土坑と記す)、10号土坑(第59～61図、以下古墳群10号土坑と記す)、宮内遺跡1号土坑(第76～80図、以下宮内1号土坑と記す)の3基である。古墳群9号土坑から出土し、掲載したのは台付甕4点・甕3点・小型甕2点・壺1点・高杯1点・器台2点・杯2点である(第57・58図)。台付甕はハケ目が緩慢になり、ケズリが胴部表面に顕在化しており深澤編年の分類(以下深澤分類と記す)F4に相当するS字状口縁

台付甕(以下S字甕と記す)である。甕16は平底甕である。胴外面はハケ目調整しているが内面はヘラナデ整形であり、甕G3と言える。壺19～21は同一個体であり、口縁部の外反度合いから深澤分類C4と考える。高杯は東海系の特徴を有し、稜があることからD類に相当する。器台は稜を有し、B類と考えられる。

古墳群10号土坑から出土し、掲載したのは甕6点・壺2点・小型壺1点・高杯1点である(第60・61図)。甕4・8・9は平底甕であり、胴部外面をヘラ削りで調整しており深澤分類G4である。甕10は同じく平底甕であるが、胴部がヘラ磨き整形されており、G4類に先行すると考えられる。壺2・3は直立気味に開く頸部・器面調整がヘラ削りであることから深澤分類F4と言える。高杯は、杯部不明であるが、屈折する脚部を有し深澤分類F類となる。やや裾が広がることからF3としたい。

宮内1号土坑から出土し、掲載したのは台付甕2点・甕16点・小型甕9点・壺3点・小型壺4点・埴4点・高杯5点・鉢1点・ミニチュア土器1点である(第77～80図)。台付甕2点はS字甕であり、緩慢なハケ目、胴部の最大径が中位から上位にあり、削りが顕在化していないことから深澤分類F3としたい。甕は、平底単口縁甕で、更に3類に分けられる。深澤分類G2としたのは甕43と44である。胴部外面への確かなハケ目調整が認められる。甕33・34・36・40・41は胴部外面へのハケ目調整をしているが、ハケが荒くなり、削りが器面に見られていることからG3とする。28・29・30・31・32・35・38・39・42は胴部にハケ目が見られず、ヘラ削り調整しておりG4とする。壺10は直立気味に開く頸部・器面調整がヘラ削りであることからF4と言える。壺17は折り返し口縁壺の口縁部であり外反が強く、明確な稜を有することからC4としたいが、器面磨滅が激しく明確には言い切れない。18は壺の頸部から肩部にかけてであるが、深澤分類への比定は不能である。高杯はすべて屈折脚である。出土高杯はF1・F2の特徴を有しておらず、F3もしくはF4に当てはまることが考えられる。深澤氏はF4を杯部下位の稜が明確化するものとしており、高

杯1・2はF4と言え。高杯3・4・5は、脚部の開きが高杯1と同等もしくは広いことからF4に相当する。尚、甕F3類・甕C2類は底部直上より出土しており、他の土器は中間層より上位から出土している。

4. 土坑の考察

深澤氏は分類した土器を1期「外来土器の登場による在地様式の萌芽期」、2期「東海系土器の定着による在地様式の形成期」、3期「畿内系土器の参画による在地様式の展開期」、4期「前期的様式の解体後の中期的様式の萌芽期」の4期に分けている。特に、深澤氏は3期に該当する土器をそれまでになかった新形式が登場し、それまで顕在化しなかった器面のケズリ調整が最終仕上げとして複数型式に現れることが顕著な特徴であるとしている。本遺跡土坑出土土器に関わるものとしては、甕F3・F4・G2・G3・G4、壺C4、高杯D・F3、器台Bが含まれる。4期は古墳時代中期とし、器台が消滅し、いわゆる「和泉式土器」成立の萌芽期と捉えている。この時期に該当するのは甕G4、壺F4、高杯F3・F4である。

本遺跡土坑出土土器群を深澤氏の編年で捉えると、古墳群9号土坑は3期に該当する。古墳群10号土坑は甕G3・高杯F3など3期及び4期に含まれる土器が出土している。しかし、4期のみ壺F4が含まれており、3期から4期にかけての土器群であり、10号土坑の最終的な時期は4期としたい。宮内1号土坑底部出土の土器群は3期である。上層出土の土器群は4期である。

遺物の時期から土坑の新旧関係を考えると、古墳群9号土坑と宮内1号土坑の1時期目が深澤編年3期で同時期と言え、古墳時代前期後葉(深澤氏の群馬県を総括した編年では前期新段階)である。古墳群10号土坑と宮内1号土坑2時期目が深澤編年4期で同時期に比定され、古墳時代中期前葉に位置付けられる。

古墳時代前期後葉から中期前葉と比定したこの土坑群であるが、土器が多量に伴うという事象から廃棄土坑である可能性が高い。但し、宮内1号土坑の底面出土土器は、出土量が上層及び他の土坑と比べても少なく、完形に近い遺物であるため、貯蔵などの目的であったと考えられる。また、調査時に湧水が認められず、堆積土層観察からも井戸の確証は得られなかったが、土坑の規模・

形状から、井戸遺構であり井戸廃絶後に土器が投棄された可能性も指摘しておく。このような使用を目的とする遺構であれば人々の生活の場が近隣にあったことが想定できる。今回の調査は狭小であるため同時期の住居は検出されなかった。また本遺跡の北側を調査した平成17年報告調査においても同時期の住居は検出されなかった。太田市域で多量の土器を伴う古墳時代前期土坑の調査例は少ないが、高林三入遺跡C区2号土坑、一本杉2遺跡157号土坑などで調査されている。どちらも遺構から程近いところより同時期の複数住居が検出された。

5. まとめ

今回の多量の土器を伴う土坑群の調査から、古墳時代前期後葉から中期前葉にかけてこの地に人々の営みがあったことが想定される。また、浜町遺跡・浜町古墳群及び前回の調査では、古墳時代後期の住居が検出されており、古墳時代後期にも人々の営みがあったことが判明している。しかし、その間の遺構・遺物は出土しなかった。このことから、その時期に人々の生活が途絶えたとも言えるだろう。時期としては、太田天神山古墳が築造されるころであり、大型古墳分布の変化ともあいまった県下全域に及ぶほどの地域再編成が考えられる時期でもある。古墳時代本遺跡の動向を太田市域の中で広くとらえ、古墳時代の本地域について検討していく必要がある。

註

1)調査は3遺跡であるが、同じ台地上にある遺跡群であり、本来は地続きのものであると考え、本章では一つの遺跡として表記する。

参考文献

大木紳一郎1980『庚塚・上・雷遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

田口一郎2000「北関東西部におけるS字口縁甕の波及と定着」『第7回東海考古学フォーラム S字甕を考える』東海考古学フォーラム三重大会

友廣哲也1991「群馬県における古墳時代前期の土器様相」『群馬考古学手帳』2

橋本博文1994「関東北部における古墳時代出現期の様相」『東日本の古墳の出現』山川出版社

深澤敦仁1998「上野における土器の交流と画期」『庄内式土器研究』XVI

深澤敦仁2008『成塚向山古墳群』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

若狭徹・深澤敦仁2005「北関東における古墳出現期の社会」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』第1分冊新潟県考古学会

遺物観察表

第11表 遺物観察表

浜町遺跡

7区1号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	8図 PL.19	土師器 杯	床上 11cm	4/5	口径13.0底径 7.0器高4.2	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/良好/赤褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部は砂底で周囲を手持ちへら削り。	
2	8図 PL.19	須恵器 椀	確認面	底部～体 部	底径7.8台部径 7.4	細砂粒/還元焰/ 灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り後周囲をナデ。	
3	8図 PL.19	土製品 鉢	カマド堀 方	完形	長3.5幅1.8孔 0.3重9.6	微砂粒/良好/ にぶい橙	両端面に平坦面をつくる。側面はナデ。	

7区3号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	11図 PL.19	土師器 台付甕	堀方	脚部	脚部10.8	細砂粒/良好/ にぶい橙	脚部は胴部に貼付、脚部は内外面とも横ナデ。	
2	11図 PL.19	須恵器 甕	堀方	胴部片		細砂粒・角閃石/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。胴部下位に回転へら削り。	

8区2号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	14図 PL.19	須恵器 杯	床直	底部～体 部下半	底径6.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り。	内面底部に墨書か、 判読不能。
2	14図 PL.19	須恵器 杯	床上 11cm	底部～体 部下半	底径8.6台部径 7.9	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は削り出し、底部は回転へら削り。	
3	14図	土師器 鉢	埋土	口縁部～ 体部片	口径24.1	細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部はへら削り後放射状へら磨き。内面体部はへらナデ。	
4	14図 PL.19	鉄器 不明		下半片	長(4.6)幅2.4厚 0.2重(9.2)		篋状工具、錆化が進んでいる。	

8区3号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	17図 PL.19	土師器 杯		完形	口径10.61器高 3.3	細砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り 体部下半から底部周囲はへら磨き。	
2	17図	土師器 台付甕	床上 13cm	底部～脚 部上半		細砂粒/良好/ にぶい黄橙	胴部から脚部はハケ目(5本)、内面脚部はナデ。	
3	17図 PL.19	鉄鎌	床直	茎部下半 欠損	長(9.0)幅1.7厚 0.6重(18.2)		短頸揚腸挟三角鎌、錆化が激しい。	

8区4号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	18図 PL.19	土師器 杯	床直	3/4	口径13.0器高 3.9	細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り、 体部から底部周縁はへら磨き。内面は底部から口 縁部に放射状へら磨き。	
2	18図 PL.19	土師器 杯	床上 11cm	3/4	口径13.6器高 5.4	細砂粒/良好/ 赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。	内面は漆塗り。
3	18図	土師器 杯	床上 15cm	1/5	口径13.1器高 5.7	細砂粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。	
4	18図 PL.19	土師器 甕	床直	口縁部～ 胴部下位	口径18.0胴部径 23.8	細砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面 胴部はへらナデ。	
5	18図 PL.19	土師器 甕	床上 15cm	口縁部～ 胴部上位	口径20.0	細砂粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへ らナデ。	
6	18図 PL.19	手捏ね土器 鉢形	床直	完形	口径7.2底径5.8 器高6.6	細砂粒/良好/ 明黄褐	口縁部から体部はへら削り、一部ナデ、底部はへ らナデ。内面はナデ。	

7区1号竪穴状遺構

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	26図 PL.19	土師器 杯	カマド堀 方	口唇部僅 かに欠損	口径12.5底径 7.1器高4.2	細砂粒/良好/ にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら 削り。	
2	26図	須恵器 甕	堀方	頸部～胴 部上位片		細砂粒・角閃石・ 長石/還元焰/灰	胴部は外面の平行叩き痕、内面の同心円アテ具痕 をほとんどナデ消している。	

7区3号竪穴状遺構

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	26図	土師器 甕	埋土	底部～胴 部下位	底径6.4	細砂粒/良好/ 浅黄橙	底部は木葉痕が残る。胴部はへら削りか、内外面 とも器面磨滅のため不鮮明。内面はへらナデ。	

7区5号竪穴状遺構

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	26図 PL.19	須恵器 長頸壺	埋土	胴部上位 片		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。長頸壺の口縁部欠損 後頸部を擦り再調整か。	

7区12号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	33図 PL.19	形象埴輪不明	床上 10cm	一部片		細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/橙	外面は内外面とも器面磨滅のため整形不明。内面はナデ。	

7区20号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	33図	土師器 甕	埋土	底部～胴部下位	底径7.2	細砂粒多/良好/ 明黄褐	底部はへら削り、木葉痕がかすかに残る。胴部はへら削り、内外面とも器面磨滅のため単位不明。内面はへらナデ。	

7区23号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	33図	土師器 甕	埋土	口縁部～胴部上位片	口径16.7	細砂粒・褐粒/ 良好/橙	内面頸部下に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	

7区24号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	33図	土師器 杯	床上 14cm	口縁部～底部片	口径10.7底径8.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り後体部に横位のへら磨き。内面は底部から体部に放射状へら磨きと一部に連弁状へら磨き。	
2	33図 PL.19	土師器 鉢	床上 13cm	口縁部 1/6欠損	口径11.8稜13.6 器高7.7	細砂粒・褐粒/ 良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら削り。内面は底部から体部にへらナデ。	
3	33図	土師器 甕	埋土	底部～胴部下位	底径7.0	細砂粒/良好/浅 黄橙	底部は木葉痕が残る。胴部はへら削りか、内外面とも器面磨滅のため不鮮明。内面はへらナデ。	
4	33図	手捏ね土器 椀形	埋土	口縁部 3/4欠損	口径7.2器高4.6	細砂粒/良好/黄 橙	底部から口縁部までナデ。内面もナデ。	

7区26号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	33図	土師器 鉢	埋土	底部～体部片	底径7.0	細砂粒・白粒/ 良好/にぶい黄 橙	内面黒色処理。底部に木葉痕が残る、体部はナデ。内面は底部付近にへら磨き。	

7区27号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	34図	須恵器 甕	埋土	胴部上位片		細砂粒・白粒/ 還元焰/灰	胴部は外面に平行叩き痕、間隔をあけてカキ目。内面に同心円アテ具痕が残る。	

7区28号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	34図	須恵器 甕	埋土	胴部上位片		細砂粒・角閃石/ 還元焰/灰	胴部は外面に平行叩き痕、間隔をあけてカキ目。内面に同心円アテ具痕が残る。	

8区1号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	38図 PL.19	土師器 卍		口縁部～頸部	口径10.8	細砂粒・褐粒/ 良好/明黄褐	口縁部は内外面とも放射状へら磨き。	
2	38図 PL.19	須恵器 瓶	埋土	胴部上位片		細砂粒・角閃石/ 還元焰/灰	外面に輪積み痕が残る。胴部は外面がナデ、内面にアテ具痕がかすかに残る。	
3	38図 PL.19	埴輪円筒	埋土	一部片		細砂粒・褐粒/ 良好/橙	体部はハケ目(1cm5本)、凸帯は貼付、凸帯とその上下は横ナデ。内面はナデ。	
4	39図 PL.19	肥前磁器 碗	上層	口縁部 1/4欠	口径9.5底径4.2 器高5.2	灰白	外面は雪輪梅樹文。高台内に不明銘。	18世紀中頃～後半。
5	39図 PL.20	肥前磁器 碗	上層	口縁部 1/3欠	口径9.6底径3.1 器高5.2	灰白	外面は雪輪梅樹文。高台内に不明銘。	18世紀後半～19世紀前半。
6	39図 PL.20	肥前磁器 碗	上層	口縁部 1/2、底部完	口径(7.1)底径 3.9器高5.9	白	口縁部外面に網目状文、体部下半に列点文。口縁部内面は2重圏線下に列点文。	19世紀前半～中頃。
7	39図 PL.20	肥前磁器 碗		1/2	口径(7.4)底径 (4.6)器高5.8	白	外面は二つの山状三角文間に「寿」字を並べて描く。口縁部内面は二つの山状三角文間に太い横線を配する。	19世紀前半～中頃。
8	39図	肥前磁器 碗	上層	1/4	口径11.6	白	残存部無文。釉はやや青みを帯びる。	18世紀前半～中頃か。
9	39図 PL.20	肥前陶器 碗	上層	口縁部 1/4、底部1/2	口径(10.1)底径 (5.1)器高7.5	にぶい橙	残存部無文。高台端部を除き透明釉。細かい貫入が入る。	17世紀中頃～後半。
10	39図	肥前陶器 碗	上層	底部	底径5.0	浅黄	呉器手。高台はやや撥状に開く。高台端部を除き透明釉。貫入が入る。	17世紀中頃～後半。
11	39図	肥前陶器 碗	上層	1/4	口径(10.8)	灰黄	呉器手。口縁部僅かに外反。内外面透明釉。貫入が入る。	17世紀中頃～18世紀前半。
12	39図	瀬戸・美濃陶器 天目碗	上層	1/5	口径(11.7)	にぶい黄橙	内面から体部外面下位に茶色味を帯びた鉄釉。口縁部下で内湾し、端付近で小さく外反。口縁端部は丸い。	江戸時代。

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
13	39図 PL.20	肥前磁器 赤絵瓶	上層	1/3	口径(9.5)底径 (4.3)器高3.6	白色	いわゆる油徳利。外面は高台端部を除き透明釉。内面は無釉。外面最大径上部に赤絵で1重圏線。他に赤絵が残るが、剥落部多く文様は不明。釉がややオリープ灰色味を帯びる。	17世紀後半～18世紀。
14	39図 PL.20	肥前磁器 皿	上層	底部	底径6.6	灰白	器壁厚く、高台やや内傾。高台脇に沿って外面側から細かく打ち欠いている可能性高い。内面染付。底部内面に貫入が入る。	二次加工品か。江戸時代。
15	39図 PL.20	瀬戸・美濃陶器 片口鉢	上層	口縁部 1/4、底 部完	口径(17.8)底径 8.6器高9.9	浅黄	内面から高台脇に鉛釉。口縁部外面以下は回転篋削り。高台脇は削り込む。片口部欠損。	18世紀前半～中頃。
16	39図	瀬戸・美濃陶器 筒形香炉	上層	1/8	口径(11.8)器高 (6.0)	淡黄	外面に横線。内面から体部外面に鉛釉。口縁部内面には潰れが認められ、端部外面は敲打により剥離が連続する。	灰吹きとして使用。18世紀前半～中頃。
17	39図	益子・笠間陶器 皿か	上層	1/3	底径(6.8)	にぶい黄橙	高台外面から底部内面に灰釉。	近現代。
18	39図	益子陶器 か土瓶	上層	破片		灰黄・にぶい黄 橙	頸部に鉄絵具による2重圏線。肩部に白土と緑色で施文。外面に灰釉。細かい貫入が入る。	近現代。
19	39図	製作地不詳陶器 灯火器 か	上層	1/2	底径5.5	暗赤	外面に鉄釉？を薄くかける。内面と高台端部を除き施釉。高台端部に白濁した砂状のものを塗布。	19世紀中頃以降。
20	39図	瀬戸・美濃陶器 徳利	上層	1/4	底径(8.0)	淡黄	外面に鉛釉施釉後、体部外面下位以下を拭う。	江戸時代。
21	39図 PL.20	肥前磁器 小碗		1/2	口径7.0底径 (4.0)器高4.4	白	口縁部は端反。外面に鳥と花卉文を描く。	19世紀前半～中頃
22	40図 PL.20	在地系土器 皿	上層	1/3	口径(9.0)底径 (5.4)器高1.9	橙	底部中央盛り上がる。底部左回転無調整。	江戸時代。
23	40図	在地系土器 皿	上層	1/2	口径(7.7)底径 (6.0)器高2.2	にぶい橙	轆轤整形であるが、底部外面は篋削り。	江戸時代か。
24	40図 PL.20	肥前磁器 碗	上層	完形	口径7.1底径4.3 器高6.4	白	体部外面に素描による染付。口縁部内面、2重圏線内に雷文帯。	19世紀前半～中頃。
25	40図 PL.20	在地系土器 手焙りか	上層	1/2	口径(16.8)底径 (12.0)器高6.6	淡黄	外面は器表の剥離が著しい。底部内面中央に菊花状スタンプ文か。内面は被熱によると推定される部分的黒変が認められる。	江戸時代。
26	40図	在地系土器 焙烙		破片		黒・にぶい橙	断面から内面の器表はにぶい橙色、外面の器表は黒色。丸底。	近現代。
27	40図	在地系土器 焙烙	上層		器高3.1	にぶい黄橙	器高は低いが、平底で大きめの内耳を貼り付ける。	19世紀か。
28	40図 PL.20	在地系土器 火鉢	上層	1/2	底径(25.1)	にぶい黄橙・黒	鉢状の体部に高い高台を貼り付け。底部外面は砂底状の型作り痕が残る。口縁部外面は外方に広がるが欠損。口縁部上面は平坦。高台に円孔をあけるが、残存部から2方であろう。	江戸時代。
29	40図	在地系土器 壺	上層	1/6	口径(15.3)	黒・灰黄	断面中央は黒色、器表付近は灰黄色、器表は黒色。内面は轆轤目が明瞭であるが、外面は成形痕を撫で消したような粗い撫でによる凹凸が残る。外面の肩部以上は粗く磨かれ、光沢を持つ。	江戸時代以降か。
30	40図	瓦十能瓦		破片	長幅厚4.4	浅黄	裏面は砂状圧痕状の型作り痕残る。表面は撫でて、上端部付近を直線的に撫で後に側縁折り曲げ部を強く撫でつける。	近現代。
31	40図	瓦十能瓦		破片	長幅厚1.35	橙	裏面は砂状圧痕状の型作り痕残る。表面は撫でて、下端部付近を直線的に撫で後に側縁折り曲げ部を強く撫でつける。	近現代。
32	41図 PL.20	在地系土器 焙烙	上層	1/2	口径(34.6)器高 5.2	明黄褐・黒褐	断面は暗灰色から灰色、器表付近と底部外面は明黄褐色、器表は黒色から明黄褐色。口縁部は丸みを持つ。外面中位と口縁部内面に接合痕残る。底部外面から体部外面下位に皺状の型作り痕残る。	江戸時代。
33	41図	在地系土器 焙烙	上層	1/8	口径(32.6)底径 (30.0)器高5.5	橙・にぶい黄橙	断面と底部外面はにぶい黄橙色、底部内面は橙色、体部から口縁部の器表は黒色。内耳の下部は底部と体部の境に貼り付ける。内耳内側上部に明瞭な擦れ痕が認められる。口縁部上面は僅かにくぼみ、内傾する。外面中位に接合痕残る。	江戸時代。
34	41図	在地系土器 焙烙	上層	1/8	口径(36.6)底径 (34.0)器高5.2	にぶい黄橙	器壁が厚い箇所の断面中央は黒色、他の断面は灰白色。器表は暗灰色から灰色。口縁部はやや平坦。内耳は幅広で下部は底部に貼り付ける。片側の内耳内面上位の器表はやや擦れる。	江戸時代。
35	41図	在地系土器 焙烙		1/8	口径(42.0)底径 (38.0)器高5.5	にぶい黄橙	断面はにぶい黄橙、内面中央轆轤目状に窪む。口縁部やや内傾して僅かに窪む。外面中央に接合痕残る。体部外面下端は篋削り。	江戸時代。
36	41図	瓦十能瓦	上層	破片	長幅厚1.2	灰・灰白	裏面は砂状圧痕状の型作り痕残る。表面は撫でて、側縁折り曲げ部は強い撫で。	近現代。
37	41図 PL.20	鉄製品不明	一括	完形	長3.6幅3.6厚 0.3重19.1		両端を折り曲げ、帯状のものに装着か。	
38	41図 PL.20	砥石	上層		長(7.6)幅(3.6) 厚(2.2)重83.9		四面使用。右側面に刃ならし傷様の粗い線条痕。左側面の先端側と裏面先端側に刀子等による面取り痕が残る。	切り砥石、砥沢石。

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
39	41図 PL.20	砥石	上層一括		長(7.5)幅(2.0) 厚4.7重105.7		表裏面に研磨面が残る。右側面の研磨面は剥落して不明、左側面は節理面で破損。	切り砥石、砂岩。
40	41図 PL.20	板碑片	一括		長(11.2)幅 (5.0)厚(0.9)重 83.2		板碑主尊部破片。葉研彫りキリーク(阿弥陀如来種子)の一部が残存。碑面の葉研彫り、やや磨滅。裏面剥落。	雲母石英片岩。
41	41図 PL.20	板碑	一括		重448.1		下端側に二条線が残り、これに続く「割り込み」が右側縁に残る。上端部は概ね三角形を呈しているが、形骸化の傾向は明らかである。	雲母石英片岩。

遺構外

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	口縁部破片		粗砂、黒色粒/ 良好/橙	波状口縁。隆帯による口縁部楕円状区画を施し、R Lを充填施文する。	加曽利E 3式
2	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	胴部破片		細砂、チャート、 繊維/ふつう/明 赤褐	R Lを横位施文する。	黒浜式
3	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	胴部破片		粗砂、石英/ふ つう/にぶい黄 橙	隆帯による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曽利E 3式
4	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	口縁部破片		細砂、繊維/ふ つう/にぶい赤 褐	口縁が緩く内湾。無節R Lを横位施文する。口唇部に刻みを付す。	黒浜式
5	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	胴部破片		細砂、白色粒、 黒色粒、石英、 繊維/ふつう/に ぶい黄褐	L Rを横位施文する。	黒浜式
6	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	胴部破片		細砂、白色粒、 黒色粒、石英、 繊維/良好/橙	R Lを横位施文する。	黒浜式
7	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	胴部破片		細砂、チャート 細礫、繊維/ふ つう/橙	R Lを横位施文し、貼付文を付す。	黒浜式
8	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	胴部破片		細砂、黒色粒、 繊維/ふつう/橙	L Rを横位施文する。	黒浜式
9	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	口縁部破片		粗砂、チャート/ 良好/橙	2条隆帯による弧状モチーフを施し、R Lを充填施文する。	加曽利E 3式
10	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	口縁部破片		粗砂、チャート、 黒色粒、石英/ 良好/明赤褐	口縁下に沈線をめぐらし、R Lを充填施文する。	加曽利E 3式
11	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	胴部破片		粗砂/良好/橙	隆帯による弧状モチーフを施し、R Lを充填施文する。	加曽利E 3式
12	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	胴部破片		細砂、黒色粒/ ふつう/にぶい 黄橙	隆帯によるU字状モチーフを施し、R Lを充填施文する。	加曽利E 3式
13	42図 PL.20	縄文土器 深鉢	確認面	胴部破片		細砂、黒色粒/ 良好/橙	沈線によるU字状モチーフを施し、R Lを充填施文する。	加曽利E 4式
14	42図 PL.20	敲石	8区確認面		長(12.5)幅5.8 厚4.2重359.5		上端側小口部に敲打痕と、これに伴う衝撃剥離痕がある。	楕円礫、ホルンフェルス

浜町古墳群

1号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	44図 PL.21	須恵器 杯	埋土	1/3	口径13.2底径 10.0台部径8.6 器高4.7	細砂粒・角閃石/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部ヘラナデ。	

2号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	46図 PL.21	土師器 杯	床直	口縁部～ 底部片	口径11.8底径 8.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
2	46図	土師器 杯	埋土	口縁部～ 底部片	口径12.8	細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
3	46図 PL.21	土師器 杯	床上21cm	1/4	口径13.6稜10.4 器高3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
4	46図	土師器 杯	埋土	口縁部～ 底部片	口径13.8稜12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
5	46図 PL.21	土師器 杯	床上12cm	ほぼ完形	口径13.0稜13.4 器高4.4	細砂粒/良好/灰 黄	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半は手持ちヘラ削り、底部に木葉痕が残る。内面はヘラ磨き。	
6	46図 PL.21	須恵器 杯蓋	床上15cm	口縁部～ 天井部片	口径16.8	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中ほどは回転ヘラ削り。	
7	46図 PL.21	須恵器 杯	床上5cm	完形	口径13.9底径 8.6器高3.8	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部を僅かに残して回転ヘラ削り。	

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
8	46図 PL.21	須恵器 杯	床上4cm		口径14.0底径 8.0器高3.8	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り後手 持ちヘラ削り、体部下位に回転ヘラ削り。	
9	46図 PL.21	鉄器刀子	埋土		長(4.2)幅1.3厚 0.2重(4.9)		篋状工具、錆化が進んでいる。	

3号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	48図 PL.21	須恵器 杯	床上2cm	1/3	口径13.2底径 9.0器高3.9	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周 縁を回転ヘラ削り。	8世紀Ⅲ。
2	48図 PL.21	須恵器 杯	床直	4/5	口径13.9底径 7.8器高3.9	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、体 部下位は回転ヘラ削り。	8世紀Ⅲ。

5号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	51図 PL.21	土師器 杯	埋土		口径11.8稜12.1	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ 削り。	
2	51図 PL.21	土師器 杯	床直		口径11.6稜12.1 器高4.7	細砂粒/良好/淡 橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ 削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	
3	51図	土師器 鉢	埋土		口径21.6	細砂粒/良好/黄 橙	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面体 部はヘラナデ。	

6号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	53図 PL.21	土師器 甕	床直		口径20.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。	
2	53図 PL.21	土師器 甕	床直		口径23.1胴部径 22.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。	
3	53図 PL.21	砥石			長14.5幅8.2厚 6.2重976.1		表裏面・上端小口部に敲打痕。背面下端側の敲打 痕は摩耗が及び不明瞭。その他の打痕は、礫面の 風化状態に比べ、やや新鮮に見え、時間差がある かもしれない。	楕円礫、粗粒輝石 安山岩。
4	53図 PL.21	砥石			長(11.4)幅6.6 厚5.2重649.8		四面使用?背面側・裏面側は被熱して剥落。裏面 側には縦位に浅いU字状の溝があるほか、上端側 に回転穿孔痕2ヶ所がある。	切り砥石、砂岩。

1号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	55図 PL.21	土師器 小型壺	床直	完形	口径6.9底径3.0 胴部径6.2器高 8.6	細砂粒・白粒/ 良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ、頸部はヘラナデ、胴部はヘラ削 り後上半位ナデ、底部もヘラ削り。	
2	55図 PL.21	土師器 甕	床上66cm		口径18.2	細砂粒/良好/灰 黄褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴 部と底部はヘラナデ。内面は口縁部下位から胴部 はヘラナデ。	

8号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	66図 PL.23	土師器 高杯	埋土		口径16.6稜13.0	細砂粒/良好/明 赤褐	伽基部は貼付。杯身部は口縁部横ナデ、体部(稜下) から底部はナデ、脚部はヘラ磨き。内面は杯身部 底部から体部に放射状ヘラ磨き。	
2	66図 PL.23	鉄器不明	埋土		長(7.3)幅0.8厚 0.3重(7.1)		上端は篋状か。錆化が進んでいる。	
3	66図 PL.23	銭貨寛永通宝	埋土					
4	66図 PL.23	銭貨寛永通宝	埋土					

9号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	57図 PL.21	土師器 杯	床上12cm		口径13.0	細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい黄 橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手 持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラ磨き。	
2	57図 PL.21	土師器 杯	床上21cm	1/5	口径17.8器高 5.2	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部はヘラ磨き。	
3	57図	土師器 高杯	床上35cm		杯身底部 脚部径10.0	細砂粒/良好/橙	杯身部底部はホゾ上差し込みで脚部と接合。脚部 は外面がヘラ磨き、内面は上位からナデ、ハケ目、 横ナデ。	
4	57図 PL.21	土師器 器台	床上16cm		脚部1/2 欠損 口径6.8脚部径 13.6孔0.8器高 8.3	細砂粒/良好/明 黄褐	受部は口唇部が横ナデ、口縁部から底部はヘラ磨 きか、脚部はハケ目。内面は脚部にハケ目が残る。	脚部中位に透孔が 4カ所、配置不均 等。
5	57図 PL.21	土師器 器台	埋土		脚部径11.4	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	脚部は外面が放射状ヘラ磨き、内面は上位からヘ ラナデ、ヘラ削り、横ナデ。	脚部中位に透孔が 3カ所。
6	57図 PL.21	土師器 小型甕	床上51cm	1/2	口径9.6底径2.6 胴部径10.4器高 8.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り後上位はナデ、中 位から下位はヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は 底部から胴部にヘラナデ。	
7	57図 PL.21	土師器 小型甕	床上45cm		口径9.2胴部径 11.9	細砂粒・褐粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部は上位がナデ、中位から下 位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
8	57図 PL.21	土師器 甕	埋土	口縁部～ 胴部上位 片	口径12.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、頸部から胴部にハケ目(12本)、内面胴部はヘラナデ。	
9	57図	土師器 壺	埋土	口縁部小 片		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は折り返し。口縁部に2条1組の棒状浮文が斜めに貼付。頸部はヘラ磨きか。	
10	57図 PL.21	土師器 甕	床上44cm	口縁部片		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は折り返し。口縁部に2条1組の棒状浮文が斜めに貼付。頸部はヘラ磨きか。	
11	57図 PL.21	土師器 台付甕	埋土	口縁部～ 胴部上位 片	口径12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、頸部にハケ目(9本)、胴部にヘラ削り。内面は胴部がナデ。	
12	58図 PL.22	土師器 台付甕	床上43cm	口縁部～ 胴部上位 片	口径13.5	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ハケ目(7本)。内面胴部はヘラナデ。	
13	58図 PL.22	土師器 台付甕	床上44cm	口縁部～ 胴部上位 片	口径21.7	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ハケ目(5～7本)。内面胴部はヘラナデ。	
14	58図 PL.21	土師器 台付甕	床上15cm	脚部	脚部径10.6	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	脚部端部は内側に折り返し。胴部から脚部上半はハケ目(5本)、下半はナデ。内面はヘラナデ。	底部は胴部、脚部とも砂粒の多い粘土を貼付。
15	58図 PL.22	土師器 壺	床上19cm	口縁部～ 胴部上半	口径13.0胴部径 19.5	細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい黄 褐	内面頸部に輪積み痕が残る。口縁部は上半が横ナデ、下半はハケ(7本)、胴部はヘラ磨き。内面は口縁部がヘラ磨き、胴部は頸部下がハケ目、その下位はヘラナデ。	
16	58図 PL.22	土師器 甕	床上31cm	口縁部～ 胴部中位 片	口径18.0胴部径 24.2	細砂粒/良好/灰 褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はハケ目(7本)。内面胴部はヘラナデ。	
17	58図 PL.22	土師器 壺	床上44cm	底部～胴 部下半	口径5.6胴部径 23.2	細砂粒/良好/明 黄褐	底部・胴部ともヘラ磨き、内面は底部がハケ目(5本)、胴部はヘラナデ。	
18	58図 PL.22	土師器 壺	床上12cm	底部～胴 部上位	底径6.8胴部径 21.1	細砂粒/良好/橙	底部はヘラ削り、胴部はヘラ磨き、一部内外面とも器面磨滅のため単位不明。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
19	58図	土師器 壺	床上43cm	口縁部片	口径29.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は貼り付けか。口縁部上半は横ナデ、下半はヘラナデ、内面は下半にヘラ磨き。	20と同一個体か。
20	58図	土師器 壺	床上44cm	口縁部片	口径29.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は貼り付けか。口縁部上半は横ナデ、内面は下半にヘラ磨き。	19と同一個体か。
21	58図 PL.22	土師器 壺	床上34cm	口縁部下 半～胴部 上位片		細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい橙	頸部に凸帯が貼付。口縁部はハケ目(8本)、頸部は横ナデ、胴部はヘラ磨き。内面は口縁部にヘラ磨き、胴部はヘラナデ。	

10号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	60図 PL.22	土師器 高杯	床上66cm	脚部	脚部径15.0	細砂粒/良好/橙	杯身部はホソ状差し込みで脚部と接合。脚部はヘラ磨き、裾部は横ナデ。内面は脚部上半がナデ、下半はヘラナデ。	
2	60図 PL.22	土師器 小型壺	床直	口縁部 1/3欠損	口径9.1底径3.4 胴部径8.0器高 8.8	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上半はナデ、下半から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
3	60図 PL.22	土師器 壺	床直	口唇部 1/4欠損	口径13.8胴部径 12.8器高13.4	細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部上半はナデ、下半から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ、胴部下位にヘラ磨き。	
4	61図 PL.22	土師器 甕	床上4cm	ほぼ完形	口径15.7底径 6.6胴部径23.1 器高27.9	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部上位はナデ、中位・下位と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	胴部は全体的に煤けている。
5	60図 PL.23	土師器 甕	床上42cm	口縁部～ 胴部上位	口径18.6	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部は内外面とも器面磨滅のため不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	
6	60図 PL.23	土師器 壺	床上65cm	口縁部～ 頸部片	口径19.6	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は折り返し。口縁部は内外面とも横ナデ、内面胴部はヘラナデ。	
7	61図 PL.23	土師器 甕	床上33cm	口縁部～ 胴部上半	口径18.0	細砂粒/良好/灰 黄褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部折り返し。口縁部横ナデ、胴部上位はヘラ磨きか、中位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
8	61図 PL.23	土師器 甕	床上60cm	口縁部～ 胴部上半	口径21.2胴部径 26.3	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、一部内外面とも器面磨滅のため不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	
9	61図 PL.23	土師器 甕	床上34cm	底部～胴 部中位	底径5.8胴部径 23.3	細砂粒/良好/灰 黄褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ、胴部下位の一部にヘラ磨き。	
10	61図 PL.23	土師器 甕	床上34cm	底部～胴 部下位	底径9.6	細砂粒・褐粒/ 良好/橙	底部はヘラ削り、胴部はヘラ磨き。内面は底部から体部にヘラナデ。	

11号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	63図 PL.24	土師器 卮	床上10cm	完形	口径10.3底径 2.6器高6.2	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
2	63図 PL.24	土師器 小型甕	床上7cm	3/4	口径13.2底径 4.2胴部径14.1 器高14.0	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半がハケ目、下半と底部はヘラ削り。内面は全面ヘラ磨き。	
3	63図 PL.24	土師器 壺	床直	口縁部～ 胴部下位	口径22.2胴部径 44.0	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、頸部はヘラ磨き、胴部もヘラ磨きであるが一部内器面磨滅のため単位不明。内面は頸部がヘラ磨き、胴部はヘラナデ。	

1号ピット

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	69図 PL.23	土師器 杯	埋土	口縁部～ 体部片	口径12.4稜12.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。

遺物観察表

2号ピット

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm、g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	69図	土師器 杯	埋土	口縁部～ 底部片	口径11.8稜11.8	細砂粒/良好/ ぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に斜放射状ヘラ磨き。	
2	69図 PL.23	手捏ね土器 壺形	床直	ほぼ完形	口径4.2器高2.8	微砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部から底部はナデ。内面は横ナデ。	
3	69図 PL.23	鉄器鉋?	埋土	柄～刃部 片	長(7.0)幅1.1厚 0.5重(8.4)		錆化が激しく、内部は空洞化している。	

2号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm、g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	74図 PL.23	土師器 高杯	埋土	杯身部～ 脚部片		細砂粒/良好/橙	脚部は貼付。杯身部は口縁部横ナデ、底部ヘラナデ、脚部はヘラ削り後ヘラ磨き。内面は杯身部がヘラナデ、脚部はナデ。	

4号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm、g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	74図	肥前陶器碗	埋土	底部	底径(4.8)	灰黄	呉器手。高台脇周縁を外側から打ち欠いて整形か。	二次加工品か。17世紀末～18世紀前半。
2	74図 PL.23	肥前磁器皿	埋土	1/2	底径8.2	白	底部内面五弁花。高台内1重圏線で、中央にハリ支え痕1箇所残る。	17世紀末～18世紀中頃
3	74図	肥前磁器皿	埋土	1/3	底径(5.0)	灰白	体部内面に染付。底部内面蛇ノ目釉剥ぎ。	波佐見。18世紀中頃～19世紀前半。
4	74図	瀬戸・美濃陶器蓋	埋土	1/3	口径(11.8)底径 (5.0)器高2.5	浅黄	耳壺の蓋か。内面中央を除き錆蝕。つまみ欠損。	江戸時代。
5	74図	堺・明石陶器 すり鉢	埋土	体部下位 片		明赤褐	内面使用により平滑。	江戸時代。
6	74図 PL.23	鉄器刀子	埋土	刃部片	長(9.6)幅1.5厚 0.4重(23.5)		関がなく柄に行こ移行か。	

6号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm、g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	74図 PL.23	土師器小型甕 高杯	埋土	底部～胴 部中位片	底径6.6	細砂粒/良好/橙	外面は内外面とも器面磨滅のため不鮮明、底部はヘラ削りか。内面はナデ。	

11号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm、g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	74図 PL.23	須恵器 椀	埋土	底部片	底径7.6台部径 7.4	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	

遺構外

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm、g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	75図	堺・明石陶器 すり鉢		口縁部片		褐灰	口縁部内面に段差。片口部片。	19世紀。
2	75図 PL.23	在地系土器お はじきか	攪乱	完形	長1.8幅1.8厚 0.8	ぶい橙	無釉土製品で貼り付け痕は認められない。	時期不詳。

宮内遺跡

1号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm、g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	77図 PL.25	土師器 高杯	床上91cm	2/3	口径16.2稜8.6 脚部径11.6器高 14.7	細砂粒・褐粒/ 良好/橙	内面脚部に輪積み痕が残る、杯身部は脚部に接合。杯身部口縁部は横ナデ、底部はヘラナデ、脚部は下位にハケ目が残る、裾部は横ナデ。内面は脚部にヘラナデ。	
2	77図 PL.25	土師器 高杯	床上80cm	杯身部～ 脚部上位 片	口径17.8底径 8.8	細砂粒/良好/橙	杯身部口縁部は横ナデ、体部はハケ目後ヘラ削り、底部から脚部はヘラ削り。内面は杯身部にハケ目(13本)が残る、脚部はナデ。	
3	77図 PL.25	土師器 高杯	床上75cm	脚部、裾 部1/4欠 損	脚部径12.8	細砂粒・褐粒/ 良好/ぶい橙	杯身部とは接合。脚部はヘラ削り、裾部横ナデ後間隔のあるヘラ磨き。内面脚部はヘラナデ。	
4	77図 PL.25	土師器 高杯	床上74cm	脚部	脚部径13.4	細砂粒/良好/ 明赤褐	内面に輪積み痕が残る。脚部は縦位のヘラ磨き、裾部は横ナデ。内面脚部は上半がナデ、下半はヘラナデ。	
5	77図 PL.25	土師器 高杯	床上91cm	脚部、裾 部1/2欠 損	脚部径13.6	細砂粒/良好/ 明赤褐	内面脚部に輪積み痕が残る。脚部はヘラ削りか、裾部は横ナデ。内面は上半がナデ、下半はヘラナデ、裾部は横ナデ。	
6	77図 PL.25	土師器 埴	床上76cm	完形	口径11.1胴部径 6.9器高9.5	細砂粒・褐粒/ ぶい黄橙	口縁部から胴部・底部はヘラ削り後口縁部に横ナデ。内面は口縁部上半が横ナデ、下半から胴部・底部はヘラナデ。	
7	77図 PL.25	土師器 小型甕	床上114 cm	口縁部 1/2欠損	口径8.4胴部径 8.8器高9.1	細砂粒/良好/ ぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目後上位と中位にナデ、下位から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
8	77図 PL.25	土師器 小型壺	床上72cm	胴部の一 部を欠損	口径9.4底径2.7 胴部径10.6器高 10.8	細砂粒/良好/ ぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部上位はナデ、中位から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
9	77図 PL.25	土師器 罎	床上86cm	口縁部 1/3他欠 損	口径13.0胴部径 15.3器高17.2	細砂粒多/良好/ 明赤褐	内外面とも器面磨滅のため整形は全体的に不鮮 明、内面口縁部に放射状ヘラ磨き。	
10	78図 PL.25	土師器 壺	床上82cm	口縁部～ 胴部下位 片	口径12.0胴部径 16.3	細砂粒/良好/淡 橙	口縁部横ナデ、頸部ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
11	77図 PL.25	土師器 鉢	床上5cm	底部～口 縁部下半	底径3.6	細砂粒・角閃石 /良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手 持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラナデ。	
12	77図 PL.25	土師器 罎	床上76cm	底部～胴 部・頸部	胴部径8.1	細砂粒/良好/灰 褐	底部から胴部下半はヘラ削り、胴部上半はナデ。 内面は底部から胴部にヘラナデ。	
13	77図 PL.25	土師器 罎	床上35cm	底部～胴 部	底径3.2胴部径 8.8	細砂粒多・褐粒 /良好/明黄褐	底部と胴部下半はヘラ削り、胴部上半はナデ。内 面は底部から胴部にヘラナデ。	
14	77図 PL.25	土師器 小型壺	床上90cm	底部～胴 部・頸部 片	底径2.8胴部径 8.9	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	底部と胴部下位はヘラ削り、胴部中位から頸部は ナデ。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
15	77図 PL.25	土師器 小型壺	床上48cm	口縁部上 半、底部 欠損	胴部径9.2	細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ、胴部上位はナデ、中位から底部 はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
16	77図 PL.25	土師器 小型甕	床上43cm	底部～胴 部下半片	胴部径9.4	細砂粒/良好/橙	底部と胴部下位はヘラ削り、胴部中位はナデ。内 面は底部から胴部にヘラナデ。	
17	78図 PL.25	土師器 壺	床上54cm	口縁部片	口径15.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は折り返し。口縁部は横ナデか、内外面と も器面磨滅のため不鮮明。	
18	78図 PL.25	土師器 壺	床上53cm	口縁部～ 胴部上位 片		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部下にハケ目が残る、口縁部から胴部は器面 磨滅のため不鮮明。内面は口縁部がヘラ磨き、胴 部はヘラナデ。	
19	78図 PL.26	土師器 台付甕	床上3cm	胴部下位 の一部・ 脚部を欠 損	口径14.1胴部径 22.3	細砂粒/良好/浅 黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(8本)、内面胴部 はヘラナデ。	外面の胴部下半は 煤けている。
20	78図 PL.25	土師器 台付甕	床上6cm	口縁部～ 胴部中位 片	口径15.4胴部径 23.8	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(9本)。内面胴部 はヘラナデ。	
21	77図 PL.25	土師器 小型甕	上層	底部～胴 部下半	底径2.6	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	底部と胴部下位はヘラ削り。内面は底部から胴部 にヘラナデ。	
22	78図 PL.25	土師器 小型甕	床上80cm	底部～胴 部下位	底径4.7	細砂粒/良好/橙	底部は刺突痕が残り、周囲をヘラ削り、胴部はハ ケ目(5本)、内面はヘラナデ。	
23	77図 PL.25	土師器 小型甕	床上79cm	口縁～胴 部上半 1/4欠	口径7.4底径3.0 胴部径8.4器高 7.2	細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位・中位がナデ、 下位と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘ ラナデ。	
24	78図 PL.25	土師器 小型甕	床上81cm	口唇部を 僅かに欠 損	口径7.8胴部径 9.9器高8.2	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部は上半がナデ、下半から底部 はヘラ削り。内面は底部から頸部がヘラナデ。	
25	77図 PL.25	土師器 小型壺	床上91cm	胴部の一 部を欠損	口径7.8胴部径 9.9器高9.0	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部上半はナデ、下半から底部 はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデか。	
26	78図 PL.25	土師器 小型甕	床上88cm	口縁部～ 胴部上半	口径9.0胴部径 10.0	細砂粒/良好/灰 褐	口縁部は横ナデ、胴部は上位がナデ、中位はヘラ 削り。内面胴部はヘラナデ。	
27	78図 PL.25	土師器 小型甕	床上51cm		胴部径10.3	細砂粒・褐粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位・中位がナデ、 下位と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘ ラナデ。	
28	78図 PL.26	土師器 甕	床上76cm	底部～胴 部下位		細砂粒/良好/に ぶい橙	底部から胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部に ヘラナデ。	
29	78図 PL.26	土師器 甕	床上81cm		口径10.9底径 3.6胴部径14.8 器高13.0	細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は 底部から胴部にヘラナデ。	外面の胴部下位に 煤が厚く付着。
30	78図 PL.26	土師器 甕	床上86cm	口縁部・ 胴部一部 欠	口径12.7胴部径 15.7器高16.9	細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面 は底部から胴部にヘラナデ。	
31	79図 PL.26	土師器 甕	床上84cm	口縁部 2/5欠損	口径13.2底径 4.7胴部径14.6 器高13.8	細砂粒/良好/浅 黄橙	口縁部は横ナデ、胴部上位はヘラナデ、中位・下 位と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラ ナデ。	外面の胴部下半は 煤けている。
32	79図 PL.26	土師器 甕	床上81cm	胴部わず かに欠損	口径14.4底径 6.5胴部径28.2 器高25.2	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は上半がナデ、下半と底部 はヘラ削り。内面胴部はヘラナデか。	
33	79図 PL.26	土師器 甕	床上80cm	胴部・底 部部分的 に欠損	口径15.4底径 7.2胴部径22.6 器高23.8	細砂粒/良好/に ぶい黄褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部 はハケ目(10本)後ヘラ削り、底部はヘラ削り。内 面は頸部にハケ目、胴部はヘラナデ。	
34	79図 PL.27	土師器 甕	床上83cm	完形	口径17.1底径 4.3胴部径22.2 器高22.8	細砂粒・白粒/ 良好/明黄褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、頸 部から胴部はハケ目後頸部に一部にナデ、胴部は ヘラ削り、一部ハケ目が残る、底部はヘラ削り。 内面は口縁部と底部にハケ目、胴部はヘラナデ。	
35	79図 PL.27	土師器 甕	床上27cm	口縁部胴 部の一部 欠損	口径17.8底径 5.4胴部径24.2 器高23.4	細砂粒・白粒/ 良好/にぶい黄 橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はハケ目後ヘラ削 り、底部もヘラ削り。内面は底部から胴部下半に ヘラ磨き、胴部上半はヘラナデ。	外面の胴部中位に 煤が付着。

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
36	80図 PL.27	土師器 甕	床上76cm	胴部わず かに欠損	口径18.3底径 4.8胴部径26.2 器高25.9	細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部はハケ目(6本)後ヘラ削り、 底部もヘラ削り。内面は口縁部にハケ目、底部か ら胴部はヘラナデ。	
37	79図	土師器 小型甕	床上97cm	口縁部～ 胴部下位 片	口径11.0胴部径 11.4	細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部は上半がナデ、下半はヘラ 削り。内面胴部はヘラナデ。	
38	80図	土師器 甕	床上78cm	口縁部～ 胴部上位 片	口径15.0	細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は頸部か ら胴部にヘラナデ。	
39	80図 PL.27	土師器 甕	床上69cm	口縁部～ 胴部上半	口径15.0胴部径 24.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り、胴部は ヘラナデか、単位不鮮明。内面は頸部から胴部に ヘラナデ。	
40	80図 PL.27	土師器 甕	床上62cm	口縁部～ 胴部下位	口径17.4胴部径 24.4	細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、頸部 から胴部はハケ目(5本)後ヘラ削り、頸部はハケ 目が残る。内面は口縁部にハケ目、胴部はヘラナ デ、一部ハケ目が残る。	
41	80図 PL.27	土師器 甕	床上61cm	口縁部～ 胴部下位	口径18.2胴部径 22.9	細砂粒/良好/ にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(5本)後上半はナ デ、下半はヘラ削り。内面は口縁部がハケ目、胴 部はヘラナデ。	
42	80図 PL.27	土師器 甕	床上69cm	口縁部～ 胴部上位 片	口径18.0	細砂粒・褐粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。	
43	80図	土師器 甕	床上14cm	口縁部～ 胴部上位 片	口径18.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(9本)。内面胴部 はヘラナデ。	
44	79図 PL.26	土師器 甕	床上14cm	底部～胴 部下半	底径5.6脚部径 17.6	細砂粒/良好/ にぶい橙	底部はハケ目後周囲をヘラ削り、胴部はヘラ削り 後ハケ目(5～6本)。内面はハケ目。	
45	77図 PL.25	土師器 ミニチュア	床上67cm	完形	口径5.2脚部形 3.8胴部径5.7器 高6.7	細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部から胴部はナデ、脚部は強いナデ。内面は 底部から胴部がヘラナデ。	

12号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	86図 PL.28	石製品白玉	床上12cm			径2.7厚0.5孔径 0.6重1.2	上面側は比較的丁寧な研磨、体部には縦位の粗い 磨き整形を施す。下面側には折断時の段が生じて いるが、稜が弱く摩耗している。	滑石

14号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	87図 PL.28	土師器 有孔鉢	床上12cm	底部	底径43.9孔1.7	細砂粒/良好/明 赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
2	87図 PL.28	磨石	No.3		長10.2幅7.1厚 4.9重537.6		上下両端の対向位置に敲打痕を伴う摩耗痕が面的 に広がる。裏面側に中心を外れて2ヶ所に摩耗し た集合打痕の痕跡が残り、縄文期凹石を転用した 可能性が高い。	楕円礫、粗粒輝石 安山岩

16号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	87図 PL.28	土師器 小型壺	埋土	底部～胴 部片	胴部径12.3	細砂粒/良好/明 赤褐	外面胴部に輪積み痕が残る。底部とその周辺はヘ ラ削り、胴部はナデ。内面は底部から胴部がヘラ ナデ。	

1号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	92図 PL.28	埴輪 円筒	埋土	体部片		細砂粒・褐粒/ 良好/橙	内面に輪積み痕が残る。凸帯は貼付、外面は横位 のハケ目(2cm 7本)、内面も横位ハケ目。	
2	91図 PL.28	埴輪 円筒	埋土	底部小片		細砂粒/良好/橙	内面に輪積み痕が残る。外面は縦位のハケ目(2cm 12本)、内面はナデ。	
3	91図 PL.28	埴輪 形象	埋土	一部片		細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/橙	器種不明。外面はヘラナデ後1条の沈線が引かれ ている。内面はナデ。	
4	92図	瀬戸・美濃陶 器折縁鉄絵皿	中層	1/5		灰黄	口縁端部欠損するが、折り縁であろう。口縁部内 面に灰釉。底部内面に鉄絵、口縁部を除く内面は 薄く釉がかかる。体部内面の1部に無釉部分があ る。	17世紀前半～中頃。
5	92図	瀬戸・美濃陶 器鉢	中層	口縁部片		灰白	口縁部は外反し、上面は窪む。内外面灰釉を薄く かける。	17世紀中頃～後半。
6	92図	常滑陶器甕か	上層	破片		灰白	外面に叩き目。	中世。
7	92図	常滑陶器甕	中層	破片		にぶい橙・黄灰	口縁部「N」字状。	13世紀後半。
8	92図	十能瓦	上層	破片	厚1.3	灰・灰白・黒	裏面は型作り痕残る。表面は撫で、側縁折り曲げ 部は強い撫で。	近現代。
9	92図 PL.28	鉄器釘	埋土	頭部側欠 損	長(4.0)幅0.4厚 0.4重(1.7)		端部折れ曲がっている。錆化が進んでいる。	
10	92図 PL.28	鉄製品飾金具	一括	一部片	長(4.9)幅(3.3) 厚0.3重(15.4)		錆化が進んでいる。	

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm、g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
11	92図 PL.28	板碑	上層埋土		長(9.4)幅(6.0) 厚1.0重94.1		小型板碑主尊部破片。やや粗雑に薬研彫された阿弥陀一尊種子が部分的に残る。碑面は平滑で磨滅は少なく、裏面工具痕は見られない。	緑色片岩

遺構外

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm、g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	93図 PL.28	片刃石斧	確認面		長7.5幅5.4厚 1.5重85.5		裏面側平坦面から剥離して厚い角度の刃部を作出する。側縁加工は錯向的で、左側縁では裏面側を薄く、背面側を厚く剥離する。頭部側を欠損。エッジは新鮮で、摩耗痕等は見られない。	短冊状
2	93図 PL.28	縄文土器深鉢	確認面	胴部破片		細砂、黒色粒/ ふつう/にぶい 黄橙	沈線による懸垂文を施し、RLを縦位充填施文する。	加曽利E3式
3	93図 PL.28	縄文土器深鉢	確認面	口縁部破片		細砂、白色粒、 黒色粒/ふつう/ にぶい黄橙	沈線をめぐらし、LRを充填施文する。	加曽利E3式
4	93図 PL.28	縄文土器深鉢	確認面	胴部破片		粗砂、白色粒、 黒色粒/良好/橙	沈線によるU字状、逆U字状モチーフを描き、RLを充填施文する。	加曽利E4式
5	93図 PL.28	縄文土器深鉢	確認面	胴部破片		粗砂、チャート、 黒色粒/ふつう/ 橙	隆帯による口縁部楕円状区画を施し、LRを充填施文する。	加曽利E3式
6	93図 PL.28	縄文土器深鉢	確認面	胴部破片		細砂、黒色粒、 石英、繊維/ふ つう/橙	2条巻の撚糸文Rを横位施文する。	黒浜式
7	93図 PL.28	縄文土器深鉢	確認面	胴部破片		細砂、石英、繊 維/良好/赤褐	LR、RLを羽状施文する。	黒浜式
8	93図 PL.28	縄文土器深鉢	確認面	胴部破片		細砂、黒色粒/ 良好/明赤褐	RL横位施文を地文とし、垂下、斜行する平行沈線、円形刺突を施す。	諸磯a式
9	93図 PL.28	縄文土器深鉢	確認面	胴部破片		細砂、黒色粒、 繊維/ふつう/橙	RLを横位施文する。	黒浜式
10	93図 PL.28	土師器 杯	グリッド		口径12.6稜13.6 器高4.2	細砂粒多/良好/ にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き、器面剥離部分が多く不鮮明。	
11	93図 PL.28	土師器 高杯	埋土	脚部、裾部1/2欠損	脚部径13.2	細砂粒/良好/黄褐	脚部、裾部ともヘラ磨き。内面は脚部上位がナデ、中位から下位がヘラナデ、裾部は横ナデ。	脚部下位に径0.6cmの小透孔が3カ所。
12	93図 PL.28	土師器 特殊器台	グリッド	受部上半と脚部1/2欠	脚部径11.6孔 1.9受部凸帯径 14.2	細砂粒/良好/橙	受部口縁部はヘラナデ、底部から脚部はヘラ磨き、脚部下半は器面磨滅のため不鮮明。	
13	93図 PL.28	土製品 勾玉		下端部欠損	長(4.7)幅1.2厚 1.2重(6.2)	細砂粒/良好/灰 黄褐	表裏側面ともナデ。	穿孔は歪んだ楕円形、径0.5×0.3cm。
14	93図 PL.28	肥前磁器碗	表採	口縁部1/4、底部1/2	口径(6.4)底径 4.1器高5.1	灰白	外面中位に削ぎ状の窪みを作り、窪み内に文字状の文様。口縁部内面は雷文帯。	
15	93図 PL.28	肥前磁器碗	表採	1/2	口径(6.4)底径 (3.8)器高5.0	灰白	外面中位に削ぎ状の窪みを作り、窪み内に文字状の文様。口縁部内面は雷文帯。釉が白濁する。	
16	93図 PL.28	肥前磁器皿	表採	1/4	口径(12.6)底径 7.3器高3.1	灰白	口縁部内面は墨弾きによる染付。底部内面は1重圏線内にコンニャク印判による五弁花。高台内は1重圏線内に簡略化した渦福字銘。	
17	93図 PL.28	瀬戸・美濃陶 器皿	表採	1/4	口径(13.2)底径 (7.0)器高3.3	灰黄	体部内外面に染付。底部内面は帆掛け船か。高台内中央は窪むが、釉剥ぎは行わない。粗い貫入が入る。	
18	93図 PL.28	京・信楽系か 灯火受皿	表採	口縁部1/4、底部1/2	口径(10.4)底径 (4.5)器高1.5	灰白	口縁部外面以下は回転篋削り。内面から口縁部外面に透明釉。受け端部のみ無釉。細かい貫入が入る。	
19	93図 PL.28	石製品蛇尾?	攪乱		長(4.6)幅2.2厚 (0.7)重12.3		両側面に粗い斜位線条痕の痕跡を残す等、側面は磨滅が著しいのに対し、端部線条痕は新鮮で再研磨の可能性が高い。石帯・蛇尾としては、やや幅が狭い。裏面剥落。	滑石

写真図版



浜町遺跡7区西側全景(東から)



浜町遺跡7区東側全景(東から)



浜町遺跡 7区東端全景(南から)



浜町遺跡 8区全景(南から)



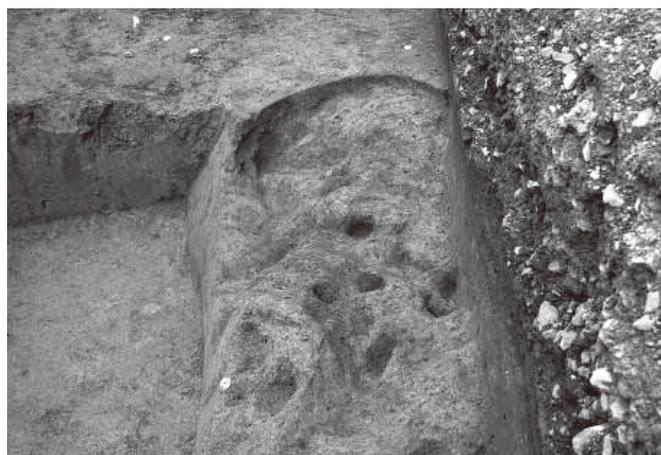
1 7区1号住居全景(西から)右張り出しは攪乱部



2 7区1号住居掘方全景(西から)



3 7区2号住居掘方全景(西から)



4 7区2号住居カマド掘方全景(西から)



5 7区3号住居全景(西から)



6 7区1・2号竪穴状遺構全景(南から)



7 7区3号竪穴状遺構全景(南から)



8 7区4号竪穴状遺構全景(南から)

PL.4



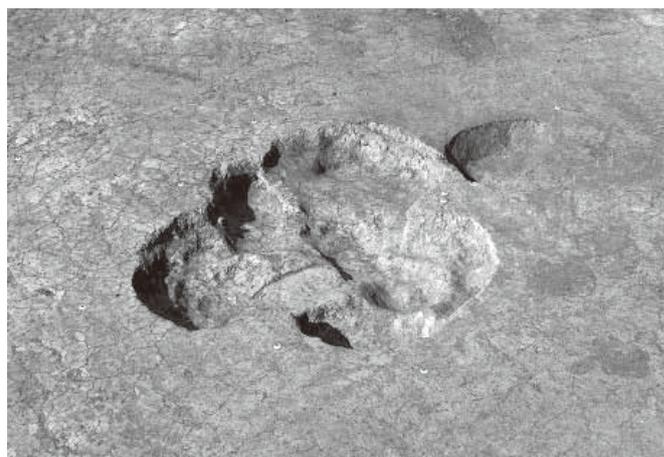
1 7区5・6号竪穴状遺構、25～29号土坑全景(南から)



2 7区1号土坑断面(北から)



3 7区2～6号土坑全景(東から)



4 7区7～9号土坑全景(南から)



5 7区10・11号土坑全景(南から)



6 7区12・13号土坑全景(南から)



7 7区14号土坑全景(南から)



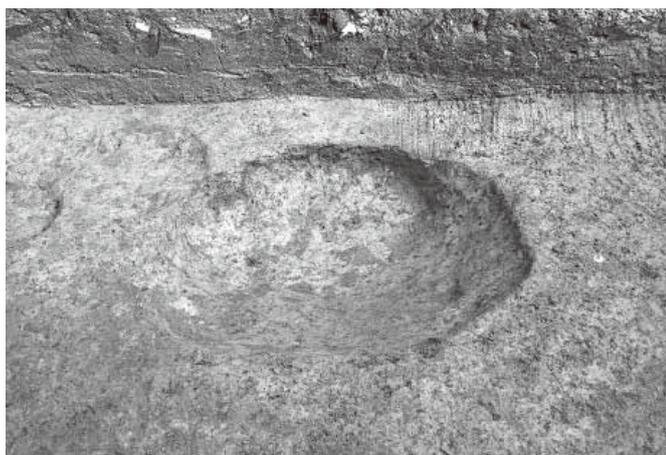
8 7区15号土坑全景(南から)



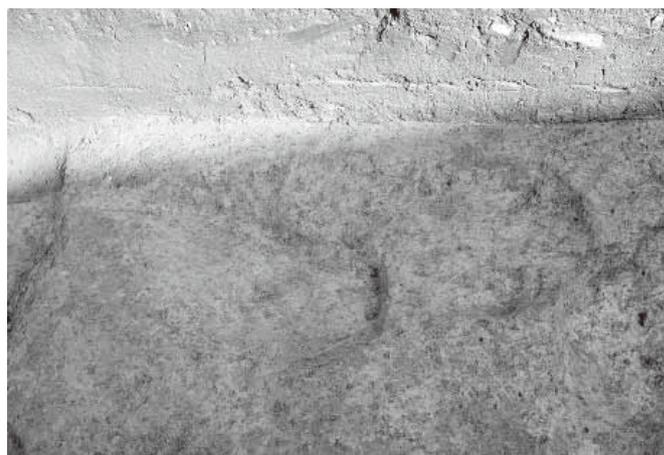
1 7区16号土坑全景(南から)



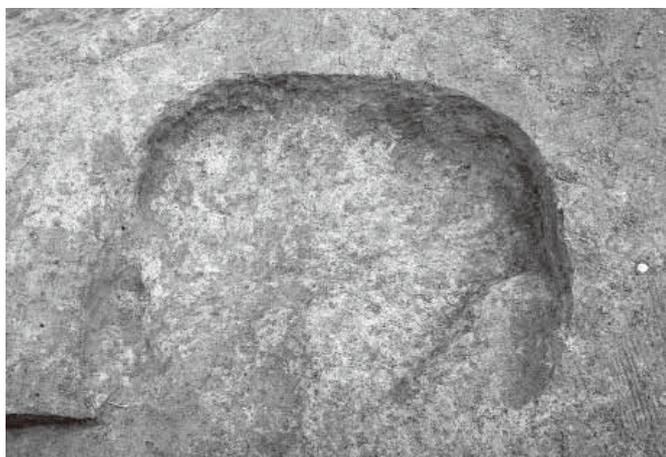
2 7区17号土坑全景(南から)



3 7区18号土坑全景(南から)



4 7区19号土坑全景(南から)



5 7区20号土坑全景(南から)



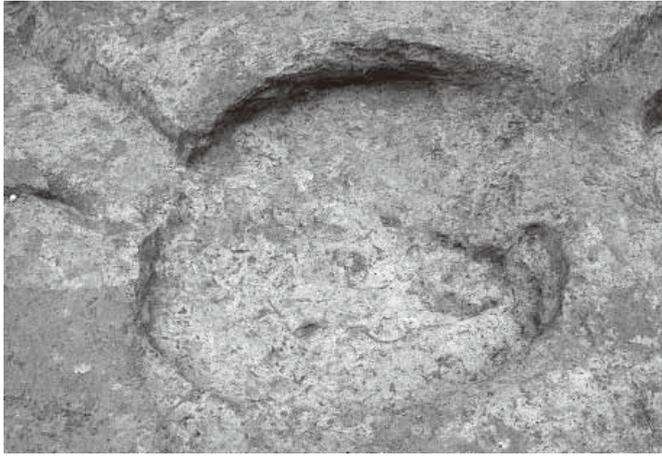
6 7区21号土坑全景(南西から)



7 7区22号土坑全景(西から)



8 7区23号土坑全景(南から)



1 7区24号土坑全景(南から)



2 7区1号溝全景(南から)



3 7区調査状況(東から)



4 8区1号住居掘方全景(北から)



5 8区2号住居全景(南から)



6 8区2号住居掘方全景(南西から)



7 8区3・4号住居全景(東から)



8 8区3号住居遺物出土状況(南から)



1 8区4号住居掘方(西から)



2 8区1号竪穴状遺構全景(西から)



3 8区2号竪穴状遺構全景(南から)



4 8区1号土坑全景(南から)



5 8区1号溝全景(東から)



6 8区2・3号土坑全景(東から)



7 8区調査状況(西から)



浜町古墳群 1区全景(西から)



浜町古墳群 2区全景(東から)



浜町古墳群 3区全景(東から)



浜町古墳群 4区全景(東から)



1 浜町古墳群5区全景(西から)



2 3区1号住居全景(西から)



3 3区1号住居掘方全景(西から)



4 3区1号住居カマド全景(西から)



5 3区1号住居カマド掘方全景(西から)



1 1区2号住居全景(東から)



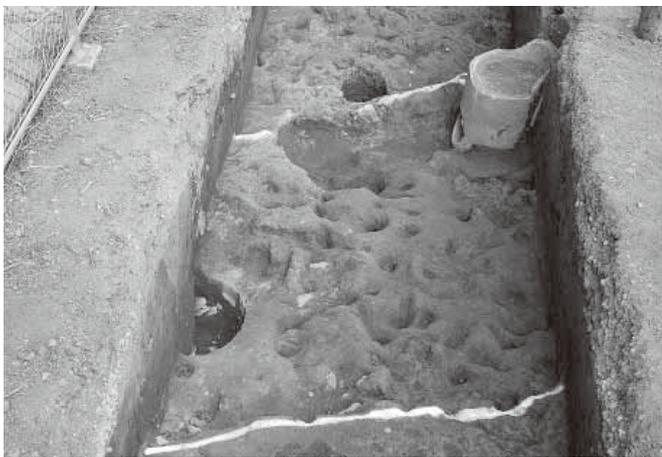
2 1区2号住居遺物出土状況(東から)



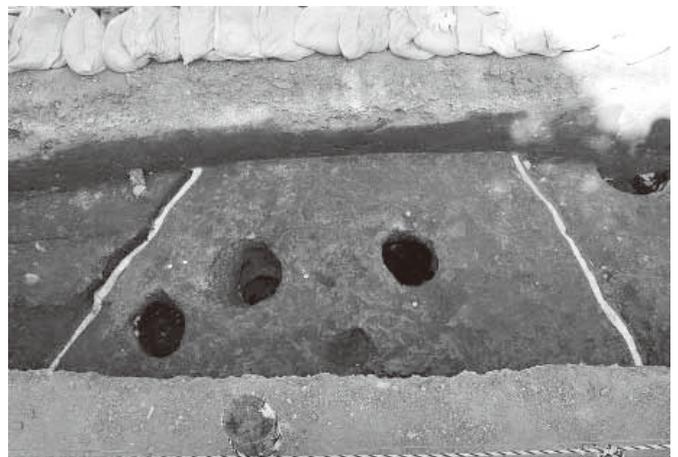
3 1区2号住居掘方全景(東から)



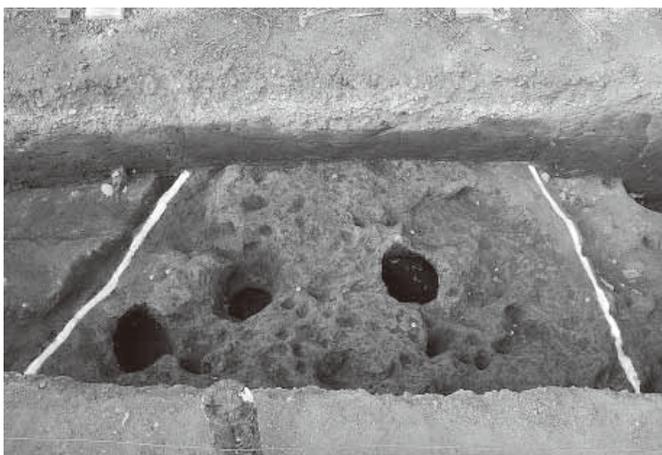
4 1区3号住居全景(西から)



5 1区3号住居掘方全景(西から)



6 1区4号住居全景(南から)



7 1区4号住居掘方全景(南から)



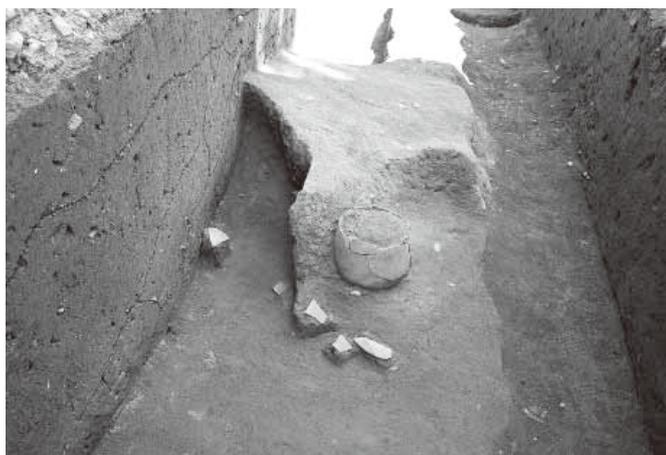
8 1区5号住居全景(北東から)



1 1区6号住居全景(西から)



2 1区6号住居掘方全景(西から)



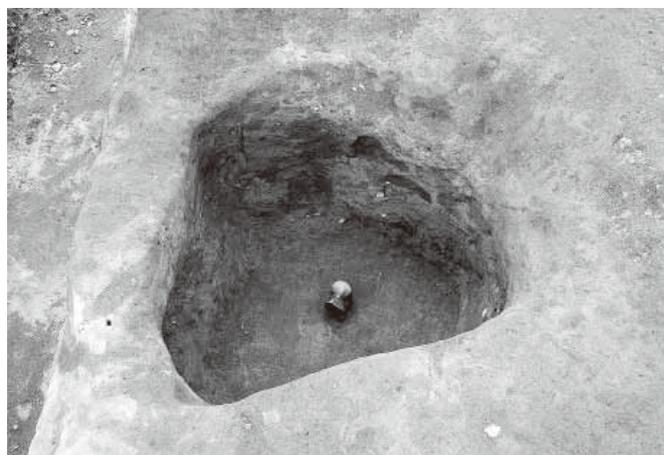
3 1区6号住居カマド全景(西から)



4 1区6号住居カマド掘方全景(西から)



5 1区7号住居全景(北から)



6 5区1号土坑全景(東から)



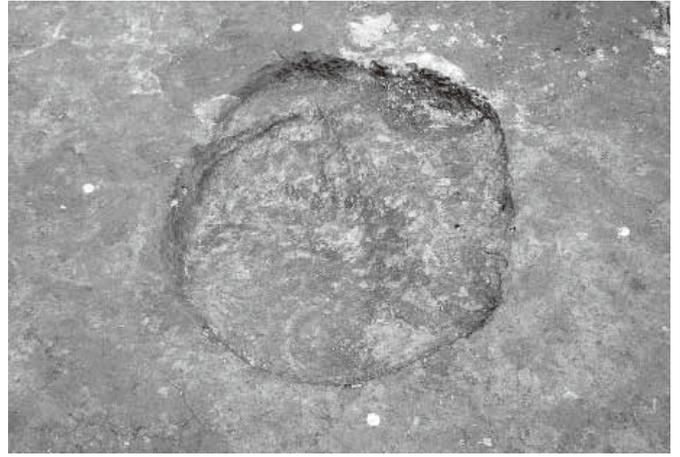
7 5区2号土坑全景(東から)



8 4区4号土坑全景(東から)



1 4区5号土坑全景(東から)



2 3区6号土坑全景(南から)



3 3区7号土坑全景(南から)



4 2区8号土坑全景(北から)



5 2区9号土坑全景(南から)



6 5区10号土坑全景(東から)



7 1区11号土坑全景(南から)



8 1区11号土坑調査状況

PL.14



1 4区1号溝全景(西から)



2 5区2・6号溝全景(西から)



3 3区5号溝全景(南から)



4 3区3号溝全景(西から)



5 3区4号溝全景(東から)



6 3区4号溝全景(西から)



1 1区11号溝全景(東から)



2 3区8号溝全景(西から)



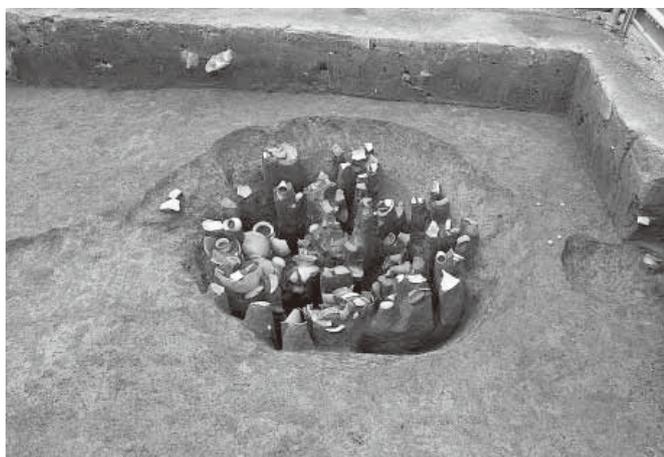
3 2区9・10号溝全景(東から)



4 宮内遺跡北半部全景(南から)



1 宮内遺跡南半部全景(南から)



2 3区1・18・19土坑全景(南から)



3 3区2号土坑全景(東から)



4 3区3号土坑全景(南から)



5 3区4号土坑(東から)



1 3区5号土坑全景(東から)



2 3区6号土坑全景(南から)



3 3区7号土坑全景(東から)



4 3区8号土坑全景(南から)



5 3区9号土坑全景(東から)



6 3区10・11号土坑全景(南から)



7 3区12号土坑全景(南から)



8 3区13号土坑全景(東から)



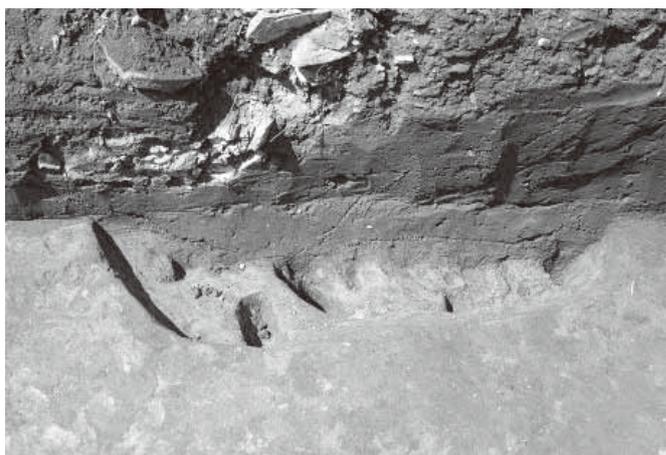
1 3区14号土坑全景(南から)



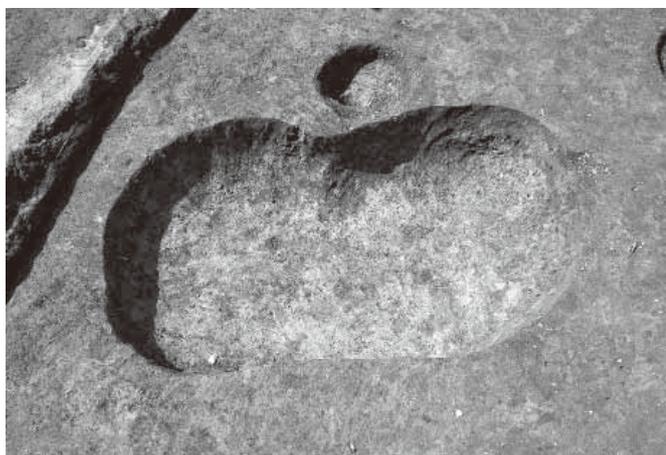
2 3区15・16号土坑全景(南から)



3 3区17号土坑全景(東から)



4 3区20号土坑全景(東から)



5 3区21・22号土坑全景(東から)



6 3区23号土坑全景(北から)



7 3区1号溝全景(南から)

浜町遺跡

7区1号住居出土遺物



8図-1



8図-2



8図-3

7区3号住居出土遺物



11図-1



11図-2

8区2号住居出土遺物



14図-1



14図-2



14図-4

8区3号住居出土遺物



17図-1



17図-3

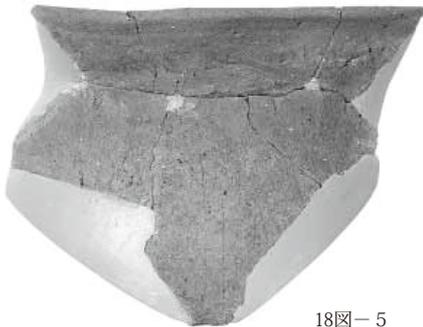
8区4号住居出土遺物



18図-1



18図-2



18図-5



18図-4



18図-6

7区竪穴状遺構出土遺物



26図1 竪穴-1



26図5 竪穴-1

7区土坑出土遺物



33図12土坑-1



33図24土坑-2

8区1号溝出土遺物



38図-1



38図-2

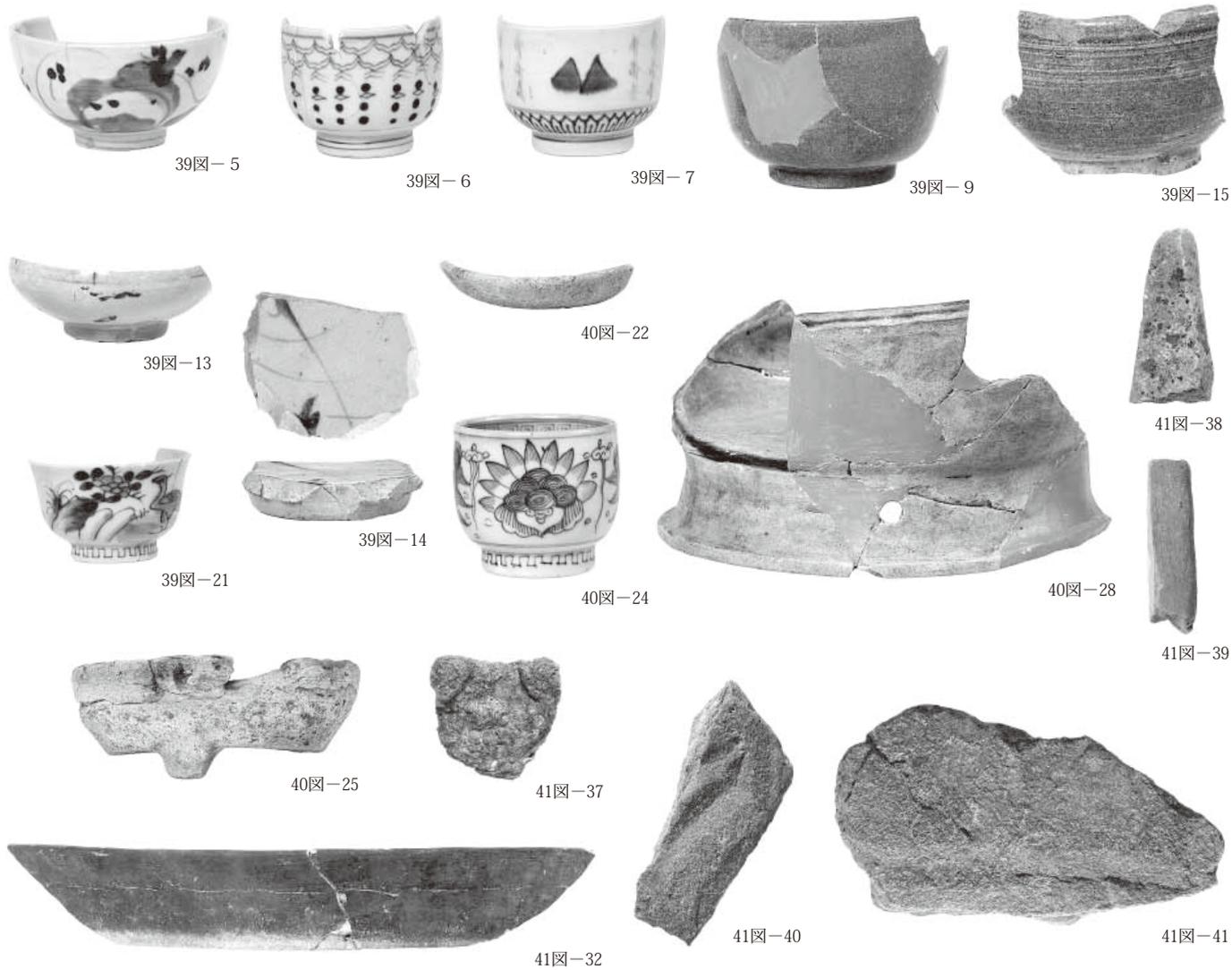


38図-3

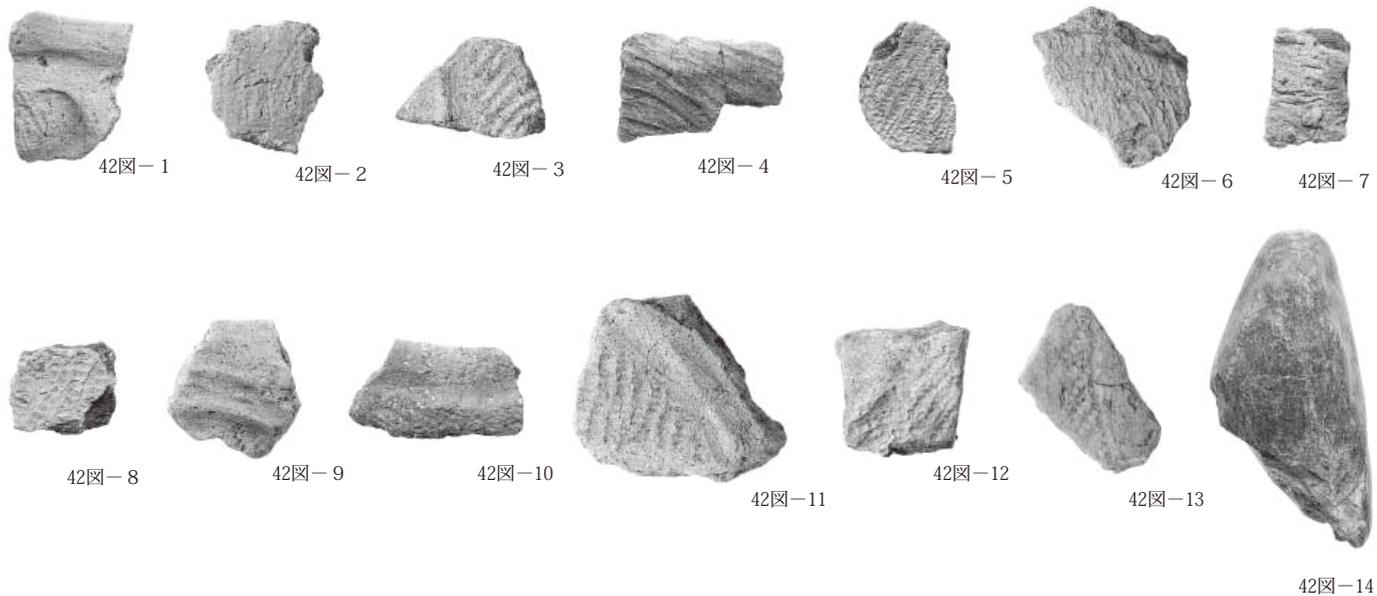


39図-4

8区1号溝出土遺物



遺構外出土遺物



浜町古墳群

3区1号住居出土遺物



44图-1

1区2号住居出土遺物



46图-1



46图-3



46图-5



46图-7



46图-8

1区3号住居出土遺物



48图-1



48图-2

1区5号住居出土遺物



51图-1



51图-2

5区1号土坑出土遺物

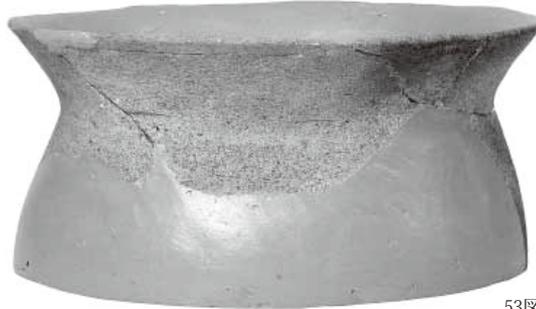


55图-1



55图-2

1区6号住居出土遺物



53图-1



53图-2



53图-3



53图-4

2区9号土坑出土遺物



57图-1



57图-2



57图-4



57图-5



57图-6



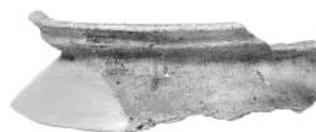
57图-7



57图-8



57图-10



57图-11



58图-14

2区9号土坑出土遺物



58図-12



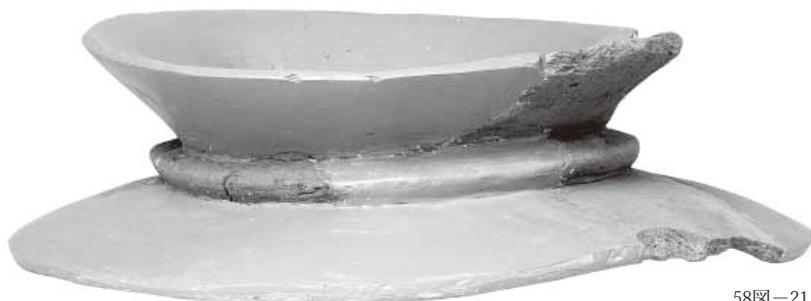
58図-13



58図-16



58図-17



58図-21



58図-15



58図-18

5区10号土坑出土遺物



60図-1



60図-2



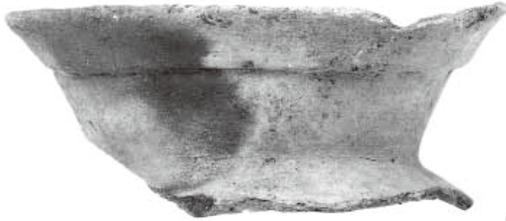
60図-3



61図-4



60図-5



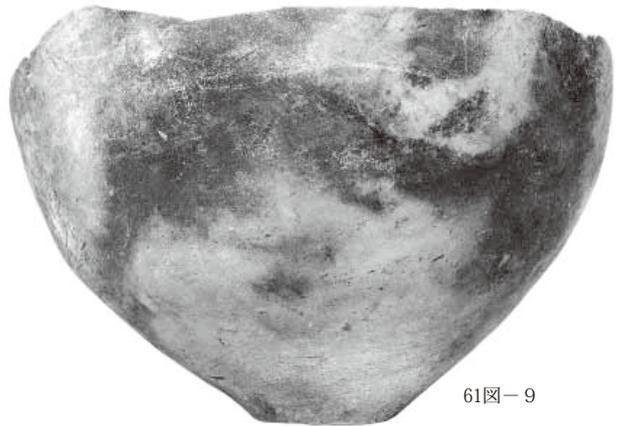
60図-6



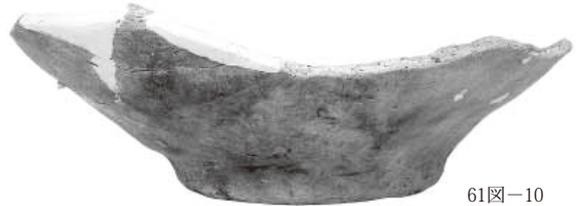
61図-8



61図-7



61図-9



61図-10

2区8号土坑出土遺物



66図-1



66図-2



66図-3



66図-4

溝出土遺物



74図2号溝-1



74図4号溝-2



74図4号溝-6



ピット出土遺物



69図1ピット-1



69図2ピット-2



69図2ピット-3



74図6号溝-1



74図11号溝-1

遺構外出土遺物



75図-2

1区11号土坑出土遺物



63図-1



63図-2



63図-3

宮内遺跡

3区1号土坑出土遺物



77図-1



77図-2



77図-3



77図-11



77図-4



77図-5



77図-6



77図-12



77図-9



77図-8



77図-13



77図-45



77図-14



77図-15



77図-25



77図-7



77図-23



78図-24



78図-10



78図-17



78図-18



78図-26



77図-20

3区1号土坑出土遺物



78図-19



78図-28



78図-29



78図-30



79図-31



79図-44



79図-32



79図-33

宮内遺跡

3区1号土坑出土遺物



79図-34



79図-35



80図-36



80図-39



80図-42



80図-40



80図-41

3区土坑出土遺物



87図14土坑-1



87図14土坑-2



87図16土坑-1



86図12土坑-1

3区1号溝出土遺物



91図-2



92図-11



92図-1



92図-9



91図-3



92図-10



遺構外出土遺物



93図-1



93図-2



93図-3



93図-4



93図-5



93図-6



93図-7



93図-8



93図-9



93図-10



93図-13



93図-19



93図-11



93図-12



93図-14



93図-15



93図-17



93図-18



93図-16



報告書抄録

書名ふりがな	はまちょういせき・はまちょうこふんぐん・みやうちいせき
書名	浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡
副書名	一級河川八瀬川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第537集
編著者名	須田正久/長谷川博幸
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20120316
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	はまちょういせき
遺跡名	浜町遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしはまちょう
遺跡所在地	群馬県太田市浜町
市町村コード	10205
遺跡番号	0194
北緯(日本測地系)	361728
東経(日本測地系)	1392232
北緯(世界測地系)	361739
東経(世界測地系)	1392220
調査期間	20100901-20100930
調査面積	611
調査原因	河川改修
種別	集落
主な時代	古墳/奈良平安/近世
遺跡概要	縄文-遺物包含層/古墳-竪穴住居2+土坑1/奈良平安時代-竪穴住居2/近世-溝1/その他-時期不明-住居3+竪穴状遺構8+土坑30+ピット15+溝1
特記事項	古墳時代後期住居、奈良平安時代住居
要約	本遺跡は八瀬川河川改修工事に伴い、平成22年度に発掘調査が行われた。本遺跡からは、古墳時代の後期の集落、奈良平安時代の集落などが検出されている。
遺跡名ふりがな	はまちょうこふんぐん
遺跡名	浜町古墳群
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしはまちょう
遺跡所在地	群馬県太田市浜町
市町村コード	10205
遺跡番号	0195
北緯(日本測地系)	361728
東経(日本測地系)	1392240
北緯(世界測地系)	361739
東経(世界測地系)	1392228
調査期間	20090801-20090930
調査面積	1,033
調査原因	河川改修
種別	集落
主な時代	古墳/奈良平安/近世
遺跡概要	古墳-竪穴住居3+溝2+土坑4/奈良平安時代-竪穴住居4+溝1/近世-溝1/その他-時期不明-土坑6+ピット18+溝7
特記事項	古墳時代前期土坑、古墳時代後期集落、奈良平安時代集落
要約	本遺跡は八瀬川河川改修工事に伴い、平成21年度に発掘調査が行われた。本遺跡からは、古墳時代前期の廃棄土坑、古墳時代の後期の集落、奈良平安時代の集落などが検出されている。
遺跡名ふりがな	みやうちいせき
遺跡名	宮内遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしはまちょう
遺跡所在地	群馬県太田市浜町
市町村コード	10205
遺跡番号	0381
北緯(日本測地系)	361727
東経(日本測地系)	1392209
北緯(世界測地系)	361738
東経(世界測地系)	1392157
調査期間	20090801-20090930/20100901-20100930
調査面積	227.5
調査原因	河川改修
種別	集落
主な時代	古墳/近世
遺跡概要	縄文-遺物包含層/古墳-土坑1/近世-溝1/その他-時期不明-土坑22+ピット12
特記事項	古墳時代前期土坑、近世溝
要約	本遺跡は八瀬川河川改修工事に伴い、平成21・22年度に発掘調査が行われた。本遺跡からは、古墳時代前期の廃棄土坑、近世の溝などが検出されている。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第537集

浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡

一級河川八瀬川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24(2012)年3月9日 印刷

平成24(2012)年3月16日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社
